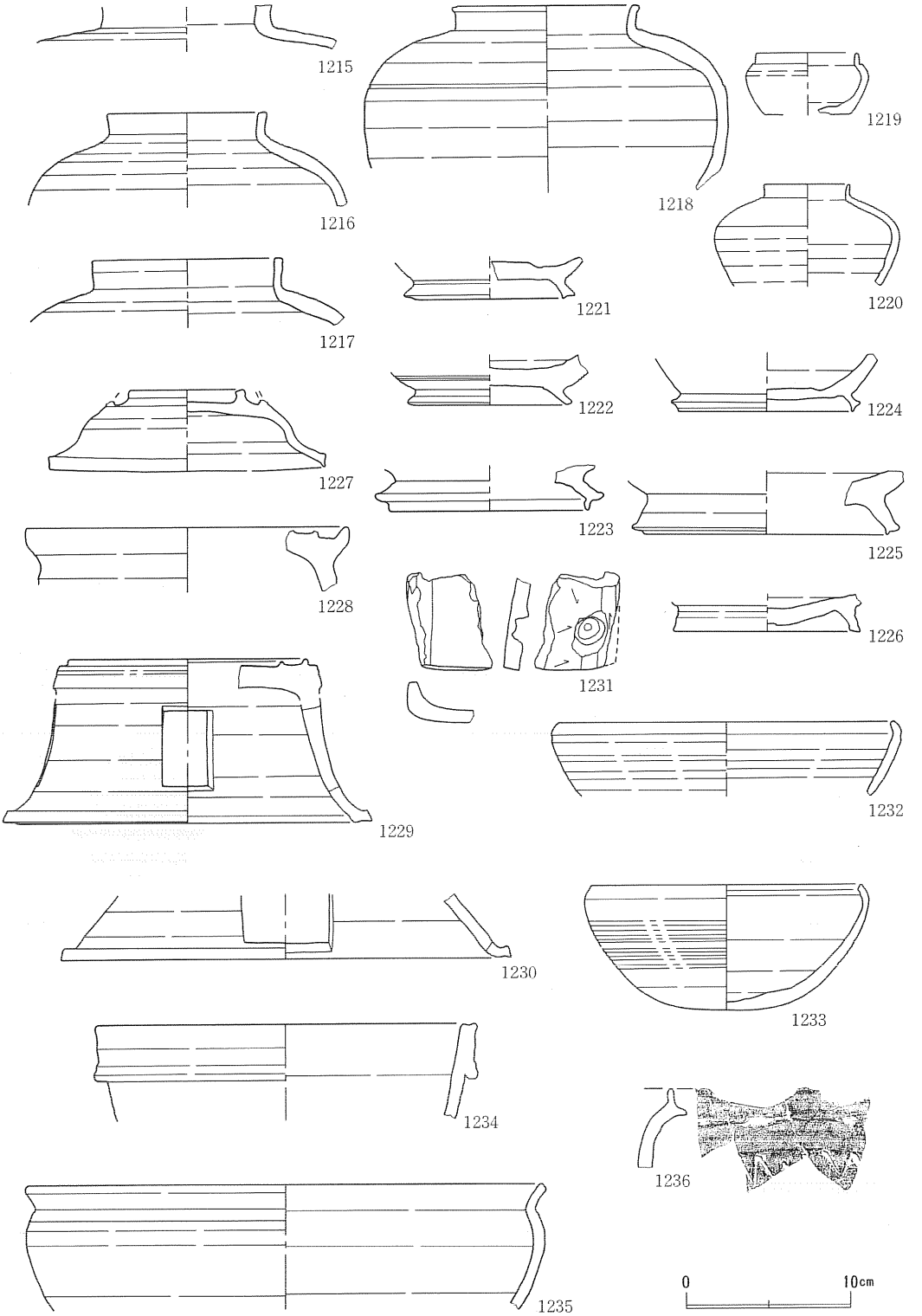
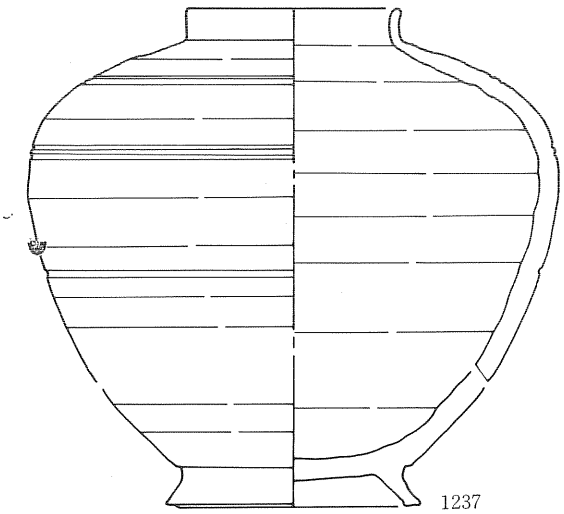
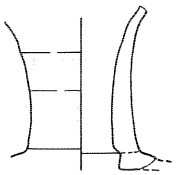
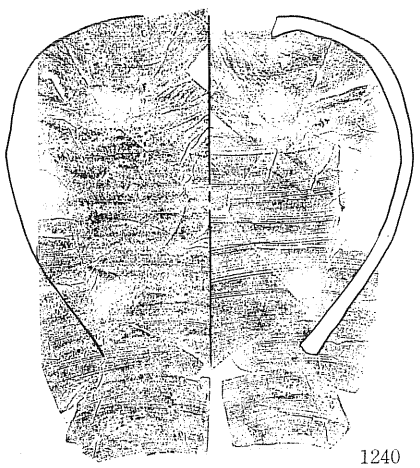
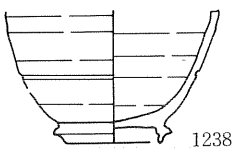


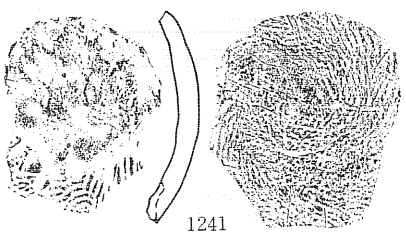
第101図　遺構外出土土器(9)

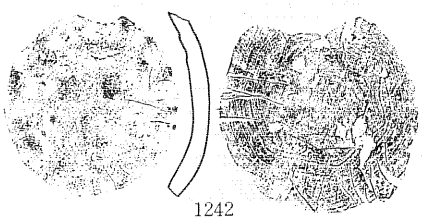


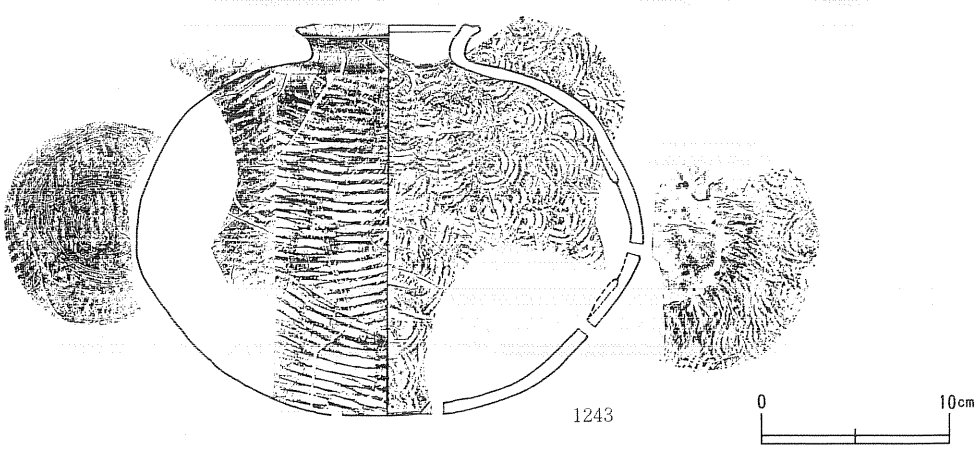




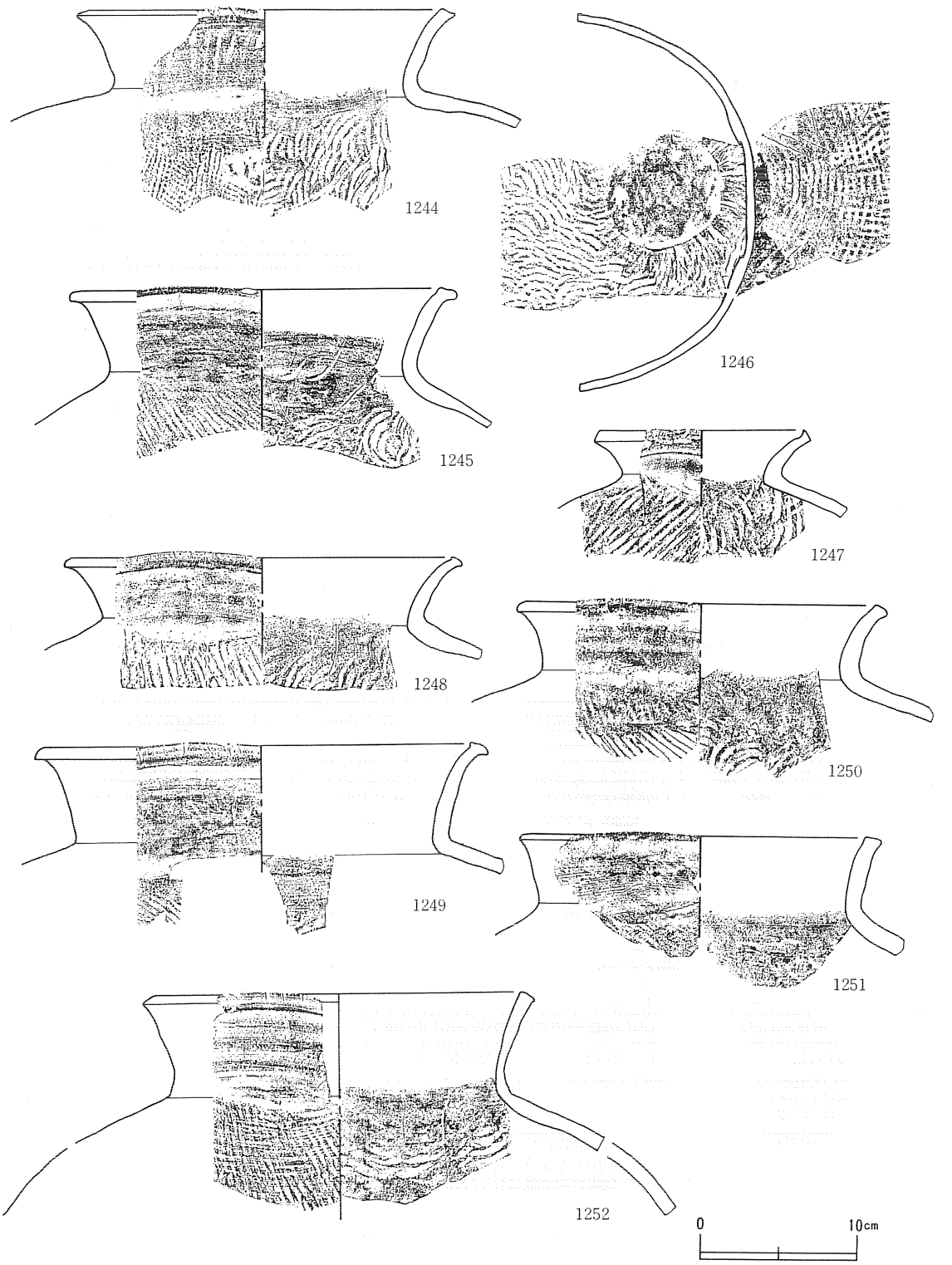




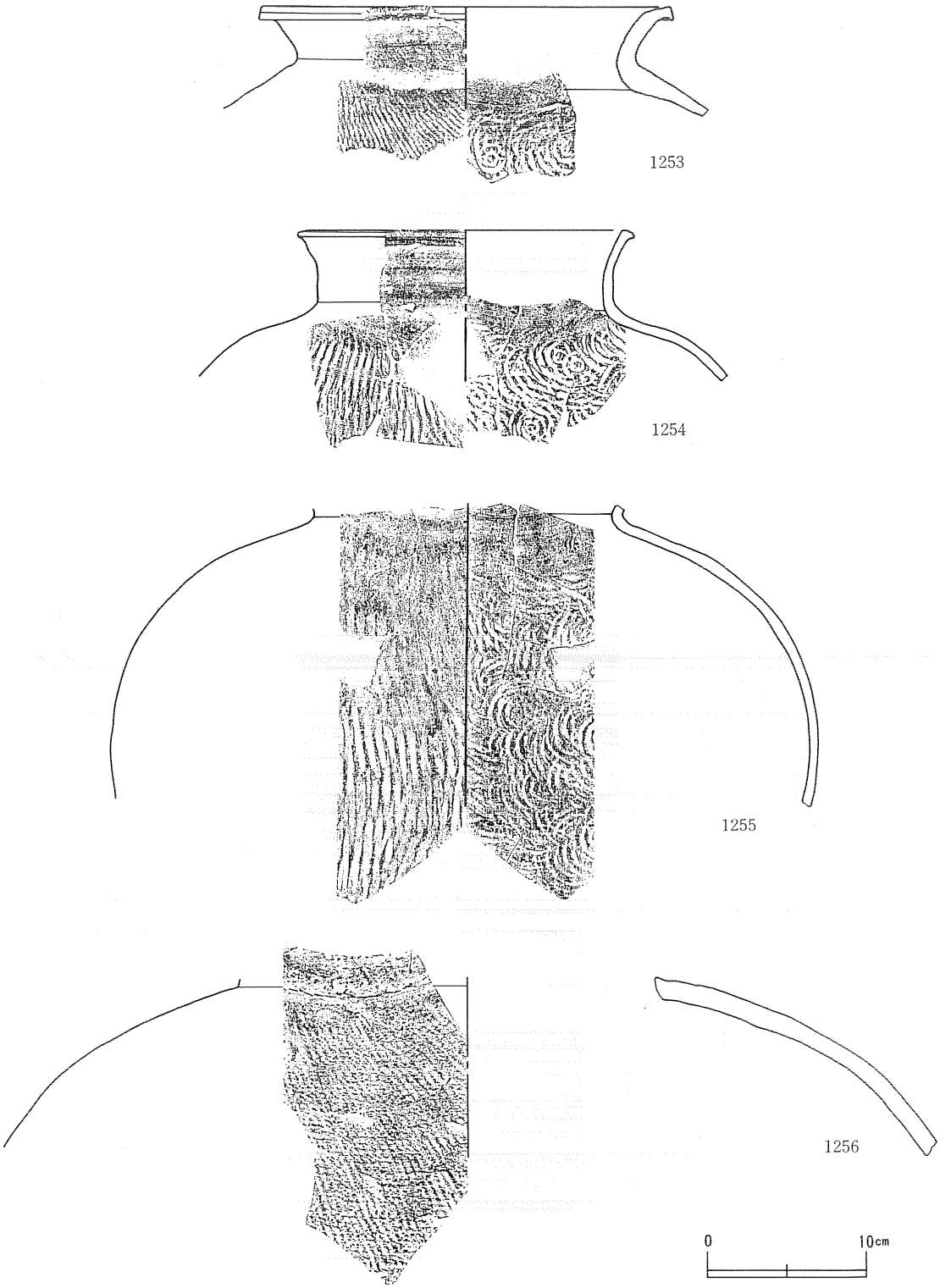




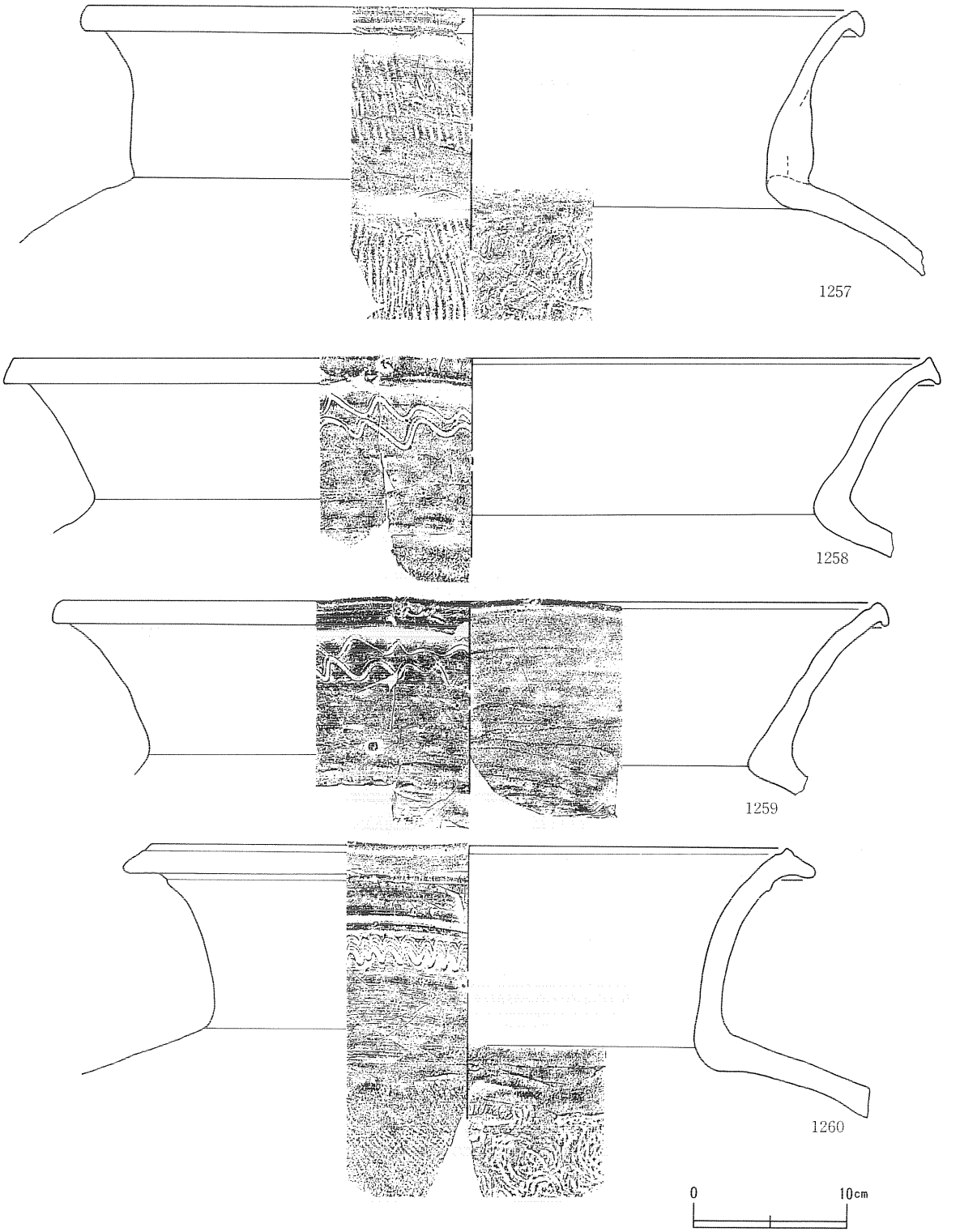
第102図　遺構外出土土器(10)



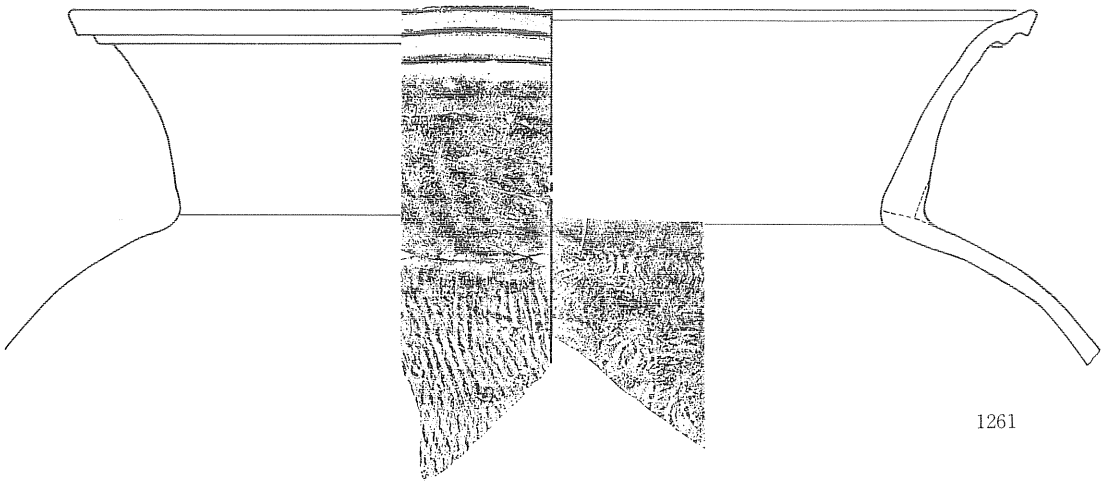
第103図　遺構外出土土器(11)

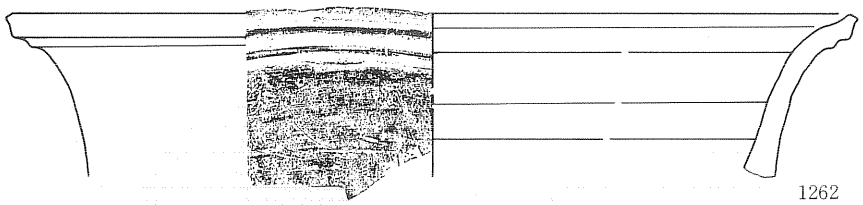


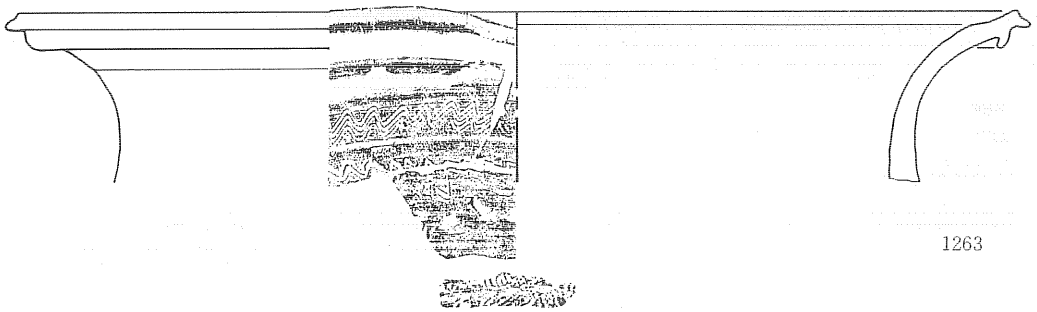
第104図　遺構外出土土器(12)

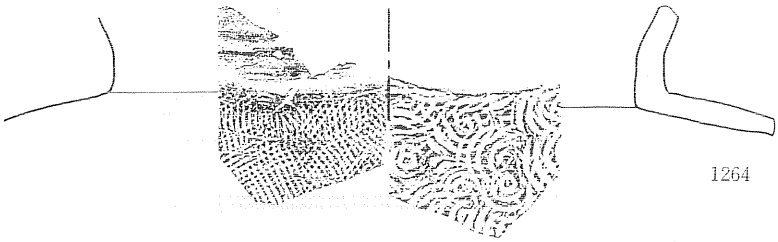


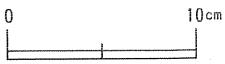
第105図　遺構外出土土器(13)



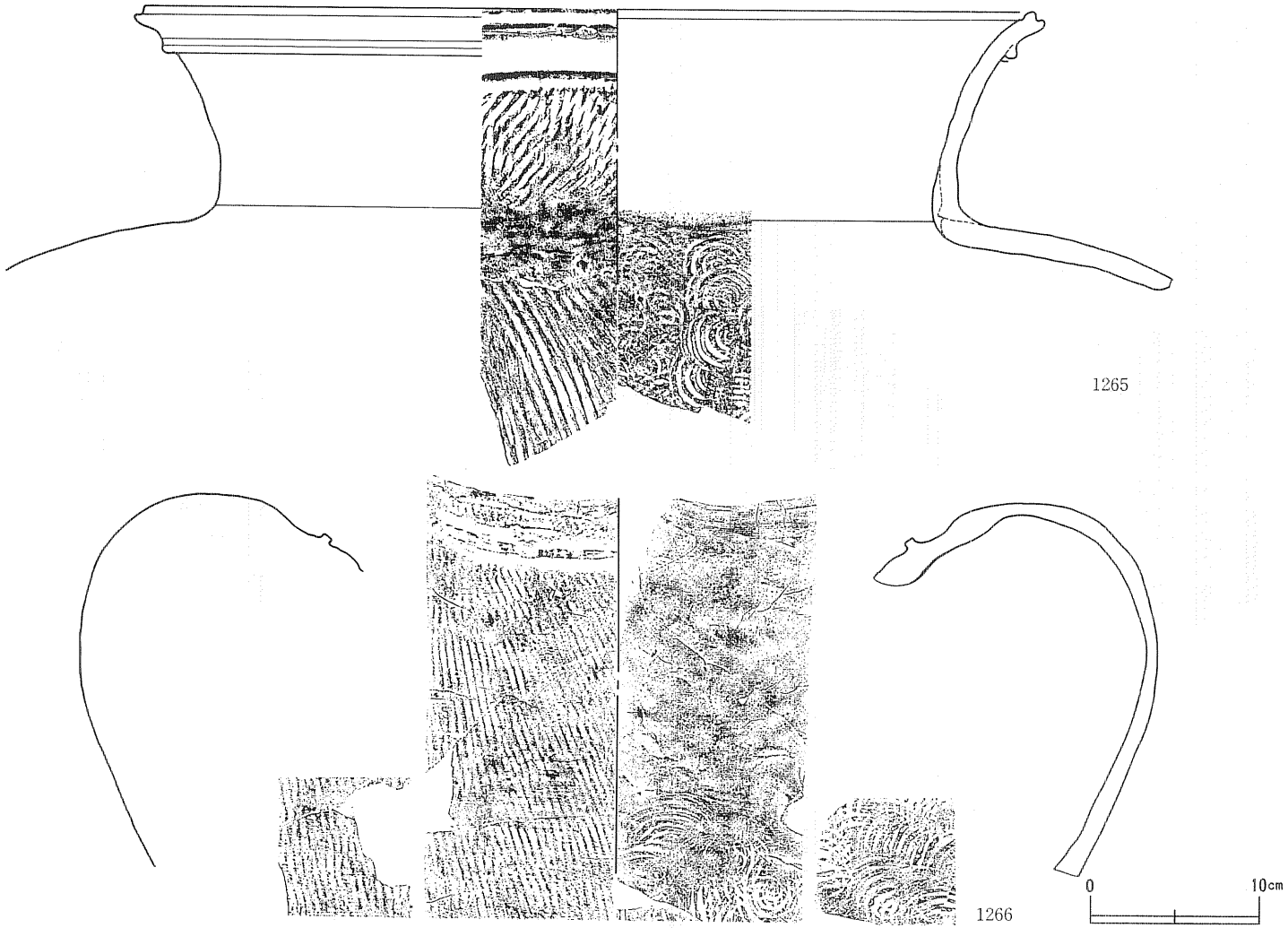




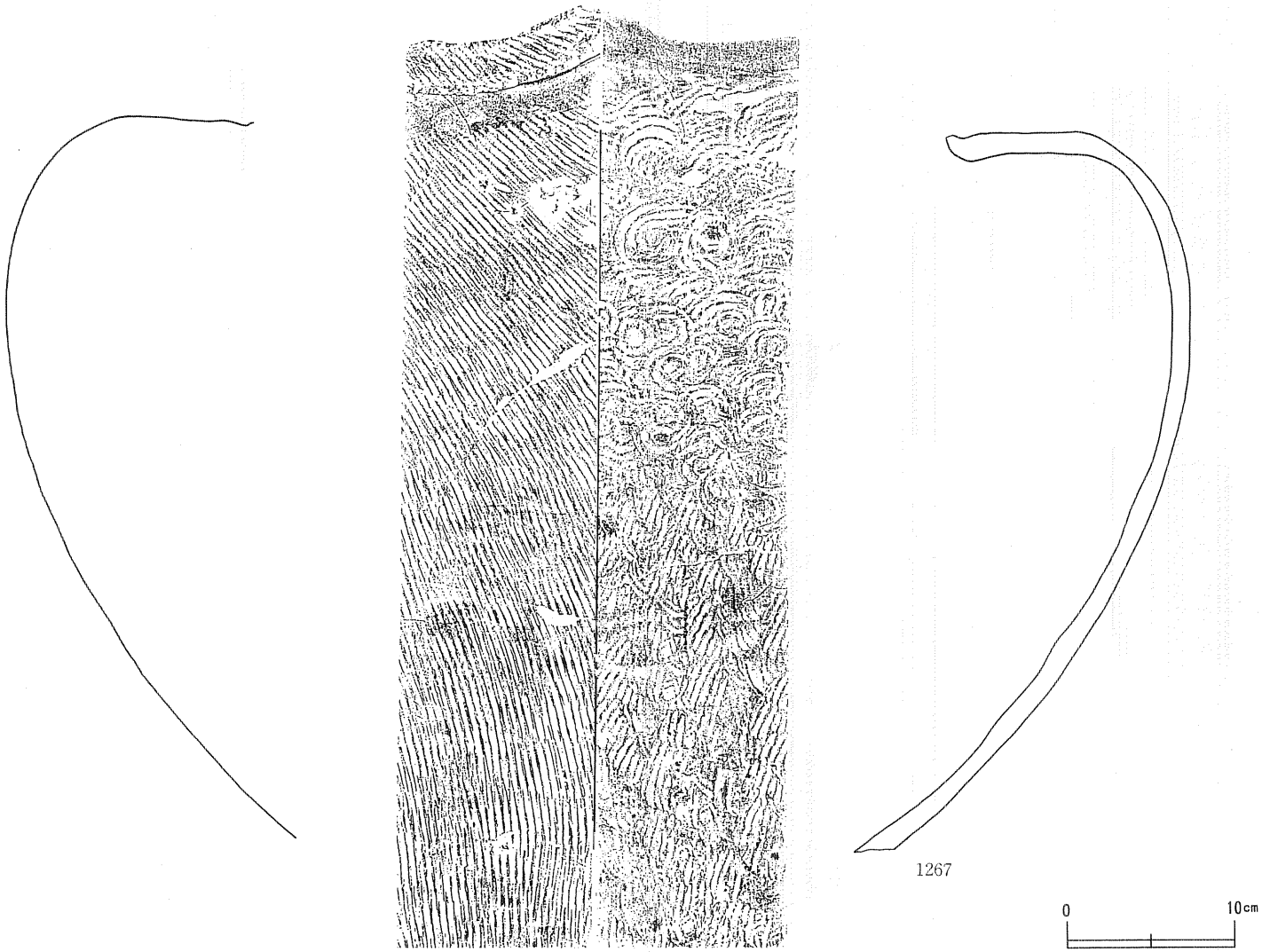




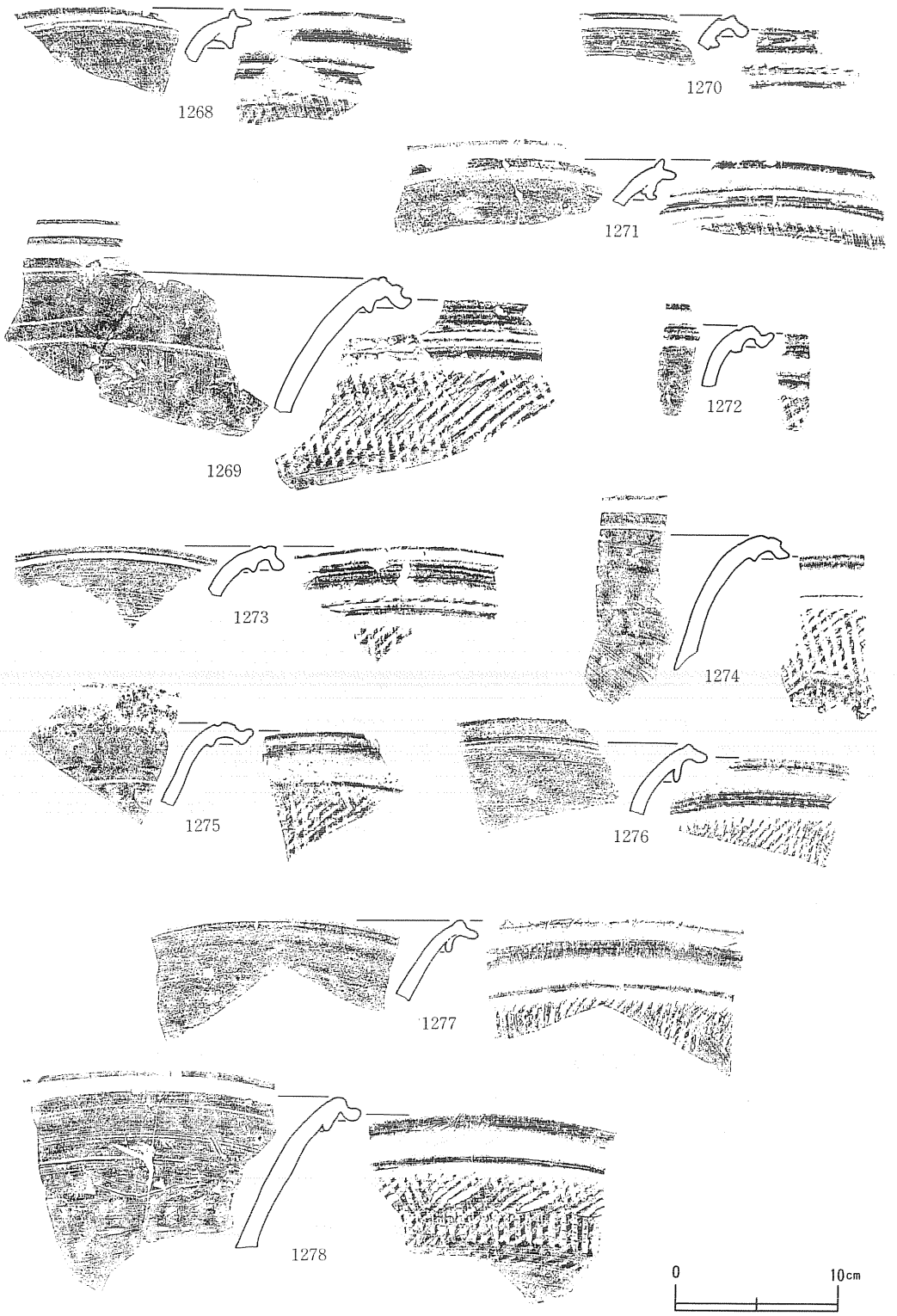
第106図　遺構外出土土器(14)



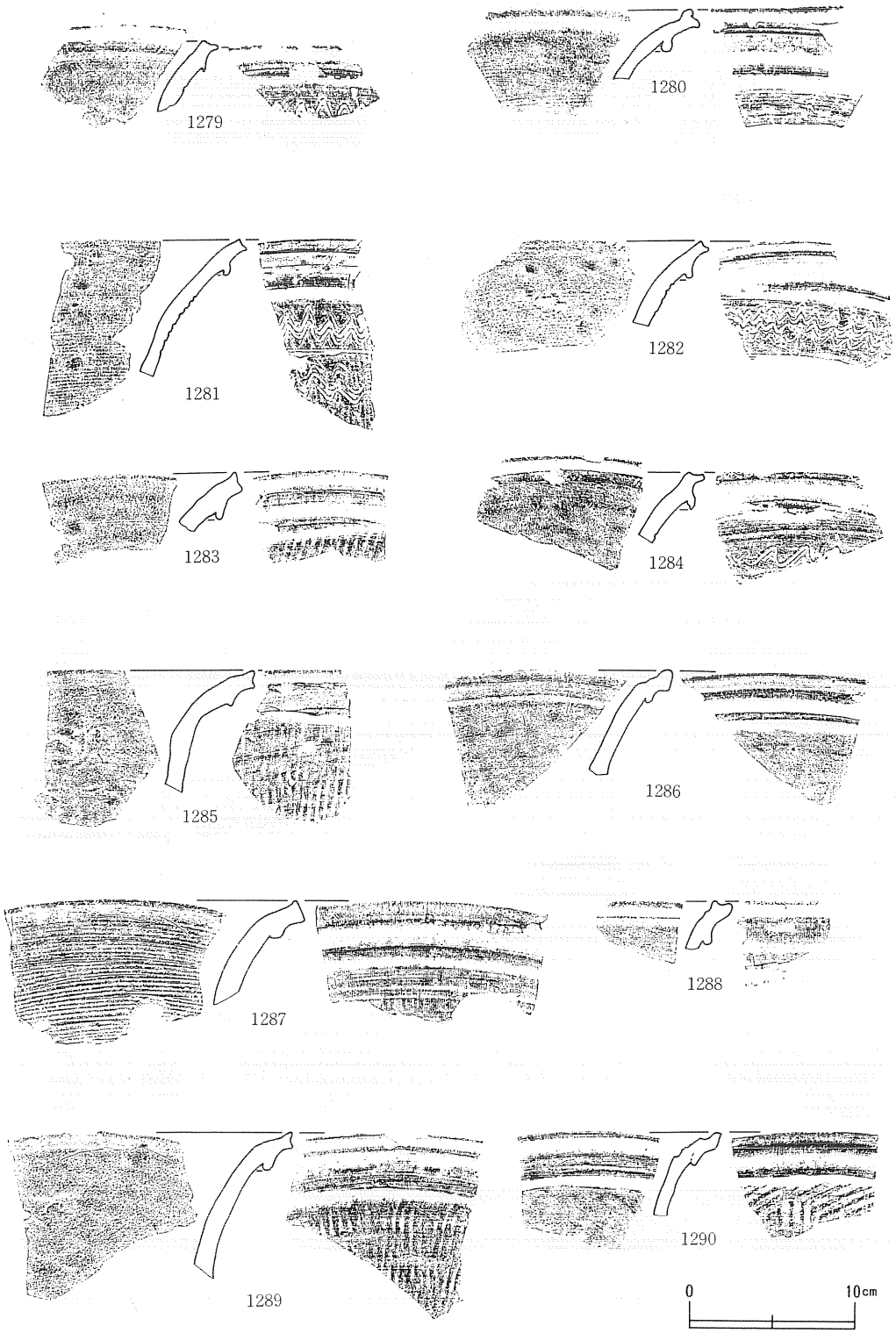
第107図　遺構外出土土器(15)



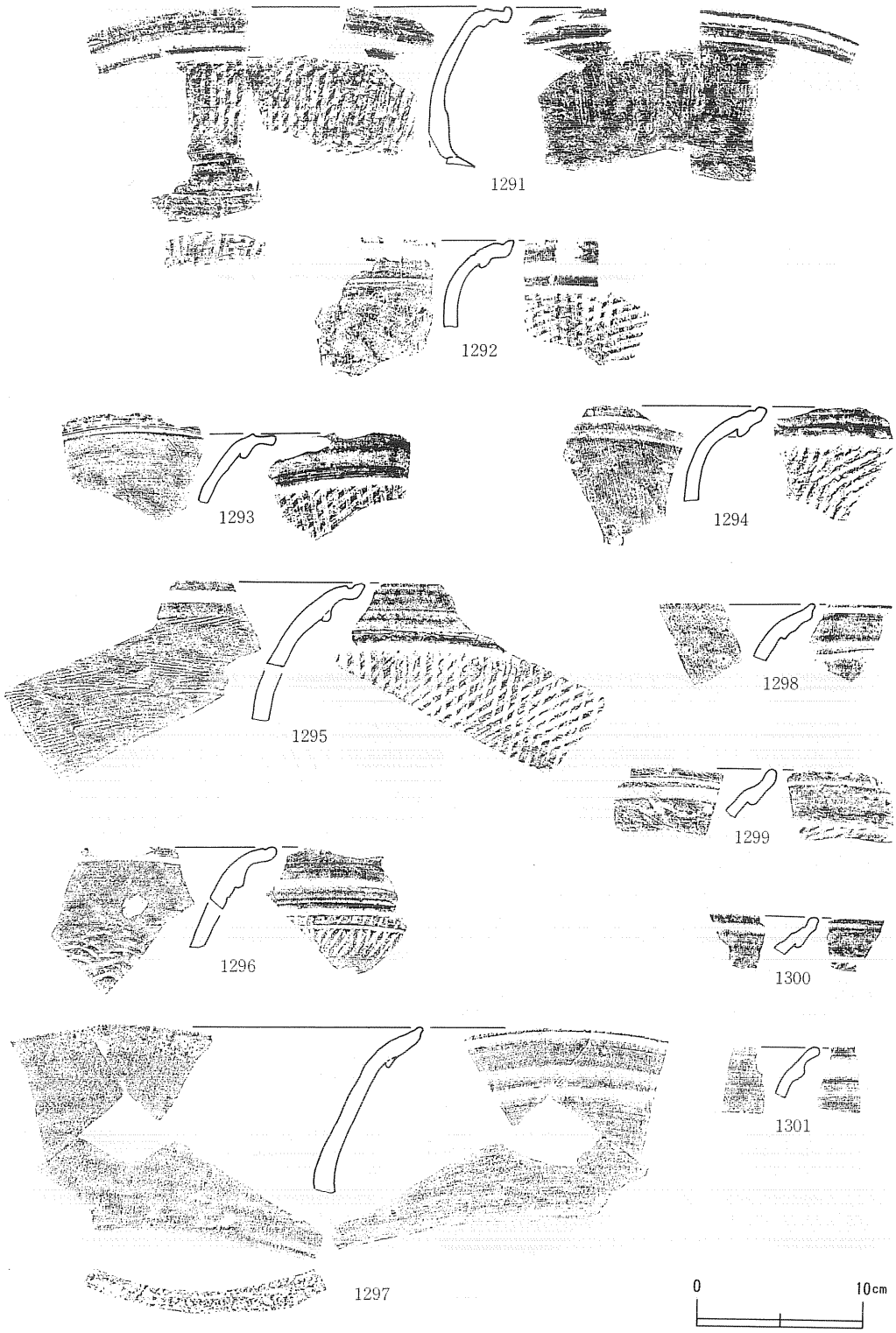
第108図　遺構外出土土器(16)



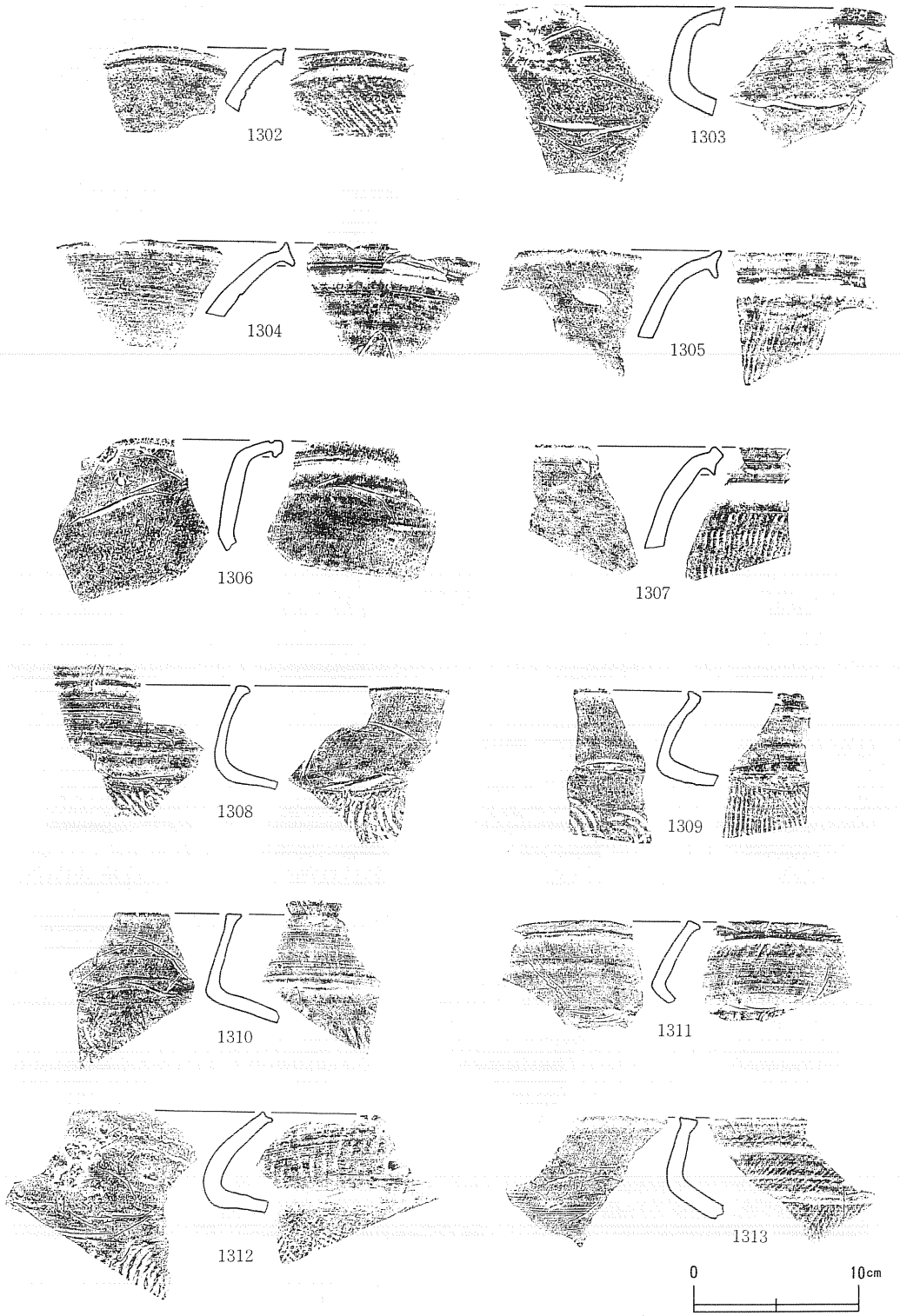
第109図　遺構外出土土器(17)



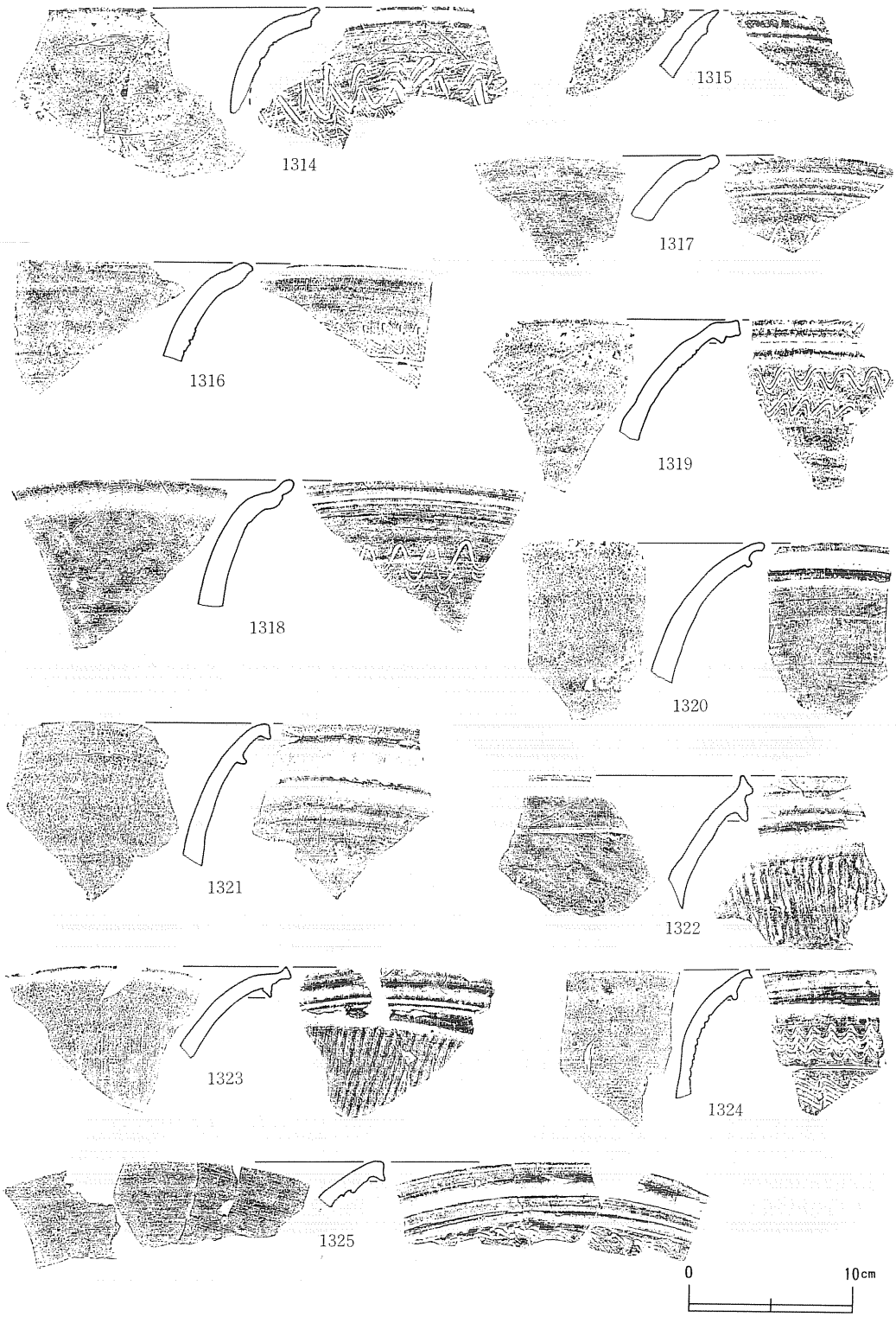
第110図　遺構外出土土器(18)



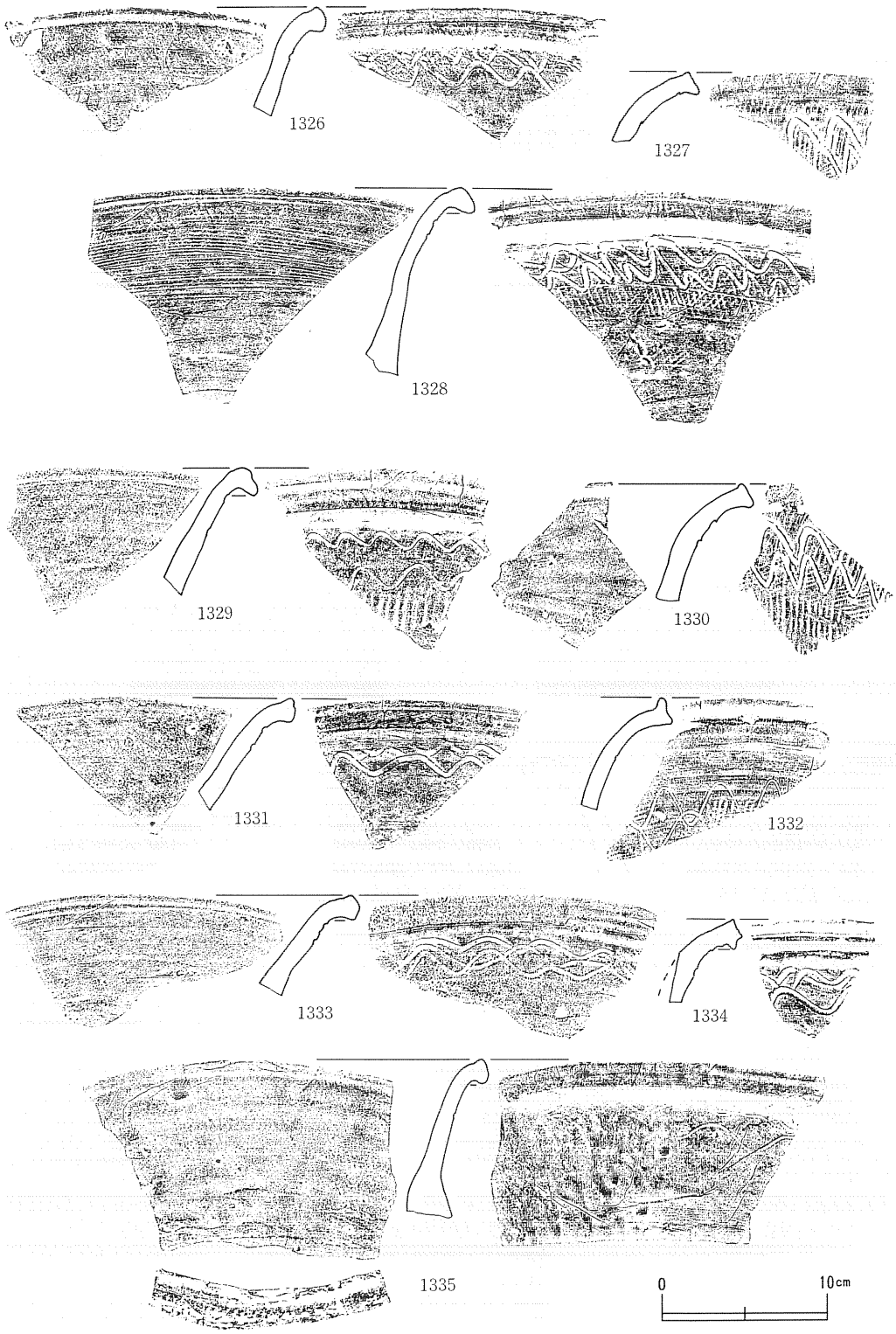
第111図　遺構外出土土器(19)



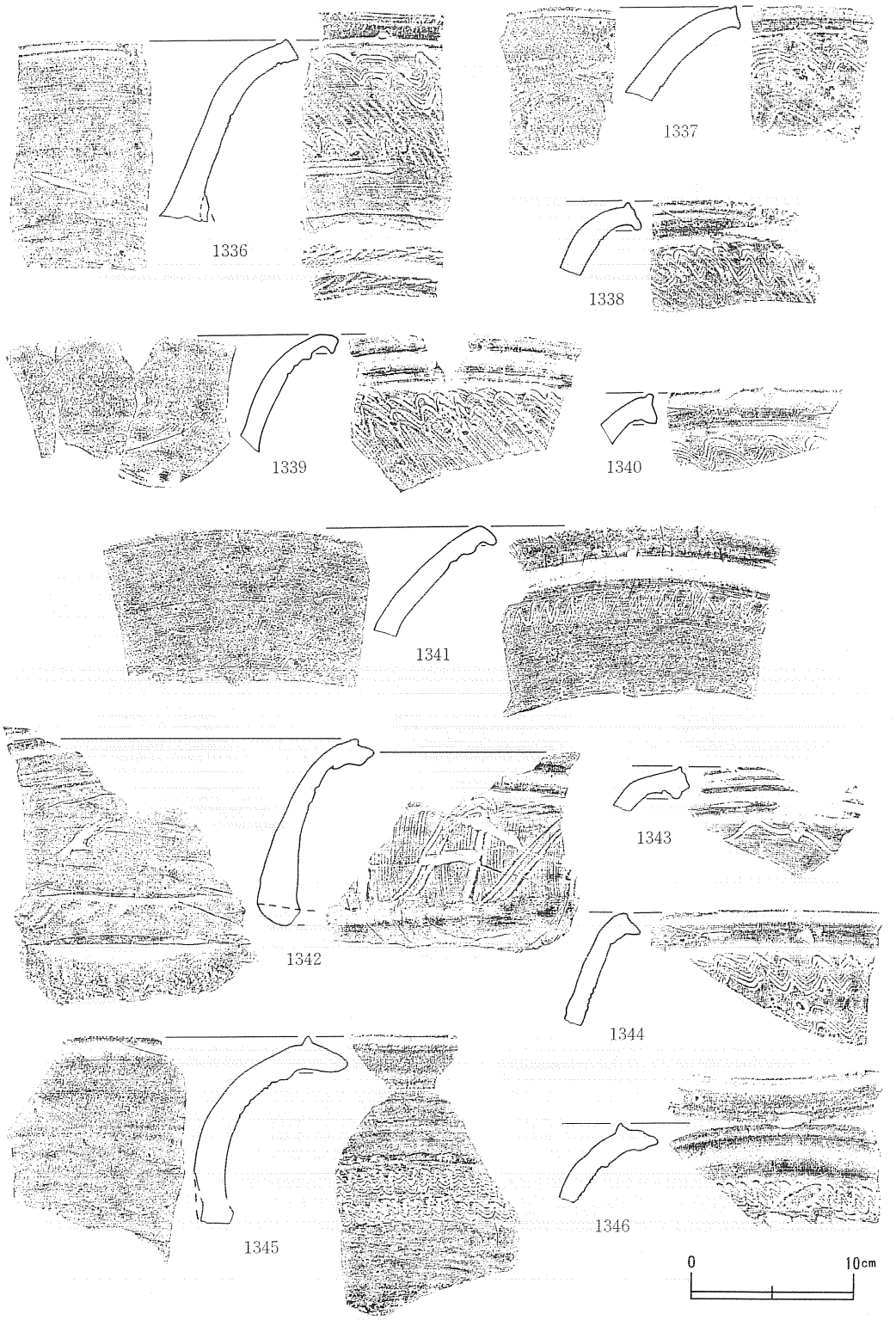
第112図　遺構外出土土器(20)



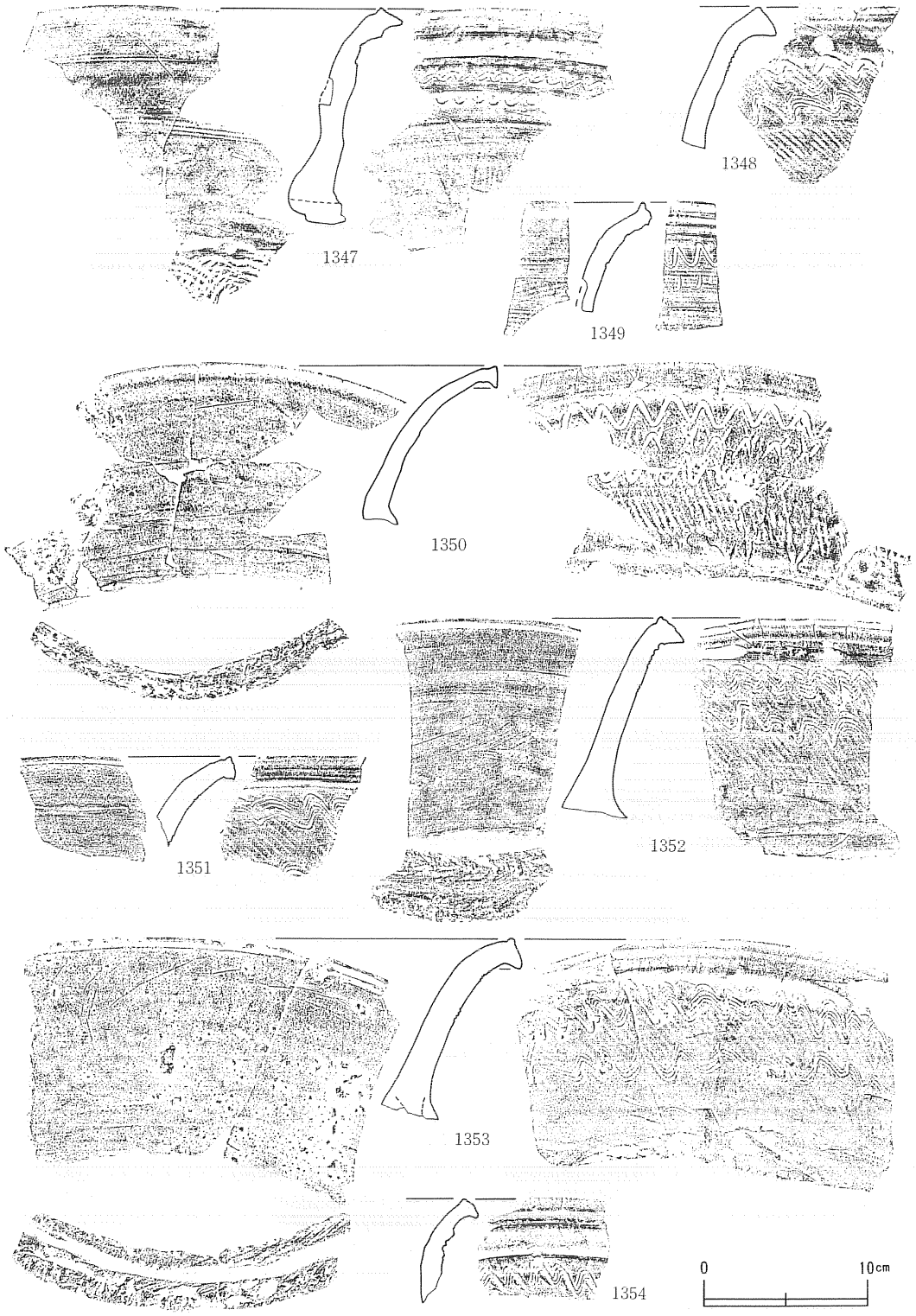
第113図　遺構外出土土器(21)



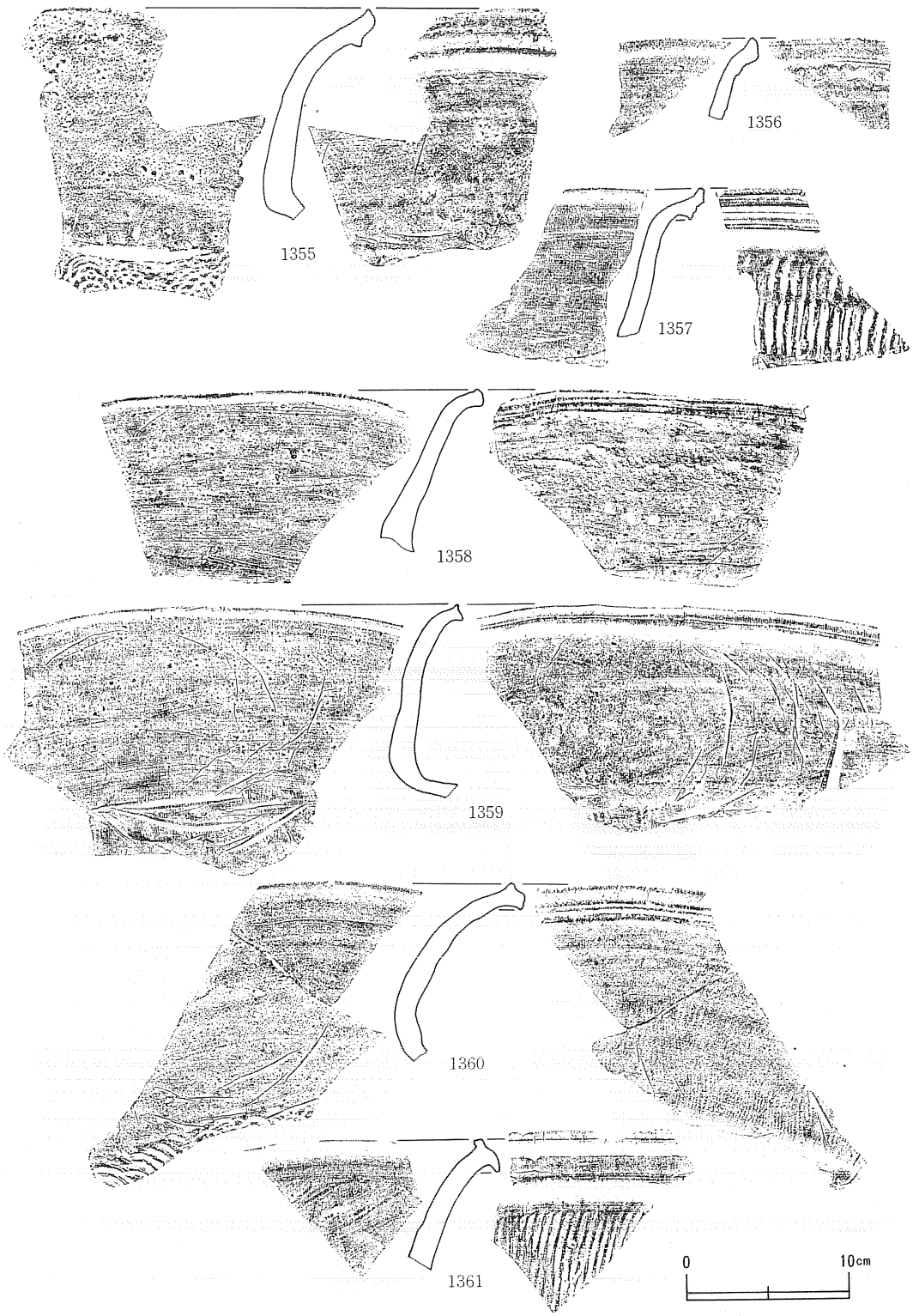
第114図　遺構外出土土器(22)



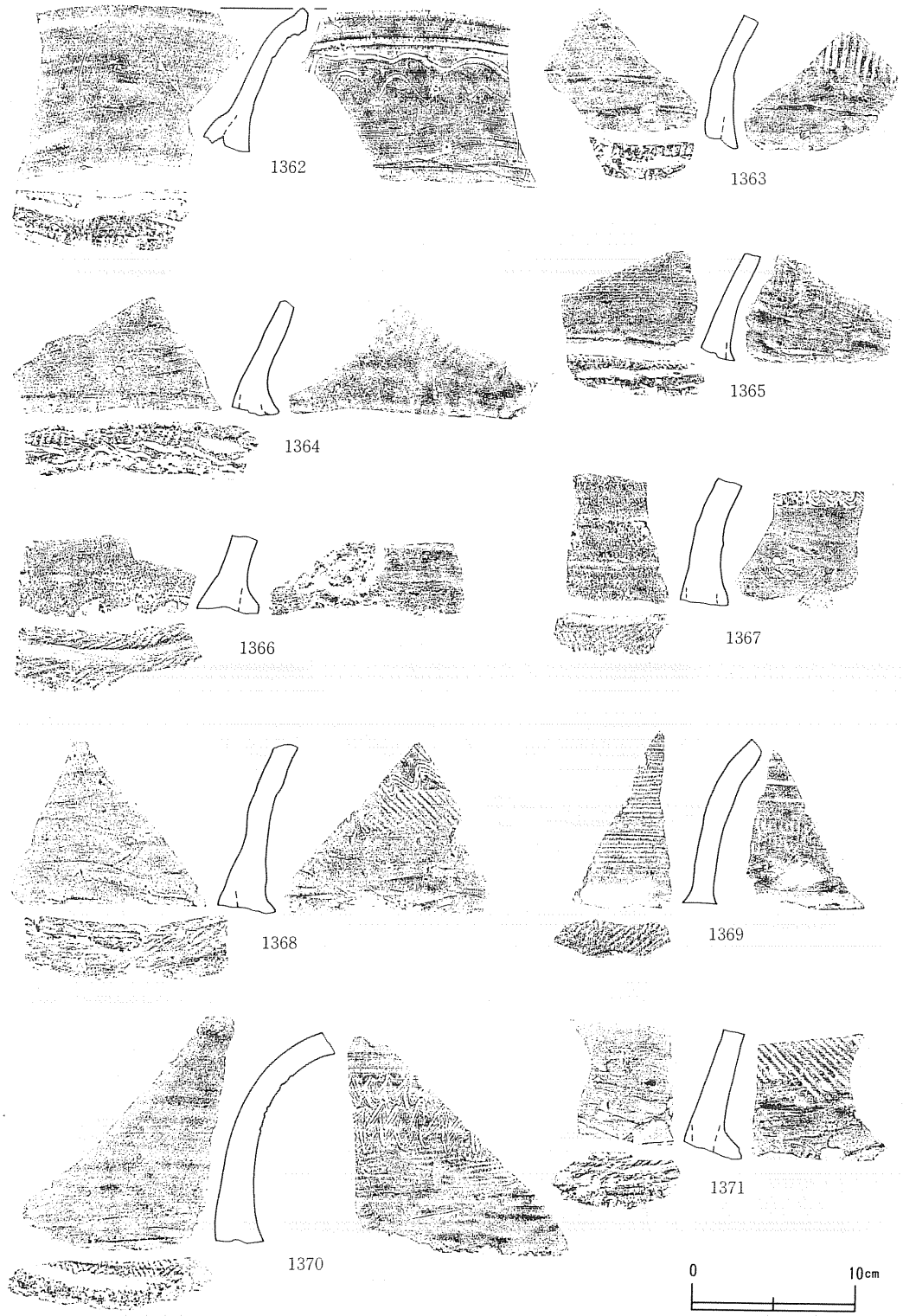
第115図　遺構外出土土器(23)



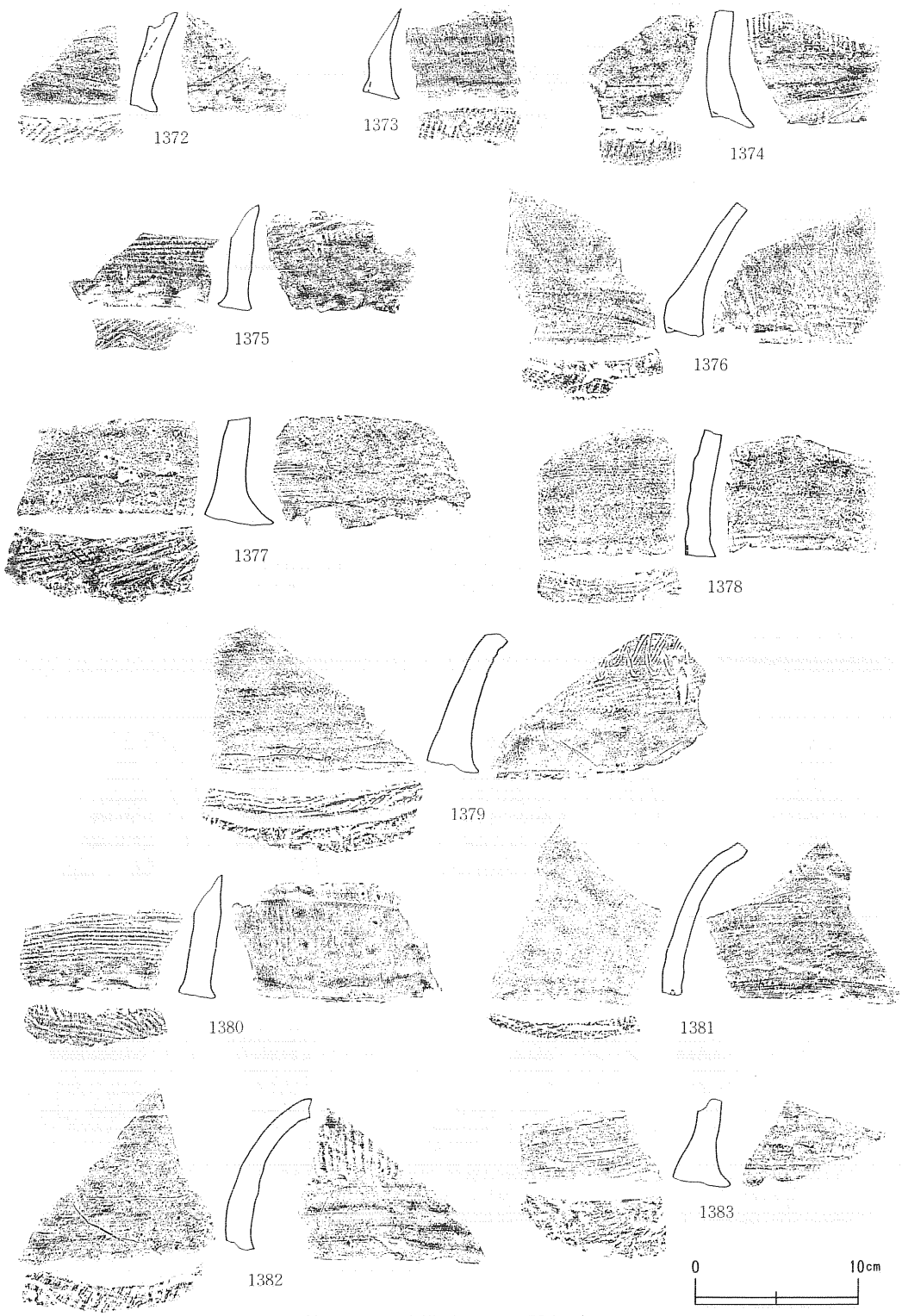
第116図　遺構外出土土器(24)



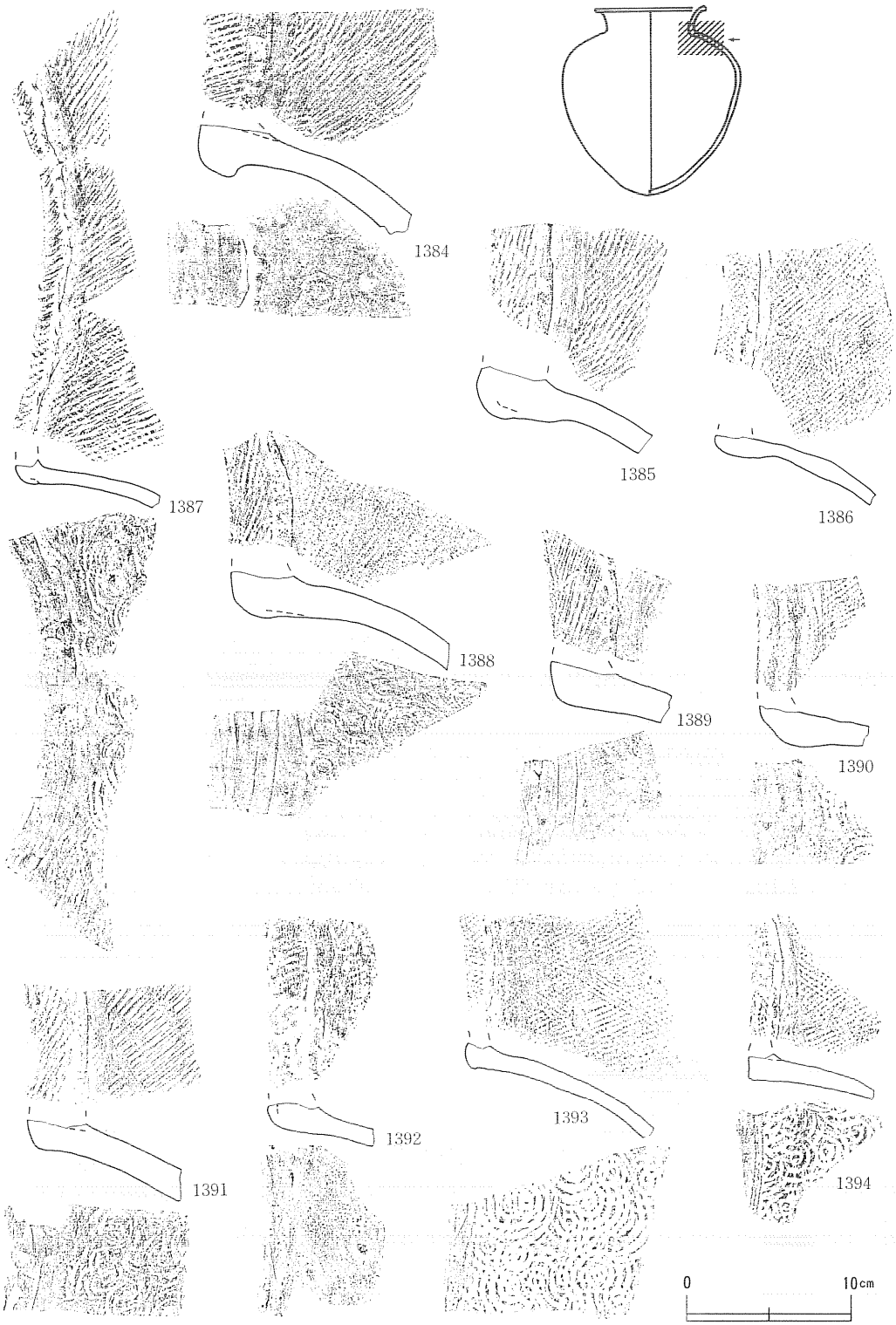
第117図　遺構外出土土器(25)



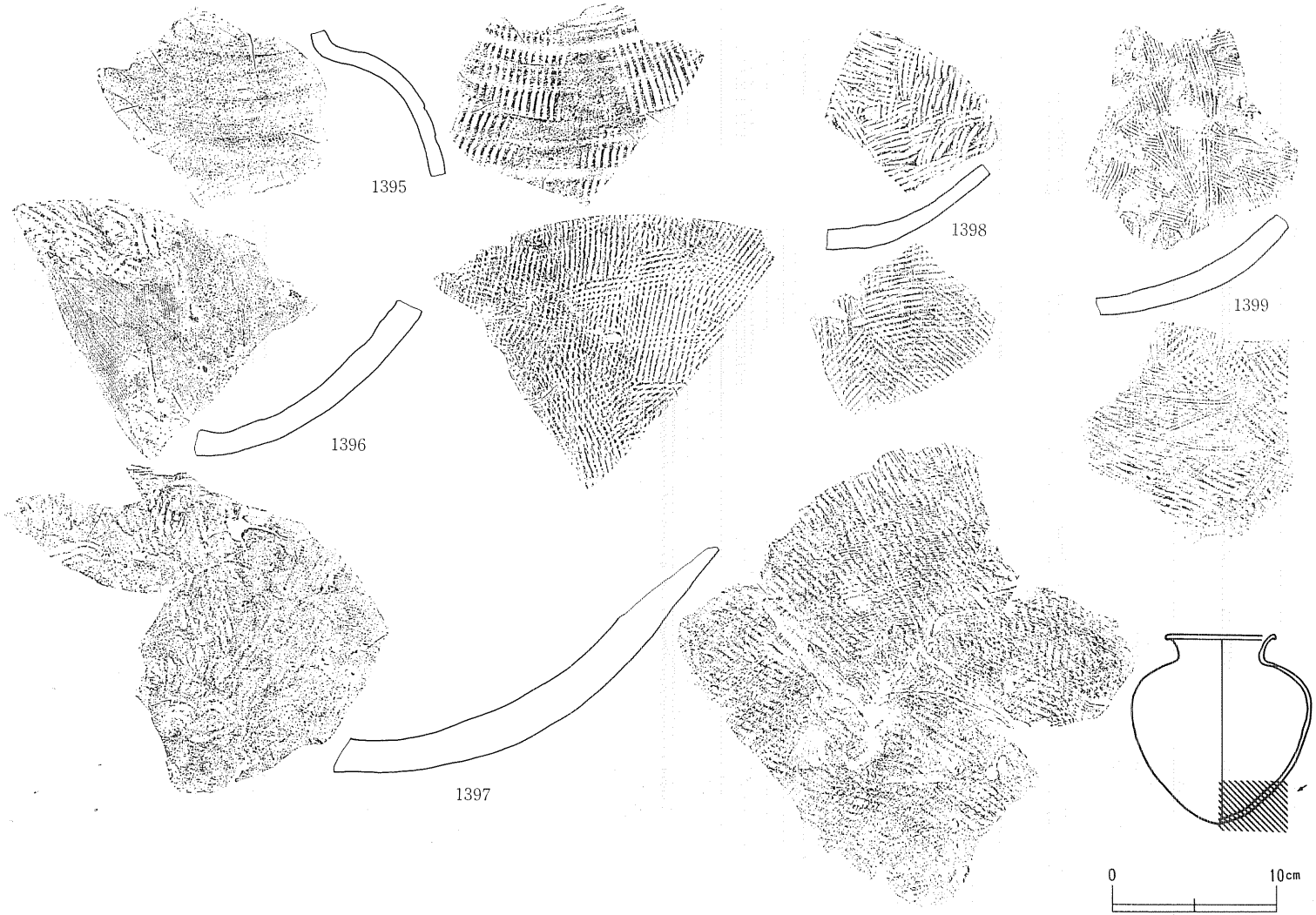
第118図　遺構外出土土器(26)



第119図　遺構外出土土器(27)



第120図　遺構外出土土器(28)



第121図　遺構外出土土器(29)

(1184・1221～1226)がある。1237は表面が黒く、ＳＴ17に関係があると思われる。1204の底部には「＃」の箆書きがある。

硯(1227～1231)(第101図、第68表、図版58-3・4)

円面硯(1228～1230)、風字硯(1231)、坏形を伏せたような特殊な硯(1277)がある。透は縦長の長方形が多い(1227・1229・1230)。1227の外面は黒色を呈しており、ＳＴ17出土のものに類似している。

甑(1234)(第101図、第68表)

口縁部が二重になる、甑と推定される。

鉢(1232・1233・1235)(第101図、第68表、図版58-6)

1232と1233は鉄鉢である。1233は体部に平行な掻目を施し、表面が黒い。1235は頸部がくの字状で口縁が外反する。

横瓶(1241～1243・1246)(第102・103図、第69表、図版59-5・4、84-4、66-6)

1243の口唇部は窪んでいる。

長頸瓶(1238)(第102図、第68表、図版58-7)

長頸瓶と推定される。体部下位に沈線があり高台に特徴がある。

甕(1236・1244・1245・1247～1399)(第101・103～121図、第68～74表、図版68-9・10、69、70-1・2、64-6、71-2、72、73、74、75、76、77、82、83-1・7、84-1～3・7)

中型、大型(1257～1267)などがあり、口縁端部の形態にはさまざまなものがある。1362～1383は口縁部側の頸部接合資料、1384～1394は体部側の資料である。1396～1399は底部資料である。

器種不明土器(1200)(第100図、第67表)

口唇部と思われる部分の下に突出部分があり、全体は坏形を呈している。

第３節　Ｃ地区の遺構と遺物

Ｃ区では、斜面が張り出して急傾斜を示すＭＯ－ＮＡラインに、須恵器を焼成した窯跡ＳＪ20とこの灰原ＳＴ26を中心としてＳＫ21・23・24・25の各土坑がある。また、調査区北側の緩斜面には、窯状遺構ＳＮ22が位置している。これら性格の異なる遺構が、3地点に分かれて存在している(第122図)。

１　窯跡

ＳＪ20(第123～125図、図版31・32)

ＳＪ20は標高60ｍの等高線にほぼ直交して構築された半地下式と考えられる無階無段窖窯で

ある。窯は煙道部が削平を受けているが、現状の規模は長さ11.65m、煙道部付近の幅が90cm、中央やや下方の最大幅が1.2mで、中央が膨らみ焚口部と煙道部に向けて徐々にすぼまる形状を呈する。焚口手前には袋状の作業面をもつ。中軸方向はＮ－80°－Ｅを指す。床面は焚口から燃焼部にかけてほぼ水平で、焼成部への変化は明瞭である。床面の勾配は最も急な所で25°あり、焼成状態は非常に良好である。構造は茹のあることと、窯体が地山面から深くない点を考慮すると半地下式の窖窯と考えられる。また断面形は、側面の立つ半楕円形状を呈すると思われる。壁面には、掘削時の手斧の跡が明瞭に認められる。また焚口付近の覆土上面からは、窯体埋没後に堆積した灰白色の火山灰が10cmの厚さで存在していた。遺物は床面や覆土から坏・甕などの破片が比較的まとまって出土した。これらの遺物は操業面が１つのＳＪ20の製品として一括性の強い土器であり、これらをＳＪ20窯跡土器群(**一括土器群Ｉ**)として捉えることができる。

出土遺物

ＳＪ20からは坏蓋・高台付坏・坏・横瓶・甕(1400～1414)が出土している。これらのすべては、一括土器群Ｉとして捉えることができる。

坏蓋(1400～1404)(第126図、第74表、図版45-16)

天井は低く平坦で、端部は水平から屈折してやや内傾気味に立つ。天井の切り離しは、不明瞭な1402を除くと回転糸切りである。1404はゆがんだ部分を作図してある。

高台付坏(1405～1408)(第126図、第74表、図版50-11)

1405・1406・1408はやや浅い形態のものであるが、1407は埦形に近い形態である。底部には回転糸切り痕をもつ。また高台は高くやや外傾し、接地部は窪んでいる(1405～1407)。

坏(1409)(第126図、第74表)

底部の切り離しは回転糸切り技法である。

横瓶(1410)(第126図、第74表、図版59-6)

口唇部には明瞭な窪みをもち、肩部の短い特徴をもつ。

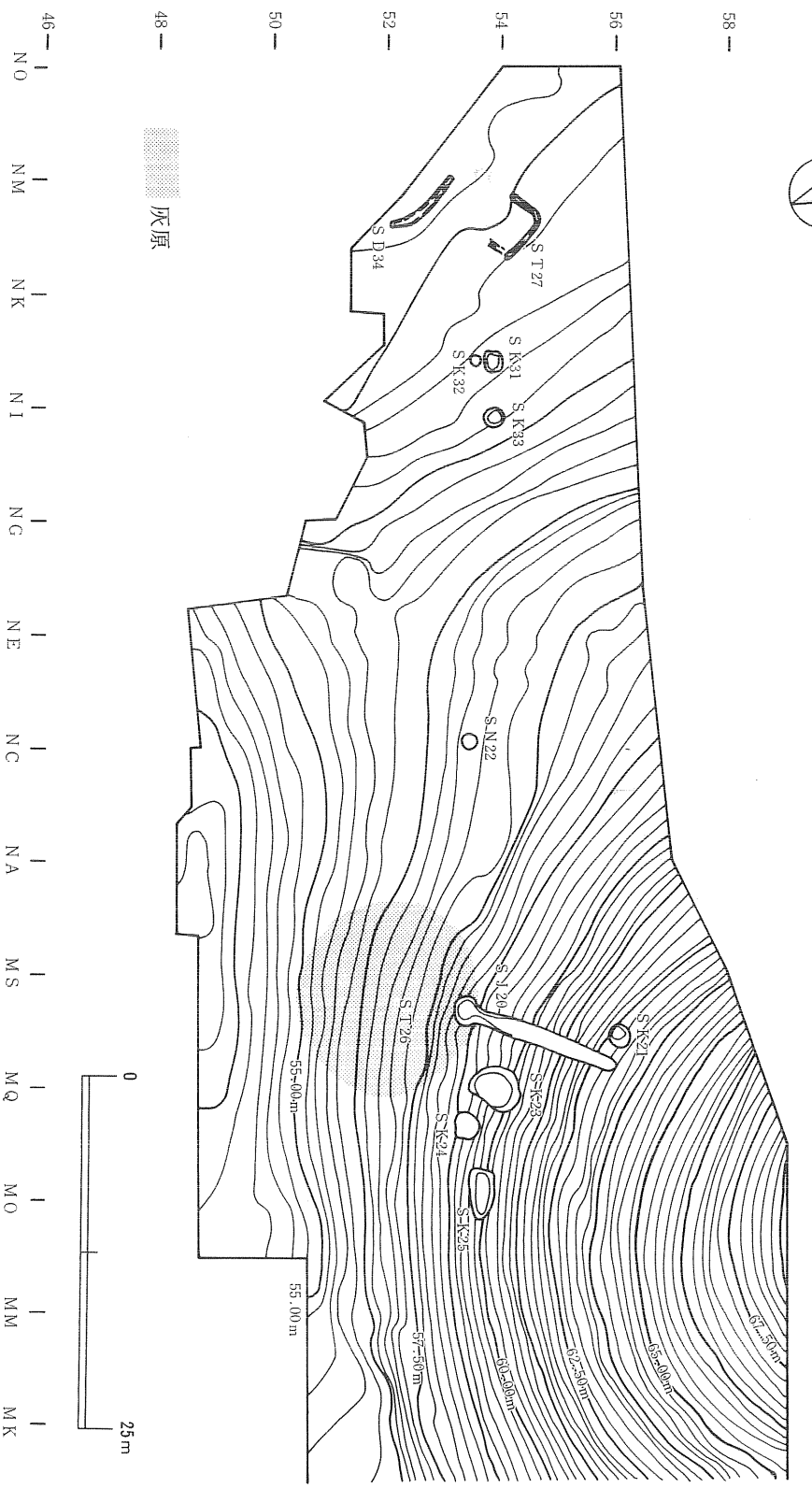
甕(1411～1414)(第126～128図、第74・75表、図版70-3、65-1～3)

中型(1411)と大型(1412～1414)があり、口唇部はやや低い。内外には強い稜をもつ。

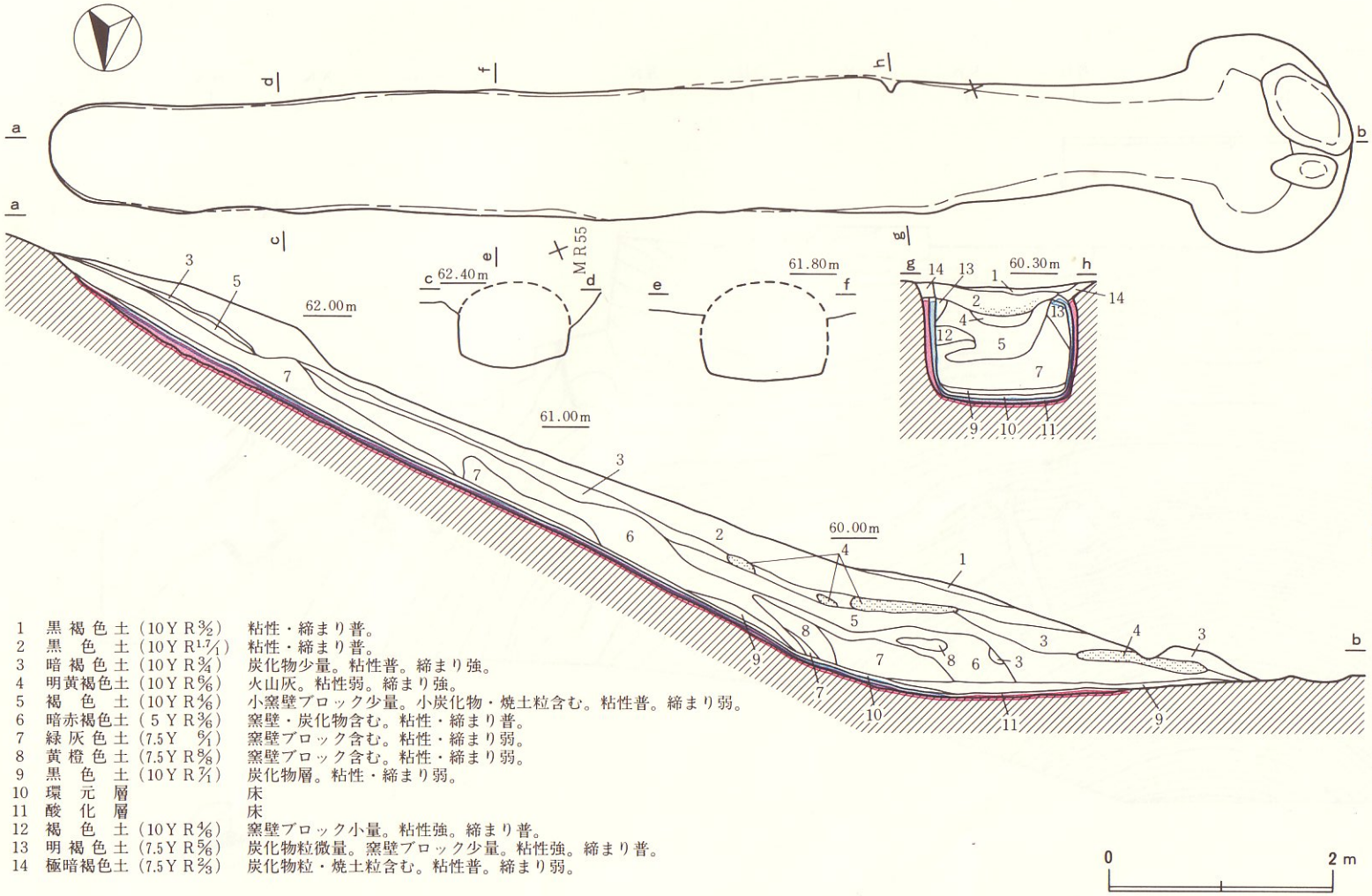
ＳＴ26(第122図、図版32－1)

ＳＴ26はＭＱ51～53・ＭＲ50～53・ＭＳ51～53区と広範な広がりをもつが、その中心はＭＲ51から52区にまたがる区域である。灰原は約20～30cmと比較的浅い在り方を示している。また出土土器には坏・蓋などの小型品も含むが、甕の破片が特に目立っている。このことから本窯跡では、甕などでの大型品を主として焼成していた可能性がある。

出土遺物

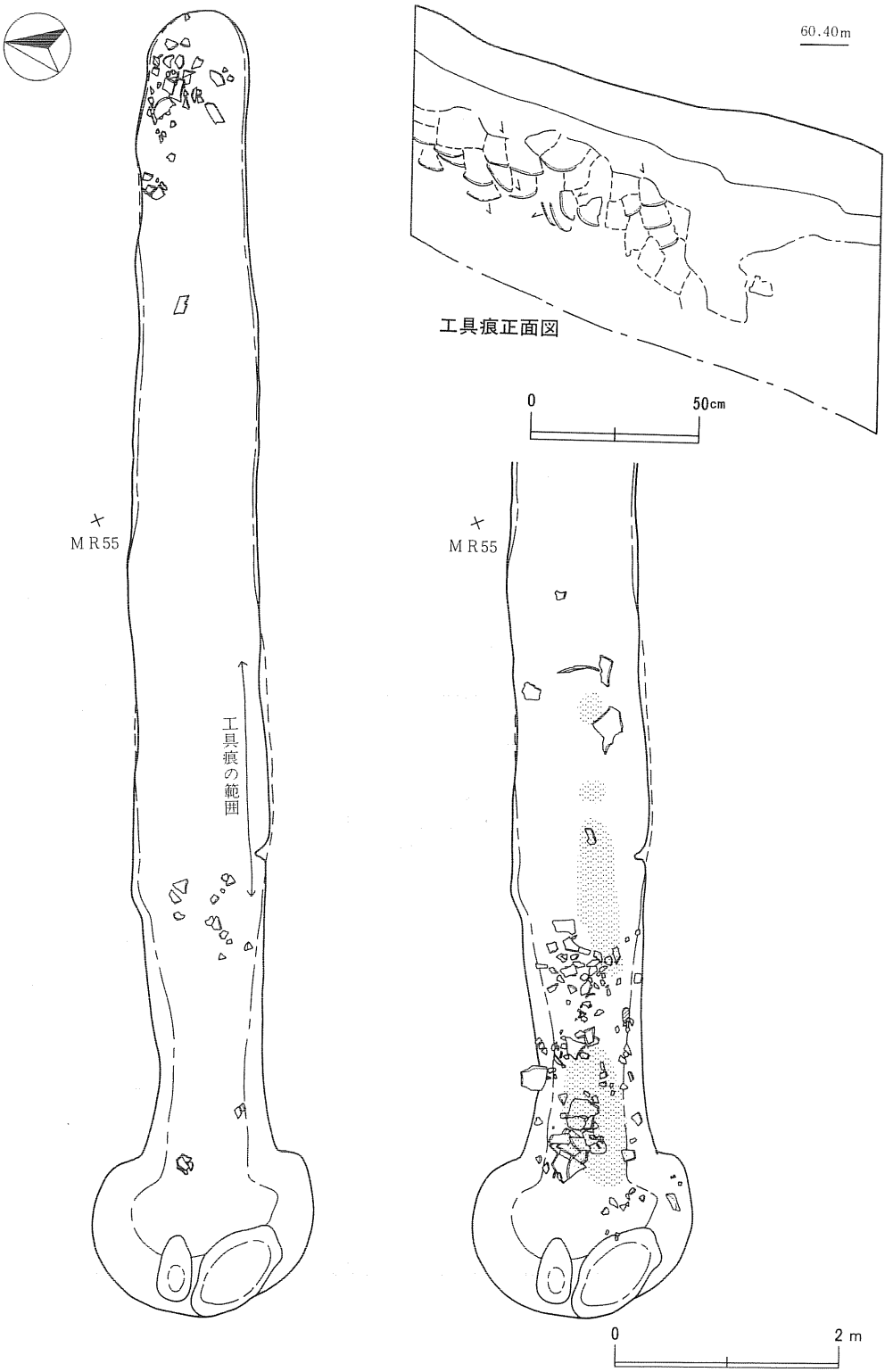


第122図　Ｃ地区遺構配置図

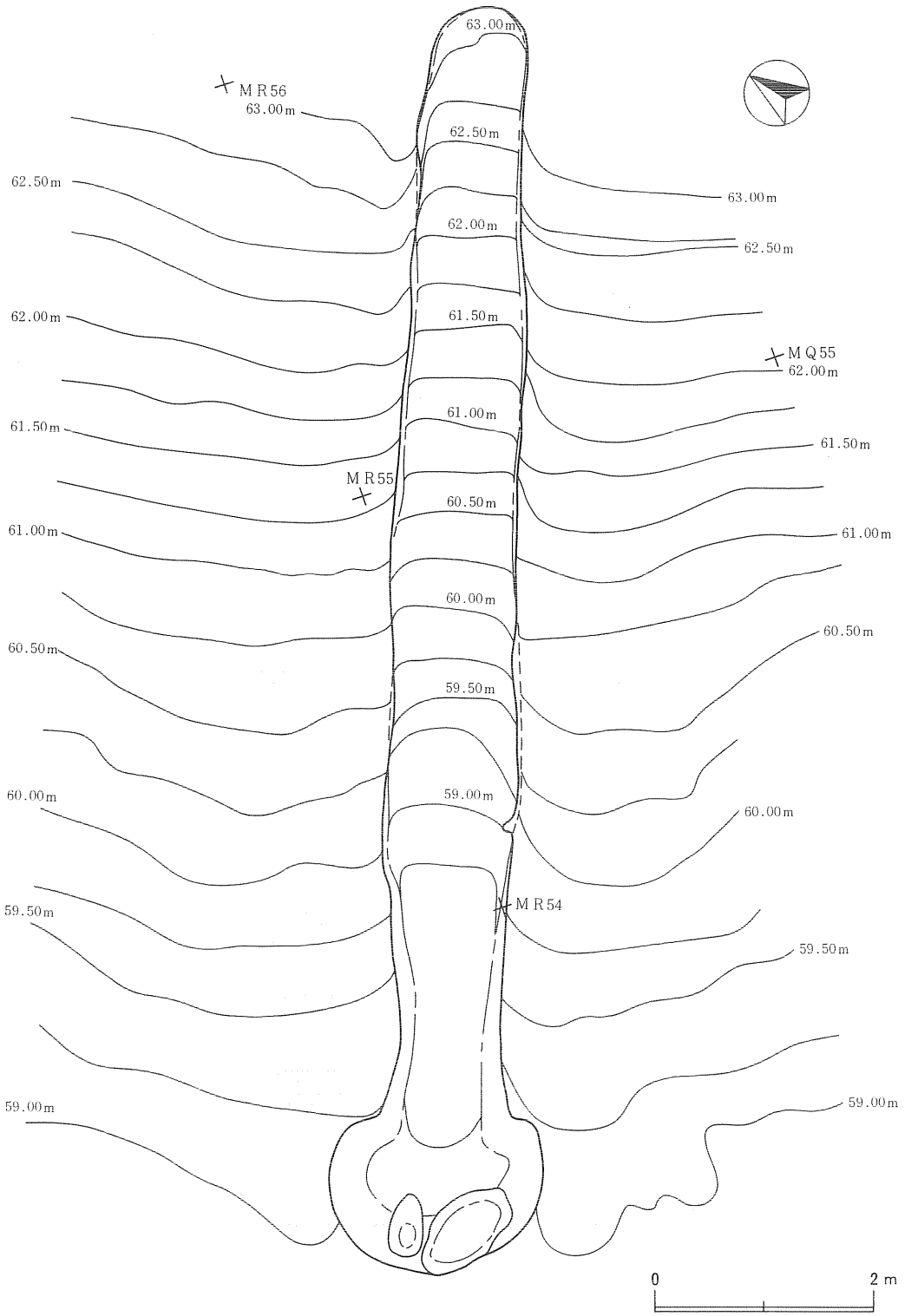


第123図　ＳＪ20平面図

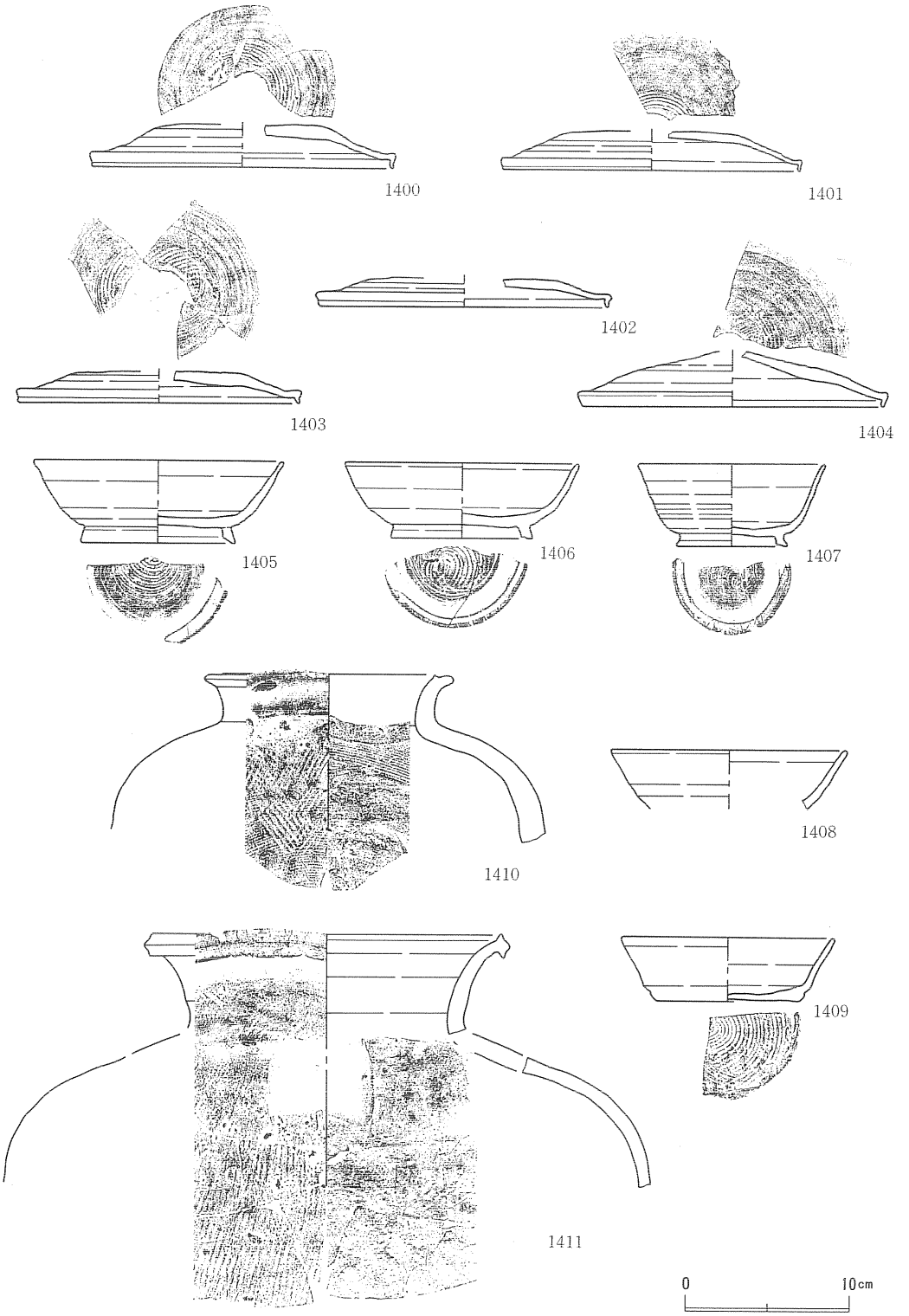
1	黒褐色土	(10ＹＲ3/2)	粘性・締まり普。
2	黒色土	(10ＹＲ1.7/1)	粘性・締まり普。
3	暗褐色土	(10ＹＲ3/4)	炭化物少量。粘性普。締まり強。
4	明黄褐色土	(10ＹＲ6/6)	火山灰。粘性弱。締まり強。
5	褐色土	(10ＹＲ4/6)	小窯壁ブロック少量。小炭化物・焼土粒含む。粘性普。締まり弱。
6	暗赤褐色土	(5ＹＲ3/6)	窯壁・炭化物含む。粘性・締まり普。
7	緑灰色土	(7.5Ｙ 6/1)	窯壁ブロック含む。粘性・締まり弱。
8	黄橙色土	(7.5ＹＲ8/8)	窯壁ブロック含む。粘性・締まり弱。
9	黒色土	(10ＹＲ7/1)	炭化物層。粘性・締まり弱。
10	環元層		床
11	酸化層		床
12	褐色土	(10ＹＲ4/6)	窯壁ブロック小量。粘性強。締まり普。
13	明褐色土	(7.5ＹＲ5/6)	炭化物粒微量。窯壁ブロック少量。粘性強。締まり普。
14	極暗褐色土	(7.5ＹＲ2/3)	炭化物粒・焼土粒含む。粘性普。締まり弱。



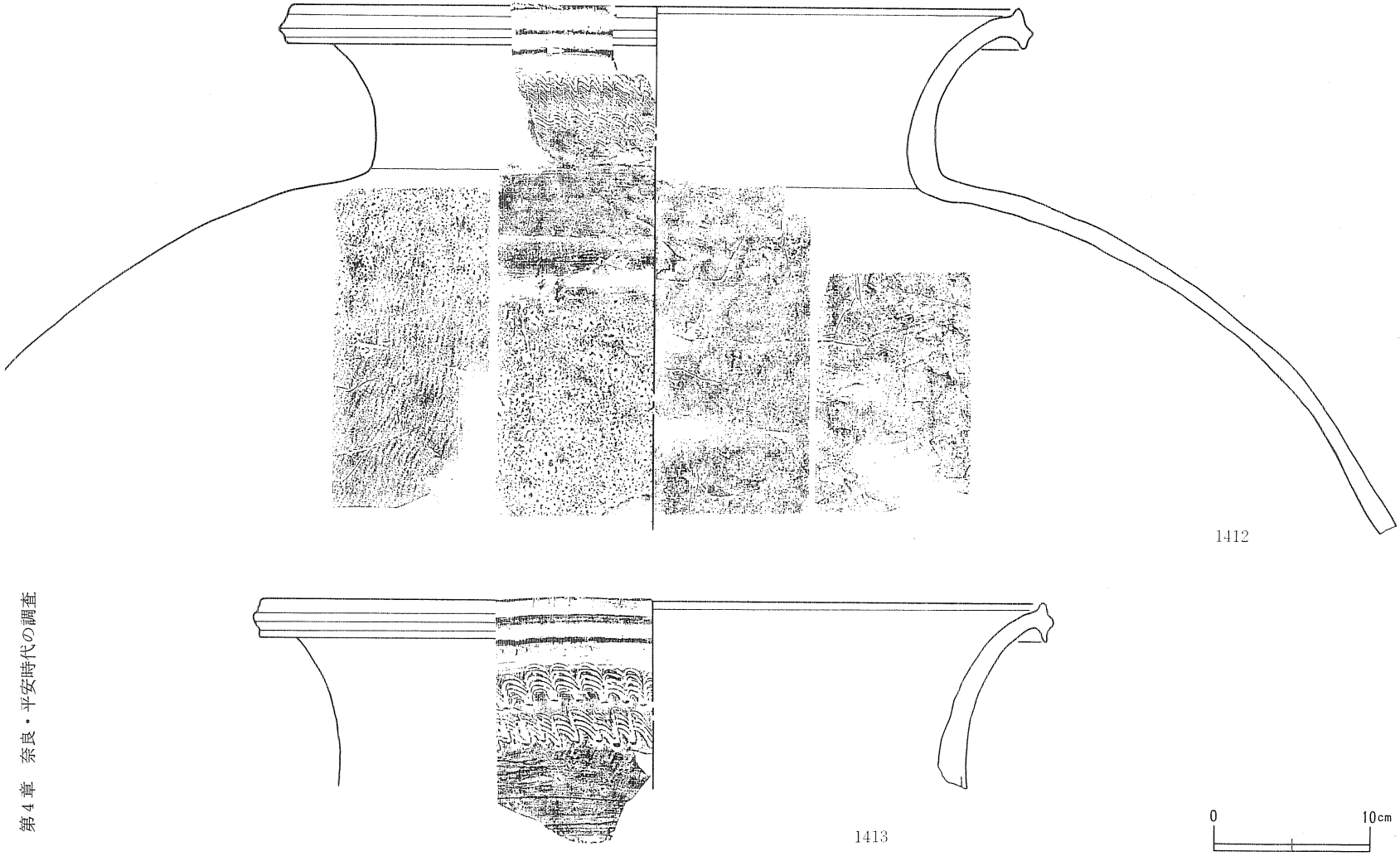
第124図　ＳＪ20遺物出土状況図および工具痕正面図



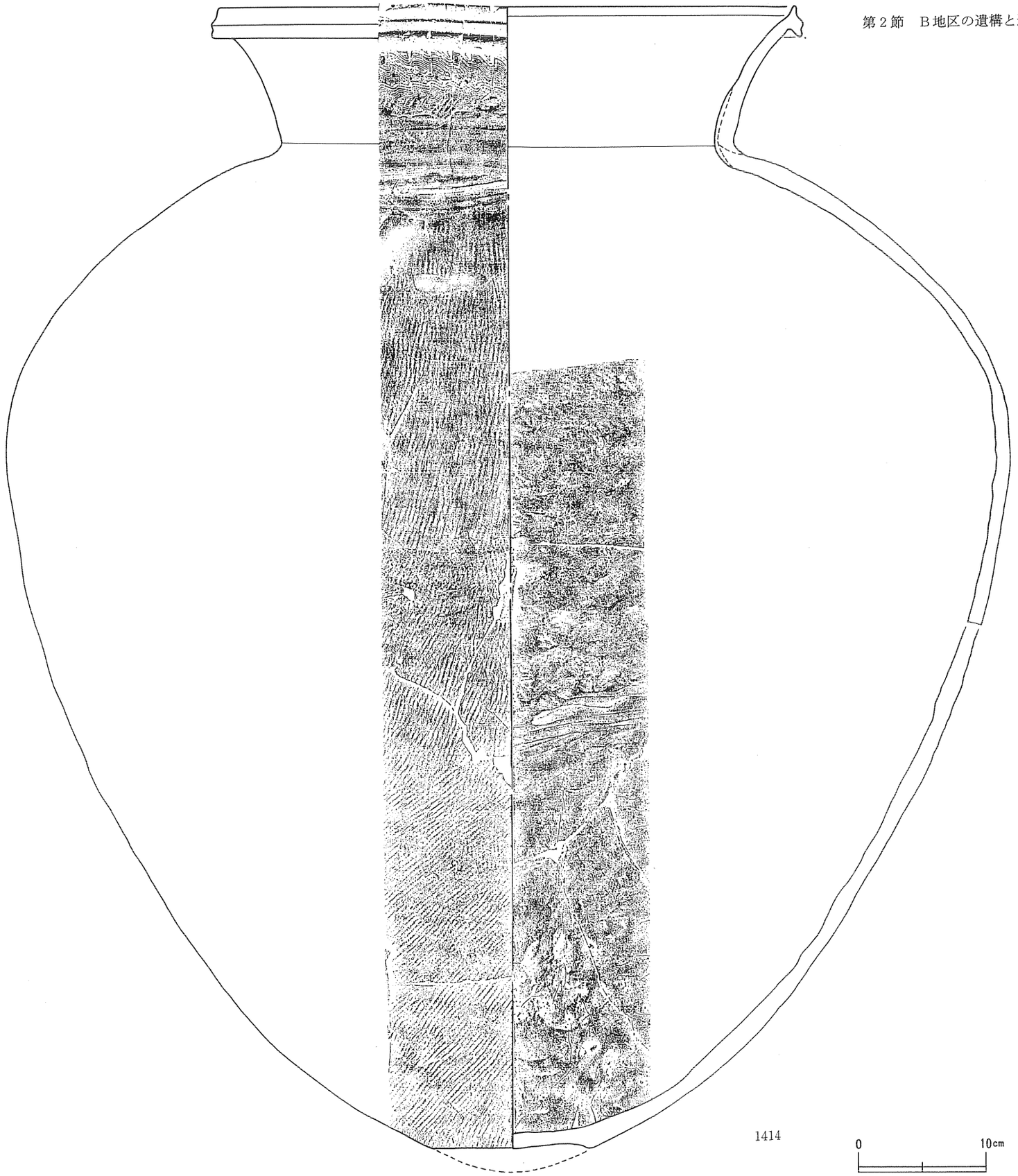
第125図　ＳＪ20等高線図



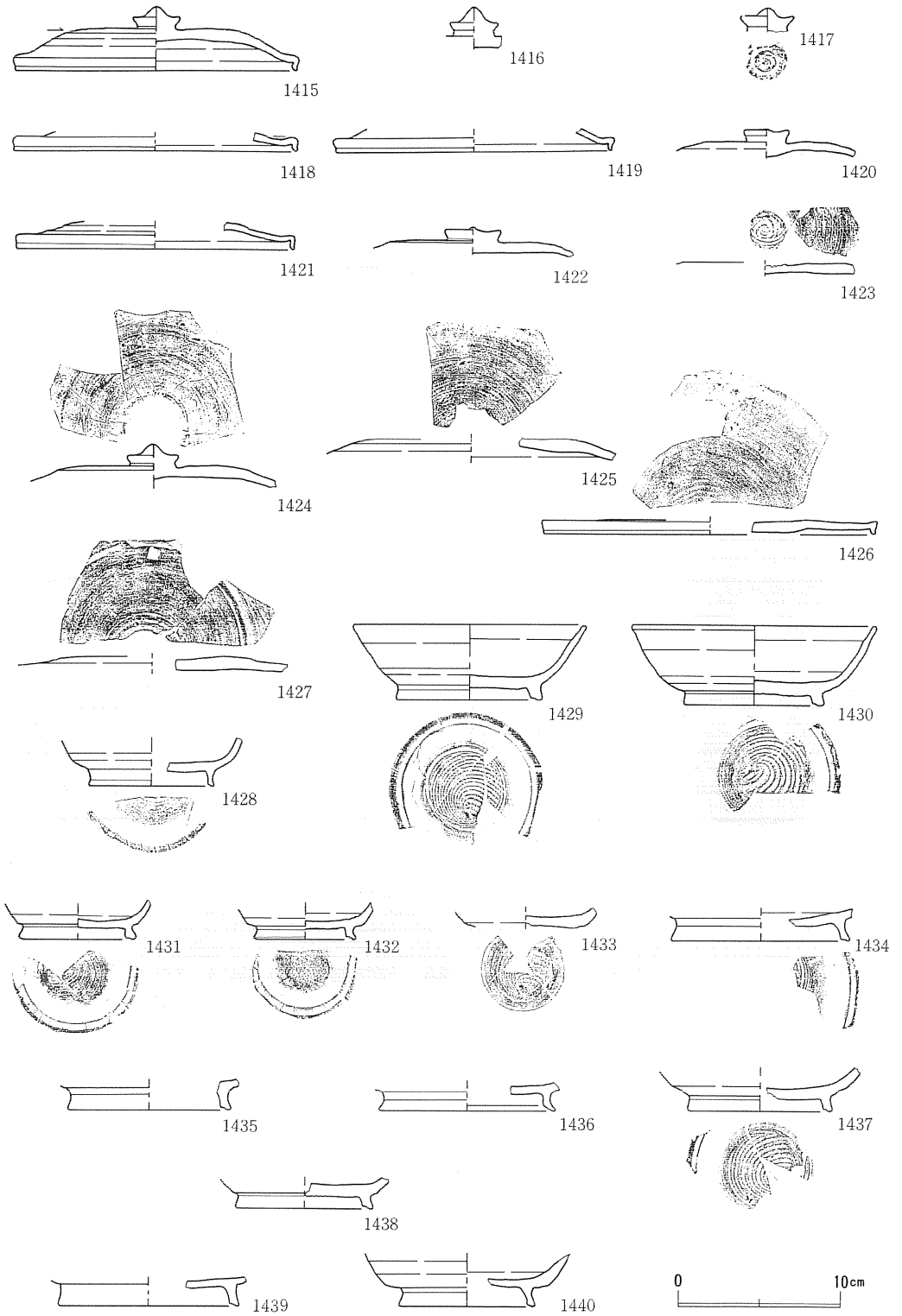
第126図　遺構内出土土器(57)　ＳＪ20



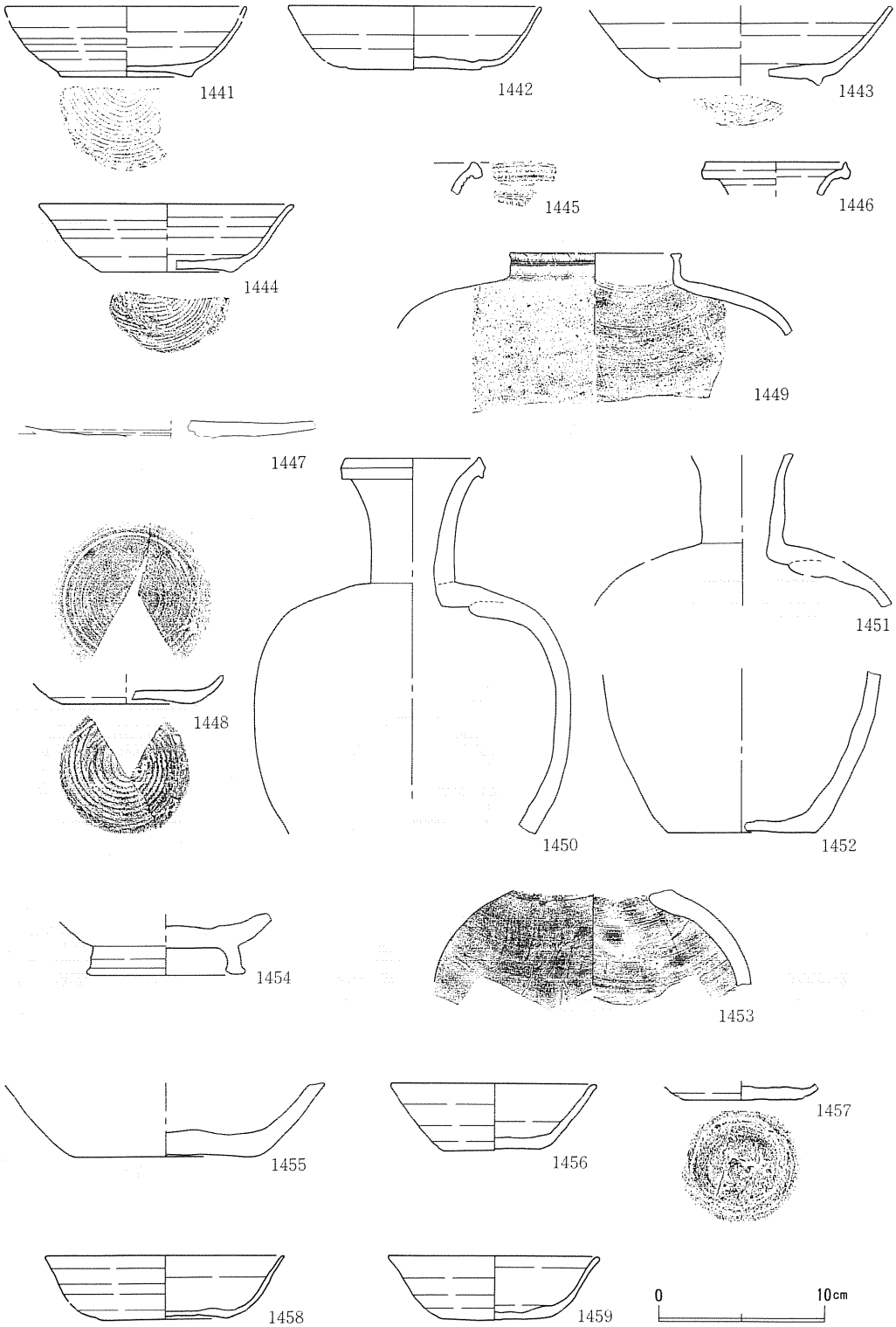
第127図　遺構内出土土器(58)　ＳＪ20



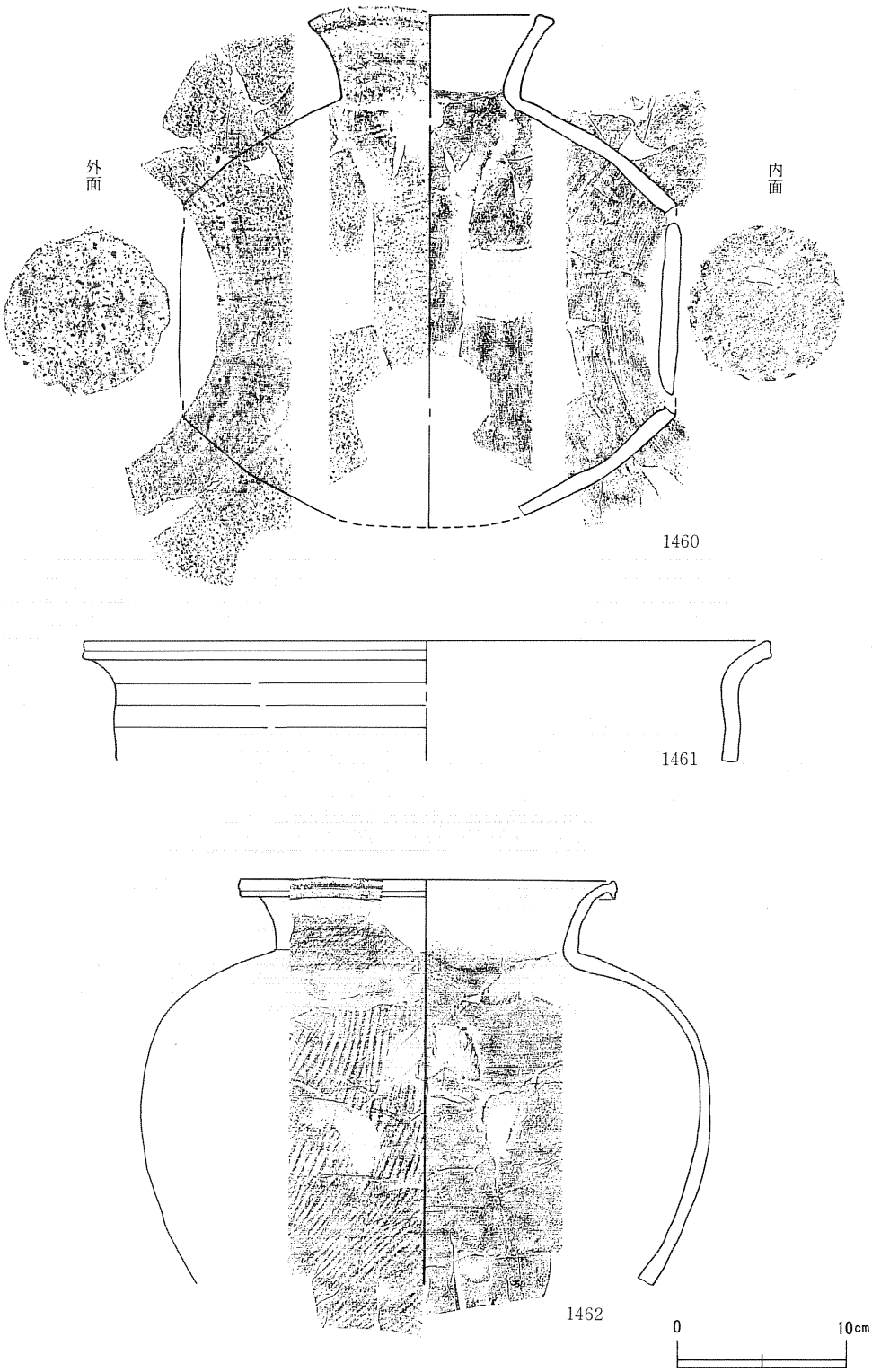
第128図　遺構内出土土器(59)　ＳＪ20



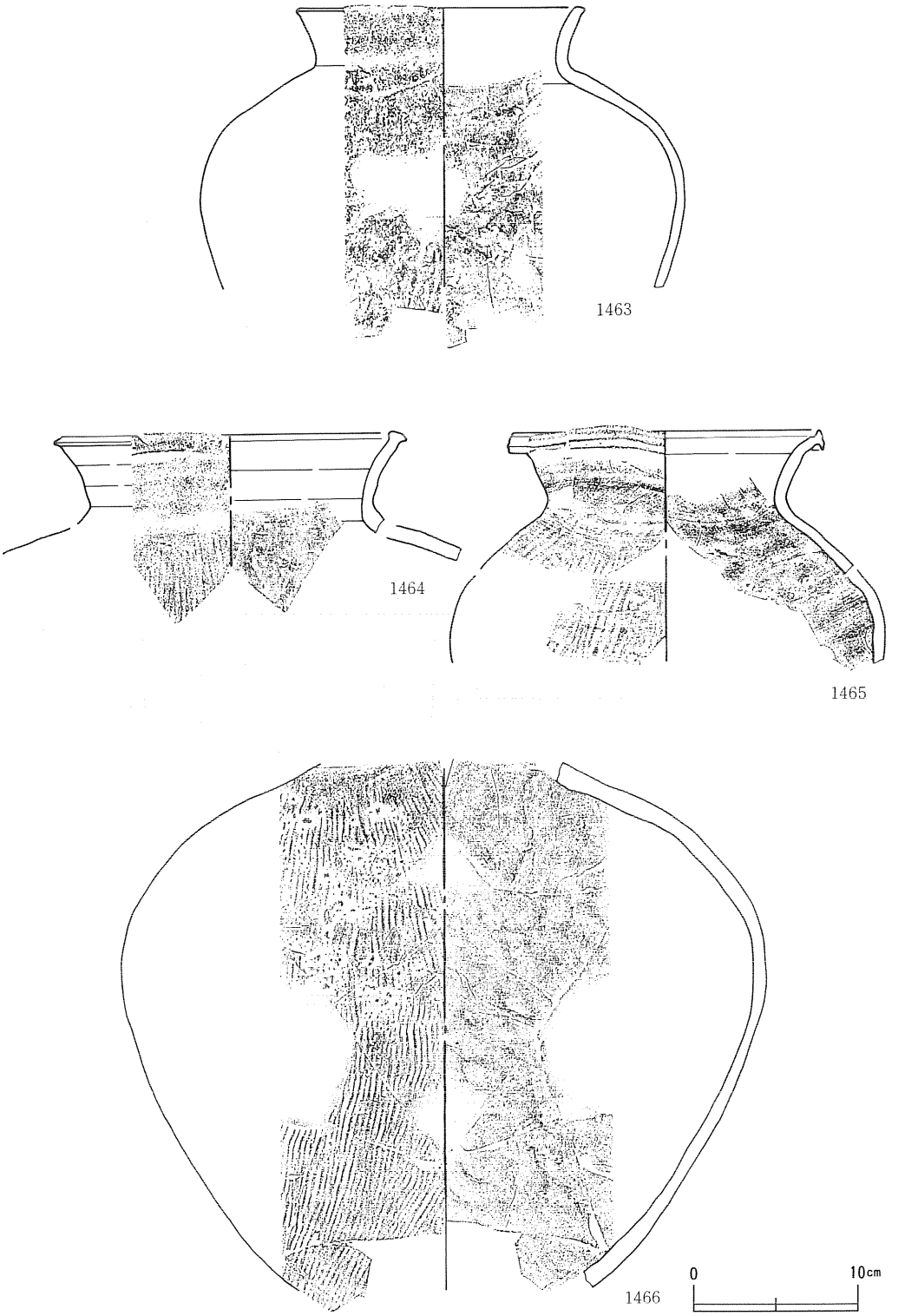
第129図　遺構内出土土器(60)　ＳＴ26



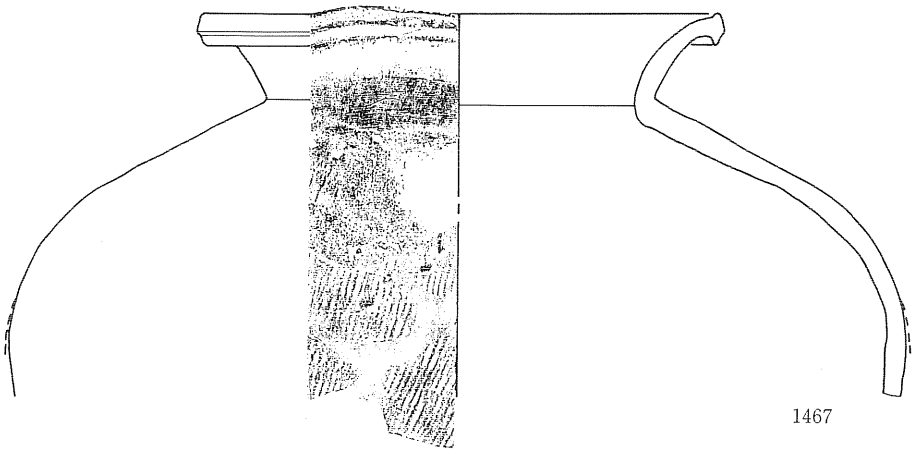
第130図　遺構内出土土器(61)　ＳＴ26・ＳＩ27

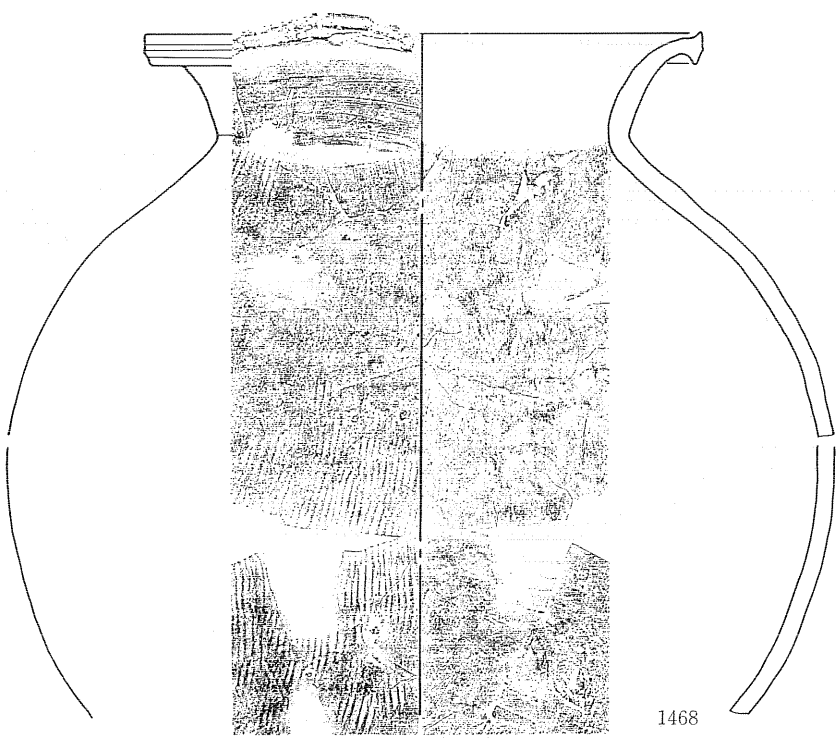


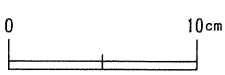
第131図　遺構内出土土器(62)　ＳＴ26



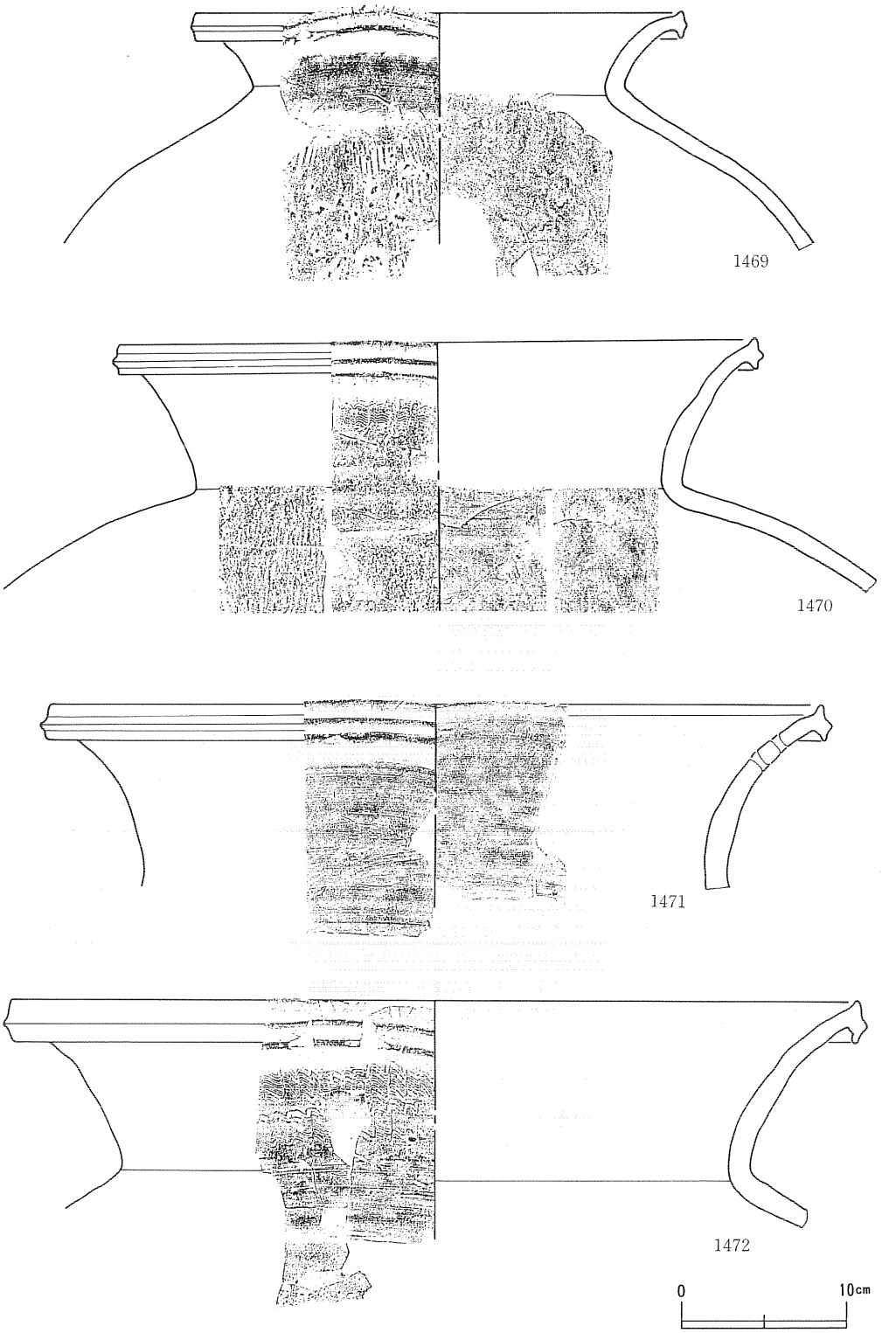
第132図　遺構内出土土器(63)　ＳＴ26







第133図　遺構内出土土器(64)　ＳＴ26



第134図　遺構内出土土器(65)　ＳＴ26

ＳＴ26からは、坏蓋・高台付坏・坏・壺・高坏・鉢・横瓶・甕(1415～1455・1460～1472)が出土している。

坏蓋(1415～1427)(第129図、第75表)

天井が低く平坦なもの(1415・1418～1425)、扁平なもの(1426・1427)がある。端部はどちらも水平から屈折して、直立もしくは内傾する。天井部の切り離しは回転糸切りのものが多い(1415・1423～1427)。

高台付坏(1428～1440・1443)(第129・130図、第75・76表、図版50-12、78-6)

高台は幅が太くやや外傾するもの(1429・1430)、狭く直立するもの(1428)、狭くやや外傾するもの(1439・1440)などがある。高台接地部は窪んで外側だけが接地する形態が多い。切り離しには回転糸切りの認められるものが多い(1428～1434・1437)。1443は大ぶりのもので、埦形になる可能性がある。

坏(1441・1442・1444・1448)(第130図、第76表、図版80-4)

口縁が内弯気味のもの(1441)、外反するもの(1442・1444)がある。切り離しは、回転糸切りのもの(1441・1444・1448)、回転篦切りのもの(1442)がある。

壺(1446・1449～1454)(第130図、第76表、図版58-9・10、84-8)

1449は短頸壺、1450～1454は長頸壺である。1450・1451・1453は成形時の三段構成資料である。

高坏(1447)(第130図、第76表)

盤状を呈するものであるが、剝落部分の大きさを見ると坏蓋などのつまみがはずれたものとは考え難い。したがって高坏脚下端部と考えられる。

鉢(1455・1461)(第130・131図、第76・77表)

1455は鉢と考えられる。1461は頸部がくの字状に緩く屈曲し、口唇部は浅く窪んでいる。

横瓶(1460)(第131図、第77表、図版59-7)

口唇部は窪み、肩部の傾斜が強い例である。全体に自然釉が掛かっている。

甕(1445・1462～1472)(第130～134図、第76・77表、図版65-4～6、70-4～8、66-1)

1445は口唇部が丸く仕上がり、縦・横に交差する篦書き沈線を口縁部にもつめずらしいものである。他には、中型と考えられるもの(1462・1466～1469)、大型と考えられるもの(1470～1472)がある。1463を除くすべての口唇部中央と内外には稜をもつ特徴がある。中央の稜は中型では低く、大型では強調されている。1471の口唇部直下には2つの穿孔をもつ。

２　竪穴住居跡

ＳＩ27(第135図、図版33)

ＳＩ27はＮＬ53区を中心とした緩斜面に位置し、西側半分は浅い覆土のためトレンチで削平された状態である。この住居跡は全面が深い削平を受け、覆土は10cm前後をとどめるのみで

ある。形態は残存する一辺が3.7mの四角形で、幅20～30cm深さ10cmの全周する周溝をもつ。西辺隅寄りのカマドは周溝の上に構築されている。このカマドの中軸線上で住居壁に当たる部分よりやや内側には、伏せて重ねた2点の須恵器坏(第130図、1456・1459)が支脚に転用されていた。また住居跡の底面は西側にかけて緩く傾斜している。遺物は須恵器坏2点のほかに、土師器の細片が数点出土している。

出土遺物

ＳＩ27のカマドからは1456と1459の坏が1456を上にして出土した。

坏(1456・1459)(第130図、第76・77表)

口縁はどちらもやや外反し、切り離しは篦切りである。1459の底面には墨書が認められる。

３　窯状遺構

ＳＮ22(第25図、図版34)

ＳＮ22はＮＣ53区を中心にした緩斜面に位置し、標高は57mである。規模は一辺が80～85cm、深さが約40cmで、隅丸方形状を呈している。底面はやや凹凸をもつがほぼ水平で、壁は僅に傾きしっかりしている。南側壁上端の中央には、25cm×15cmの半円形状のピットがある。ピットは深さが15cmあり、その底面と壁は僅に焼けている。この覆土の上位には灰白色の火山灰が約10cmの厚さで堆積していた。遺物は出土していない。

４　土坑

ＳＫ21(第136図、図版35-1)

ＳＫ21はＭＲ56杭を中心にした急斜面に位置し、標高は62.5mである。規模は長軸1.55m×短軸1.4m深さが25cmを測り、長軸方向がＳ－50°－Ｅを指す略円形を呈している。斜面上方で一旦斜面に沿った浅い窪みとなり、さらに摺鉢状に緩く弯曲している。底面付近には、甕の破片がややまとまって出土した。

ＳＫ23(第93図、図版36)

ＳＫ23はＭＱ54杭を中心に位置しており、標高は59.5mである。規模は長軸3.5m×短軸2.7m深さ約50cmを測り、長軸方向が東西方向を指す半月形を呈している。壁から底面にかけては摺鉢状に緩く弯曲するが、斜面上方の底面がやや高い。覆土の底面付近には灰白色の火山灰が約15cmの厚さで堆積し、底面には須恵器を主体にした破片がまとまって出土した。

出土遺物

ＳＫ23からは坏・甕(1458・1473)が出土している。

坏(1458)(第130図、第77表、図版80-7)

甕(1473)(第138図、第77表、図版66-2)

中型と考えられる甕である。口唇部は中央と内外に強い稜をもつ。

ＳＫ24(第136図、図版37)

ＳＫ24はＭＰ53区に位置し、標高は59ｍである。長軸1.75ｍ×短軸1.65ｍで、深さは約15cmである。形態は斜面下方の一辺が直線的になり、それを軸に半円形状を呈する不整形である。底面は斜面に沿った傾斜をもち、下方でやや窪む。覆土上位には灰白色の火山灰が薄く堆積し、底面には甕の破片が少量出土した。

出土遺物

ＳＫ24からは甕(1474)が出土している。

甕(1474)(第138図、第77表)

中型と考えられる甕である。口唇部は中央と内外に強い稜をもつ。

ＳＫ25(第136図、図版35-2)

ＳＫ25はＭＤ53区に位置し、標高は59.7ｍである。規模は長軸2.9ｍ×短軸55～85cm深さ25cmを測り、長軸方向がＮ－30°－Ｗを指す溝状を呈している。この長軸は等高線に沿い斜面上方と下方は50cm～1ｍの幅で浅く窪んでいた。しかし、周囲の窪みは直接関係ないので溝状の土坑にしてある。底面は横断面で緩く弯曲し長軸方向はほぼ水平である。覆土上位には灰白色の火山灰が約20cmの厚さで堆積している。遺物は出土していない。

5　遺構外出土土器

遺構外からは坏蓋・高台付坏・坏・壺(1475～1492)の土器が出土している。

坏蓋(1475～1480)(第139図、第77・78図、図版78-4)

天井が平坦なものだけである。ボタン状のつまみの付くもの(1476・1477)がある。1477と1478は同じ焼成状態であるが、内面が黒色処理されている。1476の切り離しは不明瞭な回転糸切りで1478には、つまみをつける時の渦が見える。これらは土師器と考えられる。

高台付坏(1490～1492)(第139図、第78表)

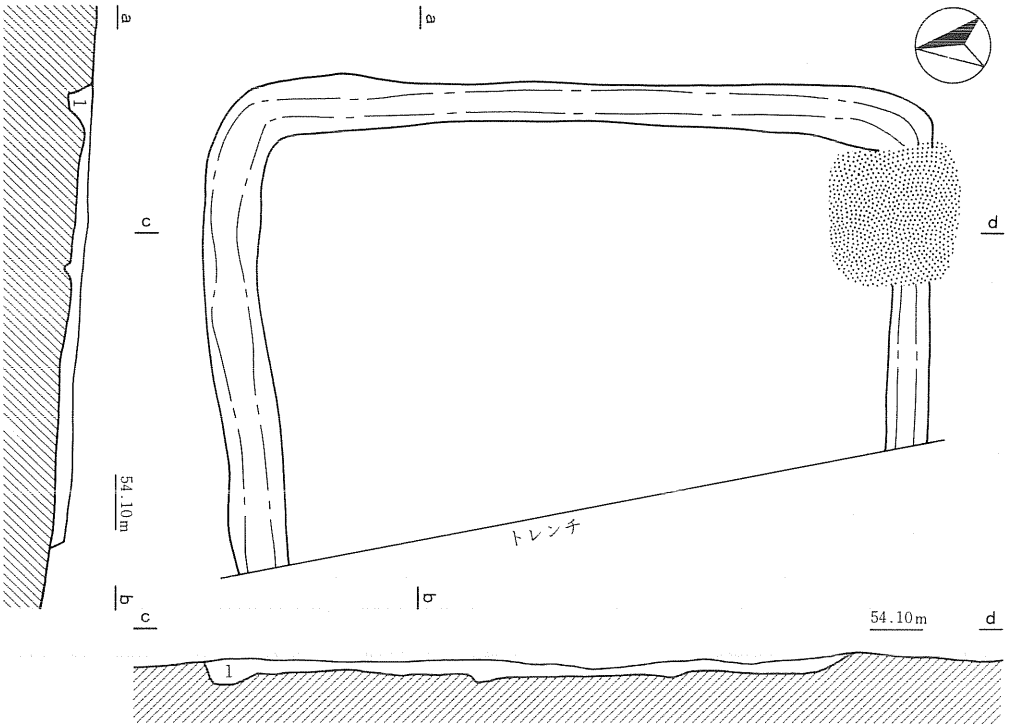
高台が短く角張るもの(1490)と長く外反するもの(1491・1492)がある。1491は内外に1492は内面に黒色処理した部分がある。これらは土師器と考えられる。

坏(1481～1488)(第139図、第78表)

1481の切り離しは篦切りで篦書きの「エ」が認められる。1482～1488の底面には回転糸切り痕が認められる。

壺(1480・1489)(第139図、第78表)

1480は成形時の三段構成で長頸壺と思われる。1489は壺の資料である。

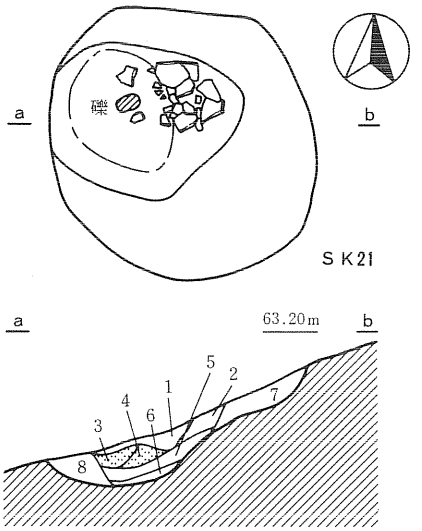


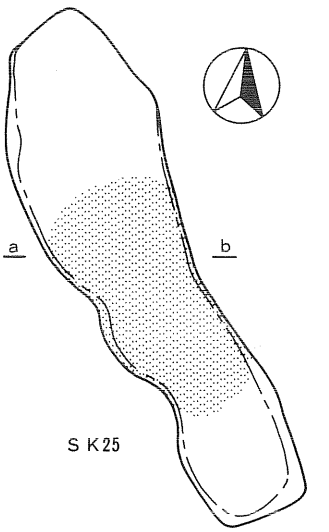
1　褐色土（7.5ＹＲ⁴⁄₄）　小礫・地山粒・炭化物粒少量。粘性・締まり普。

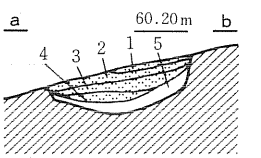
カマド

0　2 m

第135図　ＳＩ27平面図

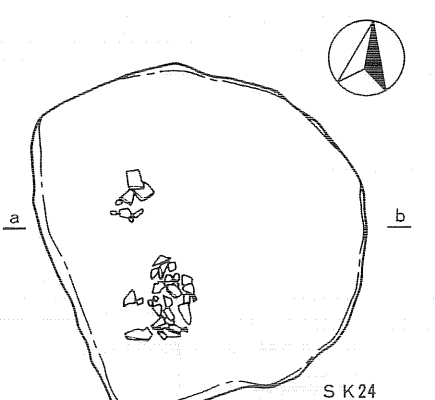




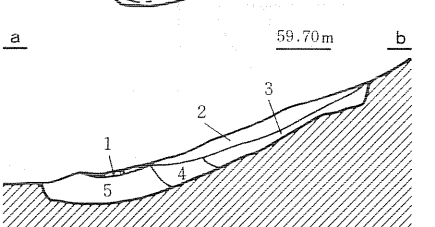


SK21
1　黒褐色土（10YR2/3）　粘性・締まり普。
2　暗褐色土（10YR3/4）　粘性普。締まり強。
3　黄褐色土（10YR5/6）　火山灰。粘性・締まり普。
4　明黄褐色土（2.5YR6/6）　火山灰。粘性弱。締まりややある。
5　黄褐色土（10YR5/6）　ブロック状に火山灰含む。粘性・締まり普。
6　黄橙色土（10YR7/8）　粘性・締まり強。
7　にぶい黄橙色土（10YR6/4）地山粒少量。粘性普。締まり強。
8　褐　色　土（10YR1/6）　粘性・締まり普。

SK25
1　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　火山灰。粘性弱。締まりややある。
2　にぶい黄橙色土（10YR6/4）　火山灰。粘性弱。締まりややある。
3　灰黄褐色土（10YR6/2）　火山灰。粘性弱。締まり普。
4　にぶい黄橙色土（10YR6/3）　火山灰。粘性弱。締まり普。

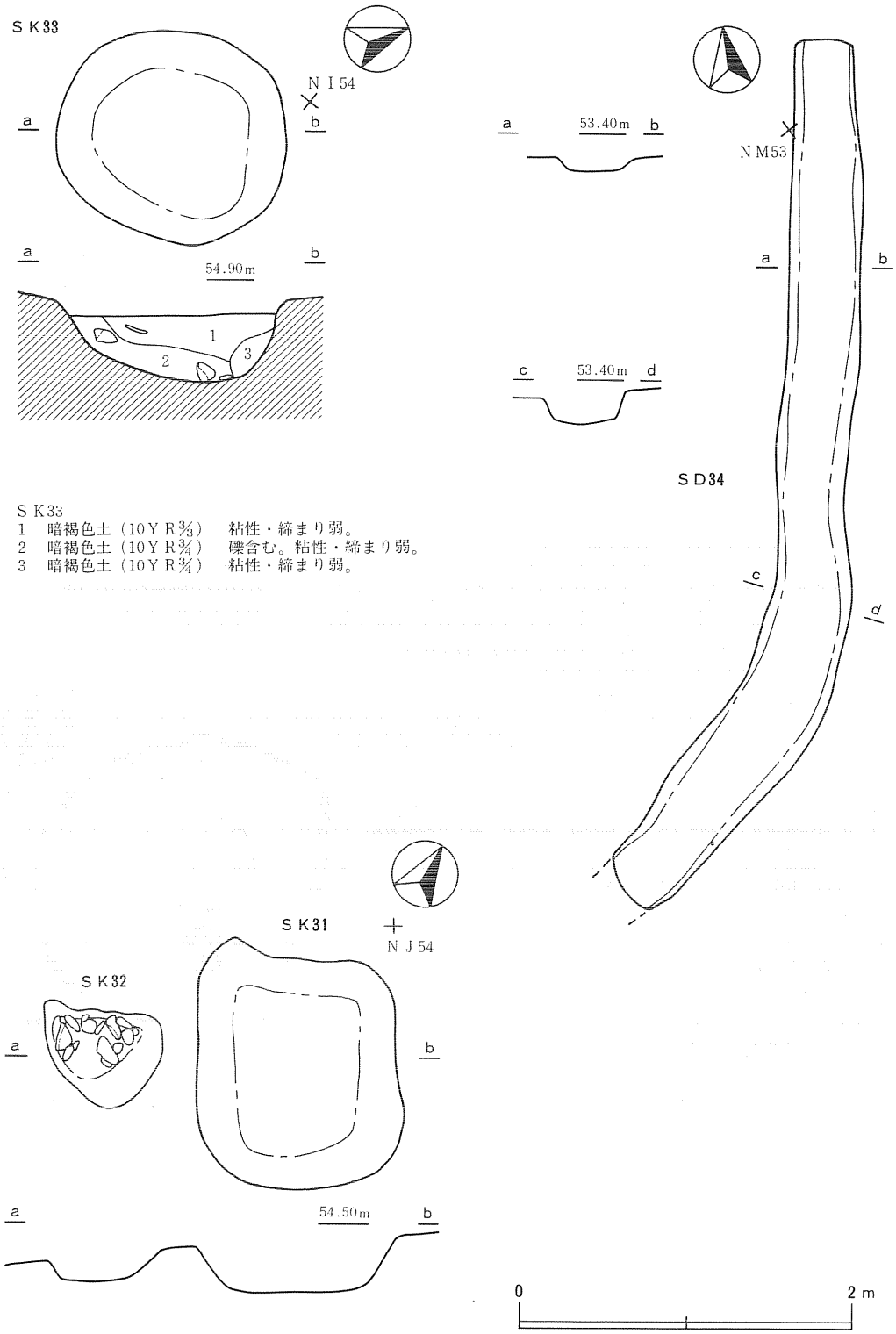


SK24
1　にぶい黄橙色土（10YR6/4）火山灰。粘性弱。締まり普。
2　黒褐色土（10YR2/3）　小石少量。粘性締まり普。
3　褐　色　土（7.5YR4/4）　焼土粒微量。粘性普。締まり強。
4　暗褐色土（10YR3/3）　砂・礫多量。粘性・締まり普。
5　暗褐色土（7.5YR3/4）　礫多量。粘性・締まり普。

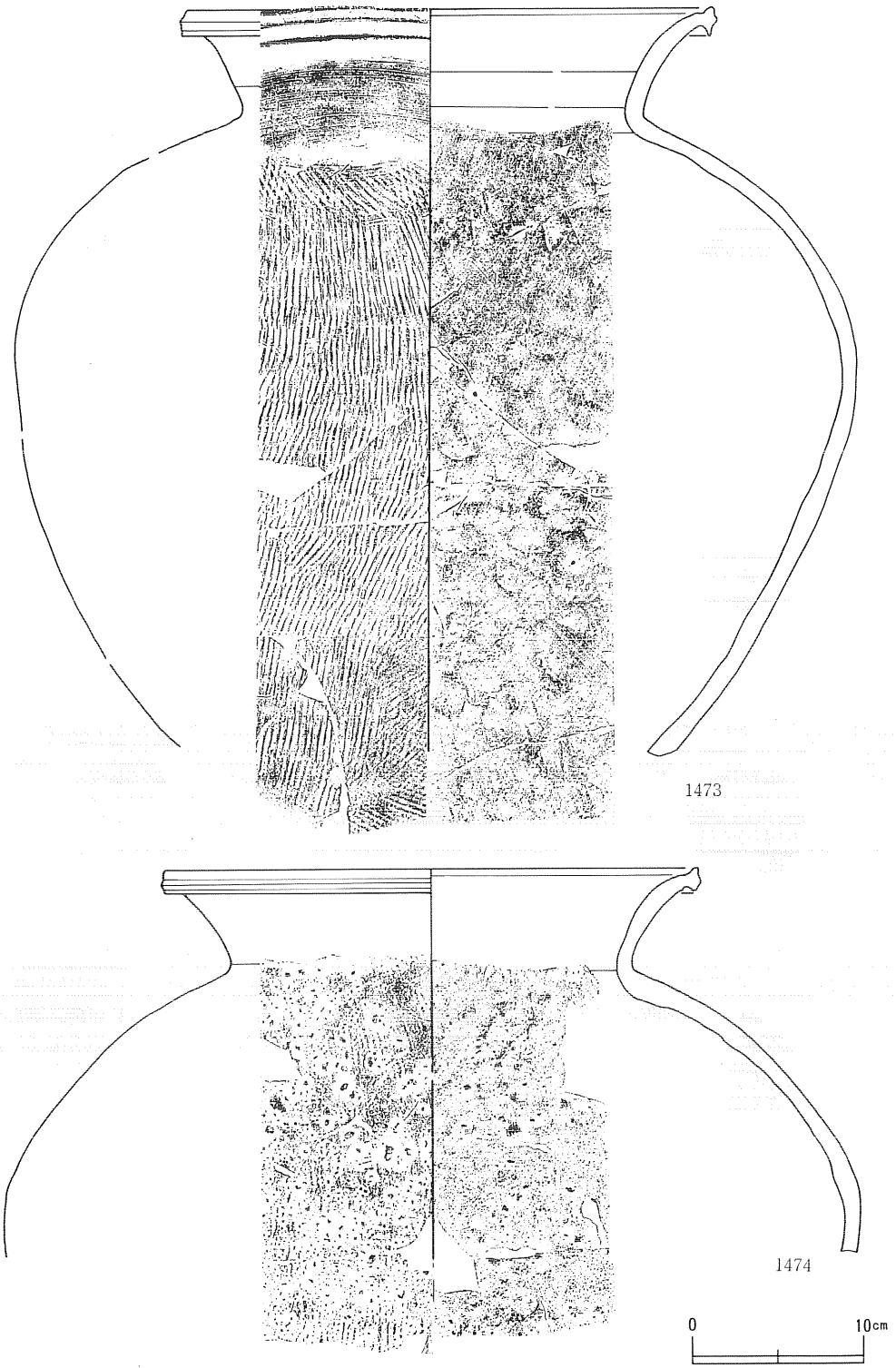


0　2 m

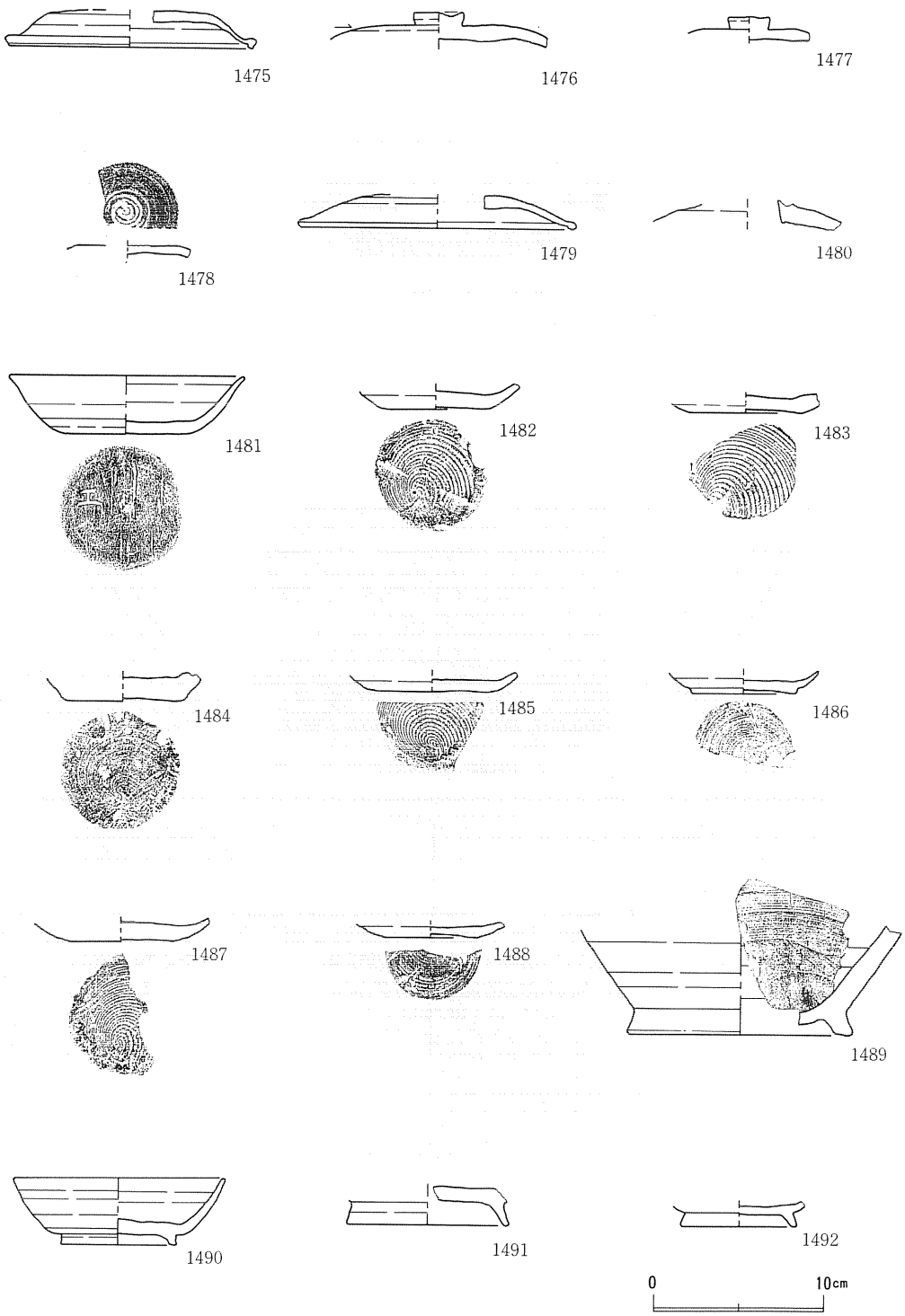
第136図　土坑平面図(2)



第137図　土坑平面図(3)およびＳＤ34



第138図　遺構内出土土器(66)　ＳＫ23･24



第139図　遺構外出土土器(30)

第2表　土器観察表(1)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
9−1 41−1	ＳＪ０１	坏蓋　高 2.7 口15.3　天 1.9	天井は低く平坦　体部は緩く傾く　端部は正三角形　つまみはボタン状	切離は篦切→撫	0.1前後の白色 砂粒顕著　堅緻	灰 〃
9−2	ＳＪ０１	坏蓋 (口15.7)　天 2.1	天井は低く平坦　体部は緩く膨む　端部は縁が突出し三角形状	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	褐灰 〃
9−3 41−2	ＳＪ０１	坏蓋　高 2.4 (口14.7)　天 1.7	天井は丸く低い　体部は緩く膨む　端部は縁が丸く盛上る　つまみはボタン状	切離は篦切？→篦削	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰白 〃
9−4 41−3	ＳＪ０１	坏蓋　高 2.2 口13.2　天 1.6	天井は低く平坦　体部は緩く傾く　端部は逆Ｓ字で立つ　つまみはボタン状	〃	〃 堅緻	灰褐 〃
9−5	ＳＪ０１	坏蓋 (口13.2)　天 1.6	天井は低く平坦　体部は緩く傾く　端部は逆Ｓ字で外に傾く	〃	〃 堅緻	〃 〃
9−6	ＳＪ０１	坏蓋　高(1.8)	天井は低く平坦　つまみはボタン状	〃	〃　堅緻	灰褐・同
9−7	ＳＪ０１	坏蓋 (口14.6)　天 2.1	天井は丸く低い　体部は緩く傾く　端部は僅に逆Ｓ字で短く立つ	〃	0.1前後の砂粒 微量　良好	灰白 〃
9−8	ＳＪ０１	坏蓋 (口13.9)　天 2.2	天井は低く平坦　体部は緩く膨む　端部は逆Ｓ字で屈折部がやや盛上る	〃	0.1以下の砂粒 微量　良好	〃 〃
9−9	ＳＪ０１	坏蓋　高 3.6 (口13.1)　天 2.7	天井は高く平坦　体部は緩く反る　端部は逆Ｓ字で内傾　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1〜0.2の砂粒 微量　堅緻	オリーフ゛灰 〃
9−10	ＳＪ０１	坏蓋　高 (1.6)	天井は丸い　つまみはボタン状	〃	細砂微量　良好	灰白・同
9−11	ＳＪ０１	坏蓋　高(1.8)	〃	〃	細砂顕著　堅緻	灰・灰オリーフ゛
9−12	ＳＪ０１	坏蓋　高(1.2)	天井は平坦　つまみはボタン状	〃	細砂少量　堅緻	灰・同
9−13	ＳＪ０１	坏蓋　高(1.2)	天井は平坦で広い	切離は糸切→篦削	細砂微量　堅緻	灰白・同
9−14	ＳＪ０１	高台付坏　高(2.5) (底 8.0)	底部はやや丸い　高台は方形状で外に張る	切離は篦切？→撫 体下端篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
9−15	ＳＪ０１	高台付坏　高(3.1)	体部は緩く膨む　底部は平坦　高台は方形状で立つ　接地部は凹む	切離は篦切	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	灰褐 〃
9−16	ＳＪ０１	高台付坏　高(2.0) (底 7.4)	体部は緩く膨む　底部はやや丸味有り高台は方形状で外に張る	〃	〃 堅緻	〃 〃
9−17 78−5	ＳＪ０１	高台付坏　高(1.7) (底 7.7)	底部は平坦　高台は方形状で外に張る接地部は凹む	〃	〃 堅緻	〃 〃
9−18	ＳＪ０１	高台付坏　高(1.7) 底 8.3	底部はやや丸み有り　高台は方形状でやや外に張る　接地部は僅に凹む	〃	〃 堅緻	灰 〃
9−19	ＳＪ０１	高台付坏　高(1.4) 底 7.4	高台は方形状でやや外傾　接地部は僅に凹む	〃	〃 堅緻	灰白 灰

第3表　土器観察表(2)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
9−20 51−1 79−5・6	ＳＪ０１	坏　高 3.2 口13.8　底 8.0	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　底部は中央で高く端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭　内に筋痕	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
9−21	ＳＪ０１	坏　高 2.9 (口14.3)　(底 8.5)	〃	切離は篦切→撫 内にコテ痕有	〃 堅緻	〃 〃
9−22	ＳＪ０１	坏　高 3.1 (口14.0)　(底 9.2)	口縁は内弯　体部は直線的　底部は緩く傾斜し端は丸い	切離は篦切→撫 内に平行な筋痕	〃 堅緻	〃 〃
9−23	ＳＪ０１	坏　高 3.2 (口13.1)　(底 8.2)	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　底部は中央でやや高く端は丸い	〃	〃 良好	灰白 〃
9−24	ＳＪ０１	坏　高 3.0 (口13.4)　(底 9.0)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部はほぼ平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 内にコテ痕有	〃 堅緻	灰 〃
9−25	ＳＪ０１	坏　高 3.1 (口13.7)　(底 8.5)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は中央で高く端は丸い	切離は篦切→撫 内に平行な筋痕	〃 堅緻	灰白 〃
9−26	ＳＪ０１	坏　高 2.9 (口14.2)　(底 8.8)	口縁体部とも直線的　底部は平坦で端は丸い	〃	〃 堅緻	灰 〃
9−27	ＳＪ０１	坏　高 3.1 (口13.3)　(底 8.0)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は中央で高く端は丸い	切離は篦切→撫 内に平行な筋痕	〃 堅緻	明オリーブ灰 オリーブ灰
10−28	ＳＪ０１	坏　高 2.9 (口12.5)　底 7.6	口縁は直線　体部は緩く膨む　底部は中央でやや高く端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	〃 堅緻	灰白 〃
10−29	ＳＪ０１	坏　高 3.1 (口13.6)　(底 9.0)	口縁は内反気味　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	〃 不良	〃 〃
10−30	ＳＪ０１	坏　高 3.0 (口13.5)　(底 7.7)	〃	〃	〃 良好	灰黄褐 〃
10−31	ＳＪ０１	坏　高 3.2 (口12.9)　(底 8.0)	〃	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃
10−32	ＳＪ０１	坏　高 3.1 (口12.5)　(底 7.0)	口縁は内弯　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　不良	〃 〃
10−33	ＳＪ０１	坏　高 3.2 (口12.2)　(底 7.1)	口縁は内弯　体部は緩く膨む　底部は中央部が盛上り端は張る	切離は篦切→撫 体下端篦削り	0.1前後の砂粒 微量　良好	にぶい黄褐 〃
10−34	ＳＪ０１	坏　高 3.1 (口13.2)　(底 9.3)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 灰
10−35	ＳＪ０１	坏　高 3.0 (口13.6)　(底 8.8)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は中央側がやや盛上る	切離は篦切→撫	〃 良好	灰白 〃

第4表　土器観察表(3)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
10−36	SJ01	坏　高 3.1 (口13.0)　(底 8.5)	口縁は直線的　体部も直線的　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰白 〃
10−37	SJ01	坏　高 2.9 (口12.1)　(底 8.2)	口縁は外反気味　体部は直線的　底部はやや丸味をもつ	〃	〃 堅緻	にぶい黄 灰黄
10−38	SJ01	坏　高 2.9 (口12.9)　(底 7.2)	口縁は外反気味　体部は直線的　底部の端は僅に凹む	切離は篦切→撫	0.1の砂粒少量 堅緻	灰白 〃
10−39	SJ01	坏　高 3.1 (口13.1)　(底 8.5)	口縁は内弯気味　体部は直線的　底部は端で丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	緑灰 明褐灰
10−40	SJ01	坏　高 2.8 (口13.7)　(底 7.4)	口縁はやや外反　体部は緩く膨み大きく開く　底部は台状で端は盛上る	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 灰白
10−41 51−2	SJ01	坏　高 3.0 (口12.9)　(底 8.3)	口縁は外反気味　体部は直線的　底部はほぼ平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	緑灰 〃
10−42	SJ01	坏　高 2.5 (口13.0)　(底 8.3)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部はほぼ平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰白 灰
10−43	SJ01	坏　高 3.0 (口12.8)　(底 8.3)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は中央がやや高く端は丸い	〃	0.1前後の砂粒 微量　堅緻	〃 灰白
10−44	SJ01	坏　高 3.1 (口12.7)　(底 8.0)	〃	〃	0.1以下の細砂 顕著　良好	〃 〃
10−45	SJ01	坏　高 2.8 (口13.2)　(底 8.5)	口縁は外反気味　体部は緩く膨む　底部は中央でやや高く端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 多量　良好	〃 明オリーブ灰
10−46	SJ01	坏　高 2.8 (口13.3)　(底 8.5)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は中央で直端に高く端は丸い	〃	0.1前後の砂粒 微量　良好	灰白 〃
10−47	SJ01	坏　高 3.0 (口12.9)　(底 8.2)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	〃	0.1以下の細砂 少量　堅緻	オリーブ灰 〃
10−48	SJ01	坏　高 3.2 (口12.5)　(底 7.6)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	0.1の砂粒微量 堅緻	灰白 〃
10−49	SJ01	坏　高 3.0 (口12.9)　(底 7.7)	口縁は強く外反　体部は緩く膨む　底部は平坦	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	緑灰 〃
10−50	SJ01	坏　高 2.8 (口12.6)　(底 8.2)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は中央がやや高く端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 オリーブ灰
10−51	SJ01	坏　高 3.4 (口12.5)　(底 6.4)	口縁は外反　体部は直線的　底部は平端で端が凹む	切離は篦切→撫	〃 堅緻	黒褐 灰

第5表　土器観察表(4)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
10−52	ＳＪ０１	坏　高 3.2 (口13.0)　(底 7.2)	口縁は外反　体部は膨む　底部は平坦	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰白 〃
10−53	ＳＪ０１	坏　高 3.2 (口12.0)　(底 6.8)	体部から口縁にかけて外反　体部下位は緩む　底部は平坦で端は僅に凹む	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	オリーブ灰 〃
10−54	ＳＪ０１	坏　高 3.2 (口12.8)　(底 7.7)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 底円盤状	0.1〜0.2の砂粒 顕著　良好	灰白 〃
10−55	ＳＪ０１	坏　高 3.0 (口12.2)　(底 7.4)	口縁は内弯気味　体部は直線的　底部は平坦で端は丸い	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	オリーブ灰 灰
10−56	ＳＪ０１	坏　高 3.4 (口11.7)　(底 6.4)	口縁は内弯　体部は緩く膨む	切離は篦切→撫 体部下端篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰褐 暗緑灰
10−57	ＳＪ０１	坏　高 3.7 (口13.2)　(底 8.5)	体部から口縁にかけて直線的　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 微量　不良	灰白 〃
10−58	ＳＪ０１	坏　高 3.3 (口10.7)　(底 7.2)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は平坦でやや厚く端は丸い	切離は篦切 渦明瞭	〃 堅緻	褐灰 〃
11−59	ＳＪ０１	坏　高 3.9 (口13.0)　(底 7.8)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は平坦で端は角張る	切離は篦切→撫→ 体部最下端削	細砂顕著 不良	にぶい黄橙 浅黄
11−60	ＳＪ０１	坏　高 3.4 (口12.3)　(底 6.1)	口縁は外反気味　体部は直線的　底部は平坦で端は角張る	切離は篦切→撫 体部下端篦削	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰白 灰
11−61	ＳＪ０１	坏　高 3.9 (口13.8)　(底 7.2)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は中央で厚く端は角張る	切離は篦切→撫 体部下端篦削	0.1以下の砂粒 顕著　不良	灰白 灰
11−62	ＳＪ０１	坏　高 3.3 (口13.1)　(底 7.7)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部はほぼ平坦で端は角張る	切離は篦切→撫 体部下端篦削	0.1前後の砂粒 顕著　不良	オリーブ灰 〃
11−63	ＳＪ０１	坏　高 3.2 (口12.4)　底 5.3	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は中央がやや高く端は角張る	体部下端篦削→糸切	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰白 〃
11−64	ＳＪ０１	坏　高 3.5 (口12.4)　(底 5.4)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は中央が高く端は角張る	〃	0.1の砂粒微量 堅緻	灰 〃
11−65	ＳＪ０１	坏　高(3.3) (底 5.8)	体部は大きく膨む　底部中央はやや高く端は角張る	体部下端篦削→糸切	〃 不良	灰白 〃
11−66	ＳＪ０１	坏　底 5.8	底部は中央がやや高く端で角張る	体下端篦削→糸切	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	暗灰・灰
11−67	ＳＪ０１	坏　(底 5.9)	〃	〃	0.1以下の砂粒 微量　不良	灰白・同
11−68	ＳＪ０１	坏　底 5.5	〃	〃	〃　不良	〃
11−69	ＳＪ０１	坏　底 5.8	〃	〃	〃　堅緻	黄灰・同
11−70	ＳＪ０１	坏　底 5.5	〃	〃	〃　良好	淡黄・同

第6表　土器観察表(5)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
11−71	SJ01	坏　底 6.1	底部は中央がやや高く端で角張る	体下端篦削→糸切	0.1以下の砂粒微量　不良	灰白・同
11−72	SJ01	坏　底 6.2	〃	〃	0.1前後の砂粒微量　良好	灰白・同
11−73	SJ01	坏　底 5.5	〃	〃	0.1以下の砂粒微量　堅緻	灰・同
11−74	SJ01	坏　底 5.5	〃	〃	〃　良好	灰白・同
11−75	SJ01	坏　高(2.5) 底 5.7	体部は大きく膨む　底部は中央がやや高く端で角張る	〃	〃 良好	灰白 〃
11−76	SJ01	坏　(底 6.0)	〃	〃	〃　良好	灰白
11−77	SJ01	坏　底 5.0	底部は中央がやや高く端で角張る	切離は糸切	0.1以下の砂粒微量　堅緻	オリーブ灰・同
11−78	SJ01	坏　底 5.1	〃	〃	〃　堅緻	灰黄・灰白
11−79	SJ01	坏　底 6.0	〃	〃	〃　不良	灰白・同
11−80	SJ01	坏　底 5.2	〃	〃	〃　良好	灰黄・オリーブ灰
12−81	SJ01	坏　(底 6.0)	〃	〃	細砂少量　良好	灰白・浅黄
12−82	SJ01	坏　底 6.3	〃	〃	〃　堅緻	暗灰黄・同
12−83	SJ01	坏　底 5.7	〃	〃	0.1以下の砂粒微量　堅緻	にぶい褐・同
12−84	SJ01	坏　底 5.8	〃	〃	〃　良好	灰白・同
12−85	SJ01	坏　底 5.5	底部は平坦で端は角張る	〃	〃　良好	淡黄・同
12−86	SJ01	坏　底 5.4	底部は中央がやや高く端は角張る	〃	〃　良好	灰白・淡黄
12−87	SJ01	坏　底 5.0	〃	〃	〃　良好	灰黄褐・灰オリーブ
12−88	SJ01	坏　底 5.3	〃	〃	〃　堅緻	オリーブ灰・同
12−89	SJ01	坏　底 6.3	底部は中央がやや高く端はやや丸い	〃	0.1の砂粒微量　良好	灰白・灰オリーブ
12−90	SJ01	坏　(底 5.5)	底部は中央がやや高く端は角張る	〃	0.1以下の砂粒微量	淡黄・灰白
12−91	SJ01	坏　(底 6.0)	〃	切離は2回の糸切	〃　良好	暗灰黄・灰オリーブ
12−92	SJ01	坏　(底 5.7)	〃	切離は糸切	〃　堅緻	灰・同
12−93	SJ01	坏　(底 5.6)	〃	〃	〃　良好	灰黄・浅黄
12−94	SJ01	坏　(底 5.7)	体部は大きく膨む　底部は中央がやや高く端は角張る	〃	〃 堅緻	黄灰 灰白
12−95	SJ01	坏　高(1.5) (底 6.5)	体部は膨む　底部は平坦で厚く端は角張る	体部下端篦削→切離は篦切→撫	0.1の砂粒微量 良好	浅黄 〃
12−96	SJ01	坏　底 6.3	体部は膨む　底部はほぼ平坦で端は丸くなる	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰褐 青灰
12−97	SJ01	坏　底 7.0	底部は平坦で中央が高く端は凹む	切離は篦切	0.1以下の砂粒微量　堅緻	灰・同
12−98	SJ01	坏　底 7.2	底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	〃　堅緻	オリーブ灰・同
12−99	SJ01	坏　底 6.6	底部はやや丸い	〃	0.1の砂粒顕著　不良	淡黄・同

第7表　土器観察表(6)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
12−100	ＳＪ０１	坏　高(2.3) (底 8.0)	体部は緩く膨む　底部は平坦で中央と端は厚い　端部は角張る	切離は篦切→撫	0.1の砂粒微量 不良	灰白 〃
12−101	ＳＪ０１	坏　高(1.2) 底 8.4	体部は緩く膨む　底部はやや丸くなり端はやや角張ってから凹む	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.1以下の砂粒 微量　良好	にぶい黄褐 橙
12−102	ＳＪ０１	坏　高(1.5) 底 7.3	底部はほぼ平坦で中央が厚い　端部は角張ってから凹む	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.1以下の砂粒 少量　不良	淡黄 〃
12−103	ＳＪ０１	坏　高(1.7) 底 6.1	体部は緩く膨む　底部はやや丸く端も丸い	〃	〃 良好	にぶい黄橙 〃
12−104	ＳＪ０１	坏　高(0.9) 底 7.5	底部はほぼ平坦で中央が厚い　端部は丸い	〃	0.1前後の砂粒 顕著　不良	灰白 〃
12−105	ＳＪ０１	坏　高(1.1) 底 7.6	底部は厚くほぼ平坦　端部は丸い	〃	0.1以下の砂粒 微量　不良	淡黄 〃
12−106	ＳＪ０１	双耳　高(1.8)	耳部が口唇直下に取り付く　外側に30°前後の傾きをもつ	耳部は全面篦削	〃 良好	灰白 〃
12−107	ＳＪ０１	〃　高(2.6)	〃	〃	〃　良好	灰・同
13−108 59−1	ＳＪ０１	横瓶　高(20.3) (頸7.0)(横30.7)	俵形の膨みをもつ	外は平行叩→掻目 内は円文叩→一部掻目	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰黄褐 灰褐
13−109	ＳＪ０１	甕　高(4.5)	頸部は緩いくの字　体上位は緩く張る	外は平行叩　内はやや弧状の叩	0.1前後の砂粒 微量　堅緻	灰 〃
13−110	ＳＪ０１	甕　高(7.7)	頸部は直立気味　体上位は狭くなだらか　胴部中央が最大？	外は撫　内は鋸歯状の叩？	〃 堅緻	オリーブ黒 灰
13−111	ＳＪ０１	長頸壺　高(1.8)	肩が張る	つくりは３段構成	〃	灰オリーブ・灰
13−112	ＳＪ０１	短頸壺　高(14.7) (底10.8)	肩部は丸味をもって強く張る　全体胴は筒形に近い	外は篦削　肩は撫 内は撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 〃
13−113	ＳＪ０１	壺?　高(2.0) 底10.4	高台は四角形で外に張る　接地部は緩く凹む	切離は篦切り？内は撫	〃	灰 〃
13−114	ＳＪ０１	壺?　高(9.3) (底11.3)	肩部に最大径をもつ？　高台は四角形で外に張る	外は削・撫　内は撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
13−115	ＳＪ０１	甕　高(3.9) 底 6.9	体部は大きく膨む　底部は中央がやや高く端は角張る	胴下端篦削→切離は糸切	0.1前後の砂粒 顕多量　良好	〃 〃
13−116	ＳＪ０１	鉢　高(8.0) (口36.4)	口縁は大きく段をつくって直立する体部は緩く内弯して傾斜する	外は口縁横撫→篦削　内は撫	〃 不良	灰白 〃

第8表　土器観察表(7)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
14－117	ＳＪ０１	甕　高(5.8) (口24.9)　(頸18.6)	口唇はやや丸く内に稜をもつ　頸部はくの字で肩は緩く張る	外は平行叩→撫 内も叩→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
14－118 67－1	ＳＪ０１	甕　高(12.5) (口14.7)　(頸13.0)	口唇は傾きやや丸く内に稜をもつ　頸部はくの字で体部は丸く膨む	外は体上位で撫→下位で削　内は撫	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
14－119	ＳＪ０１	甕　高(7.1) (口15.8)　(頸13.8)	口唇は傾きやや丸く内外に稜をもつ　頸部はくの字で体部は丸く膨む	外は平行叩・撫 内は円文状の叩	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
14－120 67－2	ＳＪ０１	甕　高(7.8) (口24.8)　(頸21.2)	口唇は平坦で内外に稜をもつ　頸部はくの字で肩は強く張る	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1～0.2の砂粒 微量　堅緻	黄灰 灰
14－121	ＳＪ０１	甕　高(9.6) (口19.4)　(頸18.7)	口唇は傾きやや丸く内外に稜をもつ　頸部はくの字で体部は丸く膨む	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
14－122 60－1	ＳＪ０１	甕　高(17.1) (口20.1)　(頸17.0)	傾く口唇は中央が僅に凹み内外に稜をもつ　頸部はくの字で体部は丸く膨む	外は撫→平行叩 内は撫→叩	0.1～0.2の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
14－123 67－3	ＳＪ０１	甕　高(8.1) (口18.6)　(頸17.1)	傾く口唇は中央が僅に凹み内外に稜をもつ　頸部はくの字で肩は強く張る	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
14－124 67－4	ＳＪ０１	甕　高(8.1) (口19.0)　(頸16.2)	〃	〃	〃 堅緻	〃 〃
14－125 67－5	ＳＪ０１	甕　高(6.7) (口19.6)　(頸16.4)	口唇は直立し外に強い稜をもつ　肩は強く張り非常に薄い	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	〃 〃
18－126	ＳＫ０２	坏蓋　高(2.6)	天井は丸い　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰・青灰
18－127 41－4	ＳＫ０２	坏蓋　高 3.9 口17.0　天 3.1	天井は高く平坦　体部は緩く傾く　端部は逆Ｓ字で垂直　つまみはボタン状	〃	0.1～0.2の砂粒 微量　堅緻	明オリーブ灰 〃
18－128 41－5	ＳＫ０２	坏蓋　高 2.8 口13.7　天 2.1	天井は丸くやや低い　体部は緩く反る　端部は逆Ｓ字外傾　つまみはボタン状	〃	0.1前後の砂粒 微量　堅緻	灰白 〃
18－129	ＳＫ０２	坏　高 3.4 口13.5　天 8.0	口縁は内反　体部は緩く膨む　底部はほぼ平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 底円盤状	0.1の砂粒顕著 良好	〃 〃
18－130	ＳＫ０２	坏　高 3.3 (口14.1)　(底 8.8)	口縁は内反気味　体部は緩く膨む　底部の端は丸い	〃	〃 良好	〃 〃
18－131	ＳＫ０２	坏　高 3.2 (口13.4)　底 8.6	口縁は内反気味　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	〃	0.1～0.2の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18－132	ＳＫ０２	坏　高 3.3 口13.5　底 8.9	口縁は内反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 底円盤状　平行筋	〃 良好	〃 〃
18－133	ＳＫ０２	坏　高 3.4 口14.5　底 9.0	〃	〃	0.1～0.4の砂粒 顕著　良好	灰オリーブ 灰

第9表　土器観察表(8)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
18−134	SK02	坏　高 3.3 口13.7	口縁は内反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 内に平行な筋痕	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 〃
18−135 51−3	SK02	坏　高 3.4 口13.7　底 8.5	〃	切離は篦切→撫 底円盤状　平行筋	0.1〜0.2の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18−136	SK02	坏　高 3.5 (口13.5)　(底 8.3)	〃	切離は篦切→撫 内に平行な筋痕	0.1前後の砂粒 顕著　良好	オリーブ灰 明オリーブ灰
18−137	SK02	坏　高 3.3 口13.9　底 8.5	〃	切離は篦切→撫 底円盤状　平行筋	0.2の砂粒微量 良好	灰白 〃
18−138	SK02	坏　高 3.1 (口13.0)　(底 8.9)	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18−139	SK02	坏　高 3.4 口13.8　底 8.0	〃	切離は篦切→撫 内に平行な筋痕	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18−140	SK02	坏　高 3.5 口13.6　底 8.8	口縁は内弯　体部は緩く膨む　底部は中央が高くなり端は丸い	切離は篦切→撫 底円盤状　平行筋	〃 良好	〃 〃
18−141	SK02	坏　高 3.2 (口14.0)　底 9.2	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	〃	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18−142	SK02	坏　高 3.4 (口13.9)　(底 8.8)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	0.1の砂粒顕著 良好	〃 〃
18−143	SK02	坏　高 3.6 (口12.0)　底 6.4	口縁は直線的　体部は大きく膨む　底部は厚く平坦で端は角張る	切離は篦切→撫 内に平行な段	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18−144 51−4 79−7	SK02	坏　高 3.8 口13.1　底 7.4	〃	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.1〜0.2の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18−145 51−5	SK02	坏　高 3.6 口13.1　底 6.6	〃	切離は篦切→撫 底はやや突出	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18−146	SK02	坏　高 3.5 口13.0　底 7.0	口縁は直線的　体部は大きく膨む　底部は厚く平坦で端は角張る	切離は篦切→撫 底は円盤状	〃 良好	〃 〃
18−147	SK02	坏　高 3.6 口14.1　底 7.1	口縁はやや外反　体部は大きく膨む　底部は厚く平坦で端は角張る	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　不良	〃 〃
18−148	SK02	坏　高 3.2 口11.9　底 7.0	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部はやや厚く平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.3〜0.5の小石 微量　良好	灰オリーブ 〃
18−149	SK02	坏　高 3.6 口12.9　底 7.4	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は厚く平坦で端は緩く角張る	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.1〜0.2の砂粒 顕著　良好	灰白 〃

第10表　土器観察表(９)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
18－150	ＳＫ０２	坏　高 3.2 口12.8　底 7.5	口縁は直線的　体部もやや直線的　底部は中央が厚く平坦	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.1～0.2の砂粒 顕著　良好	灰白 〃
18－151	ＳＫ０２	坏　高 3.6 口12.5　底 7.2	口縁は直線的　体部もやや直線的　底部は平坦で端はやや丸くなる	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18－152 51－6 79－8	ＳＫ０２	坏　高 3.1 口12.1　底 7.3	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は厚く平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 底は円盤状	〃 良好	〃 〃
18－153 51－7 80－1	ＳＫ０２	坏　高 3.2 口12.3　底 7.5	口縁は直線的　体部は中央やや下で緩く屈折　底部は平坦で端はやや凹む	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.2～0.3の小石 微量　良好	〃 〃
18－154	ＳＫ０２	坏　高 3.4 口13.0　底 6.9	口縁は外反し直線的　体部は大きく膨む　底部は平坦で端は角張る	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃
18－155	ＳＫ０２	坏　高 3.2 口12.9　底 7.4	口縁は直線的　体部は大きく膨む　底部はほぼ平坦で端は角張る	〃	〃 良好	〃 〃
18－156	ＳＫ０２	坏　高 3.0 口12.9　底 8.2	口縁は外反しやや内弯気味　体部は大きく膨む　底部は厚く平坦で端は凹む	〃	〃 良好	〃 〃
19－157	ＳＫ０２	坏　高 3.4 口12.2　底 7.2	口縁は直線的　体部も直線的　底部は中央が厚く端は屈曲	〃	〃 良好	〃 〃
19－158	ＳＫ０２	坏　高 3.1 口12.2　底 7.2	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は中央が厚く端は屈曲	〃	〃 良好	〃 〃
19－159	ＳＫ０２	坏　高 3.1 口12.5　底 7.4	口縁はやや外反　体部は直線的　底部はほぼ平坦で端は丸い	〃	〃 良好	〃 灰オリーブ
19－160	ＳＫ０２	坏　高 3.2 口12.9　底 5.3	口縁はやや外反　体部は大きく膨む　底部は厚く平坦で端は角張る	切離は篦切→撫 底は円盤状？	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰白 〃
19－161 80－8	ＳＫ０２	坏　高 2.9 口12.9　底 7.0	口縁は大きく外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃
19－162	ＳＫ０２	坏　高 3.0 口13.6　底 7.5	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は中央が高く端は屈曲	〃	0.2～0.7の砂粒 小石微量　良好	〃 〃
19－163	ＳＫ０２	坏　高 3.1 口13.1　底 7.3	口縁は大きく外反　体部は大きく膨む　底部は厚くほぼ平坦で端は丸い	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃
19－164	ＳＫ０２	坏　高 3.0 口13.5　底 8.8	口縁はやや外反　体部は大きく膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 底は円盤状？	〃 良好	〃 〃
19－165 51－8	ＳＫ０２	坏　高 3.4 口13.0　底 7.5	口縁は大きく外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃

第11表　土器観察表(10)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
19－166	ＳＫ０２	坏　高 3.0 口13.4　底 6.3	口縁は外反　体部は大きく膨む　底部は中央がやや高く端は丸い	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰白 〃
19－167	ＳＫ０２	坏　高 3.8 口13.9　底 7.1	口縁は屈折し僅に内弯気味　体部は直線的　底部はほぼ平坦で端は屈曲	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.1以下の砂粒 顕著　不良	〃 〃
19－168	ＳＫ０２	坏　高 3.4 口12.9　底 6.4	口縁は一部肥厚し直線的　体部は大きく膨む　底部はやや柱状	切離は篦切→撫	〃 良好	〃 〃
19－169	ＳＫ０２	坏　高 3.5 口13.0　底 8.0	口縁は屈折し直線的　体部は大きく膨む　底部は厚くほぼ平坦	切離は篦切→撫 底は円盤状	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	〃 〃
19－170	ＳＫ０２	坏　高 3.3 口12.5　底 7.0	口縁は玉縁状　体部は緩く膨む　底部ほぼ平坦で端は屈曲	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
19－171 51－9	ＳＫ０２	坏　高 3.6 口12.9　底 8.2	口縁は玉縁状　体部は緩く膨む　底部はやや丸い	体部下端篦削り？ →撫	〃 良好	〃 〃
19－172	ＳＫ０２	坏　高 3.7 口13.0　底 7.0	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	0.1の砂粒微量 良好	〃 〃
19－173	ＳＫ０２	坏　高 3.1 口11.8　底 7.0	口縁は屈折し玉縁状　体部は緩く膨む　底部はほぼ平坦で端は屈曲	〃	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
19－174	ＳＫ０２	坏　高 3.3 口11.9　底 6.2	口縁は内弯　体部は緩く膨む　底部は端で丸い	〃	〃 良好	〃 〃
19－175	ＳＫ０２	坏　高 3.6 口12.9　底 6.7	口縁は一端屈折し内弯気味　体部は大きく膨む　底部は平坦で端は丸い	体下端篦削→切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 少量　良好	〃 〃
19－176	ＳＫ０２	坏　高 3.6 口12.6　底 6.6	口縁は直線的　体部も直線的　底部は厚く平坦で端は面をつくる	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃
19－177	ＳＫ０２	坏　高 3.0 口12.7　底 6.5	口縁は玉縁状　体部は大きく膨む　底部は平坦で端は丸い	〃	〃 良好	〃 〃
19－178 51－10 80－2	ＳＫ０２	坏　高 3.7 口13.0　底 6.5	口縁は一端屈折し内弯気味　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	体下端篦削→切離は篦切→撫　円盤状	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
19－179	ＳＫ０２	坏　高 3.2 口12.1　底 7.0	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	体下端篦削→切離篦切→撫	0.1前後の砂粒 微量　良好	〃 〃
19－180 51－11	ＳＫ０２	坏　高 3.8 口12.5　底 7.2	口縁は一端屈折し直線的　体部は直線的　底部は平坦で端は丸い	体下端篦削？→切離篦切→撫　円盤状	0.1前後の砂粒 少量　良好	〃 〃
19－181 51－12	ＳＫ０２	坏　高 3.2 口12.5　底 6.5	口縁は一端屈折し玉縁状　体部は直線的　底部は中央が厚く平坦で端は丸い	体下端篦削→切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃

第12表　土器観察表(11)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
19－182 52－1	ＳＫ０２	坏　高 3.2 口13.2　底 7.6	口縁は一端屈折し内弯気味　体部は直線的　底部は中央が低く端は丸い	体下端篦削？→切離は篦切→撫	0.1～0.2の砂粒 少量　良好	灰白 〃
19－183	ＳＫ０２	坏　高 3.4 口12.6　底 6.4	口縁は玉縁状　体部は緩く膨む　底部は全体に丸く端は面をつくる	体下端篦削→切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
19－184	ＳＫ０２	坏　高 3.3 口12.0　底 6.0	口縁は一端屈折し玉縁状　体部は直線的　底部は平坦で端は丸い	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃
19－185	ＳＫ０２	坏　高 3.5 口12.5　底 5.7	口縁は一端屈折し内弯気味　体部は緩く膨む　底部は中央で高く端は丸い	〃	0.1～0.3の砂粒 顕著　良好	〃 〃
19－186	ＳＫ０２	坏　高 3.5 口12.7　底 7.0	口縁は一端屈折しやや外反　体部は大きく膨む　底部は全体に丸く端も丸い	体下端篦削？→切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
20－187	ＳＫ０２	坏　高 3.5 口12.2　底 6.0	体部から口縁にかけて内弯　底部は中央が高く端は角張る	体下端篦削→切離は糸切	0.1～0.2の砂粒 微量　良好	〃 〃
20－188 52－2	ＳＫ０２	坏　高 3.6 口12.7　底 5.5	口縁は玉縁状　体部は大きく膨む　底部は平坦で中央がやや高く端は角張る	体下端篦削→切離は糸切　平行筋痕	0.3～0.4の小石 微量　良好	〃 〃
20－189	ＳＫ０２	坏　高 3.5 口13.8　底 7.7	口縁はやや外反気味　体部は大きく膨む　底部は中央が高く端は角張る	体下端篦削→切離は糸切	0.1の砂粒少量 良好	〃 〃
20－190	ＳＫ０２	坏　高 3.5 口12.3　底 5.5	口縁はやや外反　体部は大きく膨む　底部は中央がやや高く端は角張る	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	〃 〃
20－191 79－1	ＳＫ０２	坏　高 3.7 口12.7　底 5.7	口縁はやや外反し玉縁状　体部は大きく膨む　底部は厚く平坦で端は角張る	〃	0.1の砂粒少量 良好	〃 〃
20－192	ＳＫ０２	坏　高 3.9 口12.8　底 5.2	口縁は外反　体部は大きく膨む　底部は厚く平坦で端は角張る	体下端篦削→切離は糸切　平行筋痕	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃
20－193 52－3	ＳＫ０２	坏　高 3.7 口12.5　底 6.2	〃	体下端篦削→切離は糸切	〃 良好	〃 〃
20－194	ＳＫ０２	坏　高 3.2 口13.0　底 6.2	口縁は外反　体部は大きく膨む　底部は厚く平坦で端は丸い	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	〃 〃
20－195	ＳＫ０２	坏　高 4.1 口12.7　底 5.3	口縁は肥厚し直線的　体部は大きく膨む　底部は厚く端は角張る	〃	0.1前後の砂粒 微量　良好	〃 〃
20－196 52－4	ＳＫ０２	坏　高 3.7 口13.3　底 6.0	口縁は外反　体部は大きく膨む　底部は平坦で中央がやや高い	切離は糸切	0.3～0.4の小石 微量　良好	淡黄 〃
20－197	ＳＫ０２	坏　高 3.7 口13.2　底 5.6	口縁は外反気味　体部は緩く膨む　底部は薄く中央が高い　端部は角張る	〃	0.1～0.2の砂粒 微量　良好	灰黄 〃

第13表　土器観察表(12)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
20－198 79－2	ＳＫ０２	坏　高 4.0 口12.7　底 5.9	口縁はやや外反　体部は大きく膨む 底部は薄く中央が高い　端部は角張る	切離は糸切	0.1～0.2の砂粒 微量　良好	灰黄褐 浅黄
20－199	ＳＫ０２	坏　底 5.6	底部は厚く中央が高い　端部は角張る	体下端篦削→切離は糸切	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰白・同
20－200	ＳＫ０２	坏　底 5.6	〃	〃	0.2の砂粒微量 堅緻	〃
20－201	ＳＫ０２	坏　高 3.8 (口12.6)　(底 6.2)	口縁はやや外反　体部は大きく膨む 底部は平坦で端は角張る	切離は糸切	0.1の砂粒微量 良好	〃
21－202	ＳＫ０２	坏　底 5.7	底部は中央が高く端は角張る	体下端篦削→切離は糸切	0.1～0.3の砂粒 微量　良好	〃
21－203	ＳＫ０２	坏　高(2.4) (底 5.3)	体部は大きく膨む　底部はやや厚く中央が高い　端部は角張る	〃	0.1の砂粒微量 良好	〃
21－204	ＳＫ０２	坏　(底 6.2)	底部は厚く端は角張る	〃	〃	浅黄・同
21－205	ＳＫ０２	坏　(底 5.7)	底部は中央がやや高く端は角張る	〃	0.1の砂粒顕著 良好	灰白・同
21－206	ＳＫ０２	坏　(底 6.4)	〃	体下端篦削→切離は糸切 内に工具痕	0.1以下の砂粒 顕著　不良	にぶい黄橙・淡黄
21－207	ＳＫ０２	坏　(底 6.0)	〃	切離は糸切 内に工具痕	〃　不良	灰・灰白
21－208	ＳＫ０２	坏　底 5.4	〃	切離は糸切	0.1の砂粒微量 良好	灰黄・淡黄
21－209	ＳＫ０２	坏　(底 5.7)	底部は中央が高くやや突出する	〃	0.1以下の砂粒 微量　良好	淡黄・同
21－210	ＳＫ０２	坏　(底 5.8)	底部は中央が高く端は角張る	〃	0.1の砂粒微量 不良	灰白・同
21－211	ＳＪ０１	坏　(底 5.9)	底部は平坦	〃	0.1～0.2の砂粒 微量　良好	浅黄・淡黄
21－212	ＳＫ０２	坏　(底 5.8)	底部は中央がやや高い	〃	0.1以下の砂粒 良好	灰白・灰オリーブ
21－213	ＳＫ０２	坏　(底 5.6)	〃	〃	〃　良好	灰白・同
21－214	ＳＫ０２	甕	口縁は大きく外反し折返状	外は平行叩	〃　堅緻	灰・オリーブ黒
21－215	ＳＫ０２	甕	口縁は大きく外反し口唇に沈線	内外とも撫	〃　堅緻	灰・同
21－216 83－5	ＳＫ０２	甕	底部は丸底	外は撫 内は平行叩	〃　堅緻	〃
21－217 83－6	ＳＫ０２	甕	体部下半　223と同一個体	外は平行叩 内は撫→搔目→叩	〃　堅緻	灰白・灰
21－218 83－2・3	ＳＫ０２	甕	肩が強く張る	外は平行叩→搔目 内は円文叩→平行叩	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰・同
22－219 60－2	ＳＫ０２	長甕　高(29.2) (口19.8)　(頸17.2)	口縁は一端屈折して外反　頸部はくの字で胴部は筒形状	外は撫→削→叩 内は撫・搔目→叩	〃 堅緻	灰 〃
22－220 67－6	ＳＫ０２	甕　高(5.9) (口12.6)　(頸10.4)	口縁尖端は三角形ですぐ下に強い稜をもつ　頸部はくの字	外は撫　内は撫・叩	〃 良好	灰白 〃
22－221	ＳＫ０２	甕　高(4.2) (口14.7)　(頸12.5)	〃	外は撫　内は撫	〃 堅緻	灰 〃
22－222 67－7	ＳＫ０２	甕　高(6.0) (口18.8)　(頸15.4)	〃	外は撫　内は撫・削	〃 堅緻	〃 〃

第14表　土器観察表(13)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
22−223 67−8	ＳＫ０２	甕　高(14.3) (口17.2)　(頸15.8)	傾く口唇は中央が凹み内外に稜をもつ 頸部はくの字で体部は丸く膨む	外は撫→平行叩 内は撫→掻目→叩	0.1〜0.2の砂粒 顕著　堅緻	灰 灰白
22−224 60−3	ＳＫ０２	長甕　高(22.5)	体部から底部にかけて包弾形	外は削→平行叩 内は撫→掻目→叩	0.1〜0.2の砂粒 少量　良好	にぶい黄橙 浅黄橙
22−225 60−4	ＳＫ０２	長甕　高(25.7) (口24.8)　(頸21.6)	口縁は一旦屈折して直立する　胴部は筒形状	外は撫→掻目→削 内は縦→横の掻目	0.1以下の砂粒少量　良好	灰黄褐 灰白
22−226	ＳＫ０２	横瓶　(底 7.8)	横は平坦で小さな凹み有り	内外に叩	〃　堅緻	灰白・同
23−227	ＳＴ０３	坏蓋　高 3.5 (口13.4)　天 1.8	天井は低く平坦　体部は緩く反る　端部は逆Ｓ字で内に稜をもつ　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	にぶい灰褐 にぶい褐
23−228	ＳＴ０３	坏蓋 (口14.8)　天 2.0	天井は低く平坦　体部は緩く傾く　端部は縁に稜をもちにぶい三角形	〃	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰白 〃
23−229	ＳＴ０３	坏蓋 (口14.7)　天 2.2	天井は丸く低い　体部は緩く傾く　端部は逆Ｓ字で垂直　つまみはボタン状	〃	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰褐 〃
23−230	ＳＴ０３	坏蓋　高 2.6 (口13.5)　天 2.0	天井は丸く低い　体部は緩く傾く　端部は屈曲してやや外傾　つまみはボタン状	〃	0.1〜0.2の砂粒 微量　良好	灰白 〃
23−231	ＳＴ０３	坏蓋 (口13.9)　天 2.0	天井は低く平坦　体部は僅に反る　端部は屈曲して内傾	〃	〃 堅緻	灰 〃
23−232	ＳＴ０３	坏蓋　高(1.9)	天井は丸い　つまみはボタン状	〃	0.3の砂粒微量 堅緻	灰・同
23−233	ＳＴ０３	坏蓋　高(1.5)	天井はやや丸い　つまみはボタン状	〃	0.1以下の砂粒 微量　不良	浅黄・灰白
23−234	ＳＴ０３	坏蓋　高(1.5)	〃	〃	〃　良好	灰白・同
23−235	ＳＴ０３	坏蓋　高(1.5)	〃	〃	〃　良好	暗灰黄・にぶい黄
23−236	ＳＴ０３	坏蓋　高(1.5)	天井は平坦　つまみはボタン状	〃	0.1の砂粒少量 堅緻	灰黄・黄灰
23−237 46−1	ＳＴ０３	高台付坏　高 3.2 (口11.1)　(底 8.0)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は平坦で高台接地部に鋭い沈線が入る	切離は篦切→撫	細砂顕著 堅緻	灰 オリーブ灰
23−238 46−2	ＳＴ０３	高台付坏　高(2.8) 底 7.8	体部は緩く膨み底部は厚い　高台は台形状で踏んばる　接地部は僅に凹む	〃	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	灰褐 にぶい橙
23−239	ＳＴ０３	壺?　(底 9.6)	底部は平坦　高台は方形状で外傾	〃	〃　良好	灰・同
23−240	ＳＴ０３	高台付坏　(底 7.8)	底部は平坦 高台は方形状で接地面凹む	切離は篦切→撫	細砂顕著　良好	〃
23−241	ＳＴ０３	高台付坏　(底 8.0)	〃	〃	〃　堅緻	灰褐・にぶい赤褐
23−242	ＳＴ０３	高台付坏　(底 7.6)	底部は端が高い　高台は方形状で外傾	〃	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	灰白・同
23−243	ＳＴ０３	高台付坏　(底 8.3)	底部は平坦　高台は外傾し接地面凹む	体下端篦削→切離は篦切→撫	〃　良好	灰黄・灰白
23−244	ＳＴ０３	坏　高 3.1 口12.3　底 8.2	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は中央がやや高く端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃

第15表　土器観察表(14)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
23－245	ＳＴ０３	坏　高 3.1 (口12.9)　(底 8.0)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰白 〃
23－246	ＳＴ０３	坏　高 3.1 (口13.8)　(底 9.0)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	〃	〃 堅緻	明オリーブ灰 〃
23－247	ＳＴ０３	坏　高 3.0 (口12.2)　(底 6.2)	口縁は大きく外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で屈曲	切離は篦切→撫	〃 堅緻	にぶい橙 オリーブ灰
23－248	ＳＴ０３	坏　高 3.0 (口12.5)　(底 6.7)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	〃 堅緻	灰 オリーブ灰
23－249	ＳＴ０３	坏　高 2.9 (口13.3)　(底 6.6)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は中央が高く端は丸い	切離は篦切→撫	細砂顕著 堅緻	にぶい褐 〃
23－250	ＳＴ０３	坏　高 3.2 (口12.3)　(底 7.0)	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　底部は丸みをもつ	体下端篦削？→切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 〃
23－251	ＳＴ０３	坏　高 2.9 (口11.9)　(底 7.0)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	〃 堅緻	褐灰 〃
23－252	ＳＴ０３	坏　高 3.1 (口11.6)　(底 5.4)	口縁は一旦屈折し直線的　体部は緩く膨む　底部は厚く平坦で端は凹む	底端部篦削→切離は篦切→撫	0.1の砂粒顕著 良好	淡黄 〃
23－253	ＳＴ０３	坏　高 3.7 (口12.8)　底 5.7	口縁はやや外反　体部は大きく膨む　底部は中央がやや高く端は角張る	体下端篦削→切離は糸切	〃 良好	灰白 〃
23－254	ＳＴ０３	坏　高 3.8 (口12.3)　(底 6.0)	体部中央で屈折し口縁は直線的　体部は大きく膨む　底部端は角張る	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃 〃
23－255	ＳＴ０３	坏　高 3.6 (口12.4)　底 5.6	口縁は内弯　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は角張る	体下端篦削→切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	オリーブ黒 灰褐
24－256	ＳＴ０３	坏　底 6.7	底部は中央が厚く端は丸味をもつ	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	黄灰・灰白
24－257	ＳＴ０３	坏　底 6.2	底部は平坦で端は角張る	〃	〃　堅緻	灰褐・灰黄
24－258	ＳＴ０３	坏　底 6.9	底部は丸味をもつが端はやや角張る	体下端篦削?→切離は篦切→撫	〃　不良	灰白・同
24－259 79－3・4	ＳＴ０３	坏　底 5.6	底部は中央がやや高く端は角張る	体下端篦削→切離は糸切	〃　良好	〃
24－260	ＳＴ０３	坏　底 5.4	〃	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	〃
24－261	ＳＴ０３	坏　底 5.6	〃	体下端篦削→切離は糸切　底円盤状	0.1の砂粒微量 不良	〃
24－262	ＳＴ０３	坏　底 5.6	〃	体下端篦削→切離は糸切	〃　良好	〃
24－263	ＳＴ０３	坏　底 5.8	〃	〃	〃　良好	〃
24－264	ＳＴ０３	坏　(底 5.4)	〃	〃	0.1前後の砂粒 微量　良好	〃
24－265	ＳＴ０３	坏　(底 5.2)	〃	切離は糸切	0.1～0.2の砂粒 微量　良好	暗灰黄・灰黄 褐
24－266	ＳＴ０３	坏　底 4.6	底部は中央がやや厚く端は角張る	体下端篦削→切離は糸切	細砂顕著　不良	灰白・同

第16表　土器観察表(15)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
24−267	ＳＴ０３	坏　(底 5.6)	底部は中央がやや高く端は角張る	切離は糸切	0.2の砂粒微量 良好	淡黄・にぶい黄橙
24−268	ＳＴ０３	坏　底 5.4	底部は平坦	切離は糸切	細砂　良好	灰白・同
24−269	ＳＴ０３	坏　底 5.0	底部は平坦で端は角張る	〃	0.1以下の砂粒顕著　良好	淡黄・同
24−270	ＳＴ０３	双耳坏	耳部は口唇直下に有る	耳部は全面篦削	0.1以下の砂粒微量　良好	灰白・同
24−271	ＳＴ０３	短頸壺　頸 7.2	頸部は薄く直立　肩の張りは弱い	頸部接合は１段	細砂顕著　堅緻	灰・同
24−272	ＳＴ０３	長頸壺　(頸 4.0)	頸部は直立し肩は丸く張る	つくりは３段構成	〃　堅緻	灰黄褐・黄灰
24−273	ＳＴ０３	長頸壺　(頸 5.2)	首は下半で直立し上半で大きく開く	内外轆轤撫	〃　堅緻	灰黄・にぶい黄
24−274	ＳＴ０３	大甕　高(10.4) (口46.2)	口縁は大きく外反し先端に大小２つの稜をもつ	外は口縁で叩→撫 内は頸部で掻目 体部で叩	0.1〜0.2の砂粒 砂粒顕著　良好	灰黄 〃
24−275	ＳＴ０３	小甕？　底 6.8	底部は中央がやや高く端は角張る	切離は糸切	0.1前後の砂粒少量　堅緻	灰白・同
24−276	ＳＴ０３	長頸壺　(底 9.6)	底部は平坦で高台は外傾し底面は凹む	切離は篦切り	細砂顕著　良好	〃
24−277	ＳＴ０３	長頸瓶?　底 5.0	高台は接地部が内傾	〃	〃　堅緻	灰白・灰
28−278 41−6	ＳＴ１２	坏蓋　高 3.9 口13.9　天 2.6	天井は高く口縁にかけて膨む　端部は窄み外は角張る　つまみは擬宝珠	切離は篦切→全面篦削	細砂少量 堅緻	淡黄 灰白
28−279 41−7	ＳＴ１２	坏蓋　高 2.9 口14.5　天 2.0	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は僅に屈折し外傾　つまみは扁平な擬宝珠	切離は篦切→篦削は深い	〃 堅緻	〃 〃
28−280	ＳＴ１２	坏蓋 (口13.8)　天 2.1	天井は平坦？　体部は緩く膨む　端部は屈折して外傾	〃	〃 堅緻	〃 〃
28−281 41−8	ＳＴ１２	坏蓋　高 3.5 口12.9　天 1.9	天井から口縁にかけて直線的　端部は僅に屈曲して外傾　つまみは擬宝珠	〃	〃 堅緻	〃 〃
28−282	ＳＴ１２	坏蓋 (口13.4)　天 2.3	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は屈曲し立つ　屈曲内面は僅に凹む	〃	0.1前後の砂粒微量　堅緻	灰 灰白
28−283	ＳＴ１２	坏蓋　高(1.9) (口14.0)	体部は膨む　口縁は一旦緩く折れ端部は短く屈曲して外傾　尖端は丸い	篦削は深い	細砂少量 堅緻	〃 〃
28−284 41−9	ＳＪ０６	坏蓋　高 3.0 口13.8　天 2.0	天井は丸い　体部は僅に反る　端部は屈曲して外傾　屈接部内面は凹む　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削は深い	細砂微量 堅緻	〃 〃
28−285 41−10	ＳＴ１２	坏蓋　高 2.6 口13.6　天 1.4	天井は平坦で口縁にかけて扁平　端部は屈折し外傾　屈接部内面は凹む　つまみは擬宝珠	切離は篦切→ほぼ全面に篦削	〃 堅緻	〃 〃
28−286	ＳＴ１２	坏蓋 (口14.4)　天 1.6	天井はやや丸い　体部は僅に反る　端部は屈折して外傾　屈折内面僅に凹む	〃	〃 堅緻	〃 淡黄
28−287 46−3	ＳＴ１２	高台付坏　高 4.5 口13.9　底 8.4	口縁は内弯気味　体部は大きく膨む　底部は平坦　高台は高く台形状に立つ	切離は篦切　外面体部は篦撫	〃 堅緻	〃 〃

第17表　土器観察表(16)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
28－288 46－4	ＳＴ１２	高台付坏　高 4.6 (口12.2)　(底 7.7)	口縁は内弯気味　体部は大きく膨む 口縁は平坦　高台は高くやや外傾	切離は篦切→底篦 削？体部は篦撫	細砂少量 堅緻	灰白 〃
28－289 46－5	ＳＪ０６	高台付坏　高 4.0 (口12.4)　底 8.2	口縁は直線的　体部は大きく膨む　高 台は直立し内面つけ根は凹む	切離は篦切→底篦 削→撫　体部篦撫	〃 堅緻	〃 〃
28－290 46－6	ＳＴ１２	高台付坏　高 4.4 口12.1　底 7.7	口縁は直線的　体部は大きく膨む　高 台は三角状で直立し接地部は平坦	切離は篦切　体下 端篦削上位は篦撫	〃 堅緻	〃 〃
28－291 46－7	ＳＴ１２	高台付坏　高 4.0 口13.2　底 8.9	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　高 台は高く長方形に直立　接地部は平坦	切離は篦切→撫 体部は篦撫	〃 堅緻	灰 灰白
28－292	ＳＴ１２	高台付坏　高(3.7) (口12.2)	口縁は屈曲し直線的　体部は大きく膨 む	体下半篦削　体上 位篦撫	〃 堅緻	〃 〃
28－293	ＳＴ１２	高台付坏？ 高(3.3) 口12.9	口縁から体部は直線的	体下半篦削　体上 半篦撫	〃 堅緻	〃 〃
28－294 55－1	ＳＴ１２	壺蓋　高 5.1 口12.5　天 3.6	天井は平坦　肩部は斜位で面をつくる 体部は外傾する　つまみは擬宝珠	切離は篦切→肩部 篦削　体部篦撫	細砂微量 堅緻	淡黄 灰白
28－295 55－2	ＳＴ１２	壺蓋 口12.6　天 3.0	天井はやや丸い　肩部は斜位で面つく る　体部は大きく外傾する	〃	〃 堅緻	淡黄 灰白
28－296 52－5	ＳＴ１２	坏　高 3.2 (口13.9)　(底 9.3)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部 は中央がやや高く端は丸い　内に凹凸	切離は篦切　体下 端篦削　渦明瞭	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 灰
28－297	ＳＴ１２	長頸壺　高(4.1)	肩部は緩く張る	外の肩部平行叩→ 掻目	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 灰
28－298 81－7	ＳＴ１２	壺　高(2.1) 底12.0	高台は高く長方形状で外にふんばる 接地部は平坦	高台内面は篦削？	細砂少量 堅緻	灰白 〃
28－299	ＳＴ１２	壺　高(1.8) (底 1.8)	高台は高く長方形状に外傾　接地部は やや丸味がある	内外丁寧な撫	〃 堅緻	〃 〃
28－300 55－3	ＳＴ１２	短頸壺　高16.6 口10.4　(底10.2)	口縁は内弯気味に直立　肩は緩く体部 は大きく膨む　高台は直立気味に立つ	切離は篦切　体下 半は篦削	0.1の砂粒顕著 堅緻	淡黄 灰白
28－301 55－4	ＳＴ１２	広口壺　高(7.0) (口17.5)	口縁は外反し口唇から垂直方向に強い 稜をもつ　頸部は直立する	内外面に丁寧な撫	細砂少量 堅緻	淡黄 〃
29－302 83－4 84－5・6	ＳＴ１２	甕　高(9.3) (口29.8)	口縁は外反し口唇は垂直の方向で上下 に稜をもつ	頸部接合は嵌入式 外は波状文	〃 堅緻	灰白 〃
29－303	ＳＴ１２	甕　高(27.5)	肩部は丸く張りは強い	頸部接合は嵌入式 外平行叩　内円文	〃 堅緻	にぶい黄橙 灰白
29－304	ＳＴ１２	甕　高(17.4)	底部は丸底	外は平行叩 内は平行叩	〃　堅緻	灰白・同

第18表　土器観察表(17)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
30−305 41−11	ＬＰ５５	坏蓋　高 4.5 口15.4　天 2.9	天井は高く口縁にかけて膨む　端部は窄み屈曲して外傾　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削は深い	細砂少量 堅緻	灰白 〃
30−306 41−12	ＬＰ５４	坏蓋　高 3.8 口13.3　天 2.6	天井は平坦で高い　体部は緩く膨む　端部は屈曲して直立　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削は深い	〃 堅緻	灰 淡黄
30−307	表採	坏蓋　高(2.0)	天井は平坦　つまみはそろばん玉形	切離は篦切→篦削	〃　堅緻	灰白・淡黄
30−308 41−13	ＬＰ５５	坏蓋　高 2.5 口13.9　天 1.6	天井は扁平で体部は直線的　端部は屈折して外傾　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削は深い	〃 堅緻	灰白 〃
30−309 41−14	ＬＱ５５	坏蓋　(高 1.7) (口14.0)　天 1.0	天井は扁平　端部は屈折して外傾　屈折部内面は凹む　つまみは擬宝珠	〃	〃 堅緻	〃 灰
30−310	ＬＱ５６	坏蓋 (口14.1)　天 2.4	天井は平坦　体部は僅に反る　端部は短く屈曲し立つ	〃	0.1の砂粒微量 堅緻	灰白 オリーブ灰
30−311	ＬＰ５５	坏蓋 (口13.1)　天 2.3	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は緩く屈曲し立つ	〃	細砂微量 堅緻	灰 灰白
30−312 41−15	ＬＰ５５	坏蓋 (口13.9)　天 2.5	〃	〃	細砂少量 堅緻	〃 〃
30−313	ＬＰ５３	高台付坏　(底10.1)	底部は平坦　高台は三角形で直立	切離は篦切	〃　堅緻	〃
30−314 46−8	ＬＰ５５	高台付坏　高 4.7 (口14.9)　底10.0	口縁は直線的　体部は緩く膨み厚い　底部は平坦で高台は三角形で外傾	切離は篦切→篦削? 体部は篦撫	〃 堅緻	〃 〃
30−315 46−9	ＬＰ５５	高台付坏　高 4.6 (口13.6)　底 9.1	口縁は直線的　体部は緩く膨む　高台は三角形状で外にふんばる	切離は篦切 体部は篦撫	〃 堅緻	〃 〃
30−316 46−10	ＬＰ５５	高台付坏　高 4.6 (口12.1)　底 7.0	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　底部は平坦で高台は三角形状に直立	〃	〃 堅緻	〃 〃
30−317 46−11	ＬＰ５６	高台付坏　高 4.0 口12.1　底 8.0	口縁は直線的　体部は大きく膨む　底部はやや丸く高台は三角形状で外傾	切離は篦切→撫 体部は篦撫	〃 堅緻	〃 〃
30−318	ＬＰ５５	高台付坏　高(3.7) (口13.5)	口縁は直線的　体部は緩く膨む	体部は下半で篦削 上半は篦撫	〃 堅緻	〃 〃
30−319	ＬＱ５５	高台付坏　(口12.3)	口縁から体部にかけて内弯	体部篦撫	〃　堅緻	〃
30−320 52−6	ＬＰ５６	坏　高 3.8 口12.7　底 7.5	口縁は直線的　体部は緩く外反　底部は平坦で端は屈曲	切離は篦切→撫 体下端篦削上位篦撫	細砂顕著 堅緻	〃 〃
30−321	ＬＱ５５	坏　高 2.9 (口12.4)　(底 7.2)	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　底部は中央がやや高く端は丸い	切離は篦切→撫	〃 堅緻	灰 〃
30−322 52−7	ＬＰ５５	坏　高 3.0 (口12.5)　(底 8.5)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部端はやや角張る	切離は篦切→撫 体部篦撫？	〃 堅緻	灰白 〃

第19表　土器観察表(18)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
30－323	ＬＱ５５	坏　高 4.0 (口13.0)　(底 8.6)	口縁は外反　体部は直線的でやや立つ 底部は中央がやや高く端は丸い	切離は篦切　渦明 瞭　体外面篦撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	オリーブ灰 灰白
30－324	ＬＰ５５	壺　(底11.9)	高台は外にふん張る　接地部は凹む	内外に丁寧な撫	細砂少量　堅緻	灰黄・灰
30－325	ＬＪ５７	甕　高(7.5) (口27.3)	口縁は外反　口唇上に小さい稜そこか ら垂直方向に三角形の大きな稜をもつ	頸部接合は嵌入式 外面に波状文	〃 堅緻	灰白 〃
37－326 41－16	ＳＪ０５	坏蓋　高(3.2) 口16.1　天 2.7	天井は狭く平坦　体部は緩く膨んで端 部に至り短く屈曲　屈曲部内面は凹む	切離は篦切→深い 篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	乳白 〃
37－327	ＳＪ０５	坏蓋 (口16.4)　天 2.6	天井は狭く平坦　体部はやや反る　端 部は屈曲して立つ　屈曲内面やや凹む	〃	〃 良好	〃 〃
37－328 42－1	ＳＪ０５	坏蓋 (口16.2)	天井は狭く平坦　体部は短く膨んで端 部に至り屈曲　屈曲部内面は凹む	〃	〃 良好	〃 〃
37－329 42－2	ＳＪ０５	坏蓋　高 3.1 口14.9　天 2.1	天井は平坦　体部は僅に凹む　端部は 鋭い稜をもち屈折　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
37－330 42－3	ＳＪ０５	坏蓋　高 3.2 口15.7　天 2.2	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は 鋭い稜で屈折　つまみはそろばん玉状	〃	0.1～0.2の砂粒 微量　堅緻	灰 灰白
37－331	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.0)　天 2.0	天井から体部は丸い　端部は屈折して 立つ	切離は篦切→浅い 篦削	0.1～0.2の砂粒 顕著　堅緻	灰白 明オリーブ
37－332	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.6)　天 2.1	天井はほぼ平坦　体部は緩く膨む　端 部は屈曲してやや内傾	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 オリーブ灰
37－333 42－4	ＳＪ０５	坏蓋　高 3.5 (口14.2)　天 2.4	天井は狭く平坦　体部は緩く膨む　端 部は屈曲して外傾　つまみは擬宝珠	切離は篦切→深い 篦削	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	褐灰 灰褐
37－334 42－5	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.4 (口15.0)　天 1.6	天井は広く平坦　体部は強く反る　端 部は屈折して外傾　つまみは擬宝珠	切離は篦切→撫	0.1～0.2の砂粒 微量　堅緻	明オリーブ灰 灰
37－335	ＳＪ０５	坏蓋 (口16.0)　天 1.5	天井は広く平坦　体部は直線的　端部 は屈折して外傾　全体に扁平	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
37－336	ＳＪ０５	坏蓋 (口15.9)　天 1.9	天井は広く平坦　体部は反る　端部は 一旦折れ屈曲して立つ　屈曲内に沈線	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白 灰
37－337	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.5)　天 1.6	天井は広く平坦　体部は反る　端部は 屈曲して立つ　全体に扁平	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
37－338	ＳＪ０５	坏蓋 (口13.7)　天 2.6	〃	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	〃 〃
37－339	ＳＪ０５	坏蓋 (口15.0)　天 1.5	天井は広く平坦　体部は直線的　端部 は屈曲し逆Ｓ字状に立つ	〃	〃 堅緻	〃 灰白

第20表　土器観察表(19)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
37−340	ＳＪ０５	坏蓋 (口15.0)　天 1.0	天井は広く平坦　体部は反る　端部は稜をつくって屈折し逆Ｓ字状に外傾	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 青灰
37−341 42−6	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.5 (口15.4)　天 1.7	天井は低く平坦　体部は直線的　端部は屈曲して外傾　つまみはボタン状	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 〃
37−342	ＳＪ０５	坏蓋　高 3.3 (口14.8)　天 2.5	天井はほぼ平坦　体部は直線的　端部は屈曲し外弯　つまみはボタン状	〃	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
37−343 42−7	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.9 (口14.3)　天 2.1	天井はほぼ平坦　体部は反る　端部は屈曲し立つ　つまみはボタン状	〃	〃 堅緻	〃 〃
37−344 42−8	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.4 口14.0　天 1.8	天井は低くほぼ平坦　体部は反る　端部は屈曲して立つ　つまみはボタン状	〃	〃 堅緻	〃 〃
37−345	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.7 (口14.6)　天 2.1	天井は低く平坦　体部は反る　端部は屈曲し外弯　つまみはボタン状	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
37−346	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.6 (口14.8)　天 1.8	天井はほぼ平坦　体部は反る　端部は屈曲し逆Ｓ字に立つ　つまみはボタン状	〃	0.1〜0.3の砂粒 微量　堅緻	〃 〃
37−347	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.8 (口14.0)　天 2.0	天井はほぼ平坦　体部は反る　端部は屈曲して立つ　つまみはボタン状	〃	0.1〜0.3の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
37−348	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.2)	天井は平坦　体部は反る　つまみはボタン状	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰白 〃
37−349	ＳＪ０５	坏蓋 (口13.8)　天 1.8	天井は低く平坦　体部は反る　端部は屈曲しやや外傾	〃	〃 堅緻	〃 〃
37−350 42−9	ＳＪ０５	坏蓋　高 3.1 口14.5　天 1.9	天井は平坦　体部はやや反る　端部は稜をもち屈折　つまみは逆台形状	〃	0.1〜0.3の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
37−351	ＳＪ０５	坏蓋 (口13.8)　天 1.8	天井は平坦　体部はやや反る　端部は屈曲して立つ	〃	〃 堅緻	〃 〃
37−352	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.0)　天 1.7	天井は低くほぼ平坦　体部はやや反る　端部は屈曲して立つ	〃	0.1〜0.2の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
37−353	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.5)　天 1.9	天井は低くほぼ平坦　体部は反る　端部は屈曲し逆Ｓ字状に立つ	〃	0.1〜0.3の砂粒 顕著　堅緻	灰白 〃
37−354	ＳＪ０５	坏蓋　高(1.5)	つまみはボタン状	切離は篦切	〃　堅緻	黄灰・灰白
37−355	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.0)　天 1.8	天井やや丸味をもつ　体部はやや反る　端部は屈曲して立つ	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	灰 〃
38−356 42−10	ＳＪ０５	坏蓋　高 3.5 (口16.2)　天 2.2	天井は平坦　体部は反る　端部は屈折し逆Ｓ字状に外傾　つまみは亀頭形	切離は篦切→天井篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃

第21表　土器観察表(20)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
38－357 42－11	ＳＪ０５	坏蓋　高 3.2 口14.6　天 2.2	天井は平坦　体部は反る　端部は屈曲し逆Ｓ字状に外傾　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
38－358 42－12	ＳＪ０５	坏蓋　高 3.2 (口14.6)　天 2.1	天井はほぼ平坦　体部は直線的　端部は屈折し外傾　つまみは頭の丸い筒形	〃	0.1～0.2の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
38－359 42－13	ＳＪ０５	坏蓋 (口19.3)　天 2.2	天井は平坦　体部は直線的　端部は屈折して逆Ｓ字状に外傾	〃	0.1～0.3の砂粒 微量　堅緻	灰白 〃
38－360	ＳＪ０５	坏蓋　(口19.4)	体部は直線的　端部は屈曲して立つ	外面は丁寧な撫	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰白・灰黄
38－361	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.2) (口20.5)	体部は僅に反る　端部は屈折して鋭く立つ　屈折部内面は凹む	内外面丁寧な撫	〃 堅緻	灰 〃
38－362	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.2) (口20.6)	体部は僅に反る　端部は屈折して立つ　屈折部内面は僅に凹む	篦削	〃 堅緻	灰白 〃
38－363	ＳＪ０５	坏蓋　(口19.5)	体部は直線的　端部は屈折して外傾	〃	〃　堅緻	灰白・同
38－364	ＳＪ０５	坏蓋　(口19.0)	〃	〃	〃　堅緻	灰・灰白
38－365	ＳＪ０５	坏蓋　高(1.0)	つまみは扁平	切離は篦切？	〃　良好	灰白・同
38－366	ＳＪ０５	坏蓋　高(1.4)	天井は平坦　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 微量　良好	灰・灰白
38－367	ＳＪ０５	坏蓋　高(1.4)	つまみはボタン状	内外撫	〃　良好	灰白・同
38－368	ＳＪ０５	坏蓋　高(1.7)	天井はほぼ平坦　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1の砂粒顕著 堅緻	灰・灰白
38－369	ＳＪ０５	坏蓋　高 1.4	つまみは中央が高い擬宝珠　器肉薄い	切離は篦切？	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰・同
38－370	ＳＪ０５	坏蓋　高(1.3)	つまみは中央が丸く高いボタン状	〃	〃　良好	灰白・同
38－371	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.1)	天井は丸い　つまみは頭が丸い擬宝珠	切離は篦切→篦削	〃　堅緻	灰・灰白
38－372	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.4)　天 2.0	天井はほぼ平坦　体部はやや反る　端部は稜をもち垂直に屈折	切離は篦切→篦削 つまみ部に渦痕	0.1以下の砂粒 少量　良好	褐灰 オリーブ灰
38－373	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.1)　天 1.8	天井は低い　体部は緩く膨む　端部は屈折し短く立つ	篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 明オリーブ灰
38－374	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.4)　天 2.1	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は屈折し外傾	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	黄灰 〃
38－375	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.1)　天 2.2	天井は平坦　体部はやや反る　端部は稜をもち垂直に屈折	切離は篦切→篦削 体下半篦撫？	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
38－376	ＳＪ０５	坏蓋　(口15.1)	体部は反る　端部は屈曲し外傾	内外丁寧な撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰・同
38－377	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.7)　天 1.7	天井は平坦　体部は直線的　端部は屈曲し外弯	切離は篦切→篦削	0.1～0.2の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃
38－378	ＳＪ０５	坏蓋 (口15.2)　天 2.5	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は一旦折れ端で屈曲して外傾	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	〃 〃

第22表　土器観察表(21)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
38－379	ＳＪ０５	坏蓋　(口12.8)	体部は強く反る　端部は屈曲して内傾	篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白・灰
38－380	ＳＪ０５	坏蓋　高(3.2)	天井から体部は膨む　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削	〃　良好	灰褐・同
38－381 42－14	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.7 (口15.0)　天 1.9	天井は平坦　体部は反る　端部は屈曲して立つ　つまみはボタン状	〃	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰オリーブ 〃
38－382	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.2	天井は平坦　つまみは平坦な擬宝珠	〃	〃　良好	灰オリーブ・同
38－383	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.7 (口13.5)　天 2.0	天井は平坦　体部は直線的　端部は短く屈折　つまみは縁の低いリング状	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	浅黄 灰白
38－384	ＳＪ０５	坏蓋　高 1.6	天井は平坦　つまみは擬宝珠	〃	〃　良好	灰オリーブ・同
38－385	ＳＪ０５	坏蓋　高 0.6	つまみは平坦な擬宝珠	撫	〃　良好	〃
38－386	ＳＪ０５	坏蓋　高 0.9	〃	〃	〃　良好	〃
38－387	ＳＪ０５	坏蓋 (口15.2)　天 2.3	天井は平坦　体部は反る　端部は屈折して外傾	切離は篦切→篦削	〃 良好	〃
38－388	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.5)　天 2.0	天井は平坦　体部は僅に反る　端部は稜をもち外傾	〃	〃 良好	〃
38－389	ＳＪ０５	坏蓋　高 1.0	天井は平坦　体部は僅に反る	〃	〃　良好	灰・同
38－390 42－15	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.7)　天 1.9	天井は平坦　体部は強く反る　端部は稜をもち逆Ｓ字状に外傾	〃	〃 良好	灰オリーブ 〃
38－391	ＳＪ０５	坏蓋 (口15.0)　天 2.1	天井は平坦　体部は強く反る　端部は屈折し逆Ｓ字状	〃	〃 良好	灰　白 灰オリーブ
39－392	ＳＪ０５	坏蓋 (口14.6)　天 1.7	天井は平坦　体部は緩く反る　端部は屈曲し外弯	〃	〃 良好	〃 〃
39－393	ＳＪ０５	坏蓋 (口13.7)　天 1.6	天井は平坦　体部は直線的で端部手前は平坦　端部は屈曲して外弯	〃	〃 良好	灰 灰白
39－394	ＳＪ０５	坏蓋　(口15.0)	体部は強く反る　端部は屈曲し外弯	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	にぶい黄橙・同
39－395	ＳＪ０５	坏蓋 (口15.0)　天 3.0	天井は丸い　体部は強く反る　端部は屈曲し直立する	〃	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰黄褐 〃
39－396	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.7 (口14.8)	天井は平坦　体部は緩く反る　端部は屈折して立つ	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	浅黄橙 〃
39－397	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.9)	天井は広く平坦　体部は反る？　つまみは頭が丸い擬宝珠	切離は篦切→底面篦削	〃 堅緻	灰白 〃
39－398 42－16	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.5)	〃	〃	〃　良好	灰白・同
39－399	ＳＪ０５	坏蓋 (口19.5)　天 3.0	天井は広く平坦 体部は緩やかに反る 端部は屈折し逆Ｓ字状に立つ	底部は篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	褐灰 灰白

第23表　土器観察表(22)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色調
39－400	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.0)	天井は平坦　つまみは平坦な擬宝珠状	切離は篦切	0.1以下の砂粒少量　良好	灰白・黄灰
39－401	ＳＪ０５	坏蓋　高(1.3)	〃	〃	〃　良好	黄灰・同
39－402	ＳＪ０５	坏蓋　高(1.5)	〃	〃	〃　良好	灰・同
39－403	ＳＪ０５	坏蓋　高(0.7)	天井はほぼ平坦	切離は篦切→篦削	〃　堅緻	灰白・同
39－404	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.3)	天井は平坦　体部は反る　つまみは平坦な擬宝珠	切離は篦切→底面篦削	〃　堅緻	褐灰　〃
39－405	ＳＪ０５	坏蓋　(口16.1)　天 2.5	天井は平坦　体部は直線的　端部は屈曲しやや外傾	切離は篦切→篦削	〃　堅緻	灰白　灰
39－406	ＳＪ０５	坏蓋　高(1.7)	天井は平坦	〃	〃　堅緻	褐灰・同
39－407	ＳＪ０５	坏蓋　(口15.8)　天 2.8	天井は平坦　体部は緩く反る　端部は屈曲し逆Ｓ字状に立つ	切離は篦切→撫	〃　良好	明褐灰　〃
39－408	ＳＪ０５	坏蓋　(口17.1)	体部は強く反る　端部は屈折して立つ	切離は篦切→篦削	〃　堅緻	灰白・褐灰
39－409	ＳＪ０５	坏蓋　(口15.0)	体部は強く膨む　端部は屈曲して外傾	〃	〃　堅緻	黄灰・褐灰
39－410	ＳＪ０５	坏蓋　(口15.6)　天 2.3	体部は平坦　体部は直線的　端部は屈折して外傾	〃	〃　堅緻	灰　〃
39－411	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.6)　(口14.1)	体部は強く反る　端部は屈曲し逆Ｓ字状に外傾	内外は丁寧な撫	〃　良好	黄灰　〃
39－412	ＳＪ０５	坏蓋　(口13.4)　天 2.6	天井は平坦　体部は強く反る　端部は屈曲し逆Ｓ字状で外傾	切離は篦切→撫	〃　良好	褐灰　〃
39－413	ＳＪ０５	坏蓋　(口17.2)	体部は反る　端部は屈曲し外弯	内外は丁寧な撫	〃　堅緻	灰白・灰
39－414	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.0)	天井は平坦　つまみは頭が丸い円盤形	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒少量　堅緻	〃
39－415	ＳＪ０５	坏蓋　高(2.1)	天井は平坦	〃	〃　堅緻	にぶい黄橙・同
39－416 43－1 78-2	ＳＪ０５	坏蓋　高(3.8)　(口14.8)　天(2.3)	天井は平坦　体部は緩く膨む　つまみは頭が丸い円盤形	〃	0.1以下の砂粒微量　不良	にぶい橙　〃
39－417	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.8　(口14.4)　天 1.7	天井は平坦　体部は直線的　つまみは頭が丸い円盤形	〃	〃　不良	〃　〃
39－418	ＳＪ０５	坏蓋　(口16.2)　天 2.6	天井は平坦　体部は直線的　端部は屈曲して立つ	切離は篦切→やや深い篦削	〃　不良	にぶい褐　〃
39－419	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.1	天井は平坦　つまみは平坦で頭が丸い円盤形	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒微量　良好	灰黄褐　〃
39－420	ＳＪ０５	坏蓋　高 2.0	〃	〃	〃　良好	にぶい黄橙・同
40－421	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.4　(口15.6)　(底10.1)	口縁は内弯　体部は直線的　底部は腰が高い　高台は三角形状でやや外傾	切離は篦切→撫　底端部篦削	細砂少量　不良	乳白　〃

第24表　土器観察表(23)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
40－422 46－12	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.6 口15.6　底 9.3	口縁から体部にかけて直線的　底部は端が高い　高台は三角形状でやや外傾	切離は篦切→撫 底・体部端篦削	細砂少量 良好	乳白 〃
40－423 47－1	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.0 口15.6　底10.0	〃	〃	〃 良好	〃 〃
40－424 47－2	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.2 (口15.5)　(底10.3)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端が高い　高台は三角形状でやや外傾	〃	〃 良好	〃 〃
40－425	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.5 (口15.5)　(底11.1)	口縁から体部にかけて直線的　底部は端が高い　高台は三角形状でやや外傾	〃	〃 良好	〃 〃
40－426	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.3 (口12.6)　(底 7.6)	口縁は外反　体部は大きく膨む　底部は中央が薄い　高台は直立気味に外弯	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 〃
40－427 47－3	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.3 (口12.9)　底 8.2	口縁から体部にかけて内弯　底部は中央が薄い　高台は外にふん張る	〃	〃 良好	灰白 浅黄
40－428	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.7 (口13.2)　(底 8.0)	口縁から体部にかけて直線的　底部は平坦で端は角張る　高台は高く三角形	切離は篦切→篦削 ?	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	黄灰 〃
40－429	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.5 (口13.1)　(底 7.8)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端で角張る　高台は高く三角形	〃	〃 堅緻	〃 灰白
40－430	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.7 (口13.2)　(底 9.1)	〃	〃	〃 堅緻	黄灰 灰白
40－431	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.7 (口13.2)　(底 8.7)	〃	〃	〃 堅緻	〃 〃
40－432	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.5 (口13.0)　(底 8.8)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は端で角張る　高台は高く三角形状	〃	〃 堅緻	黄灰 〃
40－433	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.7 (口12.9)　底 8.7	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端で角張る　高台は高く三角形状	〃	〃 堅緻	灰 〃
40－434	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.2 (口13.6)　底 8.2	口縁は外反　体部は大きく膨む　底部は端で角張る　高台は高く三角形状	〃	〃 堅緻	黄灰 〃
40－435 47－4	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.4 (口13.8)　底 8.3	口縁は外反　体部は大きく膨む　底部は端で角張る　高台は高く三角形状	〃	〃 堅緻	褐灰 黄灰
40－436 47－5	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.4 口14.2　底 7.9	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端で角張る　高台は高く三角形状	〃	〃 堅緻	〃 灰黄褐
40－437	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.2 (口14.6)　(底 7.4)	〃	〃	〃 堅緻	黄灰 灰

第25表　土器観察表(24)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
40−438	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.7	口縁は外反　体部は膨む　底部は端で角張る　高台は高く三角形	切離は篦切→篦削？	0.1前後の砂粒少量　堅緻	灰〃
40−439	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.6	〃	〃	〃　堅緻	灰・同
41−440	ＳＪ０５	高台付坏　高(2.9)底 8.8	体部は大きく膨む　底部は厚く平坦で端は角張る　高台は狭く屈曲して外傾	〃	〃良好	灰オリーブ〃
41−441	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.4(口12.9)　(底 7.6)	口縁は直線的　体部は大きく膨む　底部は厚く高台は外傾してふん張る	切離は篦切→撫	〃良好	灰白浅黄
41−442	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.6(口16.2)　(底 9.2)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部端は高い　高台は高く外傾	〃	〃堅緻	褐灰灰黄褐
41−443	ＳＪ０５	高台付坏　高(2.9)(底 8.5)	体部は大きく膨む　底部は中央が薄く端は角張る　高台は高く三角形状	〃	0.1前後の砂粒顕著　堅緻	灰〃
41−444 47−6	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.6口14.8　底 9.6	口縁から体部は直線的　底部は中央が薄く端は角張る　高台は高く三角形状	〃	〃堅緻	〃暗緑灰
41−445 47−7	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.4(口14.7)　(底10.2)	口縁から体部は直線的　底部は中央が薄い　高台は高く三角形で外傾	〃	0.1以下の砂粒少量　堅緻	灰〃
41−446 47−8	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.6(口14.0)　(底 8.8)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部端は角張る　高台は屈曲して外傾	〃	〃堅緻	〃〃
41−447 47−9	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.7(口13.8)　(底 8.5)	口縁は直線的　体部は大きく膨む　底部端は角張る　高台は高く垂直	切離は篦切→撫体下端篦撫？	〃堅緻	〃〃
41−448	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.3(口13.4)　(底 8.9)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　高台は三角形でふん張る　接地部は凹む	切離は篦切→撫	〃堅緻	灰〃
41−449	ＳＪ０５	高台付坏　高(2.4)(底 8.9)	体部は緩く膨む　高台は三角形でふん張る　接地部は凹む	〃	〃堅緻	灰白灰
41−450	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.0(口13.8)　(底 7.4)	口縁は外反　体部は大きく膨む　底部は中央が薄い　高台は長方形状で外傾	〃	〃堅緻	灰黄褐黄灰
41−451	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.7(口14.2)　(底10.0)	〃	切離は篦切→撫体下端篦削	〃堅緻	灰黄灰オリーブ
41−452	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.1口14.2　底 8.8	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は端で高い　高台は狭く外傾	〃	〃堅緻	黄灰〃
41−453	ＳＪ０５	高台付坏　高(2.9)(底 9.2)	体部は緩く膨む　底部は端で高い　高台は長方形状で外傾　接地部は凹む	切離は篦切→底部端篦削→底中央撫	〃良好	淡黄浅黄橙
41−454	ＳＪ０５	高台付坏　高(2.9)(底 9.2)	体部は大きく膨む　底部はほぼ平坦高台は狭く外傾	切離は篦切→撫	〃良好	灰黄灰黄褐

第26表　土器観察表(25)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
41－455	ＳＪ０５	高台付坏　高(1.9) (底 8.6)	底部はほぼ平坦　高台は狭く三角状で外傾　接地部付近に鋭い稜	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰黄 〃
41－456	ＳＪ０５	高台付坏　高(2.4) (底 9.1)	体部は膨む　底部はほぼ平坦　高台は屈折して外傾　接地部付近に鋭い稜	〃	〃 良好	浅黄 灰黄褐
41－457 47－10	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.1 (口13.0)　(底 9.0)	口縁は直線的　体部は大きく膨む　高台は広く外傾	切離は篦切→撫 体下端篦削	〃 良好	灰白 〃
41－458	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.1 (口14.8)　(底 9.5)	口縁は直線的　体部も直線的　高台は先が丸く長方形状で外傾	体下端篦削	〃 堅緻	黄灰 灰白
41－459	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.4 (口12.6)　(底 8.4)	口縁は外反　体部は直線的　高台は長方形状で外にふん張る	〃	〃 堅緻	灰 灰白
41－460	ＳＪ０５	高台付坏　高(3.3) (底 8.6)	体部は大きく膨む　底部は丸味をもつ高台は先が丸い長方形状で外傾	切離は篦切→撫 体下端篦削	〃 良好	〃 褐灰
41－461	ＳＪ０５	高台付坏　高 3.5 (口13.2)	口縁は直線的　体部は大きく膨む　底部内面は凹凸が激しい	〃	〃 良好	黄灰 灰黄
42－462	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.3 (口13.8)　(底 9.9)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端で角張る　高台は外にふん張る	〃	〃 良好	灰白 にぶい黄褐
42－463	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.1 (口12.5)　(底 9.0)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　高台は短く外傾し接地部は凹む	切離は篦切？→撫	〃 堅緻	灰白 黄灰
42－464	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.6 (口12.2)　(底 7.7)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端で角張る　高台は稜をもって外傾	切離は篦切→撫	〃 堅緻	灰褐 〃
42－465	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.5 (口13.8)　(底10.0)	口縁は外反　体部は直線的　高台は稜をもって外傾	切離は篦切？→撫 体下端篦削	〃 良好	灰黄 灰白
42－466	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.8 (口13.4)　(底 9.5)	〃	切離は篦切 体下端篦削	〃 良好	〃 〃
42－467	ＳＪ０５	高台付坏　高(4.2) (底10.0)	体部は緩く膨む　底部は中央で薄い高台は稜をもって直立気味に立つ	〃	〃 良好	にぶい褐 にぶい黄褐
42－468 47－11	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.6 (口14.1)　(底 7.8)	口縁は外反　体部は直線的　高台は鋭い稜をもって外傾	切離は篦切→撫	細砂顕著 良好	〃 暗赤褐
42－469	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.0 (底 9.2)	体部は大きく膨む　底部は端で角張る高台は鋭い稜をもって外傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	灰白 暗赤褐
42－470	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.1 底10.0	体部は大きく膨む　底部は端で丸い高台は鋭い稜をもって外傾	〃	〃 堅緻	灰白 暗赤褐

第27表　土器観察表(26)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
42－471	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.3 底10.4	体部は直線的　底部は端でやや高い 高台は稜をもって外傾	切離は篦切→撫 体下端篦削	細砂少量 良好	灰白 〃
42－472	ＳＪ０５	高台付坏？ 高(6.8) (口16.7)	口縁は外反　体部は直線的　底部は端で丸い	体下端篦削	0.1以下の細砂 顕著　良好	灰 黒褐
42－473 47－12	ＳＪ０５	高台付坏　高 5.0 (口13.0)　(底 8.8)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　高台は外にふん張る	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　不良	灰白 〃
42－474	ＳＪ０５	高台付坏？ 高(1.3) 底 9.7	高台は長方形状に外にふん張る　接地部は僅に凹む	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 灰
42－475	ＳＪ０５	高台付坏？ 高(3.5) 底 9.8	体部は緩く膨む　底部は凹凸がある 高台は厚く長方形状に外傾	〃	〃 不良	にぶい黄橙 〃
42－476	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.6 (口13.3)	口縁は薄く直線的　体部は緩く膨む 底部は端で丸い	切離は不明→撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰黄 黄灰
42－477	ＳＪ０５	高台付坏　高(2.7) (底 9.1)	底部は中央が薄く端で高い　高台は短く外にふん張る	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　不良	灰白 〃
42－478 48－1	ＳＪ０５	高台付坏　高 4.9 (口12.6)　(底 9.2)	口縁はやや外反　体部は直線的　高台は長方形状で外傾	切離は篦切？→撫	〃 堅緻	灰 〃
42－479	ＳＪ０５	坏　高 4.4 (口12.9)　底 8.4	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端で厚いがほぼ平坦	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 にぶい黄橙
42－480	ＳＪ０５	坏　高 3.8 (口12.7)　(底 8.2)	〃	〃	〃 良好	灰白 〃
42－481	ＳＪ０５	坏　高 4.2 (口14.3)　(底10.0)	口縁は外反　体部は直線的　底部は端が厚く屈曲	切離は篦切？→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰黄 黄灰
42－482	ＳＪ０５	坏　高 4.8 (口14.2)　(底 9.4)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は厚く端で丸い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	褐灰 灰
42－483 52－8	ＳＪ０５	坏　高 4.5	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は中央部が厚く端は丸い	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃
42－484	ＳＪ０５	坏　高 4.6 (口14.4)　(底 9.8)	口縁は内弯気味　体部は大きく弯曲 底部は端部が厚く端は凹む	〃	〃 堅緻	灰褐 灰
42－485	ＳＪ０５	坏　高 4.2 (口12.6)　(底 9.0)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部はほぼ平坦で厚く端は屈曲	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	灰白 〃
42－486	ＳＪ０５	坏　高 4.5 (口13.5)　(底 9.3)	口縁は内弯気味　体部は直線的　底部は端で高く屈曲する	〃	0.1～0.2の砂粒 微量　堅緻	〃 〃

第28表　土器観察表(27)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
43−487 52−9	ＳＪ０５	坏　高 3.9 (口13.0)　(底 9.2)	口縁は外反　体部は直線的　底部は厚く平坦で端は屈曲	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 〃
43−488 52−10	ＳＪ０５	坏　高 3.9 口14.1　底 8.5	口縁は内弯気味　体部は僅に反る　底部は中央がやや高く端は丸い	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 〃
43−489	ＳＪ０５	坏　高 3.3 (口13.6)　(底 9.9)	口縁は内弯気味　体部は僅に反る　底部はほぼ平坦で端は丸い	〃	〃 堅緻	灰白 〃
43−490	ＳＪ０５	坏　高 3.9 (口14.9)　(底 9.2)	口縁は外反　体部は弯曲　底部は中央がやや高く端は丸い	〃	〃 堅緻	灰 〃
43−491	ＳＪ０５	坏　高 3.3 (口13.6)　(底 9.2)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は中央がやや高く端は丸い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
43−492 52−11 80−6	ＳＪ０５	坏　高 4.0 口13.7　底 9.5	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端が厚く屈曲	切離は篦切→撫	〃 堅緻	〃 〃
43−493	ＳＪ０５	坏　高 3.5 (口14.6)　(底 9.9)	〃	〃	〃 堅緻	〃 〃
43−494	ＳＪ０５	坏　高 3.8 (口14.1)　(底 9.3)	口縁は外反　体部は膨む　底部は平坦で中央がやや高く端は屈折	〃	〃 堅緻	〃 〃
43−495	ＳＪ０５	坏　高 3.2 (口14.5)　(底10.4)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端は凹む	〃	〃 堅緻	〃 〃
43−496	ＳＪ０５	坏　高 3.6 (口15.1)　(底10.0)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は端で丸い	〃	〃 堅緻	灰白 〃
43−497	ＳＪ０５	坏　高 4.5 (口13.3)　(底 8.9)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で屈曲	〃	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	〃 灰
43−498	ＳＪ０５	坏　高 4.3 (口14.3)　(底 9.6)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端で屈折	切離は篦切？→撫	〃 堅緻	〃 〃
43−499	ＳＪ０５	坏　高 5.0 (口14.5)　(底 8.8)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で屈折	切離は篦切？→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰黄 〃
43−500	ＳＪ０５	坏　高 4.3 (口14.8)　(底10.0)	〃	切離は篦切？→撫	〃 堅緻	灰 〃
43−501 52−12	ＳＪ０５	坏　高 4.3 (口14.5)　底 9.0	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は中央がやや高く端で屈折	切離は篦切→撫	〃 堅緻	〃 〃
43−502	ＳＪ０５	坏　高 4.0 (口12.9)　(底 8.6)	口縁〜体部にかけて直線的　底部は端が厚く屈折	〃	〃 堅緻	〃 灰白

第29表　土器観察表(28)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
43−503	ＳＪ０５	坏　高 3.5 (口14.6)　(底 8.4)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は中央が高く端は屈折	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 〃
43−504	ＳＪ０５	坏　高 4.1 (口13.2)　(底 7.7)	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　底部は中央がやや高く端は角張る	〃	〃 堅緻	にぶい黄橙 〃
43−505 53−1	ＳＪ０５	坏　高 4.0 口14.7　(底10.0)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は薄く端は角張る	〃	〃 良好	灰白 〃
43−506	ＳＪ０５	坏　高(2.3) 底 9.1	体部は緩く膨む　底部はほぼ平坦で端は屈折	〃	0.1以下の砂粒 微量　良好	〃 〃
43−507	ＳＪ０５	坏　高 4.5 (口14.4)　(底10.0)	口縁はやや外反　体部は弯曲　底部は端が高く丸い	切離は篦切→撫	〃 良好	にぶい黄橙 〃
43−508 53−2	ＳＪ０５	坏　高 4.5 (口13.1)　(底 8.1)	口縁は一旦屈曲して内弯　体部は弯曲　底部は平坦で端は丸い	〃	〃 良好	〃 〃
43−509	ＳＪ０５	坏　高 4.2 (口13.0)　(底 8.7)	口縁〜体部にかけて内弯　底部はやや丸く端も丸い	〃	〃 不良	浅黄橙 〃
43−510	ＳＪ０５	坏　高 3.8 (口12.4)　(底 9.2)	口縁〜体部にかけて内弯　底部は平坦で端は丸い	〃	〃 良好	にぶい黄橙 〃
43−511	ＳＪ０５	坏　高 3.5 (口14.0)　(底 9.8)	口縁〜体部にかけて内弯　底部は中央がやや高く端は丸い	〃	〃 良好	にぶい橙 にぶい赤橙
44−512	ＳＪ０５	坏　高 3.8 (口13.7)　底 8.9	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は中央がやや高い	〃	0.1以下の砂粒 少量　不良	灰白 浅黄橙
44−513	ＳＪ０５	坏　高 3.9 (口14.5)　(底10.1)	口縁は外反　体部は直線的　底部は平坦で端は丸い	〃	〃 堅緻	にぶい黄橙 灰黄褐
44−514	ＳＪ０５	坏　高 3.9 (口13.6)　底 8.8	〃	〃	〃 良好	浅黄橙 〃
44−515 53−3 80−5	ＳＪ０５	坏　高 3.8 (口14.0)　底 9.5	口縁は外反　体部は直線的　底部は平坦で端は屈折	〃	〃 良好	にぶい黄橙 淡黄
44−516	ＳＪ０５	坏　高 3.9 (口14.4)　底 8.2	口縁〜体部にかけて外反　底部は薄く平坦で台状に突出	〃	〃 良好	灰白 浅黄
44−517	ＳＪ０５	坏　高 3.7 (口13.5)　(底 9.0)	口縁〜体部にかけて外反　底部は薄く中央が高い　端は屈折	切離は篦切→撫 渦明瞭	〃 良好	浅黄橙 灰白
44−518 55−5	ＳＪ０５	埦　高 5.2 (口10.9)　底 5.5	口縁〜体部にかけて外反　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切？	〃 堅緻	黄灰 灰

第30表　土器観察表(29)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
44－519	ＳＪ０５	坏　高 3.5 (口12.5)　(底 8.7)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は端が丸い	切離は篦切→撫 体部は木口の撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 灰
44－520	ＳＪ０５	坏　高(2.1) (底 9.4)	体部は膨む　底部は凹凸はあるが平坦端は凹む	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	にぶい黄橙 灰褐
44－521	ＳＪ０５	ミニチュア壺　高(4.2) (口7.1)	口縁は外反し頸部はくの字状　肩部はやや張り屈曲して体部に至る	内外に丁寧な撫	〃 堅緻	灰 黄灰
44－522	ＳＪ０５	長頸壺　高(5.5) (口7.8)	口縁は外反し強い稜をつくる　首中央部は直端に厚い	内外に撫	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰 〃
44－523	ＳＪ０５	長頸壺　高(2.9) (口8.5)	口縁は屈曲し直線的に外反　首中央から大きく開く	内外に丁寧な撫	〃 堅緻	〃 暗灰
44－524	ＳＪ０５	坏　高(1.5) (底9.4)	体部は膨む　底部は中央が高く端は屈曲して凹む	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 〃
44－525 55－6	ＳＪ０５	壺蓋 (口17.0)　天 3.9	天井は中央部が凹み肩部が高く丸い　口縁は直線的でやや外反	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
44－526 55－7	ＳＪ０５	壺蓋 (口11.8)　天 2.2	肩部は丸い　口縁は直線的でやや内反　尖端は鋭い	内外に撫	〃 堅緻	〃 〃
44－527 55－8	ＳＪ０５	壺蓋　高 3.0 口10.3　天 2.3	天井は平坦　肩部は丸い　口縁はやや内反気味　つまみは頭が丸い円盤状	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	〃 灰白
44－528 55－9	ＳＪ０５	壺蓋 (口16.8)　天 3.6	天井は中央部が凹み肩部が高く丸い　口縁はやや外反し尖端内側が突出	〃	〃 堅緻	灰 灰白
44－529 55－10	ＳＪ０５	壺蓋 (口11.3)　天 2.5	天井は中央が凹み肩部は高く丸い　口縁は直立気味だが反り尖端内側が突出	〃	〃 堅緻	灰 暗オリーブ灰
44－530 55－11	ＳＪ０５	壺蓋　高 3.9 (口6.3)　天 3.0	天井は平坦で肩部は丸い　口縁直立　尖端は内側で突出　つまみは擬宝珠	〃	〃 堅緻	灰 灰白
44－531	ＳＪ０５	鉄鉢　(口20.8)	口縁は強く内弯　体部は緩く弯曲	体部は篦削	〃　堅緻	灰白・灰
44－532 56－1	ＳＪ０５	高坏　高 7.1 (口17.3)	体部は浅く口縁は直立気味　脚部は柱状で裾部は大きく開く	体部は篦切→篦削 脚部は掻目	〃　堅緻	灰 黒
44－533 56－2	ＳＪ０５	高台付坏　高 7.8 口17.6　底 8.7	口縁は外反　体部は直線的　底部は平坦で端は角張る　接地部は凹む	切離は篦切→篦削 体下端篦削	〃　堅緻	灰黄 灰白
44－534 81－8	ＳＪ０５	壺？　高 2.7 (底 9.2)	体部は弯曲　高台は鋭く長い稜をもち外傾　接地部は尖る	内面に同心円状の掻目	〃　堅緻	明紫灰 灰
44－535	ＳＪ０５	壺？　高 1.6 (底12.4)	高台は外傾し一旦強く屈折して直立	内外に丁寧な撫	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	〃 〃

第31表　土器観察表(30)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
44－536	ＳＪ０５	高台坏　高(1.5) (底 7.2)	体部は直線的？　底部は平坦で端は角張る　高台は短く外反	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 黄灰
44－537	ＳＪ０５	高台坏？　底 4.8	底部は厚く平坦　高台は三角状に立つ	〃	〃　堅緻	暗灰黄
45－538 59－2	ＳＪ０５	横瓶　高(24.9) (口13.3)　(長35.6)	口唇は平坦で口縁は外反　頸部はくの字に屈折し肩部は水平で端は丸い	外は平行叩→掻目 内は円文叩→掻目	〃 堅緻	灰 〃
45－539 59－3	ＳＪ０５	横瓶　高24.8 (口13.5)	口唇は平坦で口縁は外反　頸部はくの字に屈折　肩部はやや丸味あり	外は平行叩→掻目 内は円文叩	〃 堅緻	〃 〃
45－540	ＳＪ０５	短頸壺　(高28.6) (口15.6)　(底16.0)	口唇は僅に凹み口縁は外反　頸部は弯曲　肩部は強く張り底部は平坦	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ 灰
45－541 56－3	ＳＪ０５	鉢　高17.5 口24.4　底13.0	口唇は平坦で外傾　頸部はくの字状に屈折　肩部は鋭く張り底部は平坦	外は叩→掻目 体下端篦削 底篦削 内は掻目	0.1以下の砂粒 顕著　不良	灰白 〃
45－542 60－5	ＳＪ０５	小甕　高19.3 (口16.4)　(底10.0)	口唇は平坦で外傾　頸部は弯曲　肩部の張りは弱い　底部は中央がやや高い	外は叩→体下端篦削　内撫　底篦削	〃 堅緻	灰 〃
46－543 56－4	ＳＪ０５	四耳壺　高(32.2) (口14.8)	口唇は水平で凹む　底部は大きく張り四つの耳をもつ　頸部はくの字に屈折	外は平行叩→撫 内は円文叩→頸撫	〃 堅緻	灰白 灰
46－544	ＳＪ０５	四耳壺　頸(14.0)	肩部は大きく弯曲し四つの耳をもつ	外は平行叩→内は円文叩	〃　堅緻	灰・灰オリーブ
46－545	ＳＪ０５	短頸壺　高(5.0) (口16.5)	口唇は僅に凹み外側に丸い稜をもつ　口縁は直立　肩部はやや張る	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰白 黄灰
46－546	ＳＪ０５	甕　(口20.4)	口唇は僅に凹む　頸部はくの字に屈曲	外は叩→撫　内撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰・同
46－547	ＳＪ０５	甕　高(12.0) (口17.6)	口唇はほぼ平坦で端部は内弯　頸部はくの字状に屈折　肩部は大きく弯曲	外は縄文叩 内は撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
46－548	ＳＪ０５	甕　高(8.3) (口19.8)	口唇は凹み内外に稜をもつ　頸部はくの字に屈折　肩部はやや強く外傾	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 灰オリーブ
47－549	ＳＪ０５	甕　高(12.9) (口20.2)	口唇はやや丸く外に稜をつくる　頸部はくの字に屈曲し肩部は外傾	〃	〃 堅緻	灰 灰オリーブ
47－550 67－9	ＳＪ０５	甕　高 15.6 (口21.0)	口唇は僅に凹み外傾　頸部はくの字に屈折　肩部は大きく弯曲　外に稜もつ	外は撫→平行叩 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
47－551 60－6	ＳＪ０５	甕　高(40.0) (口20.6)	口唇はやや丸く内外に稜をもつ　頸部はくの字に屈曲　肩部は緩く弯曲	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰 〃
48－552 67－10	ＳＪ０５	甕　高(17.3) (口24.6)	口唇は凹み内外に稜をもつ　頸部はくの字に屈曲　肩部は大きく弯曲	外は平行叩→掻目 内は円文叩	〃 堅緻	灰白 〃
48－553 61－1	ＳＪ０５	甕　(高49.5) (口28.0)　(頸23.6)	口唇は凹み外傾し内外に稜をもつ　頸部はくの字に屈曲　肩部は大きく弯曲	外は平行叩 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰オリーブ 〃

第32表　土器観察表(31)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
49−554 61−2	ＳＪ０５	甕　高(21.9) (口16.8)　(頸14.0)	口唇は僅に凹む水平で内に稜をもつ 頸部はくの字に屈曲　肩は大きく弯曲	外は平行叩→掻目 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
49−555 61−3	ＳＪ０５	甕　高31.1 (口15.1)　(頸13.5)	口縁は外反　頸部はくの字状に弯曲 肩部は大きく弯曲し底部は丸い	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	〃 〃
49−556 71−1	ＳＪ０５	甕	口縁は折返状　口唇に沈線	内外に丁寧な撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	暗灰黄・灰黄褐
49−557 71−1	ＳＪ０５	甕	口唇は凹んで丸味もつ	外叩→撫　内撫	〃　堅緻	灰・同
49−558 71−1	ＳＪ０５	甕	〃	〃	〃　堅緻	〃
49−559 71−1	ＳＪ０５	甕	口縁は折返状で内面に凹有	外は平行叩→内撫	〃　堅緻	〃
49−560 71−1	ＳＪ０５	甕	口縁には２つの鋭い稜をもつ	内外に撫	〃　堅緻	灰オリーブ・黒
49−561 71−1	ＳＪ０５	甕	口縁には２つの稜をもち折返状になる	外は平行叩→内撫	〃　堅緻	灰オリーブ・灰
50−562	ＳＪ０５	甕　高(17.7) (口48.6)	口唇は外傾し内外と中央に稜をもつ 頸部は緩く膨む	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰 〃
50−563 68−1	ＳＪ０５	甕　高(1.8) (口58.2)	口縁は外弯　口唇は内傾し内外に稜を もつ	外は撫→波状文 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
50−564	ＳＪ０５	甕　高(9.3) (口46.4)	口唇は僅に凹む　口縁には２つの稜を もち大きく外反	外は撫→波状文 内は撫	0.1〜0.2の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ 灰
50−565 68−2	ＳＪ０５	甕　高(12.6) (口52.2)	口唇は凹んで外傾し内外に稜をもつ 口縁は直線的で端部が外弯	外は撫→波状文 内は撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
51−566 61−4・5	ＳＪ０５	甕　高(47.5) (口47.0)	口唇は僅に凹んで垂直　頸部はくの字 状に屈折　肩部は大きく弯曲	外は平行叩→掻目・ 波状文→内は円文叩→掻目	〃 堅緻	黄灰 灰オリーブ
51−567 71−1	ＳＪ０５	甕	口唇は外傾し内外と中央に稜をもつ	外は平行叩　内撫	〃　堅緻	オリーブ黒・同
51−568 71−1	ＳＪ０５	甕	口縁は外反	外は叩→撫　内撫	〃　堅緻	灰・同
51−569 71−1	ＳＪ０５	甕	口縁は折返状で２つの稜有　内に沈線	〃	〃　堅緻	〃
51−570 71−1	ＳＪ０５	甕	口唇は丸く外傾し尖端は鋭い	〃	〃　堅緻	灰白・灰
53−571	ＳＴ１９	坏蓋　高 3.2 (口16.0)　天 2.4	天井はやや丸い　体部は僅に反る　端 部は丸く短く立つ　つまみは碁石形	切離は篦切？	0.1以下の砂粒 微量　不良	乳白 〃
53−572 43−2	ＳＴ１９	坏蓋　高 3.0 口15.9　天 2.2	天井は丸い　体部は僅に反る　端部は 短く垂直で内面に沈線　つまみは扁平	切離は篦切？→篦 削はやや深い	〃 不良	〃 〃
53−573	ＳＴ１９	坏蓋 (口15.5)　天 2.1	天井は狭く平坦　体部は緩く膨む　端 部は小さな稜をつくり立つ	切離は篦切？→篦 削はほぼ全面	〃 堅緻	明オリーブ灰 灰白
53−574 43−3	ＳＴ１９	坏蓋　高 3.2 (口15.0)　天(2.6)	天井は平坦　体部は大きく弯曲　端部 は屈折して内傾　つまみは円盤状	切離は篦切？→篦 削りはやや深い	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰黄 灰黄褐

第33表　土器観察表(32)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
53－575 43－4	ＳＴ１９	坏蓋　高 3.0 口15.1　天 2.1	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は垂直で内は凹む　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃
53－576	ＳＴ１９	坏蓋 口13.7　天 1.0	天井は低く平坦　体部は僅に反る　端部は屈曲して外傾	〃	〃 堅緻	黄灰 〃
53－577	ＳＴ１９	坏蓋　高 2.6 (口14.1)　天 1.8	天井は平坦　体部は僅に反る　端部は屈折し先尖は外弯　つまみはボタン状	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰白 〃
53－578	ＳＴ１９	坏蓋　高 2.6 (口15.1)　天 1.7	天井は平坦　体部は僅に反る　端部は緩く屈曲し丸い　つまみはボタン状	〃	〃 堅緻	灰 〃
53－579	ＳＴ１９	坏蓋　高 2.8 (口14.0)　天 2.0	天井は平坦　体部は僅に反る　端部は屈曲し直立　つまみはボタン状	〃	〃 堅緻	〃 〃
53－580	ＳＴ１９	坏蓋　高(1.4)	天井は広く平坦　つまみはボタン状	〃	〃　堅緻	明オリーブ灰・灰
53－581	ＳＴ１９	坏蓋　高(1.5)	天井は平坦　つまみはボタン状	〃	〃　堅緻	灰白・同
53－582	ＳＴ１９	坏蓋　高(1.6)	〃	〃	〃　堅緻	〃
53－583	ＳＴ１９	坏蓋　高(1.7)	〃	〃	〃　堅緻	黄灰・同
53－584	ＳＴ１９	坏蓋　高(1.5)	〃	〃	〃　堅緻	〃
53－585	ＳＴ１９	坏蓋　高(1.6)	〃	〃	〃　堅緻	〃
53－586	ＳＴ１９	坏蓋　高(1.6)	〃	〃	〃　堅緻	黄灰・灰白
53－587	ＳＴ１９	坏蓋　高(1.6)	〃	〃	〃　堅緻	黄灰・同
53－588	ＳＴ１９	坏蓋　高(2.0)	天井はやや丸い　つまみは亀頭形	〃	〃　不良	淡黄・同
53－589 43－5	ＳＴ１９	坏蓋　高 3.1 (口12.6)	天井は平坦で体部は僅に反る　端部は屈曲して外傾　つまみは亀頭形	〃	〃 良好	灰 灰白
53－590	ＳＴ１９	坏蓋 (口14.5)　天 1.7	天井は低く平坦　体部は僅に反る　端部は逆Ｓ字状に屈曲し外傾	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	〃 〃
53－591	ＳＴ１９	坏蓋 (口13.8)　天 2.2	天井はやや丸い　体部は僅に反る　端部は逆Ｓ字状に屈曲して外傾	〃	〃 良好	〃 〃
53－592	ＳＴ１９	坏蓋　高(2.7)	天井は平坦　体部は反る	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰・同
53－593	ＳＴ１９	坏蓋　(口14.5)	体部は直線的　端部は丸く屈曲	篦削	〃　堅緻	灰白・灰褐
53－594	ＳＴ１９	坏蓋　高(1.8)	天井は平坦　つまみは頭が丸いボタン状	切離は篦切→撫	〃　良好	明褐灰・灰
53－595	ＳＴ１９	高台付坏　高(2.1) (底 8.0)	体部は弯曲　底部は端が厚い　高台は外にふん張り接地部は平坦	〃	〃 良好	灰オリーブ 〃
53－596 48－2	ＳＴ１９	高台付坏　高 5.4 口15.8　底 9.9	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部はやや膨み端は高い　高台は外傾	切離は篦切→撫 体下端篦撫	細砂少量 不良	乳白 〃

第34表　土器観察表(33)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
53−597	ＳＴ１９	高台付坏　高 4.9 (口13.0)　底 9.1	口縁は直線的　体部は僅に反る　底部は端で角張る　高台は高く三角形状	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	褐灰 〃
53−598	ＳＴ１９	高台付坏　高 4.8 底 8.8	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は平坦で端で角張る　高台は三角形状	〃	〃 堅緻	黄灰 〃
53−599	ＳＴ１９	高台付坏　高 4.7 (口13.3)　(底 8.4)	口縁〜体部は直線的　底部はやや丸く端は屈曲　高台は三角形状で直立	〃	〃 堅緻	〃 〃
53−600	ＳＴ１９	高台付坏　高 4.6 (口13.7)　(底 8.9)	口縁〜体部は直線的　底部はやや丸く端は屈曲　高台は三角形状でやや外傾	〃	〃 堅緻	〃 〃
54−601	ＳＴ１９	高台付坏　高(3.0) (底 8.1)	体部は緩く膨む　底部は平坦で端は角張る　高台は三角形状で直立	〃	〃 堅緻	褐灰 〃
54−602	ＳＴ１９	高台付坏　高 4.8 (口12.6)　(底 8.4)	体部はやや外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で角張る　高台は高く三角形	〃	〃 堅緻	灰白 灰黄
54−603	ＳＴ１９	高台付坏　高 5.1 (口13.2)　(底 9.2)	口縁は直線的　体部は僅に反る　底部は平坦で端は角張る　高台は三角形状	〃	〃 堅緻	黄灰 灰白
54−604	ＳＴ１９	高台付坏　高(3.6) (底 9.0)	体部は緩く膨む　底部は平坦で端は角張る　高台は高く外傾	〃	〃 堅緻	黄灰 〃
54−605	ＳＴ１９	高台付坏　高(3.0) (底 8.5)	体部は緩く膨む　底部は平坦で端はやや丸い　高台は三角形状で直立	〃	〃 堅緻	灰白 黄白
54−606	ＳＴ１９	高台付坏　高(4.6)	口縁〜体部にかけて直線的　底部は平坦で端は丸い　高台は三角形状	〃	〃 堅緻	〃 〃
54−607	ＳＴ１９	高台付坏　高(2.8) (底 8.5)	底部は平坦で端は丸い　高台は三角形状で直立	〃	〃 堅緻	黄灰 褐灰
54−608	ＳＴ１９	高台付坏　高(2.9) (底 8.5)	体部は緩く膨む　底部は平坦で端は角張る　高台は三角形状でやや外傾	〃	〃 堅緻	灰白 黄灰
54−609	ＳＴ１９	高台付坏　(口13.1)	口縁は外反　体部は直線的	内外に丁寧な撫	〃　堅緻	褐灰・同
54−610	ＳＴ１９	高台付坏　高 4.4	口縁〜体部は直線的　高台は三角形状	〃	〃　堅緻	灰白・明褐灰
54−611	ＳＴ１９	高台付坏　高 4.1 (口13.0)　(底 8.1)	口縁は外反　体部は大きく弯曲　高台は薄く外傾　底部は中央が薄い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 〃
54−612	ＳＴ１９	高台付坏　高(2.9) (底 8.8)	体部は弯曲　底部は端で丸い　高台は薄く外傾　先端に稜をもつ	〃	〃 良好	〃 灰黄
54−613	ＳＴ１９	高台付坏　高(1.9) (底 8.2)	体部は弯曲　底部はほぼ平坦で端は丸い　高台は直立してから外傾	〃	〃 良好	灰白 〃

第35表　土器観察表(34)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
54－614	ＳＴ１９	高台付坏　高 3.0 (底 8.8)	体部は弯曲　底部の端はやや高い　高台はやや太く直立	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 黄灰
54－615	ＳＴ１９	高台付坏　高(2.0) (底 8.4)	体部は弯曲　底部はほぼ平坦で端が丸い　高台は短く外にふん張る	〃	〃 堅緻	灰白 黄灰
54－616	ＳＴ１９	高台付坏　高(2.2)	体部は弯曲　底部はほぼ平坦	〃	〃　堅緻	灰白・同
54－617	ＳＴ１９	高台付坏　高 6.0 (底 8.7)	体部は緩く膨む　底部は端がやや高く丸い　高台は外傾し尖端は内に屈折	〃	〃 良好	灰 〃
54－618	ＳＴ１９	高台付坏　高 5.6 (口13.9)　(底 8.9)	口縁～体部は内弯気味　底部は厚い　高台は外傾し強い稜をもつ	〃	0.1以下の砂粒 微量　良好	にぶい黄橙 灰黄
54－619	ＳＴ１９	高台付坏　高(3.9) (底 9.0)	体部は弯曲　底部は中央が低く端が高い　高台は尖端がやや丸く外傾	〃	〃 良好	黄灰 灰褐
54－620	ＳＴ１９	高台付坏　高 3.0 (底 8.9)	体部は弯曲　底部は中央が低く端が高い　高台は直立気味にふん張る	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	浅黄橙 にぶい黄橙
54－621	ＳＴ１９	高台付坏　高(2.3) (底10.0)	体部は弯曲　底部は平坦で端は角張る　高台は長方形に直立し内に稜をつくる	切離は篦切→撫 体下端篦削	〃 良好	〃 浅黄
54－622	ＳＴ１９	坏　高 4.1 (口12.9)　底 7.1	口縁～体部は内弯気味　底部は厚く平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰白 浅黄
54－623	ＳＴ１９	坏　高 3.1 (口14.0)　(底10.2)	口縁は外反　体部は直線的　底部は平坦で端は丸い	〃	〃 堅緻	灰白 灰
54－624	ＳＴ１９	甕	口唇はやや丸く平坦で内外に稜をもつ	内外に丁寧な撫	細砂微量　良好	乳白・同
54－625	ＳＴ１９	壺？　(底11.9)	高台は外にふん張り接地面は平坦	〃	〃　良好	〃
55－626 61－6	ＳＴ１９	甕　高38.8 (口23.8)	口唇に３つの稜　頸部はくの字に屈折　肩部は強く弯曲	外は平行叩→掻目 内は押え→掻目	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	にぶい褐 黄褐
55－627 62－1	ＳＴ１９	甕　高34.6 (口23.8)	口唇は垂直で内外に稜　頸部はくの字に屈曲　肩部は強く弯曲	外は縄文叩 内は押え→撫	〃 堅緻	黄灰 〃
55－628 62－2	ＳＴ１９	小甕　高25.7 (口12.8)	口唇部は凹む　口縁は直立気味で頸部はくの字状　底部は砲弾形で厚い	外は掻目 内は掻目	〃 堅緻	黄褐 灰
59－629	ＳＴ１７	坏蓋　高(2.2) (口15.4)	体部は僅に反る　端部は稜を成し屈折して内傾　屈折部内面に沈線	篦削ほぼ全面	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	黄灰 暗灰黄
59－630	ＳＴ１７	坏蓋　高(1.8)	天井は丸い　つまみは扁平な擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰白・同
59－631	ＳＴ１７	坏蓋　(口18.5)	体部は緩く膨む　端部は屈折して立つ	篦削	〃　堅緻	淡黄・灰
59－632 43－6	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.1 (口17.8)　天 2.2	天井はほぼ平坦　体部は弯曲　端部は屈折して立つ　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	灰 〃

第36表　土器観察表(35)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
59－633	ＳＴ１７	坏蓋　高(2.0)	天井は丸い　つまみは扁平な擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
59－634	ＳＴ１７	坏蓋　(口17.4)	体部は緩く膨む　端部は屈折して立つ	篦削はやや深い	〃　堅緻	灰白・灰
59－635	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.0 口14.7　天 2.3	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は 屈折して立つ　つまみは扁平	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	灰白 灰
59－636	ＳＴ１７	坏蓋　高 2.6 口13.7　天 2.0	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は 屈折して内傾　つまみは扁平	〃	〃 堅緻	〃 黒
59－637	ＳＴ１７	坏蓋 口14.8　天 2.1	〃	〃	〃 堅緻	灰 〃
59－638	ＳＴ１７	坏蓋 口14.7　天 2.1	〃	〃	〃 堅緻	灰白 灰
59－639	ＳＴ１７	坏蓋　(口14.8)	体部は緩く膨む　端部は屈折して立つ	〃	〃　堅緻	灰白・灰
59－640	ＳＴ１７	坏蓋 (口14.0)　天 2.2	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は 屈折して内傾	〃	〃 堅緻	灰白 灰
59－641	ＳＴ１７	坏蓋 (口14.0)　天 2.2	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は 逆Ｓ字状に屈折して立つ	〃	〃 堅緻	〃 〃
59－642	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.6)　天 2.4	天井は丸い　体部はやや反る　端部は 屈折してやや内傾	〃	〃 堅緻	青灰 〃
59－643	ＳＴ１７	坏蓋　(口14.6)	体部は緩く膨む　端部は屈折して立つ	〃	〃　堅緻	オリーブ黒・灰
59－644	ＳＴ１７	坏蓋　(口13.8)	体部は反る　端部は逆Ｓ字状に屈折	〃	〃　堅緻	灰白・灰
59－645 43－7	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.0 口13.8　天 2.3	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は 屈折して内傾　つまみは扁平	〃	〃 堅緻	灰白 〃
59－646	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.4 口14.5　天 2.5	〃	〃	〃 堅緻	〃 紫灰
59－647	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.3 (口13.6)　天 2.6	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は 屈折して短く内傾　つまみはボタン状	〃	〃 堅緻	灰 〃
59－648 43－8	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.5 口13.8　天 2.7	天井は丸い　体部は膨む　端部は屈折 して立つ　つまみは扁平な擬宝珠	〃	〃 堅緻	〃 〃
59－649	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.8)　天 2.8	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は 逆Ｓ字状に屈折し直立する	〃	〃 堅緻	〃 〃
59－650	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.5)　天 2.9	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は 屈折して内傾	〃	〃 堅緻	〃 〃
59－651	ＳＴ１７	坏蓋　(口14.0)	体部は僅に反る　端部は屈折して立つ	〃	〃　堅緻	〃

第37表　土器観察表(36)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
59－652	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.6)　天 2.5	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は屈折して内傾	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	淡黄 灰
59－653	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.8)　天 2.7	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は屈折して直立	〃	〃 堅緻	淡黄 灰
59－654	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.4)　天 3.4	天井は三角形状　体部は膨む　端部は屈折して内傾	〃	〃 堅緻	淡黄 灰黄
59－655	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.8)　天 3.0	天井は三角形状　体部は直線的　端部は屈折して内傾	〃	〃 堅緻	灰白 灰
59－656 43－9	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.5 (口13.9)　天 2.2	天井は丸く低い　体部はやや膨む　端部は鈍く屈曲し直立　つまみは擬宝珠	〃	0.1～0.2の砂粒 微量　良好	淡黄 灰黄
59－657 43－10	ＳＴ１７	坏蓋　高 2.9 (口14.2)　天 2.1	天井はやや丸い　体部はやや膨む　端部は屈曲し外傾　つまみはボタン状	〃	0.1～0.2の砂粒 少量　良好	明黄褐 淡黄
59－658 43－11	ＳＴ１７	坏蓋　高 2.9 (口14.6)　天 1.8	天井は低く平坦　体部は直線的　端部は屈折し外弯　つまみは亀頭形状	〃	0.1前後の砂粒 少量	浅黄 淡黄
59－659	ＳＴ１７	坏蓋 (口16.0)　天 3.1	天井は丸く高い　体部は膨む　端部は稜をつくって屈曲し外反	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	にぶい黄 浅黄
59－660	ＳＴ１７	坏蓋 (口14.4)　天 2.8	天井はやや丸い　体部はやや反る　端部は屈曲しやや外反	〃	〃 良好	にぶい黄橙 淡黄
60－661	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 (口13.5)　(底 9.1)	口縁から体部は直線的　底部は端が高い　高台は三角形状でやや外傾	切離は篦切→撫 底部端篦削　体部篦撫?	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	暗オリーブ灰 灰白
60－662 48－3	ＳＴ１７	高台付坏　高(3.6) 口(15.4)　底 9.2	口縁から体部は直線的　底部から体部は屈折　高台は高く三角形状	切離は篦切→撫 体部篦撫?底部内面不定撫	〃 堅緻	オリーブ灰 オリーブ黒
60－663	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.8 (口14.9)　(底 9.7)	口縁から体部は直線的　底部は端が高い　高台は高く三角形状でやや外傾	底部端は篦削　底部内面不定撫	〃 堅緻	黄灰 オリーブ黒
60－664	ＳＴ１７	高台付坏　底 8.6	高台は三角形状でやや外傾	切離は篦切→撫	〃　堅緻	オリーブ黒 灰オリーブ
60－665	ＳＴ１７	高台付坏　(底 9.2)	〃	〃	〃　堅緻	灰　・　同
60－666	ＳＴ１７	高台付坏　(底 9.2)	底部端は高い　高台は三角形状	〃	〃　堅緻	〃
60－667	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.1 (口16.1)　(底10.1)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部端は厚い　高台は長方形状でやや外傾	〃	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰 灰白
60－668	ＳＴ１７	高台付坏　高 5.6 (口15.2)　(底 9.1)	口縁は僅に外反　体部は直線的で沈線有　底部端は厚い　高台は平行四辺形状	〃	〃 堅緻	灰 黒
60－669	ＳＴ１７	高台付坏　高 5.7 (口16.2)　(底 9.4)	口縁は直線的　体部は僅に膨み沈線有　底部は端が厚い　高台は長方形状	〃	〃 堅緻	灰 灰白

第38表　土器観察表(37)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
60－670 48－4	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.0 口16.2　底10.0	口縁はやや外反　体部は直線的で沈線有　底部端はやや厚い　高台は外傾	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰 灰白
60－671	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.5 口15.6　底 9.3	口縁は大きく外反　体部は直線的で沈線有　底部端は厚い　高台は外傾	切離は篦切→撫 底部端篦削	〃 堅緻	黄灰 灰
60－672	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.2 口16.3　底10.5	口縁はやや外反　体部はやや膨み沈線有　底部端は厚い　高台は三角形状	切離は篦切→撫	〃 堅緻	〃 黒
60－673	ＳＴ１７	高台付坏　(口15.9)	口縁はやや外反 体部は直線的 沈線有	内外撫	〃　堅緻	灰白・灰
60－674	ＳＴ１７	高台付坏　(口14.8)	〃	〃	〃　堅緻	灰白・同
60－675	ＳＴ１７	高台付坏　(口16.3)	〃	〃	〃　堅緻	灰・灰白
60－676	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.0 口13.0　底 9.1	口縁から体部は直線的　底部は中央と端が高い　高台は方形状で直立	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 黒
60－677	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.0 口13.8　底 9.0	口縁はやや外反　底部は端が厚い　高台は低く逆三角形状で直立	〃	〃 堅緻	灰 〃
60－678	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.1 (口13.0)　(底 8.3)	口縁は内弯　体部は直線的　底部は端が高い　高台は低く逆三角形状で直立	〃	〃 堅緻	〃 黒
60－679	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 口12.4　底 8.7	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端が高い　高台は方形状でやや外傾	〃	〃 堅緻	黄灰 オリーブ黒
60－680 48－5	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 口13.1　底 8.7	口縁はやや外反　体部は直線的　底部の端と中央が高い　高台は直立	〃	〃 堅緻	褐灰 黒
60－681 48－6	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 (口13.5)　(底 9.3)	口縁は直線的　体部はやや膨む　底部は端が高い　高台は方形状でやや外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒
60－682	ＳＴ１７	高台付坏　高(4.0) (底 8.7)	体部は緩く膨む　底部は端でやや高い　高台は高く外傾し接地部は平坦	〃 渦の痕跡	0.1以下の砂粒 微量　良好	にぶい黄 浅黄
60－683 48－7	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 (口12.5)　(底 7.1)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は端が厚い　高台は高くくの字状	切離は篦切	〃 良好	灰黄 暗黄灰
61－684	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.2 (口13.5)　(底 9.3)	口縁から体部は直線的　底部は端で厚い　高台は台形状で直立	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 黒
61－685	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.2 (口13.3)　(底 9.3)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は端で厚い　高台は逆三角形状で外傾	〃	〃 堅緻	灰 〃
61－686	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.6 口12.9　底 9.2	口縁から体部は直線的　底部の端は厚い　高台は低く逆三角形状でやや外傾	〃	〃 堅緻	〃 黒
61－687 48－8	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 口13.5　底 8.9	口縁は外反　体部は直線的　底部は端で厚い　高台は低く逆三角形状	〃	〃 堅緻	褐灰 オリーブ黒

第39表　土器観察表(38)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
61－688	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口13.0)　(底 8.6)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は端が厚い　高台は方形状で外傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 黒
61－689	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 (口12.6)　(底 8.1)	口縁から体部は内弯する　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で立つ	〃	〃 堅緻	灰 灰白
61－690	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.2 口13.5　底 9.4	口縁から体部は直線的　底部は端がやや厚い　高台は逆三角形状で立つ	〃	〃 堅緻	黄灰 〃
61－691	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.2 (口12.4)　(底 8.8)	口縁は内弯気味　体部は直線的　底部は端が厚い　高台は短く外傾	〃	〃 堅緻	灰 〃
61－692	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口13.4)　(底 8.7)	口縁から体部は直線的　高台は逆三角形状で接地部は平坦	〃	〃 堅緻	〃 灰白
61－693	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 口13.1　底 9.3	口縁はやや外反　体部は直線的　高台は低く菱形状で外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒
61－694	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口13.4)　(底 8.9)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は端が厚い　高台は低く菱形状で外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒
61－695	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.2 (口13.2)　(底 9.4)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端が厚い　高台は低くやや外傾	〃	〃 堅緻	灰白 黒
61－696	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 口13.0　底 8.8	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は端は厚い　高台は低くやや外傾	〃	〃 堅緻	灰 暗灰
61－697	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 (口12.1)　(底 8.0)	口縁から体部は直線的　底部の端は厚い　高台は逆三角形状でやや外傾	〃	〃 堅緻	灰黄 黒
61－698 48－9	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 口13.2　底 9.0	〃	〃	〃 堅緻	〃 灰白
61－699	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 口13.5　底 9.5	口縁から体部は直線的　底部は薄い　高台は菱形状でやや外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒
61－700	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 口13.0　底 8.8	口縁から体部は直線的　底部の端は厚い　高台は低く菱形状で外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒
61－701	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 口13.1　底 7.5	口縁から体部は直線的　底部の端は厚い　高台は逆三角形状で立つ	〃	〃 堅緻	灰 黒
61－702	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口13.0)　(底 9.5)	口縁から体部は直線的　底部は薄く端は厚い　高台は低く逆三角形状で外傾	〃	〃 堅緻	褐灰 黒
61－703	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口13.0)　(底 8.8)	口縁から体部は内弯気味　底部の端は厚い　高台は方形状に外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒

第40表　土器観察表(39)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
61－704	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口13.0)　(底 8.3)	口縁から体部は直線的　底部端は厚い　高台は逆三角形で外傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 黒
61－705	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 口13.2　底 8.7	口縁は短くやや外反　体部は直線的　底部は端が厚い　高台は逆三角形状	〃	〃 堅緻	褐灰 黒褐
61－706	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 (口13.3)　(底 9.2)	口縁から体部は内弯気味　底部は端が厚い　高台は菱形状で外傾	〃	〃 堅緻	灰白 黒
61－707	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.1 (口13.3)　(底 9.2)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部の端は厚い　高台はやや外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒
61－708	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.1 (口13.4)　(底 8.5)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部の端は厚い　高台は短く外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒
61－709	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 (口12.8)　(底 7.6)	口縁は内弯気味　体部は直線的　高台はくの字状で接地部に沈線がある	〃	〃 堅緻	灰 緑黒
62－710	ＳＴ１７	坏　高 4.1 (口13.0)　底 8.4	口縁から体部は内弯気味　底部は丸く端は厚い	〃	細砂少量 堅緻	灰白 〃
62－711 53－4	ＳＴ１７	坏　高 4.0 口12.5　底 8.3	口縁から体部は内弯気味　底部は丸く中央が厚い	〃	〃 堅緻	〃 〃
62－712 53－5	ＳＴ１７	坏　高 3.7 (口12.5)　(底 8.9)	口縁から体部は内弯気味　底部は丸い	〃	〃 堅緻	明オリーブ 灰白
62－713 53－6	ＳＴ１７	坏　高 4.0 口13.7　底 7.8	口縁から体部は内弯気味　底部は丸く端は厚い	切離は篦切→撫 内部端に木具痕	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 暗灰
62－714 53－7	ＳＴ１７	坏　高 3.9 口13.8　底 8.5	口縁は内弯気味　体部は直線的　底部は丸く端は厚い	〃	〃 堅緻	灰 明オリーブ灰
62－715	ＳＴ１７	坏　高 3.6 (口14.2)　(底 9.0)	口縁から体部は直線的　底部は丸く端は厚い	〃	〃 堅緻	灰 明オリーブ灰
62－716	ＳＴ１７	坏　高 4.1 口13.9　底 9.1	口縁から体部は内弯気味　底部は丸く端は厚い　端に凹部がある	〃	〃 堅緻	灰 明青灰
62－717 53－8	ＳＴ１７	坏　高 4.0 口13.0　底 7.7	口縁は直線的　体部はやや膨む　底部は中央が厚い	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 〃
62－718	ＳＴ１７	坏　高 4.2 口13.9　底 9.0	口縁はやや外反　体部は膨む　底部の中央は薄い	〃	〃 良好	〃 〃
62－719	ＳＴ１７	坏　高 3.5 (口12.7)　(底 9.2)	口縁から体部の内弯　底部は薄く中央は高い	切離は篦切	〃 不良	〃 〃

第41表　土器観察表(40)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
62－720	ＳＴ１７	坏　高 3.3 (口14.1)　(底 9.0)	口縁から体部は内弯気味　底部は薄く中央が高い	切離は篦切	0.1前後の砂粒 少量　不良	灰白 〃
62－721 56－5	ＳＴ１７	壺蓋　高 3.4 (口 9.3)　天 2.7	天井は平坦で肩部は丸い　口縁はやや外傾　つまみは扁平な擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰 青灰
62－722 56－6	ＳＴ１７	壺蓋　高 3.2 口13.3　天 2.9	天井は平坦で反る　肩部は角張る　口縁は外傾　つまみは扁平な擬宝珠	切離は篦切→篦削→撫	細砂顕著 堅緻	灰 灰白
62－723 56－7	ＳＴ１７	壺蓋 (口11.7)　天 3.6	天井は平坦でやや反る　肩部は丸い　口縁は直立気味で内に稜をもつ	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	黒 灰白
62－724 56－8	ＳＴ１７	短頸壺　高(6.8) (口12.6)	口縁は直立し内に僅に稜をもつ　肩部は緩く膨む	内外面丁寧な撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	にぶい黄 暗灰黄
62－725 68－3	ＳＴ１７	甕　高(9.9) 口21.0	口縁は外弯　口唇は緩く膨み外傾し内外に稜をもつ	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 〃
62－726	ＳＴ１７	鉢　高(7.1) (口24.1)	口縁は極端に外反　頸部は強く屈折し体上位は大きく膨む	内外面丁寧な撫	〃 堅緻	灰 オリーブ黒
62－727	ＳＴ１７	甕	――	外は平行叩→撫 内は押え→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白・同
62－728 83－8	ＳＴ１７	甕	――	外は縄文叩	〃　堅緻	〃
62－729	ＳＴ１７	甕	――	外は平行叩 内は掻目→叩	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰・にぶい黄橙
63－730 43－12	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.7 口16.5　天 2.8	天井はほぼ平坦　体部は弯曲　端部は屈折して内傾　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰白 灰
63－731	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.9 (口16.7)　天 2.8	天井はやや丸い　体部は膨む　端部は屈折して立つ　つまみは擬宝珠	〃	〃 堅緻	灰白 灰
63－732	ＳＴ１７	坏蓋　高(2.4)	天井はやや丸い　つまみは擬宝珠	〃	〃　堅緻	灰白・褐灰
63－733	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.1 (口17.2)　天 2.2	天井はほぼ平坦　体部は弯曲　端部は屈折して立つ　つまみは擬宝珠	〃	〃 堅緻	灰白 灰
63－734	ＳＴ１７	坏蓋　高 2.9 (口18.3)　天 2.1	天井はやや丸い　体部は直線的　端部は屈折して外傾　つまみは擬宝珠	〃	〃 堅緻	灰黄褐 灰白
63－735	ＳＴ１７	坏蓋　高(2.1)	天井はやや丸い　つまみは碁石状	〃	〃　堅緻	灰白・灰
63－736	ＳＴ１７	坏蓋　高(1.8)	天井はやや丸い　つまみは擬宝珠	〃	〃　堅緻	褐灰・同
63－737	ＳＴ１７	坏蓋　高 2.9 (口13.9)　天 2.3	天井は丸い　体部は膨む　端部は屈折して内傾　つまみは扁平	〃	〃 堅緻	灰 〃
63－738	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.2 (口13.9)　天 2.4	天井は丸い　体部は膨む　端部は屈折して立つ　つまみは扁平な擬宝珠	〃	〃 堅緻	灰白 オリーブ灰

第42表　土器観察表(41)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
63−739	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.2 口14.4　天 2.5	天井は丸い　体部は膨む　端部は屈折して立つ　つまみは扁平	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 灰白
63−740	ＳＴ１７	坏蓋　高 2.8 (口14.0)　天 2.1	天井は丸い　体部は直線的　端部は屈折して立つ　つまみは扁平	〃	〃 堅緻	〃 灰
63−741	ＳＴ１７	坏蓋　高 2.5 (口14.4)　天 1.9	〃	〃	〃 堅緻	にぶい褐 にぶい赤褐
63−742	ＳＴ１７	坏蓋　高 3.5 口13.8　天 2.8	天井から体部は大きく膨む　端部は屈曲して短く立つ　つまみは扁平	〃	〃 堅緻	灰白 灰
63−743	ＳＴ１７	坏蓋　高(2.9)	天井は丸い　つまみは扁平	〃	〃　堅緻	青灰・同
63−744	ＳＴ１７	坏蓋 (口14.4)　天 2.5	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は屈折し鋭く内傾	〃	〃 堅緻	灰白 灰
63−745	ＳＴ１７	坏蓋 (口14.5)　天 2.6	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は屈曲して立つ	〃	〃 堅緻	青灰 〃
63−746	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.8)　天 2.8	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は屈折し内傾	〃	〃 堅緻	灰白 〃
63−747	ＳＴ１７	坏蓋 (口14.0)　天 3.0	〃	〃	〃 堅緻	〃 〃
63−748	ＳＴ１７	坏蓋 (口14.5)　天 1.7	天井はほぼ平坦　体部は膨む　端部は屈折して立つ	〃	〃 堅緻	青灰 〃
63−749	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.8)　天 2.0	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部はやや高く屈折して立つ	〃	〃 堅緻	灰白 灰
63−750	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.4)　天 2.2	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は屈折して立つ	〃	〃 堅緻	灰白 灰
63−751	ＳＴ１７	坏蓋 (口13.7)　天 2.2	天井は丸く広い　体部は大きく膨む　端部は屈折し逆三角形で立つ	〃	〃 堅緻	〃 〃
63−752	ＳＴ１７	坏蓋　(口15.8)	体部は膨む　端部は屈折して鋭く立つ	〃	〃　堅緻	灰白・灰
63−753	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.2 (口15.3)　(底 8.2)	口縁はやや外反　体部は直線的　沈線有　高台は台形状でやや外傾	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰黄 灰白
63−754	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.0 口16.4　底 9.2	口縁から体部は外反　底部は端で厚い　沈線有　高台は平行四辺形状で外傾	〃	〃 堅緻	〃 オリーブ黒
63−755	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.0 (口15.1)　(底 8.8)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　沈線有　底部端が厚く　高台は外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒

第43表　土器観察表(42)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
63−756	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.2 (口15.5)　(底 9.5)	口縁は僅に外反　体部は直線的　沈線有　底部は端が厚い　高台は外傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白 黒
63−757	ＳＴ１７	高台付坏　高 5.8 (口15.3)　(底 9.5)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　沈線有　高台は踏んばり接地部は凹む	〃	〃 堅緻	灰オリーブ オリーブ黒
63−758	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.2 (口14.8)　(底 9.2)	口縁はやや外反　体部は直線的で沈線有　高台は方形状でやや外傾	〃	〃 堅緻	灰白 〃
64−759 78−8	ＳＴ１７	高台付坏　高 5.6 (口16.1)　(底 9.5)	口縁はやや外反　体部は直線的で沈線有　高台は逆三角形状で外傾	〃	〃 堅緻	〃 黒
64−760 48−10	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.2 口17.0　底10.4	口縁から体部は緩く外反　沈線有　底部は全体に厚い　高台は外傾	〃	〃 堅緻	灰白 黒
64−761	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.2 (口16.6)　(底10.2)	口縁はやや外反　体部は直線的で沈線有　底部は端が厚い　高台は外傾	切離は篦切→撫	〃 堅緻	灰白 〃
64−762	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.3 (口16.6)　(底 9.3)	〃	〃	〃 堅緻	灰赤 灰白
64−763	ＳＴ１７	高台付坏　高 5.7 (口16.1)　(底 9.8)	口縁から体部は緩く外反　沈線有　底部は中央で薄く端が厚い　高台は外傾	〃	〃 堅緻	灰赤 暗オリーブ灰
64−764	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.2 (口15.8)　(底 8.9)	口縁から体部は緩く外反　沈線有　底部は端が厚い　高台は強く外傾	〃	〃 堅緻	浅黄 にぶい黄褐
64−765	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.5 (口15.2)　(底 9.3)	〃	〃	〃 堅緻	灰 黒
64−766	ＳＴ１７	高台付坏　高 6.2 (口14.6)　(底 9.6)	口縁はやや外反　体部は直線的で沈線有　高台は菱形状で外傾	〃	〃 堅緻	灰 オリーブ黒
64−767	ＳＴ１７	高台付坏　高 5.1 (口15.9)	口縁はやや外反　体部は直線的で沈線有　底部は端が厚い	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	灰 黒
64−768	ＳＴ１７	高台付坏　(口15.4)	口縁はやや外反　体部は直線的	内外撫	〃　堅緻	灰・同
64−769	ＳＴ１７	高台付坏　(口15.6)	〃	〃	〃　堅緻	灰・黒
64−770	ＳＴ１７	高台付坏　高(3.3) (底 8.6)	体部は内弯気味　底部の端は厚い　高台は方形状でやや外傾　接地部に沈線	切離は篦切→撫	〃 堅緻	黄灰 〃
64−771	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 (口13.5)　(底 8.7)	口縁から体部は内弯気味　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で沈線有	〃	〃 堅緻	オリーブ黒 灰白
64−772	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.2 口13.5　底 8.8	口縁から体部は直線的　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で沈線有	〃	〃 堅緻	黄灰 黒

第44表　土器観察表(43)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
64−773	ＳＴ１７	高台付坏　底 8.3	底部の端は厚い　高台には沈線有り	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒少量　堅緻	灰・黒
64−774	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.1 (口12.7)　(底 8.5)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で立つ	〃	〃　堅緻	灰 〃
64−775	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 口12.9　底 8.9	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で太い	〃	〃　堅緻	黄灰 黒
64−776	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 口12.8　底 8.1	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は端が厚い　高台は方形状で沈線有	〃	〃　堅緻	灰黄褐 黒
64−777	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 口13.1　底 9.4	口縁から体部は直線的　底部は中央と端が厚い　高台は逆三角形状で外傾	〃	〃　堅緻	灰白 〃
64−778	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 口13.5　底 9.0	口縁から体部は直線的　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で立つ	〃	〃　堅緻	灰 黒
64−779	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 口12.6　底 8.5	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は端が厚い　高台は外傾	〃	〃　堅緻	灰 黒
64−780	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口13.5)　(底 9.1)	口縁から体部は直線的　底部は端が厚い　高台はくの字状で外傾	〃	〃　堅緻	黄灰 黒
64−781	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 (口13.6)　(底 9.0)	口縁から体部は直線的　底部は端が厚い　高台はやや外傾	〃	〃　堅緻	灰白 灰黄
65−782	ＳＴ１７	高台付坏　高 3.9 (口12.9)　底 9.0	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端が厚い　高台は菱形状で沈線？有	〃	〃　堅緻	黄灰 灰白
65−783	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 (口12.1)　(底 9.8)	口縁から体部は直線的　底部端は厚い　高台は逆三角形状で屈折して外傾	〃	〃　堅緻	〃 暗灰
65−784	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.2 (口12.9)　(底 8.8)	口縁は外反　体部は直線的　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で外傾	〃	〃　堅緻	灰白 〃
65−785	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 (口13.0)　(底 8.2)	口縁から体部は直線的　底部は端が厚い　高台は長方形状で外傾	〃	〃　堅緻	褐灰 〃
65−786	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.1 (口12.7)　(底 8.6)	口縁から体部は直線的　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で外傾	〃	〃　堅緻	灰 黒
65−787	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口12.2)　(底 8.2)	口縁から体部は直線的　底部は端が厚い　高台はやや高く外傾	〃	〃　堅緻	褐灰 黒
65−788	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.1 (口14.0)　(底 9.3)	口縁から体部は直線的　底部は全体に均一　高台は逆三角形状で沈線有	〃	〃　堅緻	灰 〃
65−789	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.4 (口13.0)　(底 8.6)	口縁から体部は直線的　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で外傾	〃	〃　堅緻	褐灰 灰白

第45表　土器観察表(44)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
65－790	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.2 (口13.0)　(底 9.0)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　高台は端が厚い　高台は菱形状で外傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	褐灰 黒
65－791	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口13.4)　(底 9.0)	口縁は外反　体部は膨む　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で立つ	〃	〃 堅緻	褐灰 灰白
65－792	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 (口12.7)　(底 8.8)	口縁は直線的　体部は膨む　底部は端が厚い　高台は逆三角形状で立つ	〃	〃 堅緻	灰 黒
65－793	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.2 (口12.8)　(底 9.0)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端が厚い　高台は菱形状で外傾	〃	〃 堅緻	灰白 褐灰
65－794	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.0 口13.0　底 8.9	口縁から体部は直線的　底部は端が厚い　高台は方形状で外傾	〃	〃 堅緻	灰 黒
65－795	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.3 (口12.7)　(底 8.3)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は薄い　高台はやや高く方形状で外傾	〃	〃 堅緻	黒 灰黄
65－796	ＳＴ１７	高台付坏　高 3.9 (口13.3)　(底 9.1)	口縁から体部は直線的　底部は中央が薄く端は厚い　高台の接地部やや凹む	〃	〃 堅緻	灰 黒
65－797	ＳＴ１７	高台付坏　高 5.0 (口12.4)　(底 8.3)	口縁から体部は内弯　底部は端が厚い　高台は逆二等辺三角形状で立つ	〃	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰オリーブ 灰
65－798 48－11	ＳＴ１７	高台付坏　高 4.5 口13.5　底 8.7	〃	〃	〃	黄灰 黒褐
65－799	ＳＴ１７	坏　高 3.6 (口12.3)　(底 8.3)	口縁から体部は内弯　底部は平坦で厚く端は丸い	切離は篦切→篦削→撫	細砂少量 堅緻	オリーブ灰 灰
65－800	ＳＴ１７	坏　高 3.6 口14.1　底 8.8	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は端が厚く丸い	切離は篦切→撫 内面端に工具痕	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
65－801	ＳＴ１７	坏　高 4.1 (口13.1)　(底 8.9)	口縁から体部は内弯　底部は厚く端は屈曲	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	〃 灰白
65－802 53－9 81－4	ＳＴ１７	坏　高 4.0 口13.0　底 7.5	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は丸い	切離は篦切→撫 内面に工具痕	〃 堅緻	黄灰 黒
65－803 53－10	ＳＴ１７	坏　高 3.8 口13.7　底 9.2	口縁から体部は内弯　底部は薄く平坦で端は角張る	切離は篦切→撫 渦明瞭	〃 堅緻	灰 灰白
65－804	ＳＴ１７	坏　高 3.6 (口14.1)　底 9.0	口縁から体部は内弯　底部は平坦で端は角張る	〃	〃 堅緻	灰 〃
65－805	ＳＴ１７	坏　高 3.5 (口13.8)　底 9.3	口縁は短く外反　体部は緩く膨む　底部は端が厚く角張る	切離は篦切→撫 内面端に工具痕	〃 堅緻	〃 〃

第46表　土器観察表(45)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
65－806	ＳＴ１７	坏　高 3.8 口13.5　底 8.5	口縁から体部は内弯　底部は平坦で端は丸い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 〃
65－807 53－11	ＳＴ１７	坏　高 3.7 口13.6　底 8.0	口縁から体部は内弯気味　底部は端が厚く丸い	〃 内面端に工具痕	〃 堅緻	明青灰 〃
65－808	ＳＴ１７	坏　高 3.5 (口13.7)　(底 8.6)	口縁は薄くやや外反　体部は緩く膨む　底部は端が厚く丸い	〃	〃 堅緻	灰 〃
65－809	ＳＴ１７	坏　高 3.8 (口13.7)　(底 9.7)	口縁から体部は内弯　底部は丸く端は厚い	切離は篦切→篦削→撫	細砂少量 堅緻	灰白 〃
65－810	ＳＴ１７	坏　高 4.0 (口13.9)　(底 8.8)	口縁は内弯　体部は直線的　底部は丸く端が厚い	切離は篦切→撫 内面端に工具痕	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
71－811	ＳＪ０７	坏蓋 (口16.7)　天 1.2	天井から体部は低く平坦　端部は屈折して逆三角形状	切離は篦切→篦削 ほぼ全面	〃 堅緻	灰白 褐灰
71－812	ＳＪ０７	坏蓋 口13.4　天 2.9	天井から体部は大きく膨む　端部は逆Ｓ字状で外側　つまみの基部に沈線有	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰 〃
71－813 43－13	ＳＪ０７	坏蓋　高 3.5 (口14.0)　天 2.4	天井は台形状　体部は端で膨む　端部は屈折して鋭く立つ　つまみは擬宝珠	〃	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	緑灰 灰白
71－814 43－14	ＳＪ０７	坏蓋　高 3.4 (口14.0)　天 2.6	天井は平坦　体部は反る　端部は屈折して鋭く立つ　つまみはボタン状	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
71－815 43－15	ＳＪ０７	坏蓋　高 4.2 (口17.1)　天 2.2	天井はやや丸い　体部は反る　端部は屈曲し外傾　つまみはボタン状擬宝珠	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 灰白
71－816 43－16	ＳＪ０７	坏蓋 (口14.5)　天 2.6	天井から体部は大きく膨む　端部は外だけ短く屈折	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	〃 〃
71－817	ＳＪ０７	坏蓋　高(1.8)	天井は平坦　つまみはボタン状	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白・灰オリーブ
71－818	ＳＪ０７	坏蓋　高(2.8)	天井は平坦　つまみは擬宝珠	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	淡黄・同
71－819	ＳＪ０７	坏蓋　高(3.0)	天井は狭く平坦　体部は直接的　つまみは扁平な擬宝珠	〃	0.1前後の砂粒 少量　不良	浅黄橙 〃
71－820	ＳＪ０７	坏蓋　高(1.3)	天井は平坦　つまみはボタン状	切離は篦切	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰・同
71－821 44－1	ＳＪ０７	坏蓋 口14.5　天 2.4	天井はほぼ平坦　体部は反る　端部は稜をつくって屈曲し三角形で鋭く立つ	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 灰オリーブ
71－822	ＳＪ０７	坏蓋 (口18.6)　天 2.9	天井はやや丸い　体部は僅に反る　端部は稜をつくり屈折し外弯	〃	〃 堅緻	灰 明オリーブ灰
71－823 44－2	ＳＪ０７	坏蓋　高 3.9 口19.3　天 2.8	天井は平坦　体部は反る　端部は反り屈曲し外傾　つまみはボタン状	〃 内面が平滑	〃 堅緻	灰白 明オリーブ灰

第47表　土器観察表(46)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
71－824 44－3	ＳＪ０７	坏蓋 (口19.4)　天 2.7	天井は平坦　体部はやや膨む　端部は屈折して外傾	切離は篦切→篦削 内面が平滑	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 〃
71－825 44－4	ＳＪ０７	坏蓋　高 3.3 口15.5　天 2.6	天井は平坦　体部は直線的　端部は水平から屈折し外傾　つまみはボタン状	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	〃 浅黄
71－826 44－5	ＳＪ０７	坏蓋　高 3.3 口15.5　天 2.5	〃	〃	〃 堅緻	灰 〃
71－827 44－6	ＳＪ０７	坏蓋　高 3.2 (口14.4)　天 2.5	〃	〃	〃 良好	灰白 〃
71－828	ＳＪ０７	坏蓋　高 3.2 (口14.1)　天 2.4	〃	〃	〃 良好	〃 〃
71－829	ＳＪ０７	坏蓋 (口14.6)　天 2.3	天井は平坦　体部は直線的　端部は水平気味から屈折し外傾	〃	〃 良好	〃 〃
71－830	ＳＪ０７	坏蓋　高(2.4) (口18.0)	体部は直線的　端部は水平気味から屈曲し外傾	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	〃 〃
71－831	ＳＪ０７	坏蓋 (口14.8)　天 1.9	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は水平から屈曲し外傾	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	〃 〃
71－832 44－7	ＳＪ０７	坏蓋　高 3.6 (口15.6)　天 2.8	天井は平坦　体部は直線的　端部は屈折し稜をもつ　つまみは扁平な擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 微量　不良	にぶい黄橙 〃
71－833 44－8	ＳＪ０７	坏蓋　高 3.3 口15.7　天 2.2	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は水平から屈曲し内傾　つまみは擬宝珠	〃	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰黄 暗灰黄
71－834 44－9	ＳＴ３５	坏蓋 (口16.7)　天 2.9	天井はほぼ平坦　体部は緩く膨む　端部は水平から屈折して逆三角形に立つ	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	淡黄 〃
71－835	ＳＴ３５	坏蓋 (口17.3)　天 2.5	天井はほぼ平坦　体部は緩く膨む　体部は水平気味で屈折して内傾	切離は篦切→篦削 内面中央に不定撫	〃 良好	〃 浅黄灰
71－836 44－10	ＳＴ３５	坏蓋 (口16.9)　天 2.5	体部は緩く膨む　端部は水平気味から屈折して内傾	切離は篦切？→篦削	0.1以下の砂粒 微量　良好	淡黄 〃
71－837 44－11	ＳＴ３５	坏蓋 口14.4　天 2.7	天井はほぼ平坦で高い　体部は膨む　端部は屈折して逆三角形で立つ	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	〃 〃
71－838	ＳＴ３５	坏蓋 (口14.2)　天 2.9	天井は大きく膨む　体部は緩く膨む　端部は屈折して内傾	〃	〃 堅緻	〃 浅黄橙
71－839	ＳＴ３５	坏蓋　(口15.8)	天井は低く平坦　端部は短く内傾	〃	〃 良好	淡黄・同
71－840	ＳＴ３５	坏蓋 (口15.7)　天 2.5	天井はほぼ平坦　体部はやや反る　端部は屈折して逆三角形状に立つ	〃	〃 良好	〃 〃

第48表　土器観察表(47)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
71−841	ＳＴ３５	坏蓋 (口14.5)　天 2.7	天井はやや丸い　体部は僅に反る　端部は屈折して鋭く立つ	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　不良	淡黄 〃
71−842	ＳＴ３５	坏蓋 (口14.6)　天 2.1	天井は平坦　体部は直線的　端部は屈折して逆三角形状に立つ	〃	〃 良好	〃 〃
71−843	ＳＴ３５	坏蓋　高 3.0 (口14.7)　天 2.1	天井は平坦　体部は直線的　端部は屈折して内傾　つまみはボタン状	〃	〃 良好	〃 〃
71−844	ＳＴ３５	坏蓋 (口14.8)　天 2.3	天井はほぼ平坦　体部は緩く膨む　端部は内面だけを引き出す	〃	〃 良好	〃 〃
71−845	ＳＴ３５	坏蓋　高 2.8 (口16.4)　天 1.8	天井はほぼ平坦　体部は直線的　端部は外傾　つまみはボタン状擬宝珠	〃	〃 良好	〃 〃
71−846	ＳＴ３５	坏蓋　(口16.2)	天井は緩く反る　端部は外傾	〃	〃　良好	〃
71−847	ＳＴ３５	坏蓋 (口13.5)　天 2.2	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は屈折して立つ	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰白 灰
71−848	ＳＴ３５	坏蓋 (口13.6)　天 2.2	天井は丸い　体部は膨む　端部は屈折して内傾	〃	〃 堅緻	灰白 灰
72−849 48−12 78−7	ＳＪ０７	高台付坏　高 4.8 口13.9　底10.9	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は端が厚い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→篦削→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	明オリーブ灰
72−850	ＳＪ０７	高台付坏　高 4.7 (口13.9)　(底 8.7)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は中央が薄い　高台は稜をもって外傾	〃	〃 良好	淡黄 〃
72−851	ＳＪ０７	高台付坏　高(5.6) 底11.5	体部は直線的　底部は均一で中央が高い　高台は長方形状でやや外傾	切離は篦切→撫	〃 良好	灰白 〃
72−852 49−1	ＳＪ０７	高台付坏　高 4.9 口11.4　(底 6.2)	口縁は外反　体部は膨む　底部は端が丸い　高台は長方形状で外傾	〃	〃 良好	〃
72−853	ＳＪ０７	高台付　(口19.3)	口縁は大きく外反　体部は緩く膨む	内外丁寧な撫	〃　良好	灰白・同
72−854	ＳＪ０７	高台付坏　高 6.1 (口13.1)　(底 7.2)	口縁から体部は外反　底部は端が厚い　高台は高く長方形状に外傾	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 微量　良好	灰白 〃
72−855	ＳＴ３５	高台付坏　高 5.0 (口14.8)　(底 9.4)	口縁はやや外反　体部は弯曲　底部は均一　高台は高く長方形状で外傾	〃	〃 良好	淡黄 〃
72−856 49−2	ＳＴ３５	高台付坏　高 4.5 口13.6　底 9.6	口縁はやや外反　体部は膨む　底部は薄い　高台は内弯気味に外傾	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 〃
72−857	ＳＴ３５	高台付坏　高 5.0 (口15.8)　(底12.0)	口縁は直線的　体部は僅に膨む　底部長方形状で外傾	〃	〃 良好	〃 にぶい黄橙

第49表　土器観察表(48)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
72－858 49－3	ＳＴ３５	高台付坏　高 4.4 (口14.8)　(底 9.5)	口縁から体部は内弯　底部は薄く端は角張る　高台は逆三角形状でやや外傾	切離は篦切→撫 渦明瞭	細砂少量 不良	淡黄 〃
72－859	ＳＴ３５	高台付坏　高 5.0 (口11.6)　(底 8.0)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は丸い　高台は長方形状で立つ	切離は篦切→撫	〃 良好	浅黄 浅黄橙
72－860 49－4	ＳＴ３５	高台付坏　高 5.1 (口12.6)　底 6.5	口縁から体部は内弯　底部は中央が高い　高台は長方形状でやや外傾	〃	〃 良好	淡黄 にぶい橙
72－861	ＳＴ３５	高台付坏　高 4.3 (口13.8)　(底 9.2)	口縁は外反　体部は膨む　底部は薄い　高台は長方形状でやや外傾	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	浅黄橙 にぶい黄橙
72－862 49－5	ＳＴ３５	高台付坏　高 4.0 口11.1　底 7.1	口縁から体部は直線的　底部は端で角張る　高台は逆三角形状で立つ	切離は篦切→篦削	〃 良好	淡黄 〃
72－863	ＳＴ３５	高台付坏　高 3.9 (口10.6)　(底 7.3)	口縁から体部は直線的　底部は均一で端は屈曲　高台は長方形状でやや外傾	〃	〃 良好	〃 〃
72－864	ＳＴ３５	高台付坏　(底 7.8)	底部は薄い　高台は長方形状で直立	〃	〃　良好	灰白・同
72－865	ＳＴ３５	高台付坏　(底 8.1)	底部は厚い　高台は逆三角形状で立つ	〃	〃　良好	〃
72－866	ＳＴ３５	高台付坏　高 4.9 (口12.0)　(底 7.8)	口縁はやや外反　体部は膨む　底部は中央と端が厚い　高台は外傾	〃	〃 良好	淡黄 〃
72－867	ＳＴ３５	高台付坏　高 4.9 (口15.0)　(底 8.6)	口縁は外反　体部は膨む　底部は薄い　高台は長方形状で外傾	〃	〃 良好	灰白 〃
72－868	ＳＴ３５	高台付坏　高 4.7 (口14.0)　(底 9.8)	〃	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　不良	浅黄 灰白
72－869	ＳＴ３５	高台付坏　高 4.8 (口13.5)　(底 9.3)	口縁は直線的　体部は膨む　底部は端が厚い　高台は短く外傾	〃	〃 不良	〃 〃
72－870	ＳＴ３５	高台付坏　高 6.3 (口15.9)　(底10.1)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は薄い　高台は稜をもち外傾	切離は篦切→撫 内面底部は不定撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	にぶい褐 〃
72－871	ＳＴ３５	高台付坏　高 5.2 (口12.4)　(底 7.5)	口縁は外反　体部は膨む　底部は中央が薄く端が厚い　高台は外傾	切離は篦切→篦削	〃 不良	淡黄 灰白
72－872	ＳＴ３５	高台付坏　高 4.3 (口14.0)　(底10.0)	口縁から体部は直線的　底部は平坦　高台は長方形状で外傾	〃	〃 良好	淡黄 〃
72－873	ＳＴ３５	高台付坏　(底10.6)	高台は丸い稜をもって外傾	〃	〃　良好	灰白・同
72－874	ＳＴ３５	高台付坏　高(2.5) (底 6.7)	底部は中央が低く端が高い　高台は端が内弯した逆三角形状	切離は篦切→一部篦削→撫	〃 良好	灰白 〃
72－875	ＳＴ３５	高台付坏　(底 6.1)	底部は端が高い　高台はやや外傾	切離は篦切→篦削	〃　良好	灰白・同
72－876	ＳＴ３５	高台付坏　底 6.9	底部は薄い　高台稜をもって鋭く立つ	切離は篦切→撫	〃　良好	〃

第50表　土器観察表(49)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
73－877	ＳＪ０７	坏　高 3.7 (口13.1)　(底 8.5)	口縁から体部は直線的　底部は広く端は厚い	切離は篦切→撫 内面端に工具痕	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰赤 灰白
73－878 53－12	ＳＪ０７	坏　高 4.1 (口13.4)　(底 8.0)	口縁は直線的　体部は膨む　底部は厚く端は丸い	切離は篦切→撫 内面底部に撫	〃 良好	明オリーブ 〃
73－879	ＳＪ０７	坏　高 3.5 (口13.7)　(底 9.0)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は端が厚い	切離は篦切→撫	〃 堅緻	灰 灰白
73－880	ＳＪ０７	坏　高 4.4 (口14.7)　(底10.2)	口縁から体部は直線的　底部は薄く端が厚い	〃	〃 不良	〃 〃
73－881 54－1	ＳＪ０７	坏　高 4.3 (口13.9)　(底 8.6)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で端が角張る	切離は篦切→撫 渦明瞭	〃 堅緻	灰 灰白
73－882	ＳＪ０７	坏　高 3.6 (口13.7)　(底 8.1)	口縁は僅に内弯気味　体部は直線的　底部は平坦で薄い	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　良好	〃 〃
73－883	ＳＴ３５	坏　高 4.3 (口11.6)　(底 6.0)	口縁から体部は内弯　底部は厚く端は角張る	切離は篦切→体下端手持篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	明オリーブ 〃
73－884	ＳＴ３５	坏　高 4.3 (口14.1)　(底 9.3)	口縁から体部は内弯　底部は薄く端は丸い	切離は篦切→撫	〃 不良	灰白 〃
73－885	ＳＴ３５	坏　高 3.7 (口14.1)　(底 9.2)	口縁はやや外反　体部は弯曲　底部は中央が薄く高い　端は丸い	〃	〃 不良	〃 〃
73－886	ＳＴ３５	坏　高 4.2 (口13.1)　底 9.6	口縁から体部は内弯気味　底部は丸く中央と端が厚い	切離は篦切→撫 底部端に工具痕	〃 堅緻	にぶい橙 淡黄
73－887	ＳＴ３５	坏　高 3.8 (口12.3)　(底 9.4)	口縁は僅に外反　体部は緩く膨む　底部は丸く端は厚い	〃	〃 良好	浅黄橙 〃
73－888	ＳＴ３５	坏　高 3.8 (口12.3)　(底 9.4)	〃	〃	〃 良好	〃 〃
73－889	ＳＴ３５	坏　高 4.0 (口14.3)　(底10.4)	〃	〃	〃 良好	浅黄 灰白
73－890	ＳＴ３５	坏　高 4.0 (口12.7)　(底 9.0)	〃	〃	〃 良好	浅黄橙 淡黄
73－891	ＳＴ３５	坏　高 3.4 (口13.1)　(底 9.6)	口縁から体部は直線的　底部は丸く端は厚い	切離は篦切→撫	〃 不良	灰白 〃
73－892	ＳＴ３５	坏　(底 9.6)	体部は直線的　底部は丸く端は高い	〃	〃　不良	淡黄・灰白
73－893	ＳＴ１８	壺？　高(2.6) (底11.1)	高台は高く長方形状に外傾し一旦強い稜をつくって短く直立	内外に丁寧な撫	〃 良好	灰黄 灰白

第51表　土器観察表(50)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
73－894	ＳＴ１８	坏蓋 (口15.5)　天 1.4	天井は低く平坦　体部は緩く膨む　端部は水平から屈折し外傾	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰 灰白
73－895 44－12	ＳＴ１８	坏蓋　高 3.0 口15.3　天 1.7	天井は低く丸い　体部は緩く膨む　端部は屈折して内傾　つまみは擬宝珠	〃	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
73－896 44－13	ＳＴ１８	坏蓋　高 3.4 口14.0　天 2.3	天井から体部は丸い　端部は屈折して内傾　つまみは中央が深いボタン状	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	緑灰 〃
73－897 44－14	ＳＴ１８	坏蓋　高 3.1 口14.9　天 2.2	天井は丸い　体部は直線的　端部は屈折して立つ　つまみはボタン状擬宝珠	〃	〃 堅緻	〃 灰白
73－898	ＳＴ１８	坏蓋 (口14.1)　天 2.6	天井は丸い　体部は直線的　端部は屈折して鋭く立つ	〃	〃 堅緻	青灰 緑灰
73－899	ＳＴ１８	坏蓋　(口14.9)	体部は膨む　端部は屈折して鋭く立つ	〃	〃　堅緻	緑灰・同
73－900	ＳＴ１８	坏蓋 (口14.6)　天 2.5	天井は丸い　体部は直線的　端部は屈折して鋭く立つ	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	オリーブ灰 灰
73－901	ＳＴ１８	坏蓋 (口14.7)　天 2.4	天井から体部は丸い　端部は屈折して鋭く立つ	切離は篦切→篦削 つまみ部に渦	〃 堅緻	〃 オリーブ灰
73－902 78－3	ＳＴ１８	坏蓋 (口14.6)　天 1.9	〃	〃	〃 堅緻	〃 〃
73－903	ＳＴ１８	坏蓋 (口14.5)　天 1.5	天井から体部は直線的　端部は屈折して立つ	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	灰 緑灰
73－904	ＳＴ１８	坏蓋 (口18.0)　天 3.5	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は水平から屈曲して外傾	切離は篦切→篦削 内面が平滑	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃
73－905	ＳＴ１８	坏蓋 (口18.0)　天 3.4	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は水平気味から屈曲して外傾	〃	〃 堅緻	黄灰 〃
73－906	ＳＴ１８	坏蓋 (口14.3)　天 2.3	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は水平から屈折して外傾	〃	〃 堅緻	灰 〃
73－907 44－15	ＳＴ１８	坏蓋　高 2.8 口14.9　天 2.1	天井はほぼ平坦　体部は直線的　端部は屈折して外傾　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 〃
73－908	ＳＴ１８	坏蓋　(口19.0)	端部は水平気味から屈曲して立つ	内外に丁寧な撫	0.1以下の砂粒 少量　不良	淡黄・同
74－909 62－3	ＳＪ０７	甕　高(31.7) (口20.9)　(頸18.8)	口唇は僅に凹む　口縁は外反　頸部はくの字状に屈折　肩部はやや緩く弯曲	外は平行叩→掻目 内は押え→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰褐 灰白
74－910 62－4	ＳＪ０７	甕　高(38.2) 口20.8　頸 19.0	口唇は僅に凹む　口縁は外反　頸部は屈曲　肩部はやや緩く弯曲	〃	〃 堅緻	灰黄褐 灰白

第52表　土器観察表(51)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
75−911 62−5	ＳＪ０７	甕　高(39.9) 口21.7　頸18.2	口唇は僅に凹む　口縁は外反　頸部はくの字状　肩部は緩く弯曲	外は平行叩→掻目 内は押え→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰黄 灰白
75−912 62−6	ＳＪ０７	甕　高(26.8) (口20.4)　(頸15.6)	口唇は凹む　口縁は大きく外反　頸部はくの字状　胴は球状	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰黄 〃
76−913 63−1	ＳＪ０７	甕　高(22.6) (口23.4)　(頸17.1)	口唇は凹み直立気味　口縁は大きく外反 頸部はくの字状 肩部は大きく膨む	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰オリーブ 灰白
76−914 63−2	ＳＪ０７	甕　(高46.6) (口24.1)　(高18.6)	口唇は平坦でやや外傾　口縁は外反 頸部はくの字状　胴部は球状	外は平行叩→撫 内は円文叩→平行叩	〃 堅緻	灰黄 褐灰
77−915	ＳＪ０７	甕	口唇は凹んで外傾　口縁はやや外反	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃　堅緻	灰黄褐・灰白
77−916 71−1	ＳＪ０７	甕	口唇内に稜　口唇下に三角の稜	外は撫→波状文	〃　堅緻	灰オリーブ・灰
77−917 71−1	ＳＪ０７	甕	口唇は先細り　口唇下に丸い稜	内外に丁寧な撫	〃　堅緻	灰オリーブ・褐灰
77−918 71−1	ＳＪ０７	甕	口唇は先細り　口唇下外に段、内に凹み	外は撫→波状文	〃　堅緻	灰・同
77−919 71−1	ＳＪ０７	大甕	頸部はくの字状	〃	〃　堅緻	灰・黒褐
78−920 49−6	ＳＴ１８	高台付坏　高 5.0 口14.6　底10.4	口縁は外反　体部は膨む　底部は平坦で薄い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→篦削 渦明瞭	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰オリーブ オリーブ灰
78−921 49−7	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.4 (口14.3)　底 9.6	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は薄い　高台は長方形状で立つ	〃	〃 堅緻	灰白 〃
78−922 49−8	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.6 口14.7　底10.0	口縁から体部は直線的　底部は薄い 高台は長方形状で外傾	〃	〃 堅緻	〃 灰
78−923	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.3 (口15.1)　(底11.0)	口縁は薄くやや外反　体部は直線的 底部中央は薄い　高台は長方形で外傾	切離は篦切→撫	〃 良好	灰白 〃
78−924	ＳＴ１８	高台付坏　高 5.0 (口14.1)　(底 9.6)	口縁は直線的　体部は膨む　底部は平坦で厚く均一　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	灰黄 〃
78−925	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.7 (口15.1)　(底11.6)	口縁はやや外反　体部は僅に膨む　底部は平坦　高台は長方形状で外傾	〃	〃 堅緻	灰白 灰
78−926	ＳＴ１８	高台付坏　高 5.3 (口12.0)　(底 7.4)	口縁は外反　体部は膨む　底部中央は薄い　高台は長方形状で外傾	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 暗灰黄
78−927	ＳＴ１８	高台付坏　高(3.0) (底 9.5)	体部は膨む　底部は凹凸有　高台は逆三角形状でやや外傾	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 少量　不良	灰白 〃
78−928	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.7 (口13.7)　(底11.1)	体部はやや外反　体部は膨む　底部は薄い　高台は長方形状で外傾	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
78−929	ＳＴ１８	高台付坏　高(4.0) (底 8.9)	体部は直線的　底部は中央が薄い　高台は逆三角形状で外傾	〃	〃 良好	〃 〃

第53表　土器観察表(52)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
78－930	ＳＴ１８	高台付坏　高 6.5 (口16.4)　(底 9.2)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は厚い　高台は逆三角形状で立つ	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	オリーブ灰 〃
78－931	ＳＴ１８	高台付坏　高 5.3 (口14.1)　(底 7.8)	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　底部は薄い　高台は逆三角形状で外傾	〃	〃 良好	灰白 〃
78－932 49－9	ＳＴ１８	高台付坏　高 5.4 (口12.8)　(底 7.8)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は薄い　高台は長方形状で外傾	〃	〃 不良	〃 〃
78－933	ＳＴ１８	高台付坏?　高(4.3) (底11.0)	体部は膨む　底部は平坦で厚い　高台は高く長方形状に外傾し尖端は内傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃 〃
78－934	ＳＴ１８	高台付坏　高(2.8) (底 7.2)	体部は膨む　底部は中央が薄い　高台は逆三角形状でやや外傾	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	〃 〃
78－935	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.5 (口12.6)　(底 8.2)	口縁はやや外反　体部は膨む　底部は中央が薄い　高台は長方形状に外傾	切離は篦切→篦削	〃 良好	〃 〃
78－936	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.9 (口14.3)　(底 9.2)	口縁はやや外反　体部は膨む　底部は中央が薄い　高台は外傾し内外に段	切離は篦切→撫	〃 良好	灰黄 黄灰
78－937	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.8 (口14.2)　(底 9.8)	〃	〃	〃 良好	灰黄 黄灰
78－938	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.9 (口14.2)　(底10.1)	口縁から体部は直線的　底部は薄い　高台は長方形状で外傾し内尖端で立つ	切離は篦切→篦削	〃 良好	灰白 〃
78－939	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.9 (口12.3)　(底 8.0)	口縁は僅に外反　体部は膨む　底部は薄い　高台は外傾し内側尖端で立つ	切離は篦切→篦削 内面底部は不定撫	〃 良好	〃 〃
78－940	ＳＴ１８	高台付坏　高 5.2 (口11.8)　(底 8.4)	口縁は直線的　体部は膨む　高台は太く外傾し内側端部が内弯	切離は篦切→篦削	〃 不良	〃 〃
78－941 49－10	ＳＴ１８	高台付坏　高 5.2 (口12.4)　(底 8.5)	口縁は外反　体部は膨む　底部は薄い　高台は外傾し内端部で立つ	〃	〃 不良	〃 〃
78－942	ＳＴ１８	高台付坏　高(3.8) (底 7.1)	体部は膨む　底部は中央で薄く端で厚い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→篦削 外底面に布目状痕	〃 不良	〃 〃
79－943	ＳＴ１８	高台付坏　高 5.3 (口11.6)　(底 6.4)	口縁は内弯　体部は直線的　底部は中央が薄い　高台は外傾し内端部で内傾	切離は篦切→篦削	〃 不良	〃 〃
79－944	ＳＴ１８	高台付坏　(底 7.1)	底部は中央が薄い　高台は弯曲	切離は篦切→撫	〃　良好	灰白・同
79－945	ＳＴ１８	高台付坏　(底 9.5)	底部は薄い　高台は外傾し内端部で立つ	〃	〃　良好	〃
79－946	ＳＴ１８	高台付坏　(底 9.5)	底部は中央が高い　高台は外傾	〃	〃　良好	〃
79－947	ＳＴ１８	高台付坏　高(3.3) (底 8.5)	体部は膨む　底部中央は薄い　高台は逆三角形状で外傾	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　不良	灰白 〃

第54表　土器観察表(53)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
79－948 49－11	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.6 (口13.4)　(底 9.0)	口縁から体部は内弯気味　底部は丸く端が厚い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→篦削→撫	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	淡黄 にぶい赤褐
79－949 49－12	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.1 (口13.5)　(底 9.0)	口縁は外反　体部は直線的　底部は中央が薄い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	淡黄 淡橙
79－950	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.5 (口12.3)　(底 8.1)	口縁は外反　体部は膨む　底部は薄い高台は細く長方形状で外傾	〃	〃 良好	淡黄 〃
79－951	ＳＴ１８	高台付坏　高 4.6 (口13.1)　(底10.2)	口縁から体部が内弯気味　底部は端が厚い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 微量　良好	灰黄 〃
79－952	ＳＴ１８	高台付坏　高 3.9 (口13.4)　(底 9.1)	口縁は内弯気味　体部は緩く膨む　高台は中央が薄い　高台は逆三角形状	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	〃 〃
79－953	ＳＴ１８	高台付坏　高 5.2 (口12.7)　(底 7.7)	口縁は外反　体部は膨む　底部は平坦で均一　高台は稜をもつ逆三角形状	〃	〃 良好	灰白 〃
79－954	ＳＴ１８	高台付坏　(口16.8)	口縁は外反　体部は膨む	切離不明→篦削	〃　良好	灰白・同
79－955	ＳＴ１８	坏　高 5.0 (口14.0)　(底 9.9)	口縁は外反　体部は膨む　底部は厚く平坦で突出気味	切離は篦切→撫	〃 堅緻	明赤灰 赤灰
79－956	ＳＴ１８	坏　底10.4	底部は端が厚い	〃	〃　良好	灰白・同
79－957	ＳＴ１８	坏　高 3.9 (口13.6)　底 9.0	口縁は強く外反　体部は緩く膨む　底部は丸く中央部と端が厚い	切離は篦切→撫 内底部端に工具痕	〃　良好	淡黄 〃
79－958 54－2	ＳＴ１８	坏　高 3.7 口13.9　底 9.8	〃	〃	〃　良好	浅黄橙 〃
79－959	ＳＴ１８	坏　高 4.0 口13.6　(底10.6)	口縁は短く外反　体部は直線的　底部は丸く中央部と端が厚い	〃	〃　良好	淡黄 灰白
79－960	ＳＴ１８	坏　高 3.9 口13.1　底10.1	口縁は短く外反　体部は緩く膨む　底部は丸く端が厚い	〃	〃　良好	淡黄 〃
79－961	ＳＴ１８	坏　高 4.2 (口13.4)　(底10.5)	〃	〃	〃　良好	〃 灰白
79－962	ＳＴ１８	坏　高 4.0 (口13.5)　(底 9.1)	口縁は外反　体部は直線的　底部は丸く中央部と端が厚い	〃	〃　不良	〃 〃
79－963	ＳＴ１８	坏　高 4.0 (口13.1)　(底 9.6)	口縁は僅に短く外反　体部は緩く膨む底部は丸く端が厚い	〃	〃　不良	〃 〃
79－964 54－3 81－2・3	ＳＴ１８	坏　高 3.7 口13.4　底 9.5	〃	〃	〃　良好	淡黄 〃
79－965	ＳＴ１８	坏　(口14.0)	口縁は外反　体部は膨む		〃　良好	灰白・同

第55表　土器観察表(54)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
79－966	ＳＴ１８	坏　底 9.9	体部は膨む　底部は丸く端は厚い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	淡黄・同
81－967 44－16	ＳＴ３６	坏蓋　高 4.5 (口18.7)　天 2.7	天井は平坦　体部は反る　端部は屈曲して外弯　つまみは中央の高い擬宝珠	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	灰 〃
81－968	ＳＴ３６	高台付坏　高 4.7 (口13.8)　(底 8.6)	口縁から体部は弯曲　底部は中央が薄い　高台は逆三角形状に立つ	〃	〃 不良	灰白 〃
81－969	ＳＴ３６	高台付坏　高 4.0 (口13.3)　(底 8.8)	口縁は僅に外反　体部は直線的　高台は逆三角形状で立つ	切離は篦切→撫	〃 良好	灰 〃
81－970	ＳＴ３６	高台付坏　高(7.8) 口18.1	口縁はほんの僅に内反気味　体部は直線的	切離は不明→篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	〃 〃
81－971 56－9	ＳＴ３６	瓶　高(4.4) 底 5.5	体部は丸く膨む　高台は一旦外傾し鋭い稜をつくって鋭く内傾	切離は篦切→撫 底部外に瓜痕多数	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 オリーブ黒
81－972 54－4	ＳＴ３６	坏　高 4.4 (口13.3)　(底 8.2)	口縁はやや内弯気味　体部は直線的 底部は均一で中央部が高い	切離は篦切→撫	〃 良好	灰白 〃
81－973	ＳＴ３６	高台付埦　高(7.2) (口17.9)	口縁は僅に外反　体部は弯曲　体部中央に稜をもつ	内外に丁寧な撫	〃 良好	黄灰 〃
81－974	ＳＴ３６	ミニチュア短頸壺 (口 5.4)　高(3.7)	口縁は短く内傾　頸部は屈曲する　体部は膨み楕円形状	〃	〃 堅緻	〃 灰
81－975	ＳＴ３６	高台付坏?(底10.2)	底部の中央部は低い　高台は高く外傾	切離は篦切→撫	〃　良好	灰黄・灰白
81－976 56－10	ＳＴ３６	盤　高 4.4 (口19.5)　(底15.1)	沈線有　口縁から体部は弯曲　底部は均一で薄い　高台は高く長方形状で外傾	切離は篦切→底部全面篦削？→撫	〃 堅緻	オリーブ灰 〃
81－977 57－1	ＳＴ３６	平瓶　高 7.3 (口 5.7)　天 5.3	口唇は凹んで外傾　口縁は外傾し頸部は屈曲　天井が僅に高くなる	天井は撫　体部下端は篦削	〃 良好	灰褐 褐灰
81－978 81－1	ＳＴ３６	坏　高(2.5) 底 7.8	体部は膨む　底部は厚く均一で平坦　端は角張る	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1前後の砂粒 微量　堅緻	灰 灰白
81－979 54－5	ＳＴ３６	坏　高 4.2 (口12.8)　(底 8.2)	口縁は直線的　体部は緩く膨む　底部は厚く平坦　端は角張る	切離は篦切→撫	〃 堅緻	〃 〃
81－980	ＳＴ３６	坏　高 4.7 (口11.9)　底 7.7	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は厚く平坦　端は角張る	切離は篦切→撫 渦明瞭	〃 堅緻	〃 〃
81－981 54－6	ＳＴ３６	坏　高 4.2 (口12.8)　(底 7.7)	口縁から体部は内弯　底部は中央がやや高く薄い	切離は篦切→撫	〃 堅緻	〃 〃
81－982 68－4	ＳＴ３６	大甕　高(12.2) 口41.2　頸31.7	口唇は内外に稜をもち垂直方向に反る 口縁は外反　頸部はくの字状	外は平行叩→撫 内は撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ 灰白

第56表　土器観察表(55)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
82－983 63－3	ＳＴ３６	大甕　高(34.3) (口46.0)　(頸38.2)	口唇は丸く外傾　口縁は外反　頸部はくの字状　肩は丸く膨む	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　不良	にぶい黄橙 〃
82－984	ＳＴ３６	甕　高(16.3) 口23.8　頸 20.4	口唇は内外に稜をもち垂直　口縁は直立して外反　頸部は屈曲　肩部は張る	外は縄文叩→撫 内は押え→撫	〃 堅緻	灰 〃
82－985 63－4	ＳＴ３６	甕　高(25.3) (口22.8)　(頸19.2)	口唇は凹む　口縁は外反　頸部はくの字に屈曲　肩は緩く胴は大きく膨む	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 良好	浅黄 灰黄
83－986 63－5	ＳＴ３６	大甕　高(31.5) (口49.6)　(頸37.6)	口唇は内外に稜をもち凹み内形　口縁は外反　頸部はくの字状　肩部は緩い	外は掻目　平行叩 内は円文叩→撫	〃 堅緻	黒 灰
83－987 63－6	ＳＴ３６	甕　高(45.0) 口22.5　頸 18.4	口唇は丸く外に稜有　口縁は外反　頸部はくの字状　肩は緩く胴は球状	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰黄褐 灰黄
84－988 64－1	ＳＴ３６	大甕　高(62.9) (頸 37.6)	口縁下位は直立気味　頸部はくの字状に屈折　肩は大きく膨む	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰オリーブ 灰白
85－989 64－2・3	ＳＴ３６	大甕　高 90.7 口51.9　頸 42.6	口唇は内外に稜をもち垂直　口縁は外反し頸部は屈折　肩は張り底部は丸い	外は平行叩→波状文 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰 〃
88－990	ＳＴ１３	坏蓋　高(2.2)	天井は丸い　つまみは縁が薄く尖っているボタン状	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰白 〃
88－991	ＳＴ１３	坏蓋　高 3.4 (口16.3)　天 2.5	天井はほぼ平坦　体部直線的　端部は丸い　つまみはボタン状	〃	〃 良好	〃 〃
88－992 45－1	ＳＴ１３	坏蓋 (口14.1)　天 2.5	天井はほぼ平坦　体部は直線的　端部は水平から屈曲し内傾	〃	〃 良好	〃 〃
88－993	ＳＴ１３	坏蓋　天(1.6)	天井はほぼ平坦	〃	〃　良好	〃
88－994	ＳＴ１３	高台付埦　高 6.5 (口13.1)(底 8.8)	口縁から体部は内弯気味　底部は丸く中央が薄い　高台は長方形状に外傾	切離は篦切→撫	〃 良好	〃 灰
88－995	ＳＴ１３	高台付坏　高 7.1 (口16.4)(底 8.2)	口縁から体部は内弯気味　底部の端は丸い　高台は平行四辺形状でやや外傾	〃	〃 良好	灰白 灰
88－996 57－2	ＳＴ１３	高台付埦　高 7.7 口15.5　底 9.3	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は丸い　高台は外傾	切離は篦切→撫 渦明瞭	〃 良好	灰白 オリーブ灰
88－997	ＳＴ１３	高台付坏　高 6.5 (口13.3)(底 9.0)	口縁はやや外反　体部は膨む　高台は方形状でやや外傾	切離は篦切→撫	〃 良好	明オリーブ灰 オリーブ灰
88－998	ＳＴ１３	高台付坏? 高 (5.0) (底 8.7)	体部は膨む　底部は丸い　高台は長方形状に外傾	〃	〃 良好	灰白 青灰
88－999	ＳＴ１３	坏　高(1.6) (底 9.0)	体部はやや膨む　底部は平坦で均一だが端が僅に厚い	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	浅黄橙 〃

第57表　土器観察表(56)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
88－1000	ＳＴ１３	坏　高 3.1 (口13.6)　(底 7.0)	口縁は外反　体部は膨む　底部は平坦で中央部が厚い	切離は篦切→撫 渦明瞭	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰白 〃
88－1001	ＳＴ１３	坏　高 3.2 (口13.1)　(底 7.8)	口縁は外反　体部は膨む　底部は中央部と端が厚い	〃	〃 良好	〃 〃
88－1002 54－7	ＳＴ１３	坏　高 3.5 口13.0　底 8.2	口縁は外反　体部は膨む　底部は平坦で均一	〃	〃 良好	〃 〃
88－1003	ＳＴ１３	坏　高 3.5 (口13.0)　(底 7.2)	口縁は外反　体部は膨む　底部は端がやや厚い	〃	〃 良好	〃 〃
88－1004	ＳＴ１３	坏　高 4.2 (口14.1)　(底 7.8)	口縁から体部は直線的　底部は全体に厚く端は丸い	切離は篦切→底部 全面手持篦削	0.1前後の砂粒 顕著　良好	黄橙 淡橙
88－1005 54－8 80－3	ＳＴ１３	坏　高 3.5 口12.8　底 7.5	口縁から体部は内弯　底部は平坦で中央部が厚い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰 〃
88－1006	ＳＴ１３	壺　高(10.0)	体部は弯曲	外は撫→篦削 内は撫→掻目	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰・同
88－1007	ＳＴ１３	小甕　高14.1 (口15.0)　(底 8.0)	口縁は外反して尖端は内傾　頸部はくの字状に屈曲　胴はやや膨み底は平坦	切離は糸切	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 灰白
88－1008 66－4	ＳＴ１３	長頸瓶　高(13.6)	胴は中央やや上位に最大径をもち膨む 肩部には２本の浅い沈線	外は撫→篦削 内は撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	にぶい黄橙 灰黄
88－1009	ＳＴ１３	長頸壺　高(9.4) (口10.8)	口唇は垂直気味　口縁は外反し頸部付近は直立気味	内外面丁寧な撫	〃 堅緻	灰 灰白
89－1010 68－5	ＳＴ１３	甕　高(11.2) (口21.0)　(頸16.5)	口唇は凹み内に鋭い稜　口縁は外反 頸部はくの字状　肩部は緩く張る	外は平行叩→掻目 内は円文叩→掻目	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	〃 〃
89－1011	ＳＴ１３	甕　高(5.6)	口唇は凹み内に鋭い稜　口縁は外反 頸部はくの字状　肩部は強く張る	外は叩→掻目 内は平行叩→撫	〃 堅緻	灰 〃
89－1012 68－6	ＳＴ１３	甕　高(8.1) (口23.7)　(頸19.4)	〃	外は平行叩→撫 内は掻目→円文叩	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃
89－1013	ＳＴ１３	甕　(口21.0)	口唇は凹み内に鋭い稜　口縁は外反	外は平行叩→撫	〃　堅緻	灰白・灰
89－1014 68－7	ＳＴ１３	甕　高(10.3) (口24.0)　(頸19.2)	口唇は僅に凹む　口縁は外反　頸部はくの字状に屈曲　肩部は緩く膨む	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 良好	灰白 〃
89－1015	ＳＴ１３	甕　高(7.8)	口唇は凹み下位に丸い稜をもつ	外は平行叩　内撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰・同
89－1016	ＳＴ１３	甕　高(7.9)	〃	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰黄・にぶい褐
89－1017	ＳＴ１３	甕　高(6.0)	口唇は凹み下位に三角形の稜をもつ	〃	〃　良好	にぶい褐・にぶい橙
89－1018	ＳＴ１３	甕　高(10.0)	口唇は凹み下位外には三角形の稜口内には沈線有	外は平行叩→撫 内は撫	〃 良好	にぶい褐 にぶい黄橙

第58表　土器観察表(57)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
90－1019 45－2	ＳＴ１４	坏蓋　高 2.9 口14.3　天 2.3	天井は丸い　体部は直線的　端部は屈折して立つ　つまみは扁平	切離は篦切→篦削 内面に不定撫	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰白 浅黄
90－1020 45－3 78－1	ＳＴ１４	坏蓋　高 2.8 口14.0　天 2.2	〃	〃	〃 良好	〃 〃
90－1021 45－4	ＳＴ１４	坏蓋 (口16.2)　天 3.5	天井は丸い　体部は緩く膨む　端部は平行気味から屈曲して外傾	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 灰白
90－1022	ＳＴ１４	坏蓋　高(1.9)	天井は平坦　つまみは擬宝珠	切離は不明→篦削	〃　不良	灰白・浅黄
90－1023	ＳＴ１４	高台付坏　高 4.5 (口13.0)　(底 8.7)	口縁はやや外反　体部は直線的　高台は方形状でやや外傾　接地部は凹む	内外面丁寧な撫	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰白 淡黄
90－1024	ＳＴ１４	高台付坏　高 4.4 (口13.0)　(底 4.4)	口縁から体部はやや外反し薄い　底部は平坦　高台は長方形状でやや外傾	切離は篦切→撫	〃 良好	浅黄橙 〃
90－1025	ＳＴ１４	高台付坏　高(2.0) (底 9.3)	体部は膨む　底部は厚い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→全面篦削？	0.1前後の砂粒 少量　良好	淡黄 灰白
90－1026	ＳＴ１４	高台付坏　(底 9.3)	底部は平坦　高台は方形状でやや外傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	淡黄・同
90－1027	ＳＴ１４	坏　(底 9.0)	底部は丸く端が厚い	切離は篦切→撫 内面は工具痕	〃　不良	浅黄橙・同
90－1028	ＳＴ１４	坏　(底 9.0)	底部はやや丸く端が厚い	切離は篦切→撫	〃　不良	〃
90－1029	ＳＴ１４	坏　底 7.2	底部は丸く厚い	〃	〃　堅緻	灰オリーブ・同
90－1030	ＳＴ１４	壺?　高(3.6) (底12.0)	体部は膨む　底部は丸く均一　高台は長方形状でやや外傾	切離は不明→底部篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	明オリーブ 〃
90－1031 57－3	ＳＴ１５	壺蓋 (口16.4)　(天 5.1)	天井はほぼ平坦　肩部は丸い　口縁は垂直で接地部が凹む	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 灰オリーブ
90－1032	ＳＴ１５	坏　高 3.8 (口13.8)　底 9.7	口縁は直線的　体部は膨む　底部は丸く中央が薄い　端は厚い	切離は篦切→撫	〃 堅緻	灰褐灰 褐灰
90－1033 64－4	ＳＴ１５	甕　高40.1 (口21.1)　(頸19.0)	口唇は丸い　口縁は外反　頸部はくの字状に屈折　肩部は緩く胴上位で張る	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	黄灰 灰白
90－1034	ＳＴ１５	坏蓋 (口14.8)　天 2.1	口縁から体部は丸く膨む　端部は屈折して立つ	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃
90－1035	ＳＴ１５	坏蓋　高(1.3)	天井は平坦　つまみは扁平	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白・灰
90－1036	ＳＴ１５	坏蓋　高 2.7 (口13.5)　天 2.2	天井から体部は丸く膨む　端部は屈折して立つ　つまみは扁平	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰白 浅黄
90－1037	ＳＴ１５	坏蓋　(口13.5)	天井は丸い　端部は屈折して内傾	〃	〃　堅緻	灰白・同
90－1038	ＳＴ１４	横瓶　高(4.0) (口11.4)	口唇は僅に凹み外傾　口縁は直立気味に外反	内外に丁寧な撫	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰黄 黄灰

第59表　土器観察表(58)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
90－1039	ＳＴ１４	脚部　(底13.6)	底はほぼ平坦	内外に丁寧な撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	淡黄
90－1040	ＳＴ１４	壺　高(6.4)	体部は膨む	外は篦削 内は掻目	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰黄褐・黒褐
91－1041	ＳＴ１５	長頸瓶? 高(17.5) 頸(12.0)	頸部下位は直立　頸部はくの字に屈曲 胴は球状	外は篦削 内は撫	細砂少量 堅緻	淡黄 〃
91－1042	ＳＸ０９	摺鉢　(口29.8)	口唇は僅に凹む　口縁は短く内傾	外はおろし目	〃　堅緻	にぶい赤褐・同
91－1043	ＳＸ０９	高台付坏　(底 6.5)	底部は均一　高台は長方形状で外に稜	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	浅黄橙・同
91－1044	ＳＸ０９	高台付坏　高(2.7) (底 8.6)	体部は弯曲　底部は平坦で均一　高台は長方形状で外傾　接地部は僅に凹む	〃	〃 堅緻	明褐灰 にぶい黄橙
91－1045	ＳＸ０９	高台付坏　高(2.6) (底 8.1)	体部は弯曲して薄い　底部は薄い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→撫 渦明瞭　爪の痕跡	〃 良好	灰 〃
91－1046	ＳＸ０９	甕　高(5.9)	口唇は内に稜　口縁は稜をもって外反	外は平行叩→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白・灰
91－1047	ＳＸ０９	甕　高(6.0)	口唇はＶ字に凹む　口縁は外反	〃	〃　堅緻	〃
91－1048 68－8	ＳＸ１０	長胴甕　高(11.5) (口20.0)	口縁は外反し口唇で三角形に立つ　頸部はくの字状に屈折　胴は少し膨む	外は掻目→篦削 内は掻目	0.1前後の砂粒 顕著　不良	橙 浅黄橙
91－1049 45－5	ＳＸ１０	坏蓋　高 2.3 (口16.6)　天 1.7	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は水平から内屈　つまみはボタン状	切離は篦切→撫	〃 良好	灰白 明オリーブ灰
91－1050 45－6	ＳＸ２９	坏蓋　高 3.0 (口13.9)　天 2.2	天井は平坦　体部は緩く膨む　端部は屈折して立つ　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	オリーブ灰 〃
91－1051 45－7	ＳＸ２９	坏蓋　高 2.4 (口14.5)　天 1.8	天井は平坦　体部は僅に反る　端部は屈曲して外傾　つまみはボタン状	〃	〃 堅緻	灰 〃
91－1052	ＳＸ２９	坏蓋 (口14.3)　(天 2.0)	天井は平坦　体部は僅に反る　端部は屈曲して立つ	〃	〃 堅緻	オリーブ灰 灰白
91－1053	ＳＸ２９	坏蓋　高(1.5)	つまみは中央が僅に高いボタン状	丁寧な撫	細砂　良好	灰白・同
91－1054	ＳＸ２９	坏蓋　高(1.4)	つまみは頭が丸いボタン状	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白・灰
91－1055 45－8	ＳＸ２９	坏蓋 (口15.0)　天 2.6	天井はほぼ平坦　体部は緩く膨む　端部は屈折して鋭く立つ	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰黄 明オリーブ灰
91－1056	ＳＸ２９	坏蓋　(口16.4)	体部は膨む　端部は屈曲してやや内傾	切離は不明→篦削	〃　良好	黄灰・灰白
91－1057 50－1	ＳＸ２９	高台付坏　高 5.4 (口14.9)　(底 9.5)	口縁は外反　体部は膨む　底部は中央部と端が厚い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　良好	淡黄 にぶい黄橙
91－1058	ＳＸ２９	高台付坏　高 4.4 (口12.4)　(底 8.7)	口縁から体部は内弯　底部は端が厚い　高台は長方形状で僅に外反	切離は篦切→撫	〃 堅緻	灰 〃
91－1059	ＳＸ２９	高台付坏　高(2.2) (底 8.3)	体部は膨む　底部は端が厚い　高台は方形状で立つ　接地部には沈線有	〃	〃 堅緻	灰白 〃

第60表　土器観察表(59)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
91－1060	ＳＸ２９	坏　高 4.1 (口13.3)　(底 9.4)	口縁は外反　体部は膨む　底部は平坦で端が厚い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 灰
91－1061	ＳＸ２９	坏　高 4.1 (口12.8)　(底 9.2)	口縁は外反　体部は膨む　底部は厚く平坦	〃	〃 良好	灰白 オリーブ灰
91－1062 54－9	ＳＸ２９	坏　高 3.5 (口14.7)　(底 9.3)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は中央が薄く端が厚い	〃	〃 堅緻	灰白 〃
91－1063 54－10	ＳＸ２９	坏　高 4.1 口14.5　底10.1	口縁は外反　体部は膨む　底部はほぼ均一	切離は篦切→撫 渦明瞭	〃 堅緻	〃 〃
91－1064	ＳＸ２９	ミニチュア短頸壺 (口 3.1)	口縁は直立して尖端は細い　頸部はくの字状　肩部は張る	内外面丁寧な撫	細砂少量 堅緻	〃 〃
92－1065	ＳＴ３０	坏蓋 (口15.7)　天 2.9	天井はほぼ平坦　体部は反る　端部は屈曲して内傾	切離は糸切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　不良	〃 〃
92－1066	ＳＴ３０	坏蓋　高(2.1)	天井はほぼ平坦　体部は反る　つまみは頭が丸い擬宝珠	〃	〃 不良	浅黄橙 〃
92－1067	ＳＴ３０	坏蓋　高(2.4)	天井はほぼ平坦　つまみは擬宝珠	〃	〃　良好	オリーブ灰・にぶい黄橙
92－1068	ＳＴ３０	坏蓋　高(1.9)	天井はほぼ平坦	〃	〃　良好	灰黄橙・にぶい黄橙
92－1069 45－9	ＳＴ３０	坏蓋　高(2.8)	天井はほぼ平坦　肩部は丸くなる　つまみは擬宝珠	切離は糸切？→篦削	0.1前後の砂粒 少量　不良	〃 〃
92－1070	ＳＴ３０	坏蓋　高(1.9)	天井はほぼ平坦　肩部は丸くなる　つまみは頭がボタン状	切離は糸切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　不良	〃 〃
92－1071	ＳＴ３０	坏蓋　高(1.1)	天井はほぼ平坦	〃	〃　不良	にぶい黄橙・同
92－1072	ＳＴ３０	高台付坏　(底 9.9)	底部は平坦　高台は外傾し尖端は細い	切離は糸切→撫	細砂少量　良好	灰黄・灰黄褐
92－1073	ＳＴ３０	高台付坏　底 6.5	体部は弯曲	切離は糸切	0.1以下の砂粒 少量　不良	灰黄・灰白
92－1074	ＳＴ３０	坏　(底 7.0)	体部は膨む　底部は均一で中央が高い	切離は糸切→撫	〃　堅緻	灰・同
92－1075	ＳＴ３０	坏　高 3.3 (口13.5)　(底 7.0)	口縁から体部は弯曲　底部は厚く平坦で端は角張る	切離は糸切	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 〃
92－1076	ＳＴ３０	坏　底 6.4	体部は膨む　底部は厚く平坦	〃	細砂少量　良好	灰白・同
92－1077	ＳＴ３０	坏　高 4.0 (口13.4)　(底 7.3)	口縁は外反　体部は膨む　底部は厚く平坦で均一　やや突出する	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 〃
92－1078 57－4	ＳＴ３０	短頸壺　高(5.1) (口10.8)	口縁は直線的に内傾　頸部はくの字状に屈曲　肩部は緩く張る	外は平行叩→撫 内は平行掻目	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	灰 〃
92－1079	ＳＴ３０	長頸壺　(頸 5.6)	肩は強く張る	つくりは３段構成	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰・明青灰
92－1080	ＳＴ３０	長頸壺　(口 8.2)	口唇は凹んで直立　口縁は外反	内外丁寧な撫	〃　堅緻	灰・同

第61表　土器観察表(60)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
92－1081	ＳＴ３０	甕　高(5.0) (口13.6)	口唇は中央が高く内外に稜有　口縁は直線的で外反	外は撫 内は叩	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ 〃
92－1082	ＳＴ３０	甕　高(5.6) (口23.0)　(頸20.6)	口唇は僅に凹む　内側に鋭い外に丸い稜有　口縁は外反	内外に丁寧な撫	〃 堅緻	灰 〃
92－1083 64－5	ＳＴ３０	甕　高(21.5) (頸19.2)	口縁は外反　頸部は垂直気味に屈曲　肩は強く張り胴は球状	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰白 〃
97－1084	ＬＮ５４	坏蓋　高(2.4)	天井は丸い　つまみは擬宝珠	切離は不明→篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白・灰
97－1085 45－10	表採	坏蓋　高 2.5 口14.7　天 1.7	天井はほぼ平坦　体部は直線的　端部は屈折しやや外傾　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃
97－1086	〃	坏蓋　高 2.8 (口14.5)　天 2.2	天井は平坦　体部はやや反る　端部は屈折して立つ　つまみはボタン状	〃	〃 堅緻	オリーブ灰 緑灰
97－1087 45－11	ＬＰ５７	坏蓋　高 4.0 (口12.8)　天 2.7	天井はやや丸い　体部は直線的　端部は屈折して立つ　つまみは擬宝珠	〃	〃 良好	灰白 〃
97－1088 45－12	ＬＯ５７	坏蓋　高 3.1 口13.6　天 1.9	天井は平坦　体部は僅に反る　端部は屈折して立ち外弯　つまみは亀頭形	切離は篦切→手持篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	淡黄 〃
97－1089 45－13	ＬＯ５７	坏蓋　高 3.3 口15.2　天 2.3	天井は平坦　体部は薄く反る　端部は屈折して立ち外弯	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 浅黄
97－1090	ＬＮ５６	坏蓋　高 4.2 (口15.5)　天 3.2	天井はやや丸い　体部は薄く反る　端部は屈折してやや外反　尖端は折れる	〃	〃 良好	にぶい黄橙 〃
97－1091 45－14	ＬＰ５７	坏蓋　高 4.2 (口15.7)　天 2.9	天井は狭く平坦　体部は緩く膨む　端部は屈曲して立つ　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
97－1092 45－15	表採	坏蓋　高(3.6)	天井は丸い　体部は直線的？　つまみは中央が三角状の擬宝珠	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	浅黄 灰白
97－1093	ＬＱ５６	坏蓋　高 2.4 (口15.3)　天 1.4	天井は低く平坦　体部は直線的　端部は屈折して外弯　つまみは亀頭形	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	〃 灰
97－1094	ＬＯ５３	坏蓋　高(2.0)	天井はやや丸い　つまみは亀頭形	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰・同
97－1095	ＬＫ５６	坏蓋　高(3.5)	天井はほぼ平坦　つまみは擬宝珠	切離は篦切？	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白・灰
97－1096	ＬＱ５７	坏蓋　高 2.5	天井は平坦で中央が低い　肩は角張る　つまみはボタン状擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 〃
97－1097	ＬＪ５８	坏蓋　高(1.9)	天井は平坦　つまみはボタン状擬宝珠	〃	〃　堅緻	明オリーブ灰・灰
97－1098	ＬＭ５２	坏蓋　高(2.8)	〃	——	〃　堅緻	灰黄・同
97－1099	ＬＯ５３	坏蓋　高(1.5)	天井は平坦　つまみは擬宝珠	——	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白・灰
97－1100	ＬＬ５４	坏蓋　高(2.2)	天井は平坦　つまみはボタン状	切離は篦切→撫	〃　良好	灰黄褐・同

第62表　土器観察表(61)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
97－1101	ＬＮ５５	坏蓋　高(1.9)	天井は平坦　つまみはボタン状擬宝珠	切離は篦切	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白・同
97－1102	ＬＱ５３	坏蓋　高(2.9)	〃	切離は篦切→篦削	〃　堅緻	明青灰・同
97－1103	ＬＰ５３	坏蓋　高(2.5)	天井はほぼ平坦　つまみは擬宝珠	〃	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰白・灰
97－1104	表採	坏蓋　高(2.3)	天井は平坦 つまみは頭の高いボタン状	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰・同
97－1105	ＬＳ５３	坏蓋　高(2.3)	天井は丸い　つまみはボタン状擬宝珠	〃	〃　堅緻	灰白・灰
97－1106	ＬＯ５２	坏蓋　高(1.8)	天井は平坦　つまみはボタン状擬宝珠	切離は篦切？	〃　堅緻	灰・同
97－1107	ＬＯ５３	坏蓋　高(2.6)	天井は平坦　つまみはボタン状	〃	〃　堅緻	〃
97－1108	ＬＰ５７	坏蓋　高 3.3 (口14.7)　天 2.3	天井から体部は丸い　端部は屈折せず 内に稜　つまみはリング状	切離は篦切？→ 篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 〃
97－1109	ＬＰ５７	坏蓋　高(1.8)	天井は丸い　つまみはリング状	〃	〃　良好	灰白・同
97－1110	ＬＱ５４	坏蓋　高(1.5)	天井はほぼ平坦　つまみはリング状	〃	〃　良好	〃
97－1111	ＬＯ５６	坏蓋　高(1.5)	天井はほぼ平坦　つまみはボタン状	——	〃　良好	淡黄・同
97－1112	表採	坏蓋　高(1.5)	〃	——	〃　良好	〃
97－1113	ＬＯ５５	坏蓋　高(1.3)	つまみはボタン状	——	〃　良好	灰白・同
97－1114	ＬＮ５３	坏蓋　高(1.5)	〃	——	〃　堅緻	〃
97－1115	ＬＮ５２	坏蓋　高(1.4)	天井は平坦　つまみはリング状	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	浅黄・淡黄
97－1116	ＬＫ５１	坏蓋　高(1.4)	天井は平坦　つまみは扁平なボタン状	切離は篦切→撫	〃　良好	灰白・同
97－1117	ＬＪ５５	坏蓋　高(1.4)	〃	切離は篦切	〃　堅緻	灰・明紫灰
97－1118	ＬＱ５４	坏蓋　高(1.5)	天井は平坦　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	〃　良好	灰白・同
97－1119	ＬＰ５３	坏蓋　高(2.2)	天井は丸い　つまみはボタン状	切離は篦切→撫	〃　良好	〃
97－1120	ＬＯ５４	坏蓋　高(2.0)	〃	切離は篦切→篦削	〃　良好	オリーブ灰 明オリーブ灰
97－1121	ＬＱ５６	坏蓋　高(1.6)	つまみはボタン状	——	〃　良好	灰オリーブ・ 灰白
97－1122	ＬＰ５６	坏蓋　高(2.1)	天井は丸い　つまみは台形状	切離は篦切→篦削	〃　堅緻	灰白・同
97－1123	ＬＭ５２	坏蓋　高(1.8)	天井は平坦　つまみはボタン状	〃	〃　良好	にぶい黄橙・ 同
97－1124	ＬＯ５４	坏蓋　高(1.7)	〃	〃	〃　良好	灰黄・同
97－1125	ＬＰ５５	坏蓋　高(0.5)	天井は平坦	つまみ部に渦痕	〃　堅緻	灰・同
97－1126	ＬＯ５６	坏蓋　高(0.8)	つまみは扁平な擬宝珠	——	〃　不良	灰白・同
97－1127	ＬＰ５３	坏蓋　高(1.6)	つまみはボタン状擬宝珠	——	〃　堅緻	明オリーブ灰・ 同
98－1128	ＬＱ５３	坏蓋　高(0.7)	天井は平坦	内面に掻目	〃　堅緻	灰白・黄灰
98－1129	ＬＮ５５	坏蓋　(口16.7)	天井は扁平　端部は屈曲して立つ	切離は篦切→篦削	〃　堅緻	灰・黒
98－1130	ＬＰ５５	坏蓋　(口14.5)	天井から体部は丸く低い　端部は外傾	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰・灰白
98－1131	ＬＮ５５	坏蓋　高(2.2) (口18.5)	体部は膨む　端部は水平から屈曲して 外傾	切離は不明→篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰黄 〃

第63表　土器観察表(62)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
98－1132	ＬＮ５５	坏蓋 (口18.6)　天 2.2	天井は広く平坦　体部は直線的　端部は水平から屈曲して外傾	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 灰白
98－1133	表採	坏蓋 (口14.4)　天 2.5	天井はほぼ平坦　体部は直線的　端部は水平気味から屈曲して外傾	切離は篦切→篦削 内面は平滑	〃 堅緻	明オリーブ灰 〃
98－1134	ＬＱ５３	坏蓋 (口16.1)　天 1.7	天井は扁平　体部は直線的　端部は屈曲して外弯	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰黄 〃
98－1135	ＬＱ５６	坏蓋 (口16.0)　天 1.7	天井は扁平　体部は反る　端部は屈曲して外傾	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 〃
98－1136	ＬＰ５７	坏蓋　高(1.7) (口14.6)	天井から体部は丸い　端部は屈曲して内傾し尖端で立つ	切離不明→篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰 〃
98－1137	ＬＰ５７	坏蓋 (口13.6)　天 2.5	天井はほぼ平坦で高い　体部は緩く膨む　端部は屈曲して内傾	切離は篦切→篦削	〃 良好	灰白 淡黄
98－1138	ＬＰ５６	坏蓋 (口14.7)　天 3.3	天井はほぼ平坦で高い　体部は反る　端部は屈曲して短く立つ	〃	〃 良好	灰白 〃
98－1139	ＬＰ５７	坏蓋 (口14.2)　天 2.1	天井はほぼ平坦　体部は緩く膨む　端部は屈曲して内傾し先は尖る	〃	〃 良好	灰 灰白
98－1140	ＬＰ５７	坏蓋 (口14.6)　天 2.4	天井はほぼ平坦　体部はやや反る　端部は稜をつくり屈折して立つ	〃	〃 良好	淡黄 〃
98－1141	ＬＯ５８	坏蓋 (口13.4)　天 2.5	天井はほぼ平坦　体部は反る　端部は屈曲して立つ	〃	〃 良好	灰白 〃
98－1142	ＬＰ５５	坏蓋 (口14.2)　天 2.1	天井はやや丸味有　体部は直線的　端部は屈曲して立つ	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰 灰白
98－1143	ＬＯ５８	坏蓋 (口14.1)　天 2.5	天井はやや丸味有　体部はやや反る　端部は屈曲してやや外傾	〃	〃 不良	淡黄 灰白
98－1144	ＬＦ４４	坏蓋 (口14.0)　天 2.6	天井はほぼ平坦　体部はやや反る　端部は屈折して立つ	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	〃 〃
98－1145	表採	坏蓋 (口13.8)　天 2.1	天井はほぼ平坦　体部はやや反る　端部は屈折して稜をつくりやや外弯	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰オリーブ 〃
98－1146	ＬＱ５３	坏蓋　(口16.6)	体部は緩く膨む　端部は屈折して外傾	切離は不明→篦削	〃　堅緻	黄灰・同
98－1147	ＬＰ５５	坏蓋 (口14.3)　(天 2.2)	天井は広く平坦　体部は反る　端部は緩く内弯気味	切離は篦切→篦削	〃 良好	にぶい黄橙 〃
98－1148	ＬＱ５０	坏蓋 (口12.3)　(天 2.1)	天井は平坦　体部は大きく反る　端部は水平から屈折して外傾	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 灰

第64表　土器観察表(63)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
98－1149	ＬＰ５７	坏蓋 (口17.1)　天 2.8	天井はやや丸味有　体部は直線的　端部は屈曲して稜をつくり外傾	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰 〃
98－1150	ＬＱ５７	坏蓋 (口14.3)　天 2.2	天井から体部は弯曲　端部は内面だけを引き出す	〃	〃 良好	灰白 〃
98－1151	ＬＰ５７	坏蓋　高 2.6 (口15.0)	天井は高い　体部はやや反る　端部は屈曲して立ち先は弯曲	切離は不明→篦削	〃 良好	明褐灰 〃
98－1152	ＬＰ５７	坏蓋 (口14.9)　天 1.9	天井はやや丸い　体部は緩く膨む　端部は屈折して立つ	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰オリーブ 〃
98－1153	ＬＪ５７	坏蓋 (口13.8)　天 1.45	天井は低くやや丸い　体部は緩く膨む　端部は屈曲して内傾	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	淡黄 〃
98－1154	ＬＰ５６	高台付坏　高 8.2 (口17.8)　(底12.6)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は中央が厚い　高台は外傾し端は内傾	切離は篦切→撫	〃 良好	灰白 〃
98－1155	ＬＯ５７	高台付坏　高(8.6) (口21.9)	口縁はやや外反　体部は弯曲　底部は中央部が薄く端が厚い	切離は不明→篦削 ？　体部下半篦削	0.1前後の砂粒 微量　不良	浅黄橙 にぶい黄橙
98－1156	ＬＰ５５	高台付坏　高(6.1) (口15.9)	口縁はやや外反　体部は緩く弯曲　底部は丸い	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰オリーブ 灰
99－1157 50－2	ＬＯ５７	高台付坏　高 7.0 口 8.5　底10.5	口縁は直線的　体部はやや反り薄い　底部は平端で均一　高台は逆三角形状	切離は篦切→底面篦削	0.1前後の砂粒 少量　良好	淡黄 浅黄橙
99－1158	ＬＭ５２	高台付坏　高(6.1) (底10.2)	体部は直線的　底部は厚く２本の沈線有　高台は長方形状に外傾	——	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 〃
99－1159 50－3	ＬＯ５６	高台付坏　高(4.7) (口14.6)	口縁は直線的　体部は緩く弯曲　底部は厚く平坦	切離は篦切→撫	〃 良好	にぶい黄橙 浅黄橙
99－1160 50－4	ＬＯ５６	高台付坏　高 4.8 (口14.3)　(底 8.1)	口縁は直線的　体部は弯曲　底部は中央部が薄く端が厚い　高台は外傾	切離は篦切→撫	〃 良好	〃 〃
99－1161 50－5	ＬＯ５７	高台付坏　高(5.1) (口14.4)	口縁から体部は弯曲　底部は平坦で端は厚い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→底部篦削？	〃 良好	にぶい黄橙 〃
99－1162	ＬＮ５３	高台付坏　(高 4.6) (底 9.6)	体部は直線的　底部は平坦で端が厚い　高台は逆三角形状で立つ	切離は篦切→撫	〃 良好	灰 〃
99－1163 50－6	ＬＲ５６	高台付坏　高 4.3 (口13.7)　(底 9.0)	口縁はやや外反　体部は直線的　底部は中央が薄い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→撫 底部外に爪の痕跡	〃 堅緻	黄灰 灰白
99－1164 50－7	ＬＰ５７	高台付坏　高 4.9 (口14.0)　(底 8.8)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は薄く平坦　高台は外傾	切離は篦切→撫 渦明瞭	〃 不良	浅黄 〃

第65表　土器観察表(64)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
99－1165 50－8	表採	高台付坏　高 4.7 (口13.9)　(底 9.4)	口縁から体部は直線的　底部は平坦で端が厚い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 微量　良好	灰白 〃
99－1166	ＬＮ５５	高台付坏　高(3.9) (底 8.8)	体部は緩く膨む　底部は端が厚い　高台は短く外傾	〃	〃 良好	灰黄 灰褐
99－1167	ＬＯ５８	高台付坏　高(3.1) (底 8.2)	体部は膨む　底部は中央が薄く端が厚い　高台はやや外傾	〃	〃 不良	灰白 〃
99－1168	表採	高台付坏　高(2.4) (底10.0)	体部は膨む　底部は中央がやや薄い　高台は高く長方形状に外傾	〃	0.1以下の砂粒 顕著　良好	オリーブ灰 灰
99－1169	表採	高台付坏　高(5.1) (口14.3)　(底10.0)	口縁はやや外反　体部は膨む　底部は薄く平坦　高台は逆三角形状で外傾	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白 〃
99－1170	ＬＰ５３	高台付坏　高(3.6) (底 9.0)	体部は緩く膨む　底部は厚く平坦　高台は逆三角形状で内面端に稜有	切離は篦切→底部篦削？	0.1以下の砂粒 少量　不良	浅黄 〃
99－1171	ＬＰ５６	高台付坏　高 4.4 (口12.5)　(底 9.1)	口縁は短く外反　体部は緩く膨む　高台は低く方形状で外傾	切離は不明→撫	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	黄灰 〃
99－1172	ＬＮ５７	高台付坏　高 4.5 (口12.4)　(底 8.8)	口縁は僅に外反　体部は直線的　底部は端が角張る　高台は方形状で外傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白 黒
99－1173 50－9	ＬＮ５７	高台付坏　高 5.0 (口11.6)　(底 7.9)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は平坦　高台は方形状で立つ	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 にぶい黄橙
99－1174	ＬＮ５７	高台付坏　高 4.4 (口12.7)　(底 8.9)	口縁から体部にかけて直線的　底部は厚い　高台は方形状で直立	〃	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	褐灰 灰黄
99－1175	表採	高台付坏　高 5.1 (口14.6)　(底10.5)	口縁はやや外反　体部は膨む　底部は平坦で均一　高台は外傾し端部で内弯	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 〃
99－1176 50－10	表採	高台付坏　高 5.3 (口12.8)　(底 9.2)	口縁から体部は直線的　底部は薄く平坦　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→篦削	〃 良好	〃 灰黄
99－1177	表採	高台付坏　高 4.7 (口11.3)　(底 7.4)	口縁から体部は緩く膨む　底部は薄い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 微量　良好	灰オリーブ 灰白
99－1178	表採	高台付坏　高 5.7 (口12.4)　(底 6.3)	口縁から体部は僅に膨む　底部は中央部が薄い　高台は逆三角形状で端が内屈	〃	0.1以下の砂粒 少量　良好	〃 〃
99－1179	ＬＲ５６	高台付坏　高 7.9 (口14.0)　(底 5.5)	口縁は外反　体部は膨む　底部は厚く平坦　高台は垂直で接地部が凹む	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	明オリーブ灰 灰白
99－1180	表採	高台付坏　高 4.2 (口13.9)　(底10.6)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　高台は菱形状で外傾	〃	〃 良好	〃 〃

第66表　土器観察表(65)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
99－1181	ＬＰ５７	高台付坏　高 2.8 (底 9.2)	体部は膨む　底部は厚い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	浅黄 灰黄
99－1182	ＬＭ５７	高台付坏　高 2.3 (底 8.3)	体部は膨む　底部は厚く平坦　高台はやや外傾し先端外に稜	切離は篦切→撫 底部外に爪の痕跡	0.1以下の砂粒 微量　良好	浅黄橙 〃
99－1183	ＬＮ５７	高台付坏　(底 7.5)	底部は厚く平坦 高台は逆三角形で外傾	〃	〃　良好	浅黄橙・同
99－1184	ＬＮ５５	高台付坏　(高 1.8) (底 9.6)	底部は厚く平坦　高台は外傾し外に強い稜をつくって直立	切離は不明→撫 内面底に木口状撫	〃 良好	浅黄橙 にぶい黄橙
100－1185	ＬＱ５５	坏　高 3.6 (口13.3)　(底 9.8)	口縁から体部は緩く膨む　底部は平坦で端は角張る	切離は篦切→撫 体部は篦撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 〃
100－1186	表採	坏　高 3.6 (口13.4)　(底 9.0)	口縁から体部は内弯　端部は端が厚く丸い	切離は篦切→撫	〃 良好	にぶい黄橙 〃
100－1187	ＬＱ５６	坏　高 4.0 (口13.3)　(底 9.4)	口縁は外反　体部は大きく膨む　底部は厚く均一で端はやや丸い	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
100－1188	ＬＯ５７	坏　高 3.8 (口13.9)　(底 9.6)	口縁から体部は弯曲　底部は中央が薄く端は丸い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量	灰白 〃
100－1189	ＬＰ５６	坏　高 3.7 (口13.6)　(底 8.7)	口縁は薄く直線的　体部は緩く膨む　底部は平端で均一	〃	〃 良好	〃 〃
100－1190 54－11	ＬＯ５７	坏　高 4.4 (口15.1)　(底 8.8)	口縁は直線的　体部は僅に膨む　底部は中央がやや薄く平坦	〃	〃 不良	浅黄橙 〃
100－1191	ＬＯ５６	坏　高 4.0 (口13.0)　(底 8.2)	口縁から体部は直線的　底部は端が厚く丸い	切離は篦切→底部篦削	〃 良好	〃 淡黄
100－1192	ＬＰ５５	坏　高 4.5 (口13.4)　(底 7.7)	口縁は厚く直線的　体部は膨む　底部は厚く平坦	切離は篦切→撫 篦記号	0.1前後の砂粒 微量　良好	灰白 〃
100－1193	ＬＮ５７	坏　高 3.5 (口13.5)　(底 8.9)	口縁は外反　体部は膨む　底部は中央が高い　全体が薄い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃 灰黄
100－1194	ＬＯ５６	坏　高 4.8 (口14.7)　(底 7.3)	口縁は外反　体部は直線的　底部は平坦で中央が高い	切離は不明→底部・体下端篦削	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	にぶい黄橙 淡黄
100－1195	ＬＯ５６	坏　高 4.6 口13.1　底 8.1	口縁から体部は緩く膨む　底部は平坦で均一	切離は篦切→撫	〃 不良	灰白 〃
100－1196	ＬＰ５７	坏　高 4.4 (口14.2)　(底 8.6)	口縁から体部は弯曲　底部は厚く端は角張る	切離は篦切→撫 篦記号	0.1以下の砂粒 少量　良好	〃 〃
100－1197	ＬＮ５６	坏　高 4.2 (口14.2)　(底 8.6)	口縁は外反　体部は膨む　底部は中央部が厚く端は角張る	切離は篦切→撫	〃 良好	〃 〃

第67表　土器観察表(66)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
100－1198 54－12	ＬＯ５７	坏　高 4.7 口14.5　底 8.1	口縁から体部は緩く膨む　底部は中央が厚く高い	切離は篦切→撫 体部端が一部篦削	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白 灰黄褐
100－1199	ＬＬ５６	坏　高 2.9 (口12.9)　(底 8.3)	口縁から体部は弯曲　底部は端が丸い	切離は不明→撫	〃 堅緻	灰オリーブ 〃
100－1200	ＬＰ５６	不明　(口14.0)	口唇直下に鋭く強い稜	内外に撫	0.1以下の砂粒 微量　堅緻	灰・同
100－1201	ＬＱ５６	坏?　(底 7.6)	体部は膨む　底部は中央が薄い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白・灰
100－1202	表採	坏?　(底 5.6)	体部は膨む　底部は平均で端は角張る	〃	〃　堅緻	灰・同
100－1203 81－5・6	ＬＮ５６	坏　(底 8.5)	底部は平坦で端は角張る	切離は篦切→篦削 内面底に篦書木葉文	0.1前後の砂粒 微量　堅緻	にぶい黄橙・ 灰黄
100－1204	表採	壺?　高(2.8)	体部は膨む　底部は中央が薄い	切離は篦切→撫 底外面に篦記号	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰白・灰
100－1205 57－5	ＬＴ５３	高台付椀?　高(4.7) (底11.7)	体部は直線的　底部は平坦で均一　高台は高く長方形状で外反	切離は篦切→撫 内面底は不定撫	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	黄灰 〃
100－1206	ＬＱ５３	高台付椀?　高(3.0) (底10.2)	体部は弯曲　底部はほぼ平坦で均一　高台は長方形状で外傾　接地部は凹む	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	灰黄 灰オリーブ
100－1207 57－6	ＬＪ５７	壺蓋　高 5.1 (口16.2)　天 3.4	天井は平坦で肩部は丸い　口縁は直立　尖端は内側で突出　つまみは擬宝珠	切離は篦切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	黄灰 淡黄
100－1208 57－7	ＬＰ５７	壺蓋　高 4.3 (口12.1)　天 3.6	天井は平坦で肩部は丸い　口縁は直立　尖端はやや内傾　つまみは扁平	〃	〃 堅緻	オリーブ黒 灰黄
100－1209	ＬＰ５５	壺蓋　(口18.0)	肩部は丸く口縁はやや外傾	——	〃　堅緻	黄灰・灰白
100－1210 57－8	ＬＱ５５	壺蓋　高 4.4 (口14.3)　(底 3.4)	天井は平坦　肩部は丸い　口縁はやや反って直立　つまみはボタン状	切離は篦切→篦削	0.1以下の砂粒 顕著　不良	にぶい黄橙 淡黄
100－1211 57－9	ＬＱ５５	壺蓋 (口12.4)　天 2.7	天井はやや丸い　肩部は丸い　口縁はやや内傾	——	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 〃
100－1212	ＬＯ５６	壺蓋 (口13.1)　天 3.1	肩部は角張る　口縁は垂直に立ち端部は僅に外弯	——	〃 堅緻	オリーブ黒 灰白
100－1213 57－10	ＬＯ５６	壺蓋 (口 9.2)　天 1.6	天井は平坦　肩部は丸い　口縁はやや内傾し尖端は丸い	切離は篦切→篦削	〃 堅緻	灰黄 灰
100－1214	ＬＯ５５	壺蓋?　高(2.1)	天井は平坦　つまみは擬宝珠	——	〃　堅緻	暗灰黄・灰
101－1215	ＬＯ５７	短頸壺　(頸10.5)	口縁は直立　頸部はくの字で肩は張る	外は撫 内は掻目→撫	〃　堅緻	灰オリーブ・ 灰
101－1216 57－11	ＬＯ５６	短頸壺　(頸 9.6)	口縁はやや外反　頸部はやや緩い張り	内外面丁寧な撫	〃　堅緻	灰オリーブ・ 同
101－1217 57－12	ＬＰ５７	短頸壺　(頸11.5)	口縁はやや膨んで直立　肩部は張る	〃	〃　堅緻	灰白・灰
101－1218	ＬＰ５６	短頸壺　高(11.5) (口11.6)　(頸11.2)	口縁はやや外反　頸部はくの字に屈折　肩部は張り沈線有　全体は楕円形状	外は胴下半に篦削 内は撫	〃 堅緻	灰 灰白

第68表　土器観察表(67)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
101－1219 58－1	ＬＯ５６	ミニチュア短頸壺　高 3.8 (口 6.2)　(底 5.2)	口縁は短く直立　頸部はくの字状に屈折　肩部は強く張る	外は胴下半に篦削 内は撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	オリーブ灰 〃
101－1220	ＬＯ５３	ミニチュア短頸壺　高 6.2 (口 5.3)　(頸 5.2)	口縁は薄く短く直立　頸部はくの字状に屈折　肩部は緩いが突出する	外は胴下半に篦削→撫　内は撫	〃 堅緻	黄灰 黒
101－1221 58－2	ＬＳ５４	壺?　(底 9.0)	底部は中央が厚く平坦　高台は外傾	切離は篦切→篦削	〃　堅緻	黄灰・同
101－1222	ＬＰ５６	壺　(底10.0)	底部は厚く平坦　高台は強く外傾	外は掻目	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰・灰白
101－1223	ＬＰ５６	壺　(底12.2)	底部は外傾し稜をもつ　端は短く立つ	内外丁寧な撫	〃　良好	灰オリーブ
101－1224	ＬＪ５７	壺?　(底10.7)	〃	切離は篦切→撫 内は掻目	0.1以下の砂粒 少量　良好	淡黄・同
101－1225	ＬＱ５３	壺　(底14.8)	高台は長方形状で外傾　接地部は凹む	内外丁寧な撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	黄灰・灰
101－1226	ＬＫ５６	壺　(底11.4)	底部は厚く丸い　高台は長方形状で外傾	切離は篦切→撫	〃　堅緻	淡黄・灰白
101－1227 58－3	ＬＰ５６	円面硯　高 5.0 (口10.9)　(内圏径7.2)	平坦な陸に２種の圏が巡る　体部は大きく反り４方透有　端部は屈折	切離は不明→丁寧な撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白 暗灰
101－1228	表採	円面硯　高 4.0 (外圏径19.7)	３種の圏が巡り内側の２つは低く細いが外はしっかりしている　脚部は外傾	内外に撫	〃 堅緻	黒褐 黒
101－1229 58－4	ＬＯ５６	円面硯　高10.1 (上面径14.7)　(底22.6)	平坦な陸に２種の低く細い圏が巡る　脚部は外反し４方透有　端部は水平	陸外面に不定の撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰褐 黒褐
101－1230	ＬＰ５６	円面硯　高(4.0) (底27.6)	脚部は外反し４方透有　端部は水平で尖端が短く突出	外は平行掻目 内は丁寧な撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰 〃
101－1231	ＬＪ５７	風字硯　高(1.7)	手前が高く横断面はＵ字形　左側には足を入れる枘穴有	外面底は篦削	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰黄 灰白
101－1232	ＮＭ５３	鉢鉢　高(20.6)	口縁は内弯　体部は膨む	外面体部は篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰・同
101－1233 58－6	ＬＯ５５	鉢鉢　高 7.7 (口16.6)　底 4.0	口縁は内弯し口唇は外傾　体部は弯曲　底部は丸味のある平坦面	体部は平行掻目 底部は篦削	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	黒 〃
101－1234	表採	甑　高(5.9) (口23.2)	口唇は僅に凹み口縁は折返状　胴は内傾	外は平行叩 内は撫	〃 堅緻	灰 灰黄
101－1235	ＬＰ５５	鉢　高(7.7) (口31.4)	口唇はやや丸く口縁は外反　頸部はくの字状　体部は弯曲	体部外面は篦削→撫　内面は撫	0.1前後の砂粒 微量　堅緻	灰オリーブ 灰
101－1236	ＬＩ５７	甕?	口唇は直立し下位に水平で強い稜有	外は波状文	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰オリーブ・同
102－1237 58－5	ＬＯ５６	短頸壺　高26.4 口11.3　底13.4	口縁は直立　頸部はくの字状に屈折　体部に沈線有　高台は長方形状で外傾	外は平行叩→篦削 内は平行掻目	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 黒
102－1238 58－7	ＬＰ５６	長頸瓶　高(7.0) (底 5.1)	体部は膨み沈線有　底部は中央が薄い高台は外傾し強い稜をつくって直立	外は篦削→撫 内は底部が不定撫	〃 堅緻	灰黄 灰
102－1239 58－8	ＬＴ５３	長頸壺　頸 5.9	口縁は外反　頸部付近は直立気味	つくりは３段構成	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰・灰白

第69表　土器観察表(68)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
102－1240 66－5	ＬＴ５６	長頸壺　高(18.0)	肩部は強く張り球形状	内外面に細い掻目	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰白・灰
102－1241 59-5・84-4	ＬＯ５７	横瓶	体部横は丸い	内外面に叩	〃　良好	浅黄橙・にぶい黄橙
102－1242 59－5	ＬＮ５８	横瓶	〃	外は撫　内は押	〃　良好	にぶい黄橙・同
102－1243 59－4	ＬＮ５６	横瓶　高20.7 口 9.8　頸 8.2	口唇は凹む　口縁は外反　頸部はくの字状に屈曲　体部は全体に俵形	外は平行叩→撫 内は円文叩	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰黄 にぶい黄橙
103－1244	ＬＰ５４	甕　(口24.1)	口縁は外反　肩は強く張る	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰・灰白
103－1245 68－9	ＬＯ５５	甕　(口24.8)	口唇は凹む　口縁は外反　頸部屈曲	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃　堅緻	灰白・同
103－1246 66－6	ＬＮ５６	横瓶　高(24.1)	全体に俵形	外は平行叩 内は円文叩	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰黄・オリーブ黄
103－1247	ＬＱ５５	横瓶?　(口13.0)	口唇は外傾　口縁は外反	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰・同
103－1248	ＬＯ５８	甕　(口25.3)	口唇は内に稜有　肩部は張る	外は平行叩 内は円文叩	〃　堅緻	〃
103－1249	ＬＯ５２	甕　(口28.9)	口唇は丸く内外に稜　肩部は張る	外は平行叩→撫 内は叩→撫	〃　堅緻	〃
103－1250	ＬＮ５７	甕　(口23.6)	口唇は丸い　頸部はくの字に屈曲	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃　堅緻	灰・灰オリーブ
103－1251	ＬＮ５６	甕　(口23.0)	口唇は凹む　口縁は僅に外反	外は平行叩→撫 内は叩→撫	〃　堅緻	灰・灰白
103－1252	ＬＮ５６	甕　(口25.1)	口唇は凹んでやや外傾　頸部は細い	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰・同
104－1253 68－10	ＬＭ５２	甕　高(6.8) (口25.4)	口唇は平坦で外傾　口縁は先が外弯気味　頸部はくの字に屈曲	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰オリーブ 〃
104－1254	ＬＮ５５	甕　高(9.4) (口21.0)	口唇はやや丸く外傾　口縁は直立気味から外反　頸部は屈曲　肩部は張る	外は平行叩→掻目 内は円文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
104－1255 69－1	ＬＱ５５	甕　(頸19.3)	肩部は丸味を帯びる	外は平行叩 内は円文叩	〃	灰白・灰オリーブ
104－1256 69－2	ＬＮ５６	甕	肩部は強く張る	外は平行叩	〃	黄灰・同
105－1257 69－3	ＬＮ５６	大甕　高(17.2) (口50.0)　(頸44.2)	口唇は丸く外傾　口縁は直立気味から外反　頸部はくの字状　肩部は張る	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃 堅緻	灰オリーブ 〃
105－1258 69－4	ＬＯ５２	大甕　高(13.0) (口60.0)　(頸49.4)	口唇は平坦で外傾　口縁は外反　頸部はくの字状に屈折	外は撫→波状文 内は叩→撫	〃 堅緻	灰 〃
105－1259 69－5	ＬＯ５３	大甕　高12.4 (口53.2)　(頸42.0)	口唇は丸く外傾　口縁は外反　頸部はくの字状に屈折	外は撫→波状文 内は叩→撫	〃 堅緻	灰オリーブ 灰
105－1260 69－6	ＬＮ５６	大甕　高17.6 (口41.6)　(頸34.3)	口唇は凹んで外傾　口縁は外反し先に三角状の稜有　頸部はくの字状屈曲	外は平行叩　波状文　内は円形文	〃 堅緻	灰白 〃
106－1261 69－7	ＬＮ５５	大甕　高(18.7) (口51.4)　(頸39.6)	口唇は内傾　口縁は外反し先に丸い稜が有　頸部はくの字状に屈折	外は平行叩→撫 内は円形文→撫	〃 堅緻	にぶい褐 灰褐
106－1262 69－8	ＬＮ５５	大甕　高(18.7) (口51.4)　(頸39.6)	口唇は凹み内傾　口縁は外反し尖端は内弯気味で外に稜有	内外は撫	〃 堅緻	灰黄褐 〃

第70表　土器観察表(69)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
106－1263 69－9	ＬＯ５２	大甕　高(9.0) (口53.2)	口唇は凹む　直下に垂れ下がる稜 頸部は直立気味から外反	外は波状文 内は撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰褐 〃
106－1264	ＬＯ５２	大甕　(頸29.6)	口縁は外反　頸部はくの字状に屈折	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃　堅緻	灰・同
107－1265 69－10	ＬＮ５６	大甕　高(16.2) (口52.7)　(頸44.3)	口唇は凹み直下内には沈線外には稜有 口縁は外反　頸部はくの字状に屈折	外は平行叩→撫 内は円文叩　撫	〃 良好	灰褐 にぶい橙
107－1266 70－1	ＬＯ５６	大甕　高(22.0)	体部は大きく膨む	外は縄文叩→撫 内は円文叩→撫	〃　堅緻	灰・灰黄
108－1267 64－6	ＬＳ５４	大甕　高(43.1)	〃	〃	〃　堅緻	灰・灰オリーブ
109－1268 71－2	ＬＮ５５	大甕	口唇はＶ字状に凹む　直下に厚い突帯	外は平行叩	〃　良好	灰黄褐・にぶい黄橙
109－1269 71－2	ＬＲ５３	大甕	口唇に２つの沈線　直下に丸い稜	〃	〃　堅緻	褐灰・同
109－1270 71－2	ＬＲ５２	大甕	口唇は凹んで外傾　直下に丸い稜	内外に撫	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	黄灰・同
109－1271 71－2	ＬＭ５２	大甕	口唇はＶ字状に凹む　直下に厚い突帯	外は平行叩	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰黄褐・にぶい黄橙
109－1272 71－2	ＬＱ５３	大甕	口唇はＵ字状で外傾　直下に三角の稜	〃	〃　堅緻	灰・同
109－1273 71－2	ＬＱ５３	大甕	〃	〃	〃　堅緻	〃
109－1274 71－2	ＬＴ５４	大甕	口唇はＵ字状で外傾　直下の外は稜内には浅い沈線	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	にぶい橙・同
109－1275 71－2	ＬＮ５６	大甕	口唇はＵ字状で水平　外に丸い稜	〃	〃　堅緻	オリーブ黒・同
109－1276 71－2	ＬＮ５５	大甕	口唇は凹む　直下に垂れ下がる稜	〃	〃　堅緻	灰白・灰
109－1277 71－2	ＬＮ５６	大甕	口唇は凹み外傾　直下に垂れ下がる稜	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰黄・同
109－1278 71－2	ＬＭ５２	大甕	〃	〃	0.1前後の砂粒 顕著　良好	黄灰・褐灰
110－1279 71－2	ＬＯ５３	大甕	口唇は凹む　直下に短く垂れ下がる稜	外は波状文	〃　良好	灰黄褐・灰褐
110－1280 71－2	ＬＭ５２	大甕	口唇はＶ字状で内外に稜　直下に稜	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰黄・にぶい黄
110－1281 72－1	ＬＱ５４	大甕	口唇は凹む　直下に垂れ下がる稜	外は波状文　沈線	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰黄・黄灰
110－1282 72－1	表採	大甕	〃	外は波状文	〃　良好	〃
110－1283 72－1	ＬＴ５２	大甕	口唇は凹み内外は丸い　直下に垂れる稜	外は平行叩	〃　良好	灰黄・灰
110－1284 72－1	ＬＯ５２	大甕	口唇はＵ字状に凹む　直下に垂れ下がる稜	外は波状文	〃　良好	灰褐・同
110－1285 72－1	表採	大甕	口唇は凹み垂直　直下に稜有	外は平行叩	〃　堅緻	灰オリーブ・オリーブ黒
110－1286 72－1	ＬＭ５６	大甕	口唇下に２つの丸い稜	内外撫	〃　良好	灰黄褐・同
110－1287 72－1	表採	大甕	口唇は外傾　直下に丸い稜	内は平行掻目	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰・同
110－1288 72－1	ＬＯ５６	大甕	口唇は凹み水平　直下に丸い稜	外は平行叩	0.1以下の砂粒 少量　良好	にぶい黄褐・灰褐
110－1289 72-1・82-8	ＬＳ５６	大甕	口唇は凹み垂直　直下に丸い稜	〃	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰白・灰
110－1290 72－1	ＬＮ５６	大甕	口縁の内に２本の沈線　外に稜有	〃	〃　良好	にぶい褐・にぶい黄橙
111－1291 72－1	ＬＮ５５	大甕	口唇は丸く立つ　外に稜内に沈線	〃	〃　堅緻	暗灰黄・灰白
111－1292 72－1	ＬＭ５２	大甕	口唇の外に２つの稜内に沈線	〃	〃　良好	にぶい黄橙・にぶい橙
111－1293 72－2	ＬＴ５６	大甕	口唇は凹み水平 外に短く垂れ下がる稜	〃	〃　堅緻	灰・同

第71表　土器観察表(70)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
111－1294 72－2	ＬＮ５６	大甕	口唇は丸い 直下外に短く垂れ下がる稜	外は平行叩	0.1以下の砂粒 顕著　良好	にぶい橙・同
111－1295 72-2・82-7	表採	大甕	口唇は丸い　直下内に沈線外に稜	外は平行叩 内は掻目	〃　堅緻	褐灰・オリーブ黒
111－1296 72－2	ＬＯ５２	大甕	口唇は丸い　直下外に稜有	外は平行叩→沈線	〃　堅緻	灰オリーブ・灰
111－1297 72－2	ＬＱ５３	大甕	口唇は内反気味 直下は厚く二重口縁状	内外に丁寧な撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	〃
111－1298 72－2	ＬＰ５４	大甕	〃	〃	〃　堅緻	灰・オリーブ黒
111－1299 72－2	ＬＦ４４	大甕	口唇は丸く内反気味 直下は二重口縁状	外は平行叩	〃　良好	にぶい橙・灰黄
111－1300 72－2	ＬＮ５５	大甕	〃	〃	〃　良好	にぶい黄橙・にぶい橙
111－1301 72－2	ＬＳ５３	甕	口唇は丸い　直下に三角形の稜	内外に丁寧な撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	にぶい褐・同
112－1302 72－2	ＬＱ５４	甕	口唇は凹み垂直　口縁外反	外は平行叩	〃　堅緻	灰・オリーブ黒
112－1303 72－2	ＬＰ５６	甕	口唇は垂直気味　口縁は垂直気味に立ち先で外反	内外に丁寧な撫	〃　堅緻	灰白・同
112－1304 72－2	ＬＮ５６	大甕	口唇は凹み外傾し内外とも突出	外は波状文	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰・同
112－1305 72－2	表採	大甕	口唇は凹み垂直で内外とも突出	外は平行叩	0.1以下の砂粒 微量　不良	灰・灰白
112－1306 73－1	ＬＴ５６	甕	口唇は凹み方形状 口縁は垂直気味に立ち先で外反	内外に丁寧な撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白・灰
112－1307 73－1	ＬＮ５８	甕	口唇は方形状　直下に鋭い稜有	外は平行叩→撫	〃　堅緻	灰・同
112－1308 73－1	ＬＮ５２	甕	口唇はやや丸く内外に稜　頸部は屈曲	〃	0.1以下の砂粒 顕著	〃
112－1309	ＭＣ５５	甕	口唇は外傾し内に稜有　頸部は屈折	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃　堅緻	〃
112－1310	ＬＭ５２	甕	口唇は水平で外が突出　頸部は屈折	〃	〃　堅緻	〃
112－1311 73－1	ＬＱ５５	甕	口唇は外傾し内外に稜　頸部は屈折	外は平行叩→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰黄・同
112－1312	ＬＱ５３	甕	口唇は凹み外傾　口縁は強く外反	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃　堅緻	灰・同
112－1313 73－1	ＭＣ５５	甕	口唇内に鋭い稜　頸部は屈曲	外は平行叩 内は平行掻目	〃　堅緻	〃
113－1314 73－1	ＬＰ５７	大甕	口唇は尖る　直下外に稜有	外は波状文	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	〃
113－1315 73－1	表採	大甕	口唇は尖る　直下は小さな稜有	内外丁寧な撫	〃　堅緻	灰・灰白
113－1316 73－1	〃	大甕	口唇は丸い　直下は緩く凹む	外は波状文→沈線	〃　堅緻	灰白・灰
113－1317 73－1	表採	大甕	口唇は丸い　直下内は緩く凹む	外は波状文	〃　堅緻	灰・同
113－1318 73－1	表採	大甕	口唇は丸い　直下外の沈線内は凹む	〃	〃　堅緻	〃
113－1319 73－1	ＬＯ５２	大甕	口唇は方形　直下外には鋭い稜	〃	〃　堅緻	灰オリーブ・黒
113－1320 73－1	ＬＯ５３	大甕	口縁先端は細く外反　直下に丸い稜有	内外丁寧な撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ・灰
113－1321 73－2	表採	大甕	口唇はやや外傾で外は突出　直下に稜	〃	〃　堅緻	〃
113－1322 73－2	ＬＬ５２	大甕	口唇は直立　直下に大きく鋭い稜有	外は平行叩	〃　堅緻	灰・同
113－1323 73－2	ＬＭ５２	大甕	口唇は外傾し内は立つ　下に鋭い突帯	外は平行叩	〃　堅緻	灰オリーブ・灰
113－1324 73－2	ＬＲ５４	大甕	口唇はやや凹む　直下外に丸い稜	外は波状文	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰オリーブ・同
113－1325 73－2	ＬＯ５３	大甕	口唇は垂直気味　直下に稜有	〃	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	浅黄・灰黄
114－1326 73－2	ＬＯ５６	大甕	口唇は丸く内に稜有　口縁は先で外弯	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰白・同

第72表　土器観察表(71)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
114－1327 73－2	表採	大甕	口唇は外傾し内外に稜有	外は平行叩→ 波状文	0.1以下の砂粒 少量　良好	暗灰黄・同
114－1328 73－2	LO57	大甕	口唇は丸く外傾　口縁は外反	〃	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰・黒
114－1329 73－2	LN57	大甕	口唇は緩く凹み外傾　口縁は外反	〃	〃　堅緻	灰黄・灰
114－1330 73－2	LN56	大甕	口唇は外傾し内に稜有　口縁は外反	外は平行叩→掻目 →撫→波状文	〃　良好	黄灰・同
114－1331 74－1	LO56	大甕	口唇は丸く直立　口縁は外反	外は波状文→撫	〃　堅緻	灰黄・黄灰
114－1332 74－1	LQ54	大甕	口唇は凹み内は突出して立つ	外は平行叩→撫→ 波状文	〃　堅緻	灰・オリーブ 黒
114－1333 74－1	表採	大甕	口唇は丸く直立気味　口縁は外反	外は波状文	〃　堅緻	灰オリーブ・ 同
114－1334 74－1	LO53	大甕	口唇は内外中央が突出　口縁は外反	外は撫→波状文	〃　堅緻	灰オリーブ・ オリーブ黒
114－1335 74－1	LP56	大甕	口唇は丸くやや外傾　内が僅に凹む	外は波状文	〃　堅緻	灰オリーブ・ 同
115－1336 74-1・82-5	LN56	大甕	口唇はやや外傾　内外に稜有	外は平行叩→ 波状文	〃　堅緻	灰オリーブ・ オリーブ黒
115－1337 74－1	LS54	大甕	口唇はやや凹み内外に稜有　口縁外反	外は波状文	〃　堅緻	灰・同
115－1338 74－1	表採	大甕	口唇はほぼ平坦で外傾　内外に稜有	〃	〃　堅緻	〃
115－1339 74-1・82-1	LO53	大甕	口唇はやや内傾　直下に三角状の稜	外は木口撫→ 波状文	〃　堅緻	灰白・灰オリーブ
115－1340 74－2	LR54	大甕	口唇は凹みやや外傾　直下内に沈線	外は波状文	〃　堅緻	灰・同
115－1341 74-2・82-2	MD54	大甕	口唇は丸く外傾　直下に緩い稜有	外は撫→波状文	〃　堅緻	灰オリーブ・ 灰
115－1342 74-2・82-6	LO52	大甕	口唇に大小２つの沈線有　二重口縁状	外は撫→波状文→ 撫	〃　堅緻	灰・同
115－1343 74－2	LO52	大甕	口唇は中央が三角形状に突出	外は撫→波状文	〃　堅緻	灰オリーブ・ 灰
115－1344 74－2	LS55	大甕	口唇はやや凹み内面に稜有	〃	〃　堅緻	灰オリーブ・ オリーブ黒
115－1345 74-2・82-4	MS52	大甕	口唇はやや外傾　内に強い稜有	外は波状文	〃　堅緻	灰オリーブ・ 灰
115－1346 74－2	LR53	大甕	〃	〃	〃　堅緻	〃
116－1347 74－2	表採	大甕	口唇は凹んで外傾　直下外に稜有	外は平行叩→ 波状文	〃　堅緻	灰・黒
116－1348 75－1	LM52	大甕	口唇は丸く外傾し外は突出	〃	〃　堅緻	灰オリーブ・ 灰
116－1349 75－1	ML52	大甕	口唇は中央に低い稜と沈線をもち直立	外は掻目→波状文 内は掻目	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	〃
116－1350 75－1	LR55	大甕	口唇は垂直　直下の内は僅に凹む	外は波状文	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ・ 灰白
116－1351 75－1	LP53	大甕	口唇は中央がやや膨み内外に稜有	外は平行叩→ 波状文	〃　堅緻	灰・黒
116－1352 75－1	LR56	大甕	口唇はやや膨み外が突出して外傾	〃	〃　堅緻	灰・同
116－1353・75－1 82－3　・84－7	MR52	大甕	〃	〃	〃　堅緻	灰オリーブ・ オリーブ黒
116－1354 75－1	MD55	大甕	口唇先は内弯気味　直下に稜有	外は波状文	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰・同
117－1355 75－1	表採	大甕	〃	外は平行叩→撫 内は円文叩	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ・ 同
117－1356 75－2	LP56	大甕	口唇は平坦で直立	外は波状文	〃　堅緻	黄褐・浅黄
117－1357 75－2	LN52	大甕	口唇先は内弯して立つ　外に２つの稜	外は平行叩	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰・同
117－1358 75－2	LO56	大甕	口唇は丸く内に稜有	外は縄文叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	暗灰黄・黄灰
117－1359 75－2	LO56	大甕	口唇は外傾し内に稜有	〃	〃　堅緻	黄灰・灰

第73表　土器観察表(72)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
117－1360 75－2	ＭＣ５５	大甕	口唇の中央はやや膨み内外が突出	外は掻目→撫 内は円文叩→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ・同
117－1361 76－1	ＬＭ５２	大甕	口唇は丸く沈線有　内外が内に突出	外は縄文の平行叩	〃　堅緻	灰オリーブ・オリーブ黒
118－1362 76－1	ＬＯ５６	大甕	口唇先は内弯気味に立つ	外は撫→波状文	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	黄褐・灰褐
118－1363 76－1	ＬＮ５２	大甕	口縁は外反	外は平行叩→撫	〃　堅緻	灰オリーブ・灰
118－1364 76－1	表採	大甕	〃	内外撫	〃　堅緻	灰褐・灰オリーブ
118－1365 76－1	ＬＱ５３	大甕	〃	外は掻目→撫 内は掻目→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰・同
118－1366 76－1	ＬＲ５３	大甕	〃	内外に撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	〃
118－1367 76－1	表採	大甕	〃	外は波状文	〃　堅緻	灰オリーブ・灰
118－1368 76－1	ＬＲ５６	大甕	〃	外は平行叩→撫→波状文	〃　堅緻	灰・同
118－1369 76－1	ＭＢ５５	大甕	〃	外は平行叩→撫 内は平行叩	0.1以下の砂粒 顕著　良好	〃
118－1370 76－1	ＭＲ５２	大甕	〃	外は掻目→波状文	〃　堅緻	灰・灰オリーブ
118－1371 76－2	ＬＮ５２	大甕	〃	外は平行叩→撫	〃　堅緻	灰・同
119－1372 76－2	ＬＰ５４	甕	〃	内外丁寧な撫	〃　良好	灰オリーブ・黒
119－1373 76－2	表採	甕	〃	〃	〃　堅緻	灰・同
119－1374 76－2	ＬＮ５８	甕	〃	外は平行叩→撫	〃　堅緻	〃
119－1375 76－2	ＭＣ５４	大甕	〃	外は掻目→撫 内は掻目	〃　堅緻	〃
119－1376 76－2	ＬＯ５２	大甕	〃	内外丁寧な撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰黄褐・灰白
119－1377 76－2	ＬＱ５６	大甕	〃	外は平行叩→撫	〃　堅緻	灰白・灰
119－1378 76－2	表採	大甕	〃	外は撫　内は掻目	〃　堅緻	灰オリーブ・灰
119－1379 76－2	ＭＳ５１	大甕	〃	外は平行叩→波状文	〃　堅緻	〃
119－1380 76－2	ＬＭ５２	大甕	〃	外は平行叩→撫 内は平行叩	〃　堅緻	灰・黒
119－1381 77－1	ＬＯ５２	大甕	〃	外は平行叩→撫	〃　堅緻	灰オリーブ・灰
119－1382 77－1	ＬＦ５１	大甕	〃	外は平行叩→撫	〃　堅緻	灰・同
119－1383 77－1	ＬＯ５３	大甕	〃	内外丁寧な撫	〃　堅緻	〃
120－1384 77-1・84-2	ＬＲ５６	大甕	肩部は強く張る	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	〃　堅緻	〃
120－1385 77－1	ＬＯ５５	大甕	〃	〃	〃　堅緻	暗灰黄・灰黄
120－1386 77－1	ＬＮ５６	大甕	肩部はやや張る	〃	〃　堅緻	灰白・浅黄
120－1387 77-1・84-1	ＬＲ５５	甕	肩部は強く張る	〃	〃　良好	灰・同
120－1388 77－1	ＬＯ５２	大甕	〃	〃	〃　堅緻	灰・灰オリーブ
120－1389 77－1	ＬＭ５２	大甕	〃	〃	〃　堅緻	灰・同
120－1390 77－1	ＭＣ５４	大甕	〃	〃	〃　堅緻	〃
120－1391 177-2・84-3	ＬＱ５６	大甕	〃	〃	〃　堅緻	灰オリーブ・灰
120－1392 77－2	ＬＯ５２	甕	〃	〃	〃　堅緻	灰白・同

第74表　土器観察表(73)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
120－1393 77－2	ＬＱ５７	甕	肩部は強く張る	外は平行叩→撫 内は円文叩→撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ・ 浅黄
120－1394 77－2	ＬＧ４６	甕	〃	〃	〃　堅緻	灰・同
121－1395 77-2・83-1	表採	甕	頸部はくの字に屈曲　肩部は張る	外は平行叩→撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰・灰オリーブ
121－1396 77－2	ＬＴ５４	大甕	底部は丸い	外は平行叩 内は円文叩→掻目	〃　堅緻	灰オリーブ・ 灰
121－1397 70－2	ＬＯ５５	大甕	〃	外は縄文叩 内は円文叩→撫	〃　堅緻	〃
121－1398 77－2	ＭＣ５４	甕	〃	外は平行叩 内は平行叩	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白・同
121－1399 70-2・83-7	ＬＯ５３	甕	〃	外は平行叩→撫 内は掻目	〃　良好	にぶい黄橙・ 同
126－1400 45－16	ＳＪ２０	坏蓋 (口18.4)　天 2.7	天井は平坦　体部は反る　端部は水平から屈曲してやや内傾	切離は糸切→篦削	〃 堅緻	灰 〃
126－1401	ＳＪ２０	坏蓋 (口18.3)　天 2.4	〃	〃	〃 堅緻	〃 灰白
126－1402	ＳＪ２０	坏蓋 (口17.8)　天 1.7	天井は低く平坦　体部は反る　端部は水平から屈曲して先は立つ	〃	〃 堅緻	灰黄 〃
126－1403	ＳＪ２０	坏蓋 (口17.3)　天 2.0	天井は平坦　体部は反る　端部は水平から屈曲してくの字状に立つ	〃	〃 堅緻	灰 灰白
126－1404	ＳＪ２０	坏蓋 (口18.5)　天 3.4	天井は本来平坦　体部は反る　端部は水平気味で屈曲し内傾	〃	〃 堅緻	灰 〃
126－1405	ＳＪ２０	高台付坏　高 5.1 (口15.3)　(底 9.5)	口縁は直線的　体部は緩く弯曲　高台は外傾し接地部も外傾　底部は平坦	切離は糸切→撫	〃 不良	灰白 〃
126－1406	ＳＪ２０	高台付坏　高 4.6 (口14.2)(底 8.6)	口縁から体部は弯曲　底部はほぼ平坦　高台は平行四辺形で外傾	〃	〃 堅緻	〃 灰
126－1407 50－11	ＳＪ２０	高台付坏　高 5.1 (口11.4)　(底 6.8)	口縁はやや外反　体部は緩く膨む　底部は端が丸い　高台は接地面が外傾	切離は糸切→撫	〃 良好	灰白 灰オリーブ
126－1408	ＳＪ２０	高台付坏　(口14.4)	口縁から体部は弯曲	内外に撫	〃　堅緻	灰・同
126－1409	ＳＪ２０	坏　高 3.9 (口13.0)　(底 8.8)	口縁から体部は外反　底部は中央が薄く端が厚い　端に凹みが付く	切離は糸切→撫	〃　良好	灰白 〃
126－1410 59－6	ＳＪ２０	横瓶　高(10.2) (口15.2)　(頸10.2)	口唇は凹み内に鋭い稜　口縁は外反　頸部は屈曲　肩は丸く全体に寸づまり	外は縦回りの掻目 内は縦回りの掻目	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	〃 灰
126－1411 70－3	ＳＪ２０	甕　高(15.5) (口21.4)　(頸17.0)	口唇の中央に稜有　口縁は外反　頸部はくの字状に屈曲	外は平行叩→撫 内は押え	〃 堅緻	〃 灰オリーブ
127－1412 65－1	ＳＪ２０	大甕　高(33.5) (口46.4)　(頸36.4)	口唇中央には稜が有内外は突出　口縁は外反　頸部は屈曲　肩部は緩く膨む	外は平行叩・波状文　内は押え	〃 堅緻	灰 灰オリーブ

第75表　土器観察表(74)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
127－1413	ＳＪ２０	大甕　高(11.9) (口50.0)	口唇中央には稜が有内外が突出　口縁は外反	外は平行叩→波状 文　内は撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ 灰
128－1414 65－2・3	ＳＪ２０	大甕　高(90.0) (口45.8)　(頸35.8)	〃	外は平行叩→波状 文　内は押え→撫	〃 堅緻	灰オリーブ 〃
129－1415	ＳＴ２６	坏蓋　高 4.0 (口17.3)　天 2.6	天井は平坦　体部は反る　端部は水平から屈曲し内傾　つまみは擬宝珠	切離は糸切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　堅緻	灰 灰白
129－1416	ＳＴ２６	坏蓋　高(2.6)	つまみは中央が高い擬宝珠	——	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰・同
129－1417	ＳＴ２６	坏蓋　高(1.4)	つまみはボタン状擬宝珠	接合部に渦明瞭	〃　堅緻	〃
129－1418	ＳＴ２６	坏蓋　(口17.5)	端部は水平から屈曲して立つ	内外丁寧な撫	〃　堅緻	〃
129－1419	ＳＴ２６	坏蓋　(口17.0)	〃	〃	〃　堅緻	灰・灰白
129－1420	ＳＴ２６	坏蓋　高(1.8)	天井は平坦　つまみはボタン状	切離不明→篦削	〃　堅緻	灰・灰黄
129－1421	ＳＴ２６	坏蓋　(口17.1)	体部は反る　端部は水平から屈曲し立つ	〃	〃　堅緻	灰・同
129－1422	ＳＴ２６	坏蓋　高(1.7)	天井は平坦　つまみは扁平なボタン状	〃	〃　堅緻	灰・灰白
129－1423	ＳＴ２６	坏蓋　高(0.7)	天井は平坦	切離は糸切→篦削 つまみ接着部に渦	〃　堅緻	〃
129－1424	ＳＴ２６	坏蓋　高(2.8)	天井は平坦　体部は反る　つまみは擬宝珠	切離は糸切→篦削	〃 堅緻	灰オリーブ 灰白
129－1425	ＳＴ２６	坏蓋　高(1.4)	天井は平坦	〃	〃　堅緻	灰・同
129－1426	ＳＴ２６	坏蓋　高(0.8)	天井は低く平坦　端部は屈折して内傾	切離は糸切→篦削 内は糸切→不定撫	〃 堅緻	オリーブ灰 〃
129－1427	ＳＴ２６	坏蓋　高(0.9)	天井は低く平坦	切離は糸切→篦削	〃　堅緻	オリーブ灰・同
129－1428	ＳＴ２６	高台付坏　高(3.0) (底 7.7)	体部は膨む　底部は中央はほぼ平坦で端は丸い　高台は長方形状に立つ	切離は糸切→撫	〃 堅緻	灰オリーブ オリーブ黒
129－1429 50－12 78－6	ＳＴ２６	高台付坏　高 4.7 (口14.3)　(底 9.0)	口縁から体部は内弯気味　底部は平坦　高台は長方形状でやや外傾	〃	〃 良好	灰 〃
129－1430	ＳＴ２６	高台付坏　高 5.0 (口15.1)　(底 8.6)	口縁は直線的　体部は弯曲　高台は長方形状でやや外傾	〃	〃 良好	灰白 灰
129－1431	ＳＴ２６	高台付坏　高(2.4) (底 7.2)	体部は膨む　底部は平坦で端は角張る　高台は三角形状でやや外傾	〃	〃 良好	灰白 〃
129－1432	ＳＴ２６	高台付坏　高(2.3) (底 6.2)	〃	〃	〃 良好	黄灰 〃
129－1433	ＳＴ２６	高台付坏 (坏底7.1)	底部はほぼ平坦	〃	〃　良好	灰白・同
129－1434	ＳＴ２６	高台付坏　高(2.0) (底11.0)	底部は中央が低い　高台は長方形状で外傾　接地面はやや凹み外傾	〃	〃 良好	灰白 〃

第76表　土器観察表(75)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
129－1435	ＳＴ２６	高台付坏　(底10.0)	高台は長方形状で外傾	内外丁寧な撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白・同
129－1436	ＳＴ２６	高台付坏　(底10.9)	高台接地面は平坦で外傾	切離は糸切？→撫	〃　良好	〃
129－1437	ＳＴ２６	高台付坏　高(2.7) (底 8.9)	体部は弯曲　底部は端が丸い　高台は長方形状で外傾　接地部は凹む	切離は糸切→撫	〃 良好	オリーブ灰 オリーブ黒
129－1438	ＳＴ２６	高台付坏　高(2.0) (底 8.4)	体部は膨む　底部は平坦で均一　高台は長方形状で外傾　接地部は凹む	〃	〃 良好	灰白 灰
129－1439	ＳＴ２６	高台付坏　(底11.1)	底部は中央が低い　高台は長方形状	〃	〃　良好	灰白・灰黄
129－1440	ＳＴ２６	高台付坏　高(3.3) (底 8.4)	底部は薄く平坦　高台は高く平行四辺形状　接地部はやや凹む	〃	〃 良好	灰白 〃
130－1441	ＳＴ２６	坏　高 4.3 (口14.6)　(底 8.0)	口縁から体部は薄く弯曲　底部も中央は薄く端は突出	切離は糸切→撫	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰 灰白
130－1442 80－4	ＳＴ２６	坏　高 3.9 (口15.3)　(底 8.0)	口縁は直線的　体部は薄く緩く膨む　底部は中央が厚く端は薄い	切離は不明→撫	〃 良好	灰 〃
130－1443	ＳＴ２６	高台付坏?　高(4.8)	体部は緩く膨む　底部は中央が薄い	切離は糸切→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰白・同
130－1444	ＳＴ２６	坏　高 4.1 (口15.5)　(底 8.0)	口縁は外反　体部は膨む　底部中央は平坦で端は突出気味	〃	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰白 〃
130－1445	ＳＴ２６	甕　高(1.9)	口唇内外が膨む　口縁は外反	外は沈線文様	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰・同
130－1446	ＳＴ２６	長頸壺　(口 8.5)	口唇は膨み端部は立つ	内外丁寧な撫	〃　堅緻	灰オリーブ・同
130－1447	ＳＴ２６	高坏?　高(1.0)	底部はやや膨む	切離は糸切?→篦削	〃　不良	灰白・同
130－1448	ＳＴ２６	坏　(底 8.0)	体部は膨む　底部は中央が薄く端が厚い	切離は糸切→撫	〃　不良	〃
130－1449 58－9	ＳＴ２６	短頸壺　高(4.9) (口10.4)　(頸10.4)	口唇内外に稜　口縁は直立気味　頸部はくの字状に屈折　肩部は強く張る	内外丁寧な撫	0.1以下の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ 灰
130－1450 58－10 84－8	ＳＴ２６	長頸壺　高(22.9) (口 8.2)	口唇は中央に稜　口縁は直立から外反　肩部は強く張る　体部は全体に球状	体部下半は篦削→撫 つくりは３段構成	〃 堅緻	灰白 灰
130－1451	ＳＴ２６	長頸壺　高(9.4)	口縁は直立気味から外反	つくりは３段構成	〃　堅緻	灰・同
130－1452	ＳＴ２６	長頸壺　(底 9.0)	体部は緩く膨む　底部は平坦	切離は不明→撫	〃　堅緻	灰白・灰
130－1453	ＳＴ２６	長頸壺　高(5.9)	体部は球状	つくりは３段構成	〃　堅緻	灰白・同
130－1454	ＳＴ２６	長頸壺　(底 9.7)	底部は厚く平坦　高台は長方形状	切離は不明→撫	〃　堅緻	灰白・灰
130－1455	ＳＴ２６	鉢　(底11.1)	底部は中央部が厚い　体部は開く	切離は不明→撫 外は平行叩	〃　堅緻	灰・同
130－1456	ＳＩ２７	坏　高 4.0 口12.5　底 6.0	口縁から体部は緩く膨む　底部は平坦で均一　端は屈曲	切離は篦切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	浅黄 灰白
130－1457	ＳＩ２７	坏　底 7.3	底部は平坦で均一	切離は篦切→撫	〃　良好	灰・灰オリーブ

第77表　土器観察表(76)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
130－1458 80－7	ＳＫ２３	坏　高 3.9 (口14.5)　底 7.8	口縁は外反　体部は薄く膨む　底部は端がやや厚い	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰白 〃
130－1459	ＳＩ２７	坏　高 3.9 (口12.8)　底 7.0	口縁は外反　体部は膨む　底部は端が厚く丸い	〃	〃 堅緻	〃 〃
131－1460 59－7	ＳＴ２６	横瓶　高(30.4) (口14.4)　(頸10.6)	口唇は凹む　口縁は凹んでやや外傾　口縁は外傾　頸部はくの字に屈折	外の体部は平行叩 内は押え→撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰黄 灰オリーブ
131－1461	ＳＴ２６	鉢　高(7.1) (口40.6)	口唇は僅に凹み垂直　口縁は外反　頸部は緩く屈曲　体部は上位で最大	内外丁寧な撫	0.1以下の砂粒 少量　不良	灰白 〃
131－1462 65－4	ＳＴ２６	甕　高(23.8) (口22.1)　(頸17.8)	口唇の中央に稜有　内外は鋭く突出　口縁は外反　頸部はくの字状　肩は張る	外は平行叩→撫 内は撫	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰 〃
132－1463 65－5	ＳＴ２６	甕　高(17.1) (口17.7)　(頸15.5)	口唇はやや丸い　口縁は外反　頸部は屈曲　肩部はやや緩く張る	外は平行叩 内は押え→撫	〃 堅緻	灰オリーブ 〃
132－1464 70－4	ＳＴ２６	甕　高(7.8) (口21.5)　(頸17.3)	口唇は丸く内側に稜有　口縁は外反　頸部は屈曲	〃	〃 堅緻	〃 〃
132－1465	ＳＴ２６	甕　高(14.3) (口18.6)　(頸14.5)	口唇中央は沈線状で内外は鋭く突出　口縁は外反　頸部はくの字状に屈曲	外は平行叩→撫 内は撫	〃 堅緻	灰 〃
132－1466	ＳＴ２６	甕　高(32.1)	体部上位で最大径	外は平行叩→撫 内は押え→撫	〃　堅緻	灰オリーブ・同
133－1467 65－6	ＳＴ２６	甕　高(20.3) (口27.6)　(頸20.5)	口唇中央に稜有　内外は突出　口縁は外反　頸部はくの字状　肩部は張る	外は平行叩 内は押え→撫	〃 堅緻	灰オリーブ 〃
133－1468 70－5	ＳＴ２６	甕　高(36.0) (口29.3)　(頸21.6)	口唇中央に稜有　内外は突出しやや内傾　口縁は外反　頸部は屈曲　肩は緩い	〃	〃 堅緻	灰 灰オリーブ
134－1469 70－6	ＳＴ２６	大甕　高(14.5) (口29.4)　(頸22.4)	口唇中央に稜有　内外は突出　口縁は外反　頸部は屈折　肩部は緩く膨む	外は平行叩 波状文 内は押え→撫	〃 堅緻	〃 〃
134－1470 66－1	ＳＴ２６	大甕　高(16.4) (口38.8)　(頸29.4)	〃	〃	〃 堅緻	〃 〃
134－1471 70－7	ＳＴ２６	大甕　(口46.8)	口唇中央に稜有　内外は突出	外は平行叩→撫 内は撫　補修孔有	0.1以下の砂粒 少量　良好	灰・同
134－1472 70－8	ＳＴ２６	大甕　(口51.4)	〃	外は撫→波状文	0.1前後の砂粒 顕著　堅緻	灰オリーブ・灰
138－1473 66－2	ＳＫ２３	甕　高43.9 口30.8　(頸23.4)	口唇中央に稜有　内外は突出　口縁は外反　頸部はくの字状に屈折	外は平行叩→撫 内は押え→撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	灰 〃
138－1474	ＳＫ２４	甕　高(22.7) (口31.0)　(頸23.3)	〃	〃	〃 堅緻	〃 〃
139－1475	ＮＬ５４	坏蓋 (口14.4)　天 2.2	天井は平坦　体部は反る　端部は水平から屈折して内傾	切離は篦切→撫	0.1以下の砂粒 顕著　良好	灰 灰白

第78表　土器観察表(77)

単位cm

挿図・図版	出土地点	器種・法量	器形の特徴	技法の特徴	胎土・焼成	色　調
139－1476	ＬＮ５３	坏蓋　高(2.2)	天井は平坦　つまみはボタン状	切離は糸切?→篦削	0.1前後の砂粒 顕著　良好	淡黄・にぶい橙
139－1477	ＮＭ５３	坏蓋　高(1.5)	〃	切離不明→篦削 内面は黒色処理	0.1以下の砂粒 顕著　良好	黒 淡黄
139－1478 78－4	ＮＬ５２	坏蓋　高(0.6)	天井は平坦	〃	〃　良好	黒・淡黄
139－1479	ＮＭ５３	坏蓋 (口16.4)　天(2.0)	天井はやや丸い　体部は緩く反る　端部は丸く内に沈線有	切離不明→篦削	0.1以下の砂粒 少量　堅緻	灰オリーブ 灰
139－1480	ＮＣ５０	長頸壺　頸(8.2)	肩部は丸く膨む	つくりは３段構成	〃　堅緻	にぶい褐・灰黄褐
139－1481	ＮＭ５３	坏　高 3.5 (口13.9)　(底 7.4)	口縁は外反　体部は緩く膨む　底部は平坦で均一　端は丸い	切離不明→撫 篦記号	0.1前後の砂粒 微量　良好	灰白 〃
139－1482	ＭＢ５１	坏　高(1.5)	底部は中央部がやや厚い	切離は糸切→撫	〃　良好	灰オリーブ・同
139－1483	ＮＫ５２	坏　(底 6.7)	底部は均一で中央がやや高い	切離は糸切→篦削	0.1前後の砂粒 少量　良好	淡黄・同
139－1484	ＮＬ５３	甕　底 7.0	底部は厚く平坦	切離は糸切→撫	0.1前後の砂粒 顕著　良好	浅黄橙・同
139－1485	ＮＭ５３	坏　(底 7.6)	底部は平坦	〃	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰白・同
139－1486	ＮＭ５３	坏　(底 6.2)	底部は中央がやや高く端は突出	〃	〃　不良	橙・同
139－1487	ＮＭ５３	坏　(底 6.6)	底部は厚く平坦	〃	0.1以下の砂粒 顕著　不良	淡黄・同
139－1488	ＮＬ５３	坏　(底 5.6)	底部は中央が薄い	〃	0.1以下の砂粒 顕著　不良	明黄褐・浅黄橙
139－1489	ＮＬ５３	短頸壺　(底13.3)	高台は長方形状に外傾　接地部凹む	切離不明→撫	0.1前後の砂粒 少量　良好	灰黄・同
139－1490	ＮＭ５３	高台付坏　高 4.0 (口12.5)　(底 6.8)	口縁から体部は弯曲　底部は中央部が厚い　高台は三角形状	切離不明→底部篦削	0.1以下の砂粒 顕著　良好	浅黄 灰オリーブ
139－1491	ＮＬ５３	高台付坏　(底 9.6)	底部は平坦　高台は高く外反	切離は不明→撫	0.1以下の砂粒 少量　良好	黒・同
139－1492	ＮＭ５３	高台付坏　(底 6.8)	底部は平坦で均一　高台は外反	切離は不明→磨	〃　良好	黒・淡黄

第５章　奈良・平安時代以外の調査

第１節　遺構

奈良・平安時代以外の遺構は、調査区で北側の緩斜面に集中して検出された。この中には、河原石を出土し隣り合う土坑ＳＫ31・ＳＫ32、これらの南に位置するＳＫ33がある。また、これらの北西には、幅が狭くて浅い溝ＳＤ34が位置している。

ＳＫ31（第137図、図版38）

ＳＫ31はＮＩ53区に位置し、ＳＫ32東側の緩斜面に位置している。標高は54.3mで、長軸方向はＳ－30°－Ｅを指す。規模は長軸1.35m×短軸1.2m深さが35cmあり、形態は隅丸長方形状の不整形を呈する。壁はやや角度をもって傾斜し底面は平坦である。覆土中には拳代前後の河原石が密につまり、その間に暗褐色土の軟らかい土が堆積していた。

ＳＫ32（第137図、図版39-1）

ＳＫ32はＮＩ53区に位置し、ＳＫ31西側の緩斜面に隣接している。標高は54.3mを測る。形態は一辺が約70cmの不整三角形を呈している。壁は緩やかで底面は平坦である。底面から10～20cmの細長い河原石が数点出土し、覆土にはやや軟らかい暗褐色土が堆積していた。

ＳＫ33（第137図、図版39-2）

ＳＫ33はＮＨ53から54区にかけてあり、ＳＫ31・32の南側標高49.8mの緩斜面に位置している。最も長い部分の方向はＮ－20°－Ｅを指す。規模は長軸1.4m×短軸1.2m深さ50cmを測り、形態は略円形を呈している。覆土は軟らかい暗褐色土を主体とする土で、10cm前後の河原石が数点含まれていた。

ＳＤ34（第137図）

ＳＤ34はＮＬ52区を中心に、標高53.2m前後の緩斜面に位置している。この溝は北から南西に大きく曲がり、幅は35～55cmで断面は緩いＵ字形を呈している。覆土は軟らかい黒色土が堆積していた。溝の底面が北から南西にかけて緩やかに傾斜していることから、排水用の溝と考えられる。

第２節　遺構外出土遺物（第140図）

1493は高台付埦で土師質。法量は、口径15.0cm・底径7.1cm・高さ4.9cmである。体部から

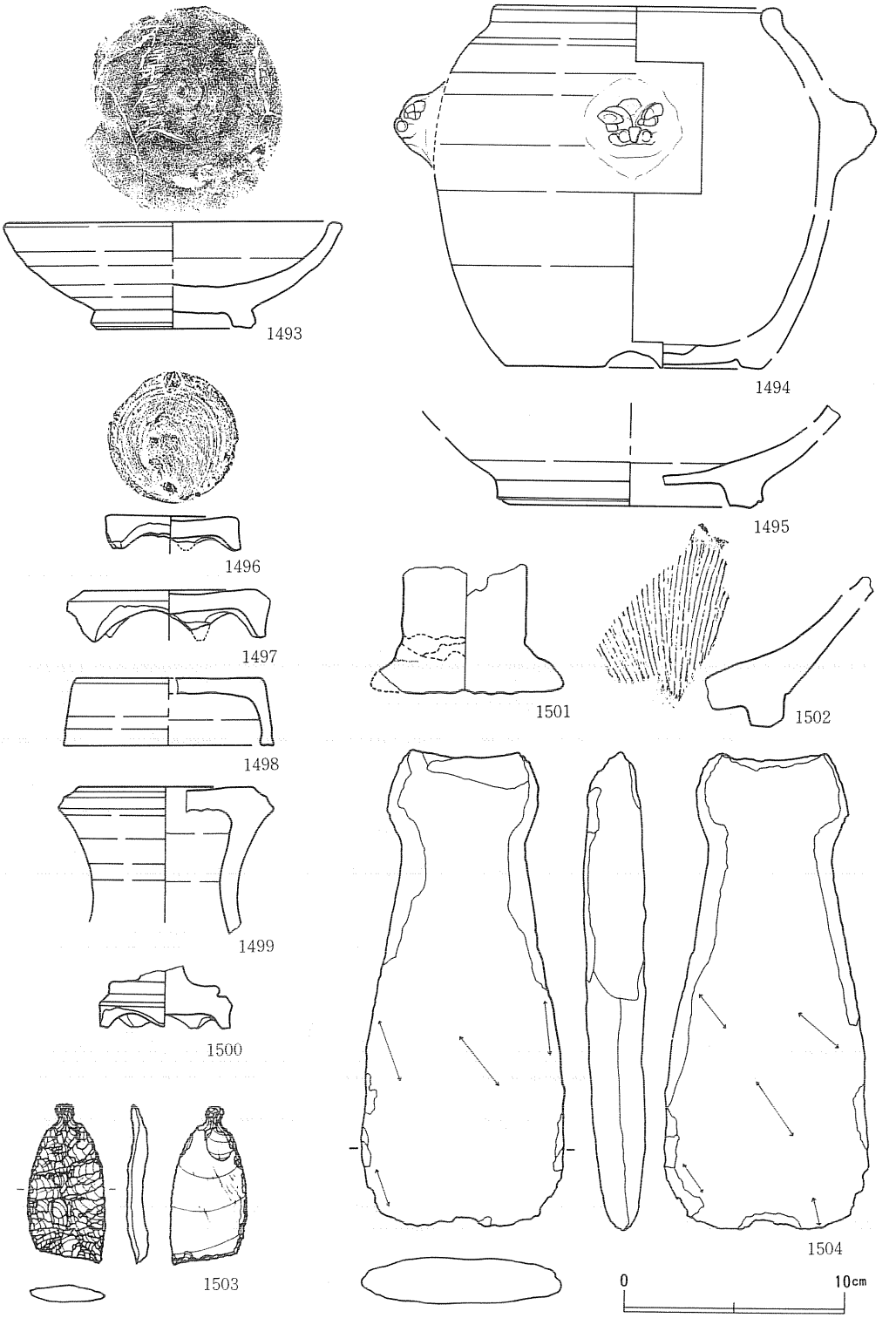
丸く仕上がる口唇部まで弯曲し、高台はやや外傾する。器厚・高台とともに厚く、高台端部外側に篦削りを施す。胎土には1～3mmの小石を少量含む。焼成は良好で、色調は浅黄橙色である。底部内面には、「五十集屋敷」と篦書きされている。

1494(図版66-3)は壺で土師質。法量は、口径12.8cm・底径11.7cm・高さ16.5cmである。口唇部は丸く仕上がり、口縁部は短く直立する。体部は頸部から底部にかけて緩く膨らみ、胴上位には獅子の把手が付く。高台は、低く断面形が長方形を呈するが、その外側は体部最下端に当たっており、一部に蒲鉾形のスリットが入る。胎土・焼成・色調は1493と類似している。

1495は鉢あるいは甕類の陶器片である。法量は底径が11.0cmである。器肉と高台が厚く、高台端部外側に篦削りを施す。胎土は1mm前後の砂粒を少量含み、焼成は良好である。断面の色調は赤橙色で、高台接地部を除く外面には暗赤褐色の、外面には灰白色の隙間のある貫入状の釉が付く。

1496～1501は窯道具である。1496・1497はハマで、1501はトチである。1499と1500はともに焼き台と考えられるが、1500は柱状部上位に台が付くと思われる。1498は、中央に穴があく蓋と思われるが不明。法量は1496～1499の上面径がそれぞれ6.1cm、8.0cm、8.5cm、8.0cmで1498の口径と1501の底面径がそれぞれ9.6cmと8.8cmである。1496～1499の上面には回転糸切り痕が認められ、1496・1497・1500の下部には5ケ所の切り込みが入り、5つの花弁状を呈している。胎土は1496～1500までが、1mm前後の砂粒を顕著に含み、1501は1～10mmの砂粒や小石を多量に含む。焼成はすべて良好で、色調は1496・1499が暗赤褐色、1497が褐色、1498が褐色～橙色、1500は表面上部がオリーブ色、1501は黒褐色である。1502は摺鉢の陶器片である。内面の卸し目は隙間なく並んでいる。高台は厚く、端部外側に篦削りを施している。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好である。色調は橙色である。1496～1502は、中山焼きの製品と考えられる。

1503は石匙である。長さは7.2cm最大幅3.15cm最大厚は9mmである。反り気味の縦長剥片の打面側に小さなつまみが作出され、表面には、丁寧で整った押圧剥離が施されている。この押圧剥離は、裏面縁辺にせまい幅の打面が用意された後に施されたもので、打面が裏面の右側辺と下辺に明瞭に残っている。裏面左側辺の上部と下部にも、わずかに打面が見えている。また、つまみ部に弱い火熱による火バネが見られる。1504は打製石斧である。長さは22.0cm、最大幅9.2cm、最大厚は2.8cmである。全体は撥形で、基部とその付近は僅かに抉れている。先端には刃こぼれがあり、内外に擦痕を認める。古墳時代以降に鍬として使用された可能性がある。



第140図　遺構外出土土器(31)

第６章　自然科(化)学分析

第１節　火山灰分析

１　竹原窯跡の火山灰

山田一郎・庄子貞雄(東北大学農学部)

竹原窯跡(平鹿郡平鹿町竹原)のＳＪ07とＳＫ02には火山灰が認められた。ＳＪ07では多量の遺物が出土した焼土層の下に、ＳＫ02では多量の遺物を直接に覆う状態で火山灰が存在した。これらの火山灰が付近で存在が確認された灰白色火山灰かどうかを検討した。比較に用いた火山灰は平鹿遺跡(平鹿郡増田町字増田字平鹿)、蝦夷塚古墳群(平鹿郡雄物川町造山字蝦夷塚51)、大久保(杉宮)遺跡(雄勝郡羽後町大久保字相原)、七窪遺跡（雄勝郡羽後町足田字七窪9）そして払田柵遺跡（仙北郡仙北町払田）から採取された火山灰である。

粒径組成は他に遺跡の火山灰と同様に、ＳＪ07とＳＫ02の火山灰とも、2mm以上の礫がなく、ほとんどが0.2mm以下と細粒である。

1次鉱物組成で重鉱物含量はＳＪ07、ＳＫ02とも各々3%、1%と他の灰白色火山灰と同様、極めて少なかった。重鉱物組成は、ＳＪ07ではシソ輝石≫磁鉄鉱＞普通輝石≫角閃石、ＳＫ02でシソ輝石≫磁鉄鉱≒普通輝石≫角閃石であり、この結果は他の灰白色火山灰と同じであった。軽鉱物組成は、ＳＪ07、ＳＫ02とも火山ガラス≫斜長石であり、この結果も灰白色火山灰と同様であった。しかし、火山ガラスの形態には両火山灰で違いが認められた。ＳＫ02の火山灰はスポンジ状≫顆粒状＞その他であり、他の遺跡の灰白色火山灰と同じであったが、ＳＪ07では顆粒状≫スポンジ状＞その他であった。以上の結果からみて、ＳＫ02の火山灰は灰白色火山灰と考えられた。しかし、ＳＪ07の火山灰は火山ガラスの形態が、灰白色火山灰とは異なっており、むしろ、払田柵に認められた火山灰に類似していた。このことから、ＳＪ07の火山灰は灰白色火山灰とは異なる火山灰か、それとも再堆積物であるかについては不明である。

平鹿遺跡や他の遺跡中には灰白色火山灰以外の火山灰は認められなかった。従ってＳＪ07の火山灰の由来については今後さらに検討する必要がある。

参考文献

(1)　庄子貞雄・山田一郎(1983)秋田県はりま館、大岱Ⅱ、案内Ⅴ、払田柵および平鹿の各古代遺跡中の火山灰の鉱物科学的分析、秋田県文化財調査報告書101集、243～247。
(2)　庄子貞雄・山田一郎(1986)蝦夷塚古墳群の火山灰、秋田県文化財調査報告書第136集、35。

(3)　山田一郎・庄子貞雄(1987)大久保(杉宮)遺跡の火山灰、羽後町文化財調査報告書、58～59。
(4)　山田一郎・庄子貞雄(1988)七窪遺跡の火山灰、羽後町文化財調査報告書第8集、49。
(5)　庄子貞雄・山田一郎(1983)払田柵跡中の火山灰、払田柵跡調査事務所年報1983、73～77。

2　竹原窯跡出土火山灰の蛍光X線分析

三辻利一　　奈良教育大学

(1)はじめに

東北地方北部地域の平安時代後期の遺跡からは蛍光X線分析により2種類の火山灰が検出されている。そのうち、下位火山灰は十和田a火山灰と推定されており、K、Rb量が少なく、逆に、Ca、Sr量が多いという特徴をもつ。他方、上位火山灰は十和田a火山灰とは対照的にK、Rb量が多く、Ca、Sr量が少ないという特徴をもっており、大陸から飛来した白頭山火山灰と考えられている。両火山灰はこのように対照的な特性をもっているため、蛍光X線分析法によって容易に識別される。既に青森、岩手、秋田、北海道南部地域の数多くの遺跡から、300点を越える火山灰の分析データーが出されている。

本報告では、竹原窯跡から出土した火山灰の蛍光X線分析の結果について報告する。

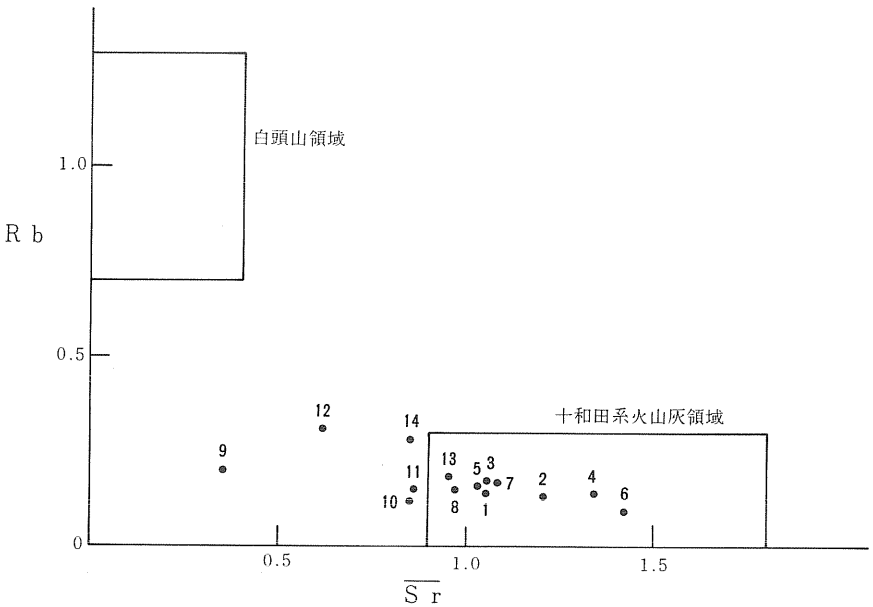
(2)分析結果

第141図にはRb-Sr分布図を示す。これまでの分析データーに基づいて白頭山領域と十和田系火山灰領域を示してある。この分布領域は定性的な意味しかもたないが、それでも、白頭山火山灰か十和田a火山灰かを識別する上には有効である。第141図より白頭山領域に分布するものは1点もないことがわかる。殆どの火山灰は十和田系火山灰領域に分布するが、No.9・12の2点のみは明らかに十和田系火山灰領域をずれて分布する。No.9・12を除く他の火山灰は十和田a火山灰と推定される。

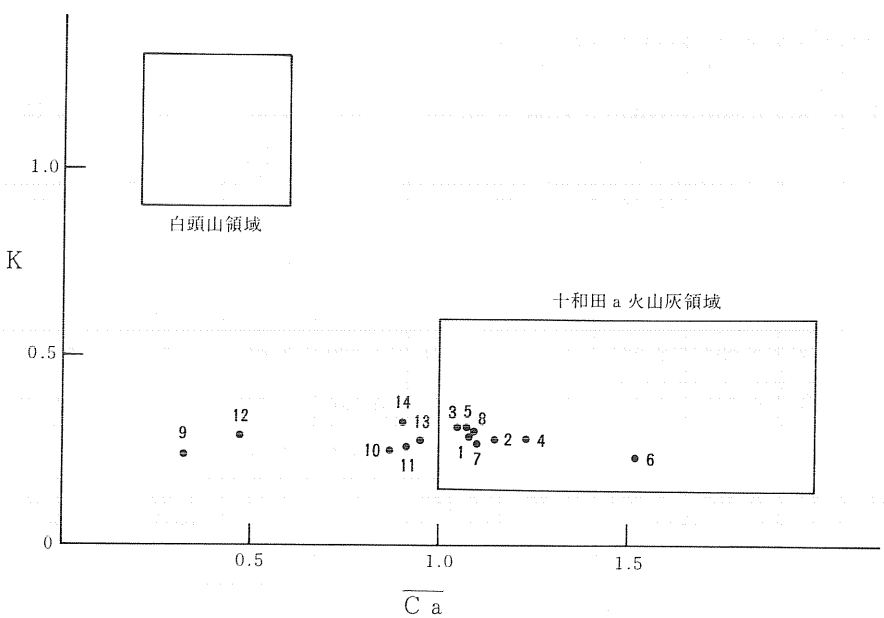
第142図にはK-Ca分布図を示す。この分布図でも白頭山領域と十和田a火山灰領域を示してある。やはり、No.9・12の2点は明らかに十和田a火山灰領域をずれるが、白頭山領域にも対応しない。他の火山灰はほぼ、十和田a火山灰に対応するとみられる。

第143図にはFe因子を対応してある。殆どの火山灰は十和田a領域に対応するが、No.9のみは明らかにずれる。

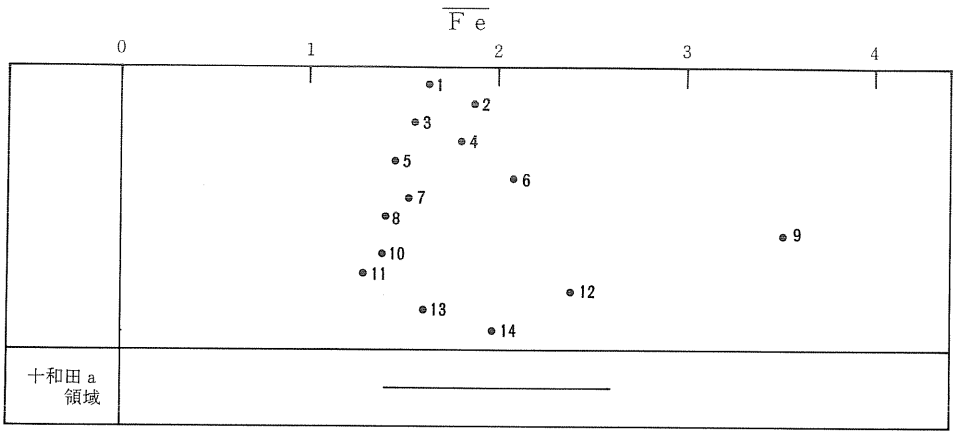
以上の結果、No.1・2・3・4・5・6・7・8・13の9点は十和田a火山灰と推定される。No.10・11・14も十和田a火山灰とみられるが、風化による変質がかなりある試料であろう。No.9・12は変質が著しく、土壌に近い試料ではないかと思う。分析結果は分析値とともに第79表にまとめておく。なお、第79表にはZrの分析値も示してあるが、白頭山火山灰のもつZrの特異性はどの火山灰にも認められない。



第141図　竹原窯跡出土火山灰のＲｂ－Ｓｒ分布図



第142図　竹原窯跡出土火山灰のＫ－Ｃａ分布図



第143図　竹原窯跡出土火山灰のＦｅ量

第79表　竹原窯跡火山灰化学分析数値表

		K	Ca	Fe	Rb	Sr	Y	Zr	推　定　結　果
1-774	1	0.291	1.08	1.63	0.141	1.05	0.887	1.15	十 和 田　a
775	2	0.284	1.15	1.87	0.129	1.20	0.758	1.08	十 和 田　a
771	3	0.307	1.05	1.55	0.167	1.05	1.02	1.48	十 和 田　a
777	4	0.282	1.23	1.80	0.142	1.34	0.697	1.00	十 和 田　a
778	5	0.309	1.07	1.45	0.163	1.03	1.15	1.46	十 和 田　a
779	6	0.228	1.52	2.08	0.092	1.42	0.570	1.07	十 和 田　a
780	7	0.273	1.10	1.52	0.166	1.08	1.03	1.41	十 和 田　a
781	8	0.300	1.09	1.40	0.151	0.972	1.09	1.54	十 和 田　a
782	9	0.235	0.316	3.52	0.203	0.346	0.991	1.81	土 壌 (?)
783	10	0.248	0.872	1.39	0.123	0.853	1.06	1.44	十 和 田 a(?)
784	11	0.259	0.908	1.29	0.146	0.858	1.11	1.36	十 和 田　a
785	12	0.286	0.471	2.39	0.312	0.623	1.13	1.63	土壌　(?)
786	13	0.276	0.951	1.60	0.182	0.949	0.971	1.44	十 和 田　a
787	14	0.325	0.904	1.97	0.277	0.849	1.11	1.64	十 和 田 a(?)

3　テフラ分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

(1)試料

本分析では竹原窯跡で発見されたテフラ試料について、鉱物分析ならびに屈折率測定を行い、すでに堆積年代が明らかにされている示標テフラとの対比を行うことにある。試料は、にぶい黄褐色の中粒の火山灰(ＳＫ02－No.10)1点である。

(2)分析方法

分析は、次の手順で行われた。

1. 40ｇを秤量。
2. 超音波洗浄と分析篩(1/16㎜)による篩別を繰り返し、泥分を除去。
3. 80°Ｃで恒温乾燥。
4. 分析篩により、1/4-1/8㎜の粒子を篩別。
5. テトラブロモエタン(比重2.96)で比重分離。
6. 重鉱物・軽鉱物それぞれ250粒について偏光顕微鏡下で同定し、重鉱物組成及び軽鉱物組成を求める。
7. 火山ガラスについて、新井(1972)の方法に従い屈折率を測定する。

(3)分析結果

重鉱物組成ダイヤグラムを第144図に、その内訳を第80表に示した。含まれる重鉱物は、量の多い順に斜方輝石、不透明鉱物(おもに磁鉄鉱)、単斜輝石である。わずかにカンラン石が認められる。角閃石は含まれていない。

また軽鉱物組成ダイヤグラムを第145図に、その内訳を第81表に示した。比較的分厚いバブル型(平板状)火山ガラスや分厚い中間型火山ガラスも少量認められるものの、圧倒的に軽石型火山ガラスが多い。軽石型火山ガラスのなかでは、スポンジ状に発泡したものが特に多く、繊維束状に発泡した火山ガラスも認められる。

火山ガラスの屈折率(γ)は1.498-1.508であるが、ごくわずかに1.509より高い屈折率をもつ火山ガラスも認められる。

(4)考察－示標テフラとの対比

重鉱物組成上の特徴、とくに角閃石を含まないことや、火山ガラスの形態さらに屈折率から、分析試料は、仙台平野周辺に分布する10世紀前半に堆積したと考えられる灰白色火山灰(山田・庄子、1981)と同じテフラと考えられる。またA、D、915年に噴出したと考えられている十和田ａ火山灰(To-a：町田ほか、1981、町田ほか、1984)とも同じ特徴をもつ。灰白色火山灰は、

To-ａと同じテフラと考えられる。なお1.509より高い屈折率をもつ火山ガラスがごく少量認められている。この屈折率が高い火山ガラスは、層位的に近い11-12世紀に韓半島の付け根付近に位置する白頭山から噴出した白頭山－苫子牧火山灰(B-Tm：町田ほか、1981、町田ほか、1984)、あるいはその他のテフラ起源の可能性があり、なんらかの原因によりTo-a中に混入したと考えられる。

参考文献

新井房夫(1972)斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究－、第四紀研究，11，P・254-269

町田洋・新井房夫・森脇広(1981)日本海を渡ってきたテフラ、科学，51，P・562-569

町田洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫(1984)テフラと日本考古学－考古学研究と関係するテフラのカタログ－、古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」,P・865-928

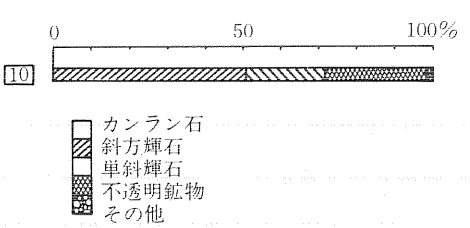
山田一郎・庄子貞雄(1981)宮城県に分布する新期の灰白色火山灰について、日土肥誌，52，P、155-158

第80表　重鉱物組成の内訳

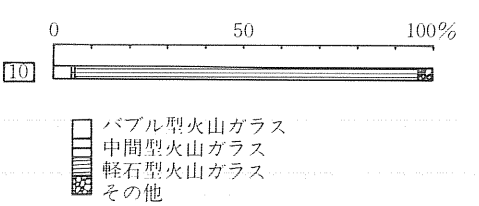
試料番号	重鉱物組成					固定鉱物粒数
	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	不透明鉱物	その他	
10	1	126	52	67	4	250

第81表　軽鉱物組成の内訳

試料番号	軽鉱物組成				固定鉱物粒数
	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	
10	12	2	226	10	250



第144図　重鉱物組成ダイヤグラム



第145図　軽鉱物組成ダイヤグラム

第2節　胎土分析

1　竹原窯跡、および、その周辺の遺跡出土須恵器の蛍光X線分析

三辻利一　　奈良教育大学

(1)はじめに

秋田県内の須恵器の伝播・流通の模様を明らかにするためには、まず、秋田県内の窯跡出土須恵器の化学特性を整理しておかなければならない。その一環として、本項では平鹿町の竹原窯跡および西ケ沢窯跡出土須恵器の化学特性を明らかにするとともに、能代市の2・3の遺跡出土須恵器の産地を推定した結果も併せて報告する。

(2)分布結果

はじめに平鹿町の竹原窯と西ケ沢窯出土須恵器の化学特性に差異があるかどうかについて説明する。第146図には西ケ沢窯の須恵器のRb−Sr分布図を示す。この分布図は各地の窯跡出土須恵器の地域差を有効に表示することで知られる。第146図では西ケ沢群としてまとまって分布しており、窯跡出土須恵器特有のまとまり方をしていることが分かる。これに対し、官衙やその他の消費地遺跡出土須恵器はもっと大きくばらついて分布するのが普通である。第147図には竹原窯跡出土須恵器のRb−Sr分布図を示す。第146図で求めた西ケ沢領域とともに、大部分の竹原窯跡出土須恵器を包含するようにして竹原領域を示してある。勿論、これらの領域は定性的な意味しか持たないが、それでも遺跡出土須恵器の産地を定性的に推定する上には十分有効である。第147図をみると、竹原窯の須恵器は同じ平鹿町内の西ケ沢窯の須恵器に比べて、Rb、Sr量とも多く、右上にずれて分布することが分かる。しかし竹原窯の少数の須恵器は西ケ沢領域に分布しており、この意味は目下のところ不明である。ともかく、平鹿町内には竹原的な特性をもつ須恵器と西ケ沢的特性をもつ須恵器の両方があるということは確かである。勿論、両者の素材粘土の採集場所は異なっているはずである。平鹿町内の何処にこのような粘土が分布しているのか、今後機会があればサンプリングしてみたい。

第148図には西海老沢窯の須恵器のRb−Sr分布図を示す。この窯の須恵器は秋田県産にしては珍しくRb、K量が多いという特徴をもつ。そのため、秋田県内の他の窯の須恵器からは容易に識別される。また、第149図には大曲市の成沢1、2号窯の須恵器のRb−Sr分布図を示す。竹原窯の須恵器の化学特性に類似しており、成沢領域のかなりの部分は竹原領域と重複する。このように、秋田県内の窯跡出土須恵器の化学特性は必ずしも類似したものばかりではなく、相互識別が十分できる場合がかなりある。したがって、秋田県内の須恵器の伝播・流通の研究は蛍光X線分析法で十分可能であることがわかる。ただ、この研究を推進するためには、化学

特性の整理の外に、窯の推定操業年代に関する情報が必要である。

次に能代市内の2・3の遺跡出土須恵器のＲｂ−Ｓｒ分布図を紹介しておこう。

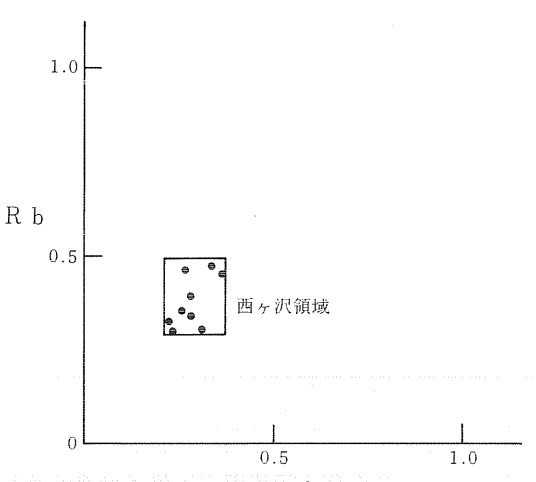
第150図には福田遺跡出土須恵器のＲｂ−Ｓｒ分布図を示す。遺跡出土須恵器特有の大きなばらつきをもって分布していることがわかる。このことはこれらの須恵器は少なくとも2・3ケ所の産地から供給されたものであることを示唆している。大まかな推定を試みると、No.1・2・6・9の4点は竹原的であり、また、No.3は西ケ沢的、No.4・5は西海老沢的であることがわかる。

同様にして、第151図の寒川Ⅱ遺跡出土須恵器のＲｂ−Ｓｒ分布図をみると、No.1・4・5・7の4点は竹原的、No.8・9の2点は西ケ沢的、No.1・2・3は西海老沢的である。

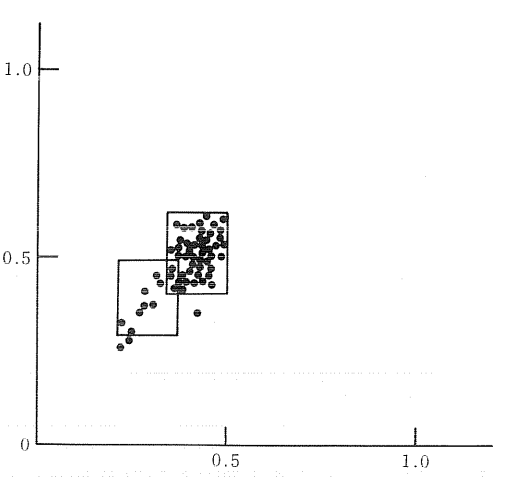
第152図には十二林遺跡出土須恵器のＲｂ−Ｓｒ分布図を示す。No.4・6・8は竹原的、No.2・3・7は西ケ沢的であるが、2の遺跡には西海老沢的な胎土をもつ須恵器は1点もない。

第153図には上の山Ⅱ遺跡出土須恵器のＲｂ−Ｓｒ分布図を示す。この遺跡にも西海老沢的胎土をもつ須恵器は1点もない。大部分は竹原的胎土をもつ須恵器である。No.1は西ケ沢的胎土をもつ須恵器である。勿論、竹原的とした須恵器の中には成沢的な胎土をもつ須恵器があることも断っておく。

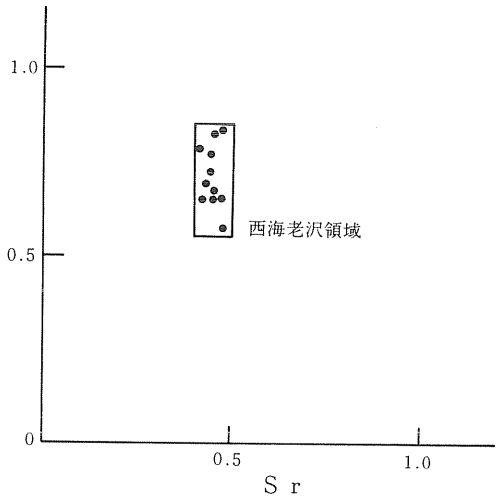
上述の産地推定で竹原的などとあいまいに表現した理由は、まだ、秋田県下の須恵器の伝播・流通の流れを大づかみに把えようとしている段階であるからである。もう少し、しぼり切るためには、生産遺跡と消費遺跡の年代の一致に関する情報が必要である。その上で、可能性のあるいくつかの産地を整理しこれらのマハラノビスの汎距離をＫ、Ｃａ、Ｒｂ、Ｓｒの4因子を使って計算しなければ産地推定における別々分析はできない。ここでは、〜的胎土という表現で大雑把な産地推定をするにとどめた。



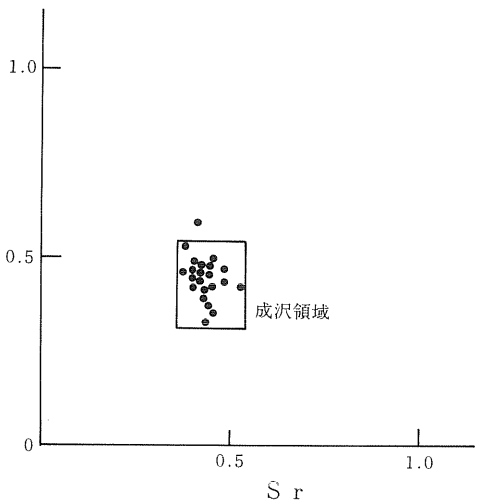
第146図　西ケ沢窯出土須恵器の
Ｒｂ−Ｓｒ分布図



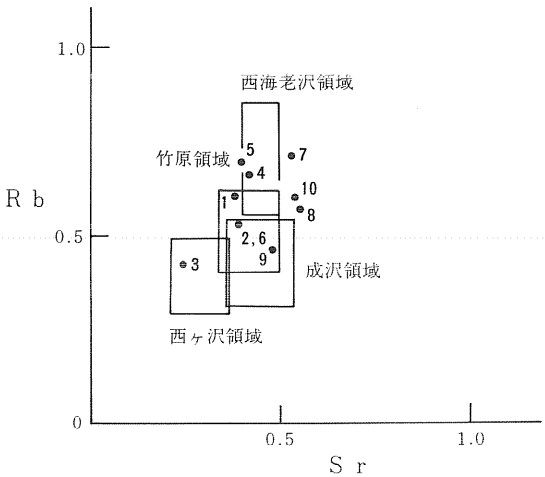
第147図　竹原窯跡出土須恵器の
Ｒｂ−Ｓｒ分布図



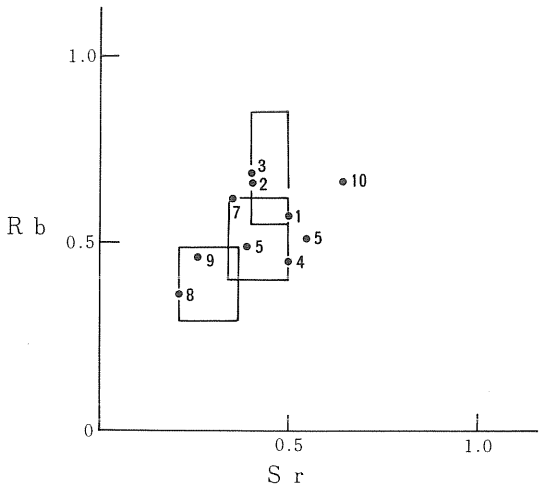
第148図　西海老沢窯出土須恵器の
Ｒｂ－Ｓｒ分布図



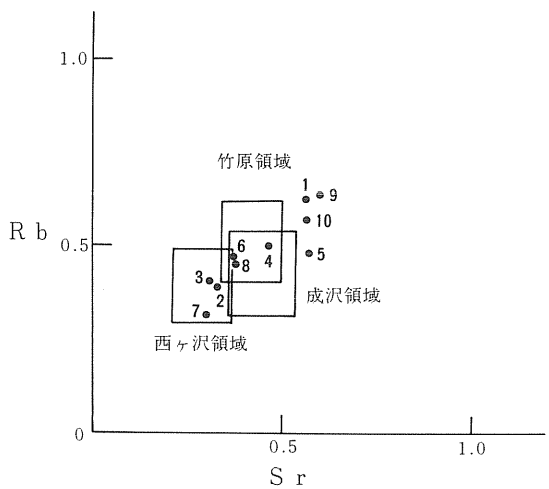
第149図　成沢1･2号窯出土須恵器の
Ｒｂ－Ｓｒ分布図



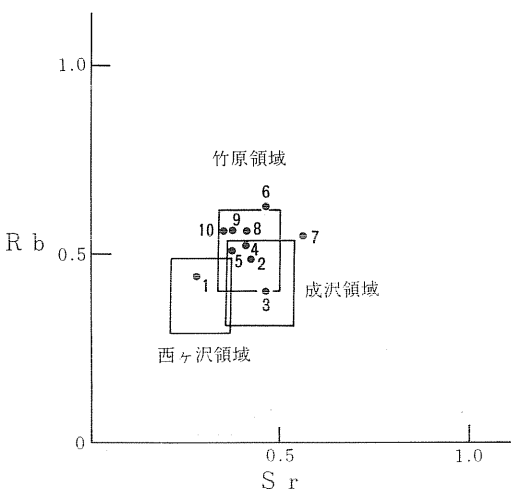
第150図　福田遺跡出土須恵器の
Ｒｂ－Ｓｒ分布図



第151図　寒川Ⅱ遺跡出土須恵器の
Ｒｂ－Ｓｒ分布図



第152図　十二林遺跡出土須恵器の
Ｒｂ－Ｓｒ分布図



第153図　上の山Ⅱ遺跡出土須恵器の
Ｒｂ－Ｓｒ分布図

2　プラント・オパール分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

(1)試料

試料は、ＳＪ05-f右壁(No.8)とＳＪ20窯(No.9)で認められた繊維状の植物遺体それぞれ1点ずつの合計2点である。

プラント・オパールは、植物体内の植物珪酸体に由来したもである。とくに、イネ科植物の葉部(葉身と葉鞘)表皮細胞にある亜鈴型細胞列に由来したものは形態が属レベルで異なるため、古イネ科植物相を推定するうえでよい指標となる(大越、1982)。したがって、植物遺体がイネ科植物の葉部を起源としている場合には、植物遺体中に亜鈴型細胞に由来したプラント・オパールが列状に多数観察されるはずである。

(2)分析方法

試料を同定する方法は以下のとうりである。

1. 植物遺体採集
2. 過酸化水素・塩酸処理(植物遺体中の有機物・鉄分の除去)
3. 封入・同定

(3)結果

試料を採取する際の観察では、No.8のＳＪ05-f右壁には繊維状の植物遺体とイネ科植物の葉部のような痕跡が認められた。いっぽう、No.9のＳＪ20窯壁では植物遺体が縦横に交差して認められたが、植物遺体の形状は繊維状のもののほかに草本植物の木質部のようなものも認められた。しかし、イネ科植物の葉部のような痕跡はみられなかった。

同定の結果、ＳＪ05-f右壁より採取したNo.8の植物遺体にはマコモ属の亜鈴型細胞由来のプラント・オパールが列をなして多数みられた。したがって、この植物遺体はマコモ属に属する植物を起源としたものである。ＳＪ20窯壁より採取したNo.9の植物遺体にはプラント・オパールが認められず、起源となった植物はわからなかった。

引用文献

大越昌子(1982)：プラント・オパール、寿能泥炭層遺跡調査報告書-自然遺物編-ｐ239～254、埼玉県教育委員会

第３節　炭化材分析

１　竹原窯跡出土炭化材の樹種

嶋倉巳三郎

秋田県平鹿郡平鹿町にある8･9世紀の須恵器窯跡の竹原窯跡から出土した炭化材の樹種を調査した。

試料は2－4cmくらいの大きさの木炭で、材組織の保存状態は良いものが多かったが、中には放射方向に多数の割目のあるものや、組織が著しく変形したものもあった。他にスサとされた3個の炭色の砂泥質塊は調査ができなかった。

炭化材は破断面を反射顕微鏡で観察したが、その結果はつぎの通りである。

第82表　試料分析一覧表

試料番号	遺　構	樹　種	注　記	試料番号	遺　構	樹　種	注　記
No.　1	SJ 01	クヌギ		No.　14	SJ 07	クヌギ	
2	SJ 01	クリ？	変形材	15	SJ 20	クヌギ	
3	SJ 01	クヌギ	他に散孔材	16	SJ 20	クヌギ	
4	SJ 01	クヌギ	図版85	17	SJ 20	クヌギ	
5	SJ 05	クヌギ		18	SK02	クヌギ	
6	SJ 05	ノリウツギ	図版85	19	SN04	クリ	
7	SJ 05	クヌギ	図版85	20	SN11	クリ	図版85
8	SJ 05d	クヌギ		21	SN22	クリ	
9	SJ 05d	クヌギ		22	LQ56区	クヌギ	
10	SJ 05d	クヌギ		23	LP56区	クヌギ	
11	SJ 07	クヌギ		24	SJ 05	（不明）	スサ
12	SJ 07	クヌギ		25	SJ 05	（不明）	スサ？
13	SJ 07	クヌギ		26	SJ 20	（不明）	スサ

以上をまとめると、クヌギ炭は、ＳＪの殆ど全部と、ＳＫ、ＬＱ･ＬＰ56区で18例、クリ炭は、ＳＮの全部とＳＪの1で計4例となる。ほかに、ノリウツギと散孔材が各1例である。

クヌギ炭はいわゆる楢炭で、適当に硬く、強い火力が持続する優良品である。クリ炭もそれに近い性状の良質な燃料である。考古学の本には、須恵器窯の燃料は殆ど松であると記されているが、この遺跡の窯では、最適の燃料を選んで使用したように思われる。

註：倉田芳郎・「須恵器」『新版考古学講義5』1979

スサとされたものは、白色の微小鉱物質と黒色物質を混合したような硬塊で、シルトや微砂に炭粉を混ぜて練り、壁材としたようにも想像される。No.24には、幅1mm以下の細長い繊維様物が介在しているが、細胞構造は認められなかった。奈良県香芝町の平野須恵器窯跡の壁のスサにはイネ藁の痕が残っており、王水処理でイネの表皮の珪酸細胞も認められたことがある。

炭化材の構造

クヌギ　Quercus　acutissima　Carrth

早材部道管の大きな環孔材で、晩材部に移ると道管は急に小さくなり、やや厚壁で、単独に放射方向に並ぶ。放射組織は単列のものと、幅の広い大きな複合のもの(広放射組織)がある。

クリ　Castanea　crenata Sieb.　et Zucc

環孔材で、早材部の道管はきわめて大きく、数環に並び、晩材部に移るとかなり小さな道管が、多数集まって火炎状態に配列する。放射組織は単列のものばかりで、広放射組織はない。

ノリウツギ　Hydrangea　paniculata　Sieb

やや小さい道管の散孔材である。道管の多くは単独に分布し、穿孔は階段状で、階段数は多い。放射組織は異性で、中部の平伏細胞からなる部分は、2－4細胞幅、その両端部の直立細胞は上下に長く延び、1列で数段に続くことがある。

付　記

顕微鏡写真の説明（図版85図、1～9）

1. クヌギ、No.4、木口。左端に広放射組織、上部は早材部、下部は晩材部。
2. 同上、板目。中央に広放射組織。
3. クヌギ、No.7、木口。右端に広放射組織、左側に晩材部小道管の配列。
4. 同上、板目。右側に広放射組織。
5. クリ、No.20、木口。下部に晩材部の小道管の集合配列。
6. 同上、板目。放射組織は単列のみ。
7. ノリウツギ、No.6、木口。上は早材部、下は晩材部、道管の平等分布。
8. 同上、柾目。放射組織、上は直立細胞、下は平伏細胞。
9. 同上、板目。放射組織。

2　炭化材同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

(1)試料

試料はNo.1～7、11、12の炭化材片9点である。いずれも窯および窯状遺構から検出されたもので、燃料材および窯構築材と考えられている(第83表)。遺構の時代は明らかにされていない。(2)方法

試料を乾燥させたのち木口・柾目・板目三断面を作成、実体顕微鏡と走査型電子顕微鏡(無蒸着・反射電子検出型)で観察・同定した。同時に、顕微鏡写真図版(図版86・87)も作成した。

(3)結果

手元の現生標本の中に該当するものがなかったため同定できなかった1点を除く8点がつぎの2種類(Taxa)に同定された。各試料の主な解剖学的特徴や一般的性質などは、つぎのようなものである。

◎コナラ属(コナラ亜属クヌギ節)の一種【Quercus(subgen. Lepidobalanus sect. Cerris)sp】

ブナ科　No.1, 2, 4, 5, 7, 11, 12.

環孔材で孔圏部は、1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら放射状に配列する。大道管は横断面では楕円形、小道管は横断面では角張った円形、ともに単独。単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状となる。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合組織よりなる。柔組織は周囲状および短接線状。柔細胞はしばしば結晶を含む。年輪界は明瞭。

クヌギ節は、コナラ亜属(落葉ナラ類)の中で、果実(いわゆるドングリ)が2年目に塾するグループで、クヌギ(Quercus acutissima)とアベマキ(Q. variabilis)の2種類がある。クヌギは本州(岩手・山形県以南)・四国・九州に、アベマキは本州(山形・静岡県以西)・四国・九州(北部)に分布するが、中国地方に多い。材の解剖学的特徴のみで両者を区別することはできないが、試料はクヌギである可能性が高い。クヌギは樹高15mになる高木で、材は重硬である。古くから薪炭材として利用され、人里近くに萌芽林として造林されるとこも多く、薪炭材としては国産材中第一の重要材である。このほかに器具・杭材、楫木などの用途が知られる。樹皮・果実はタンニン原料となり、果実は染料・飼料ともなった。

◎クリ(Castanea crenata)　ブナ科　No.6

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は単独、横断面では楕円形、小道管は単独および2～3個が斜(放射)方向に複合、横断面

では角張った楕円形～多角形、単穿孔を有し、癖孔は交互状に配列、放射組織との間では柵状～網目状となる。放射組織は同性、単(1～2)列、1～15細胞高。柔組織は周囲状および短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部・本州・四国・九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。材はやや重硬で、強度は大きく、加工はやや困難であるが耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材、楷木や海苔粗朶などの用途が知られている。樹皮からはタンニンが採られ、果実は食用となる。

以上の同定結果を出土遺構とともに一覧表で示す(第83表)。

第83表　竹原窯跡出土炭化材の樹種

試料番号	出土遺構など	種名
1	ＳＪ01　窯内	コナラ属（コナラ亜属クヌギ節）の一種
2	ＳＪ05d　窯内	コナラ属（コナラ亜属クヌギ節）の一種
3	ＳＪ05f　窯構築材	広葉樹（散孔材）
4	ＳＪ07　窯内	コナラ属（コナラ亜属クヌギ節）の一種
5	ＳＪ20　窯内	コナラ属（コナラ亜属クヌギ節）の一種
6	ＳＮ04　窯状遺構	クリ
7	ＳＮ11　窯状遺構	コナラ属（コナラ亜属クヌギ節）の一種
11	ＬＰ55　炭化物層	コナラ属（コナラ亜属クヌギ節）の一種
12	ＳＪ05　窯内	コナラ属（コナラ亜属クヌギ節）の一種

(4)考察

遺構が何を焼成した窯であるのかわからないが、No.3を除く8点が燃料材であるとすれば、上記のように古くから薪炭材として利用されてきたクヌギ節(クヌギと考える)やクリが使われていることから、これらの材の特長を意識した樹種選択があったものと思う。とくに、クヌギ炭は発熱量が多く、火持ちもよいことからその可能性は高いと考えている。

第4節　年代測定分析

学習院大学放射性炭素年代測定

木越邦彦

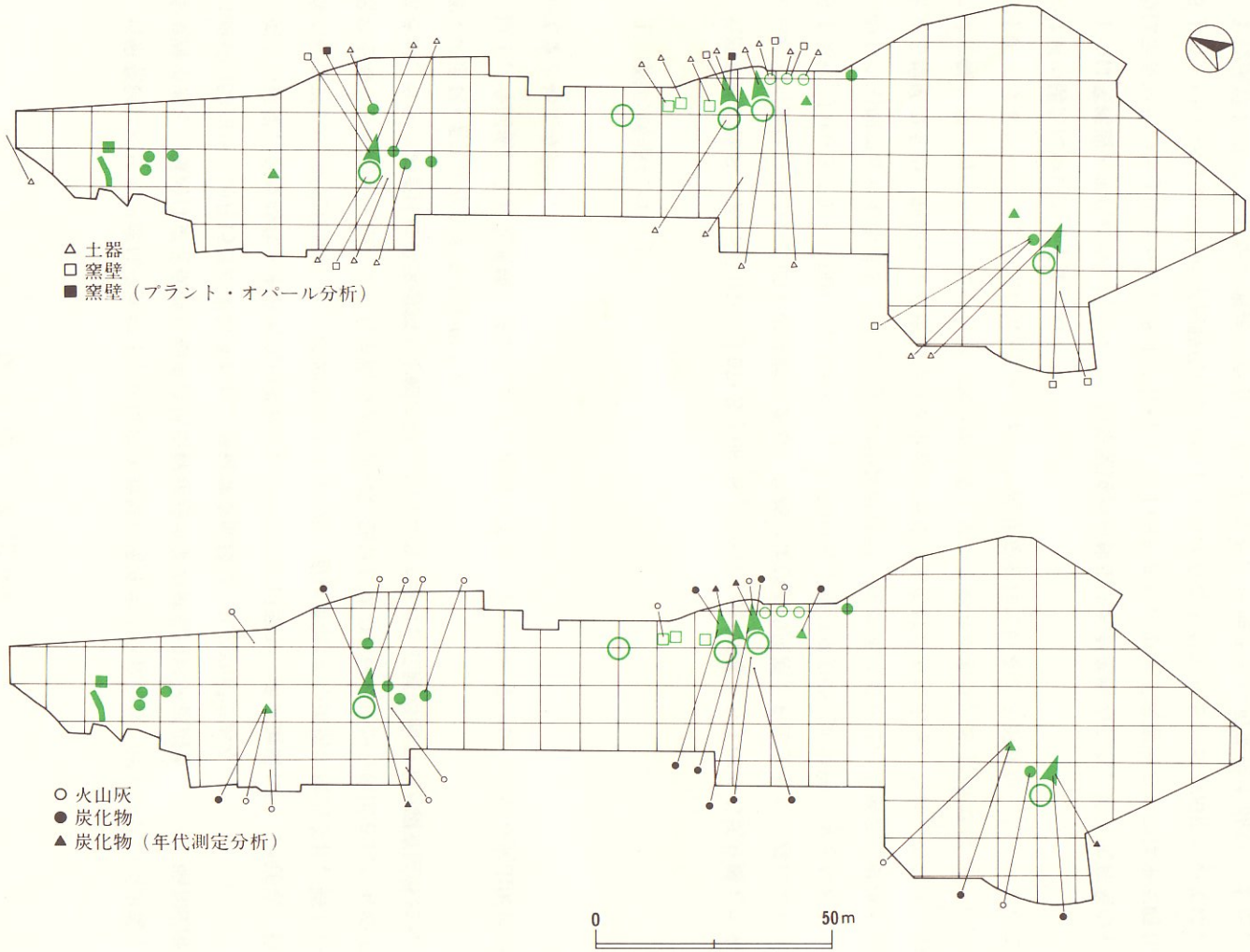
年代測定の結果を下記の通りご報告致します。

なお年代値の算出には14Cの半減期としてLIBBYの半減期5570年を使用しています。また付記した誤差はβ線の計数値の標準偏差δにもとずいて算出した年数で標準偏差(ONE SIGMA)に相当する年代です。また試料のβ線計数率と自然計数率の差が2δ以下のときは3δに相当する年代を下限の年代値の(B.P.)として表示してあります。また試料のβ線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANARD CARBON)について計数率との差が2δ以下のときは、Modernと表示し、DC%を付記してあります。

記

Code　No.	試料	年代(1950年よりの年数)
GaK-14212	Charcoal from 秋田県　竹原窯跡 No.1.　8TW-SJ01	750±80 A.D.1200
GaK-14213	Charcoal from 秋田県　竹原窯跡 No.2.　8TW-SJ05d	1610±100 A.D.340
GaK-14214	Charcoal from 秋田県　竹原窯跡 No.3.　8TW-SJ05f	1840±100 A.D.110
GaK-14215	Charcoal from 秋田県　竹原窯跡 No.4.　8TW-SJ07	1830±80 A.D.120
GaK-14216	Charcoal from 秋田県　竹原窯跡 No.5.　8TW-SJ20	1900±100 A.D.50

以上



第154図　分析試料出土地点図

第７章　まとめ

竹原窯跡は秋田県平鹿郡平鹿町上吉田間内字竹原に所在する奈良時代～平安時代の須恵器生産遺跡である。遺跡は東北横断自動車道秋田線建設事業の事前遺跡発掘調査として、昭和63年(1988年)5月9日～10月15日に実施された。発掘調査面積は、9,200m²である。

調査の結果、奈良時代～平安時代の窯跡6基、その灰原13箇所、溝状遺構1基、土坑6基、性格不明遺構3基、竪穴住居跡1軒、時期不明の土坑3基、溝状遺構1条の遺構が検出され、夥しい量の土器などが出土した。これら遺構の大部分は、独立丘状の丘陵斜面から検出されたものであるが、今回の調査区は高速道路予定幅に限ってのものであり、丘陵斜面の上方調査区外にも、多くの遺構・遺物が存在すると予想される。

以下、今回検出された遺構と遺物および、遺構と遺物のあり方に深く係っている火山灰についてまとめてみたい。

１　窯の構築について

竹原窯跡にはＳＪ06・ＳＪ05・ＳＪ07・ＳＪ08・ＳＪ20・ＳＪ01の6基とＳＪ05から切り離して考えられる可能性のあるＳＪ05ｆの窯跡がある。窯跡およびその灰原から出土した土器により、ＳＪ06・ＳＪ05・ＳＪ07・ＳＪ08が奈良時代の、ＳＪ01・ＳＪ20が平安時代の窯跡と考えられる。このうち完掘できたものはＳＪ01とＳＪ20の2基だけで、他は焚口部分だけの場合、痕跡をとどめる程度のもの、断面による検出などと全容が不明なものばかりである。これらの窯跡の中には主軸が同一方向を指しながら同一地点で重複している場合があり、ＳＪ05ではａ～ｅ、ＳＪ07ではａ～ｃ、ＳＪ01ではａ・ｂとそれぞれ造り変えれていることが分かった。以下ここでは窯の構造について若干まとめてみたい。

１つは窯構造と年代についてである。竹原窯跡から検出された窯跡のうち、地下式窖窯のものは奈良時代のＳＪ05ｂ～ｅ、ＳＪ07ｂ・ｃ、ＳＪ08があり、半地下式窖窯のものは平安時代ＳＪ01ａ・ｂ、ＳＪ20それに奈良時代のＳＪ05ｆをあげることができる。ＳＪ06については、ＳＴ12灰原に茹の含まない窯跡が存在していることから地下式の可能性が高い。また、ＳＪ05ａとＳＪ07ａについては、茹が含まれないものの他と比べると地山上面から比較的浅い位置にあるために、地下式と断定することはできず半地下式も考慮する必要がる。また、ＳＪ05ｆについてはＳＪ06を掘り込んで造られたと推定され、築窯時に自然堆積土を天井にするこ

とができず半地下式構造にせざる得なかったと考えることができる。以上により竹原窯跡における奈良時代の窯跡は地下式構造が主体であり、平安時代においては半地下式構造が主体となる傾向にある。また奈良時代においても状況に応じて半地下式構造を採用していることを知ることができる。

2つ目は溝状部分を伴う窯についてである。溝状部分を伴う窯にはＳＪ05とＳＪ07の古い溝状部分をあげることができる。はじめに溝状部分について、ＳＪ05を例にとって整理すると次のようになる。ＳＪ05溝状部分は、ＳＪ05ａ～ｅの焚口付近から下方へ少なくとも8mの距離をもち、覆土は地山排土で充塡していた。そしてこの地山排土の直上をＳＪ05ｅ以後の灰原が覆っていた。以上の事実からすれば、地山排土はＳＪ05ｅ窯構築時に掘り出されたもので、この排土で覆われた溝状部分はＳＪ05ｅ構築直前に掘られたものと考えられる。以上より、溝状部分は排土を下方に運び出すあるいは掻き出すための施設と考えることができる。一般的に窯構築時の掘削土は、焚口下方へ無造作に掻き出したり(ＳＪ06・ＳＪ20・ＳＪ01)、窯脇に捨てたりする(ＳＪ01のように半地下式の場合)と考えられ、ＳＪ05ｅは特殊な在り方を示している。

一方ＳＪ05はｅ～ａに順次造り変えられていると予想できる窯である(ＳＪ05ｆとＳＪ05ａ～ｅは、この点や地山排土で分離されていること、窯構造や出土遺物が相違している点などから、本来別個の窯であったと考えられる)。そしてそこから出る灰層や掘削土は、ＳＪ05ｅ構築時の排土量を大きく上回る。当初から、順次窯底が上方へ移動する様な造り変えを予定している窯であれば、そのはじめの排土を焚口近くの斜面に捨てることは極めて不合理な事と考えられる。したがってＳＪ05ａ～ｅの中で最も初めに構築されたＳＪ05ｅの掘削土を、あらかじめ焚口下方の遠い場所に寄せておく必要性があったと考えられる。ＳＪ07の溝状部分も1つはＳＪ07ｃに関する施設と考えることができ、この場合も後に窯の造り変えを予定してのことと考えられよう。これらのことから、地下式窖窯を主体とし上方へかさ上げする様な造り変えを伴う窯に限って、溝状部分が存在する可能性がある。

2　須恵器の製作技法について

竹原窯跡から出土した須恵器には、坏蓋・坏・壺・甕など多くの器種が認められている。このうち坏と甕の中には、従来の一般的な考えと異なる技法が用いられているものがある。以下これら2点についてまとめてみたい。

1つは坏の切り離し技法と調整手法の関係についてである。ＳＫ02出土の回転糸切りと回転篦削りを施しているタイプ(190など)に例をとる。一般に篦削りをもつ坏の製作は大きく成形(轆轤調整を含む)→切り離し→調整の製作工程をたどると解釈されており、篦削りは切り離し

の後に施すのが普通である。これに対して、190は成形(調整)→調整→切り離しの工程をたどる資料として特筆できるものである。このことを証明するために、まず前提条件として上から見た轆轤回転方向は、糸切り痕の渦から時計回り(右回り)であることを確認しておき、以下にその理由を述べる。

① 坏を正立させて正面から見た場合、回転篦削りの砂粒は左→右へ移動しているので、回転篦削り調整を切り離しの後に施したとすれば、轆轤の回転方向は逆時計回り(左回り)でなければならない。このことは、轆轤回転方向が一定方向であると仮定すれば矛盾した結果となる。

② 糸切り痕跡と削り痕跡の接点における粘土屑の有り方は、削り面の上に糸切りで生じた粘土屑がかぶるように観察できる。

③ 190と同じタイプの破片の中には、回転糸切り時に付いた糸の痕跡が回転篦削りの面に観察できるもの(200)がある(糸切りの糸が交差する部分は、切り離しの後に撫でや削りの調整で不明なものが多い)。この場合、切り離し以前に回転篦削りの面が存在していなければならない。

以上より、成形(調整)→回転篦削り調整→切り離しという坏製作工程をたどることができる。よって、従来の切り離し技法の後に削り調整を施す技法を「篦削りA技法」切り離し技法以前に削りを施す技法を「篦削りB技法」と仮称する。同遺構出土篦切りタイプの中にも、明確に証明し難いが、その種の技法と考えられるもの(177など)がある。

2つには甕頸部の製作状態についてである。頸部の製作法には、体部から粘土帯を積み上げて成形する方法と体部・口縁部を別個に作りそれらを接合させる方法(頸部接合技法)とがある。ここでは後者について述べる。竹原窯跡出土大型甕のほとんどは、頸部接合技法によっている。そしてその接合状態は、面取りされている口縁部下端の断面部分を体部の上端に載せ粘土で補強する方法をとる(1362・1387)。これに対してＳＴ12出土の中型甕の接合状態は、体部上端の面取りされている断面部分に、口縁部下端を嵌め込み粘土で補強する方法をとる(302・303)。よって従来観察されてきた前者の接合方法を「頸部接合Ａ技法」後者の接合方法を「頸部接合Ｂ技法」と仮称しておく。

以上、土器製作上の２点について整理したが、その分布と時代的な位置付けを行うことで、竹原窯跡の性格をより具体的に把握することができると考えている。

3　火山灰について

竹原窯跡からは、Ａ・Ｂ・Ｃ各地区より灰白色を呈した火山灰(灰白色火山灰は噴出源と時代

が限定された火山灰として用いている場合があり、そのことと区別するために以下灰白色の火山灰と記述する)が多く検出されているが、10cm以上の厚さで遺構と係わって堆積していたのはA地区のＳＫ02・ＳＮ04、B地区のＳＪ07・ＳＸ10、Ｃ地区のＳＪ20・ＳＮ22・ＳＫ21・ＳＫ23・ＳＫ25である。そして、出土遺物との係わりで注目されるのがＳＫ02・ＳＪ07・ＳＪ20とこの窯の遺物を含んでいるＳＫ21・ＳＫ23・ＳＫ25である。これらの火山灰は、斜面上方から窪地に二次的に堆積したと思われるが、それぞれが連続した一過性の堆積状態を示しており、後に動いたり逆転したりした痕跡はない。このうち、ＳＫ02とＳＪ07については、分析方法の異なる山田一郎・庄子貞雄、三辻利一の各先生に分析をお願いした。また、ＳＫ02のものについてはパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した(第6章参照)。ここではＳＫ02・ＳＪ07覆土検出の火山灰を中心とした分析結果と、土器に係わる考古学的な成果を中心にしてまとめることにする。ＳＫ02・ＳＪ07火山灰の分析結果は次の通りである。

山田・庄子両先生は、2つの資料について重鉱物の在り方や軽鉱物の在り方は同様であるが、火山ガラスの形態においては異なるとする分析結果を示された。そしてＳＫ02の火山灰は平鹿遺跡・蝦夷塚古墳群・大久保(杉宮)遺跡・七窪遺跡と同様に灰白色火山灰と考え、ＳＪ07のものは灰白色火山灰とは異なる火山灰の可能性があるとした上で、むしろ払田柵の火山灰に類似する点を指摘された。ここでは、白頭山火山灰については言及されていない。

また三辻先生は、蛍光X線分析によれば十和田ａと推定されている火山灰と白頭山火山灰は、K・Rb量とCa・Sr量の在り方で両者を容易に識別できるとした上で、ＳＫ02・ＳＪ07それぞれの火山灰を十和田ａ火山灰と推定された。ここでは、白頭山火山灰以外の灰白色の火山灰が複数存在する可能性をもつ場合の識別については触れられていない。

以上よりＳＫ02・ＳＪ07の火山灰は、どちらも白頭山火山灰とは言えずＳＫ02・ＳＪ07を十和田ａ火山灰とする考え(三辻)と、ＳＫ02は灰白色火山灰でＳＪ07は灰白色火山灰とは異なる火山灰の可能性があるとする考え(山田・庄子)に整理できる。よって、ＳＪ07のように灰白色火山灰とは異なり、かつ、白頭山火山灰とも異なる火山灰が存在する可能性があり、このことは灰白色の火山灰が複数の起源をもつ可能性のあることを示唆するものである。

他方、ＳＫ02火山灰におけるパリノ・サーヴェイ株式会社の分析結果は、重鉱物組成上の特徴や火山ガラスの形態・屈折率から灰白色火山灰＝Ｔｏ－ａと結論した上で、1.509より高い屈折率をもつ火山ガラスがごく少量含まれるとした。そして屈折率の高い火山ガラスは白頭山－苫小牧火山灰あるいはその他のテフラ起源の可能性があり、何らかの要因で混入したと結んでいる。ＳＫ02火山灰は先の三辻先生の結果からして白頭山火山灰の可能性はないので、ここでも灰白色の火山灰の中には複数あることが示唆される。

一方、考古学的調査における灰白色の火山灰と土器との関係は次の通りである。ＳＫ02の底

面から覆土にかけてはＳＪ01の製品である須恵器が多数投棄され(一括土器群Ａ)、その上にわずかな間層を挟んで灰白色の火山灰が厚く堆積していた。またＳＪ07の覆土には厚い火山灰が堆積し、その上に間層を挟んでまとまった土器が出土した(一括土器群Ｇ)。これらの土器は型式学的観点から見ると、火山灰下の一括土器群Ａは9世紀後半でも後の方に、火山灰上の一括土器群Ｇは9世紀前半代と考えられる。このことは、火山灰を同一時期のものと考えた場合に矛盾した土器の在り方を示すことになる。したがって、ＳＪ07のものが古くＳＫ02のものが新しい2つの火山灰を想定することができる。すなわち、灰白色の火山灰は時期の異なる2つのものが存在したと考えられるのである。

以上の考古学的成果と先の分析結果からみて、竹原窯跡で検出された灰白色の火山灰には複数の種類が存在していると考えられる。

4　一括土器群とその変遷について

竹原窯跡から出土した須恵器[註1]は、後述する理由で8世紀中葉から9世紀後葉にかけての時期と考えられるが、その器種は坏蓋・高台付坏(埦)・坏(埦)・高坏・盤・硯・壺・瓶・鉢・甕と多くの種類がある。本項でこれらすべてを網羅して説明することは、内容を煩雑にするだけと思われるため、同一層内や同一窯内から出土した一括土器群Ａ～Ｉ(以下土器群Ａなどと記す)の整理と変遷、およびその年代などについてまとめることにする。ただし、土器群内の個々が、かならずしも同時生産によるものばかりではない点を断っておきたい。

はじめに、土器群とその出土状況について簡単に記すと、土器群Ａは火山灰下のＳＫ02覆土、土器群ＢはＳＪ06の灰原と考えられるＳＴ12灰原、土器群ＣはＳＪ05ｆの覆土、土器群ＤはＳＪ05ｅと考えられる灰層、土器群ＥはＳＴ17とした土器集中部、土器群ＦはＳＪ07もしくはＳＪ08の炭化物層ａ、土器群ＧはＳＪ07・08よりも新しく火山灰の上にある焼土層、土器群Ｈは窯が上方調査区外にあると考えられるＳＴ13覆土、土器群ＩはＳＪ20窯体内覆土となる。

土器群Ａでは、坏蓋・坏・横瓶・甕が出土している。坏蓋には天井が平坦で高いタイプ(127)と天井が丸くやや低いタイプ(128)がある。坏には篦切りで大ぶりのタイプ(129)と小ぶりのタイプ(150)、回転糸切りで体部下端に篦削り(篦削りＢ技法)をもつタイプ(190)と、同じく篦削りをもたないタイプ(196)などがある。横瓶は、被蓋部に小さな窪みをもつ特徴がある(226)。甕の長胴タイプには口縁端部が立ち(219・225)砲弾型(224)で、器面が灰色(219)、橙色(224)、褐色(225)の違いがある。また小型で、口唇部が外傾するタイプがある(222)。これらの胎土は粗く、甕の224・225を除いた色調は全般的に灰～灰白色を呈している。

土器群Ｂでは、坏蓋・高台付坏・坏・壺蓋・壺・甕が出土している。坏蓋には天井が丸く高いタ

イプ(278)、天井が扁平なタイプ(285)などがある。坏は浅く底面に渦をもつタイプである(296)。高台付坏には体部下位が丸く、高台の断面形が三角形状のタイプ(290)がある。壺蓋には口唇部が丸く天井が平坦なタイプ(294)、天井のやや丸いタイプ(295)がある。長頸壺は成形時の三段構成が認められるタイプがある(297)。短頸壺には、口唇・高台部の先端が丸くおさめられ、それらの径が一致するタイプ(300)があり、広口壺は口唇部が垂直である(301)。甕は中型で、頸部の接合技法は、体部上端に口縁部下端を嵌め込み(頸部接合B技法)口唇部が垂直なタイプがある(302)。これらの胎土は、296と297を除くと精製された黄白色で、緑色の自然釉が付く。この胎土・色調の特徴から、1041も同類と考えられる。

土器群Cでは、坏蓋・高台付坏が出土している。坏蓋には、天井が丸く三角形状のタイプ(326)がある。高台付坏には、やや深く体部下端に削りをもつものがあり、高台の断面形が三角形状のタイプ(422)がある。これらの胎土は僅かに砂粒を含み、乳白色を呈している。624・625は、胎土・色調が類似している。

土器群Dでは、坏蓋・高台付坏・坏・壺蓋が出土している。坏蓋には、天井が低く扁平なタイプ(341)、天井が平坦でやや低いタイプ(343)がある。高台付坏には、高台が高く断面形が三角形状のタイプ(428)などがある。坏には底部が厚く深いタイプ(482)、底部が薄くやや浅いタイプ(503)などがある。壺蓋には、口唇部内側が鋭く突出するタイプ(529)などがある。これらの胎土には大き目の砂粒を含み、343、428タイプの坏蓋や高台付坏は、器面に炭素が付着したと思われる黒色部分をもち、灰色が斑状をなすものがほとんどである。

土器群Eでは、坏蓋・高台付坏・坏・壺蓋・壺・鉢・甕が出土している。坏蓋には天井が丸く三角形状のタイプ(629)、天井が丸くやや高いタイプ(635)、天井が丸く大ぶりのタイプ(632)、天井が低く平坦気味になるタイプ(657)などがある。高台付坏には、やや深く体部下端に削りをもち、高台断面形が三角形状のタイプ(663)、体部下端が丸く低い高台の断面形が方形状のタイプ(676)、深く大ぶりで沈線をもつタイプ(668)、高台が薄く高いタイプ(683)などがある。坏には底部が丸く口縁が内弯するタイプ(711)、底部が丸く口縁部先端が薄いタイプ(713)、底部が平坦でやや深いタイプ(718)、底部が平坦でやや浅いタイプ(719)などがある。壺蓋には、天井に稜をもち口唇部の丸いタイプ(722)、天井が平坦で口唇内部に稜をもつタイプ(723)、天井が丸く口唇部の丸いタイプ(721)がある。短頸壺は、口唇部が丸く肩の張りが緩いタイプ(724)である。鉢は頸部の断面形がくの字状で体部が膨らむタイプ(726)である。これらの胎土には僅かに砂粒を含む。また、635・632・676・668タイプの坏蓋と高台付坏は、器面に炭素が付着したと思われる黒色部分をもち、本土器群で主体を占めている。この黒色の特徴から、532・1227・1233・1237も同類と考えられる。

土器群Fでは、坏蓋・高台付坏・坏が出土している。坏蓋には天井がやや丸味を浴び端部が外

弯するタイプ(822)、天井が平坦で端は一旦水平気味になり外傾するタイプ(823)、天井の平坦部が狭く端部が内に短く折れるタイプ(833)がある。高台付坏は深く、高台の断面形が方形のタイプ(851)がある。坏にはやや深く体部から口縁部にかけて反るタイプ(881)、やや浅く体部下端に篦削りをもつタイプ(882)がある。これらの胎土には大き目の砂粒を含み、灰色系の色調をもつ。

土器群Gでは、坏蓋・高台付坏が出土している。坏蓋には、天井が丸く端部の屈折部で鋭い角が付くタイプ(838)、天井部が平坦気味で端部は一旦水平気味になり、屈折部に鋭い角が付くタイプ(834)、天井部は平坦でやや低く、天井部と端部の間が直線もしくは反るタイプ(843)、天井部は丸味を浴びて低く、端部は一旦水平気味から外傾するタイプ(845)などがある。高台付坏には、体部下端に篦削りをもち、高台の断面形が四角張るタイプ(855)、口縁部は内弯気味で高台が中央寄りに付くタイプ(863)、口縁部はやや大きく開いて、高台の断面形は外傾する内面に長い底辺をもち三角形状を示すタイプ(869)、口縁部はやや大きく開いて高台の先端内側が鋭く突出するタイプ(870)、体部下端に篦削りをもち高台先端が内に短く屈曲するタイプ(871)などがある。坏は口縁端部が薄く底部の丸いタイプ(885)がある。これらの胎土には大き目の砂粒を含み、淡黄色系の色調をもつ。

土器群Hでは、坏蓋・高台付坏・高台付埦・坏・甕が出土している。坏蓋は、天井が丸味のある平坦で、端部の先端が短いタイプ(991)がある。高台付坏には、口縁部が大きく開いて、断面方形の高台が先端外側で接地するタイプ(995)、口縁部はあまり開かず、断面方形の高台が先端外側で接地する深いタイプ(997)がある。高台付埦は口縁部があまり開かず、断面方形の高台は先端外側で接地する深いタイプ(996)がある。坏は、口縁部が薄く平底のタイプ(1000)がある。甕では、小型で回転糸切り痕をもち、口縁部は外反してから内傾するタイプ(1007)、中型で口唇部が窪んでいるタイプ(1010)がある。これらの胎土は僅かに砂粒を含み、スリップ状を呈した器面は灰白色系の色調をもつ。

土器群Iでは、坏蓋・高台付坏・坏・横瓶・甕が出土している。坏蓋では、回転糸切り痕をもつ天井部が平坦でやや低く、端部が内に屈折するタイプ(1400)、回転糸切り痕をもつ天井部は扁平で、端部が内に屈折するタイプ(1403)がある。高台付坏には、底面に回転糸切り痕をもち高台部が先端外側で接地するタイプ(1405)、底面に回転糸切り痕をもち高台接地部に段状の窪みをもつタイプ(1406)、底部に回転糸切り痕をもち高台は先端外側で接地する深いタイプ(1407)がある。坏は、底面に回転糸切り痕をもつ箱形のタイプ(1409)がある。横瓶は口唇部が窪んでいる(1410)特徴がある。甕には、口縁部が無文で口唇部内外とその中間が突出している中型タイプ(1411)、口縁部に波状櫛掻き文をもち、口唇部内外とその中間が突出している大型タイプ(1412)がある。これらの胎土には大き目の砂粒を含み、1405の乳白色を除くと灰色系の色調を

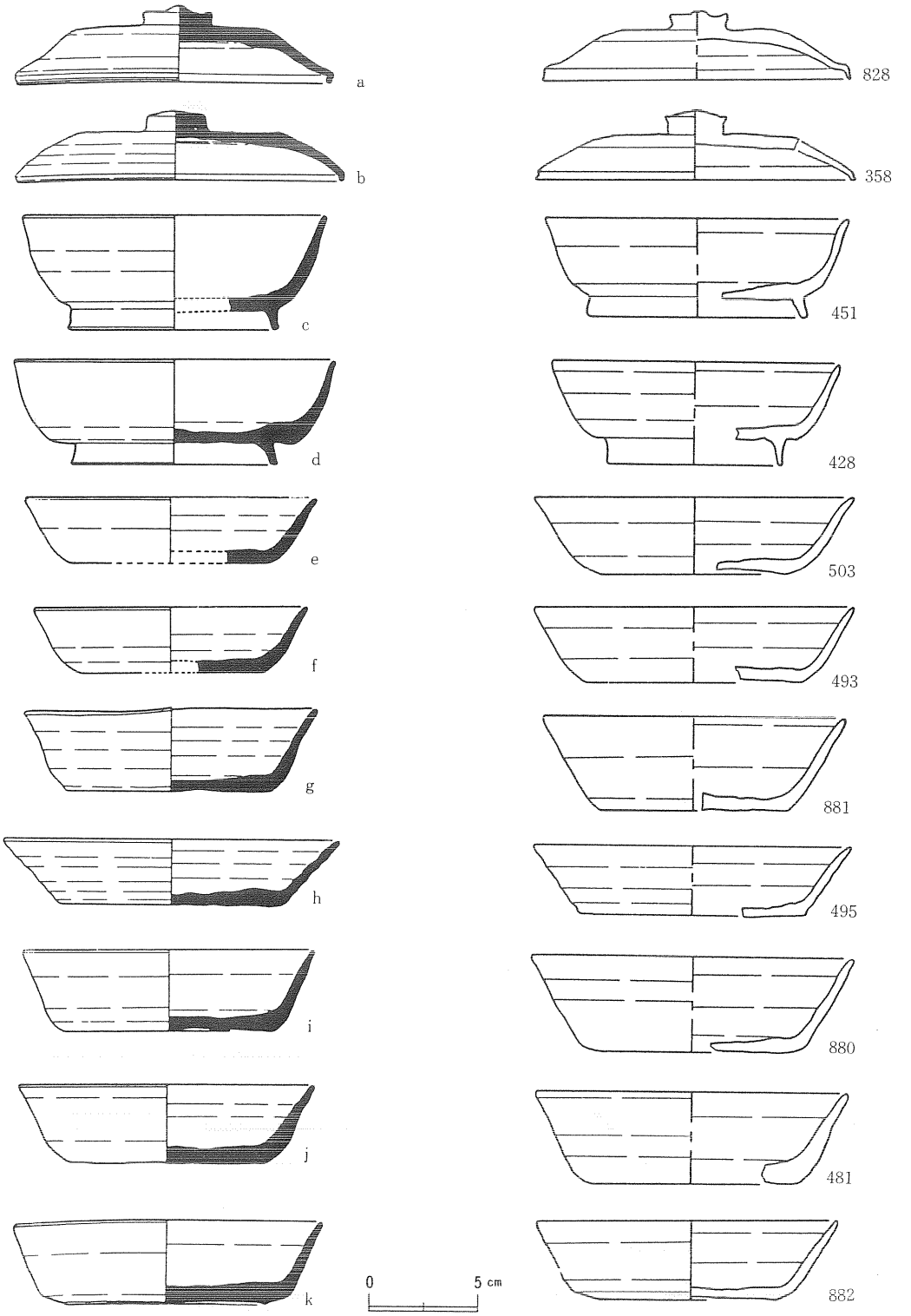
もつ。以上、各一括出土土器群ごとに出土須恵器の特徴をまとめたものであるが、次にこれを基にして竹原窯跡出土須恵器のおおまかな変遷を検討してみる。

土器群Ｂは灰原ＳＴ12出土の土器群で、ＳＴ12はＢ地区の重複する灰原群の中で最下層に存在することから、竹原窯跡で最も古いと考えられる。ＳＴ12とその周辺における土層の堆積状況は、第26図に示した通りである。これによると、最下層の灰原ＳＴ12(⑤)の直上には、ＳＪ05ｆの製品と考えられる乳白色を呈する土器やＳＴ17と同じく炭素が付着したと考えられる黒色の土器を含んでいる層(③･④)があり、さらにその上には地山排土を挟んで、ＳＪ05ｅの製品である黒色部分がありかつ灰色部分が斑状を呈する土器などを含む層(①)がある。①、③･④、⑤に含まれる土器群の在り方は、以下のようである。③･④層中から⑤層の土器の一部が出土することがあっても、⑤層中から③･④層の土器が出土することはなく、また①層の土器が③･④･⑤層から出土することもない。したがって以上の層位関係から、ＳＴ12(土器群Ｂ)→(以下矢印は前後関係を示し、左が古い。また、カッコ付の矢印は推定である)ＳＪ05ｆ(土器群Ｃ)･ＳＴ17(土器群Ｅ)→ＳＪ05ｅ(土器群Ｄ)の変遷が成り立つ。また、ＳＴ17の土器群中には、629と663タイプの坏蓋と高台付坏が存在している。これらは、著しく焼けひずみただれた状態であることから、焼台として使用されたと判断される資料である。そして、これらと形態･技法の類似を指摘できるのがＳＪ05ｆの土器群Ｃである。したがって、ＳＪ05ｆ(→)ＳＴ17の関係が想定できる。一方ＳＪ07とＳＴ35の関係は、ＳＪ07(土器群Ｆ)→ＳＴ35(土器群Ｇ)として明白である。以上の層位における遺物の関係や遺構の前後関係は、各土器群の変遷を示すことになりこれらを整理すると、土器群Ｂ→土器群Ｃ→土器群Ｄ･Ｅと、土器群Ｆ→土器群Ｇの変遷として捉えることができる。一方土器群Ａ･Ｈ･Ｉは回転糸切り技法を伴う(Ａの187、Ｈの1007、Ｉの1400)傾向に加えて、坏蓋端部手前で極端に反る(Ａの127･128、Ｈの991･992、Ｉの1400･1403)という特徴がある。これに対して土器群Ｄ･Ｇは回転糸切り技法を含まず、坏蓋端部手前部分だけで反るのは稀で(845)、極端な反りを示さない(Ｄの341･342、Ｇの838･840)ものがほとんどである。この形態･技法上の特徴から土器群Ａ･Ｈ･Ｉは土器群Ｄ･Ｇよりも新しい。土器群Ａ･Ｈ･Ｉの関係については、土器群Ｉの坏蓋1400などの端部が明瞭に屈折するものだけなのに対し、土器群Ａと同時期と考えられる坏蓋1･2と土器群Ｈの坏蓋991･992は明瞭な屈折を示さず屈折部退化タイプとして捉えられる。また土器群Ｉの坏には、箱型に近いタイプを含むのに対して、土器群Ａ･Ｈにはこれを含まない。これらのことから、土器群Ｉ→土器群Ａ･Ｈの変遷が考えられる。

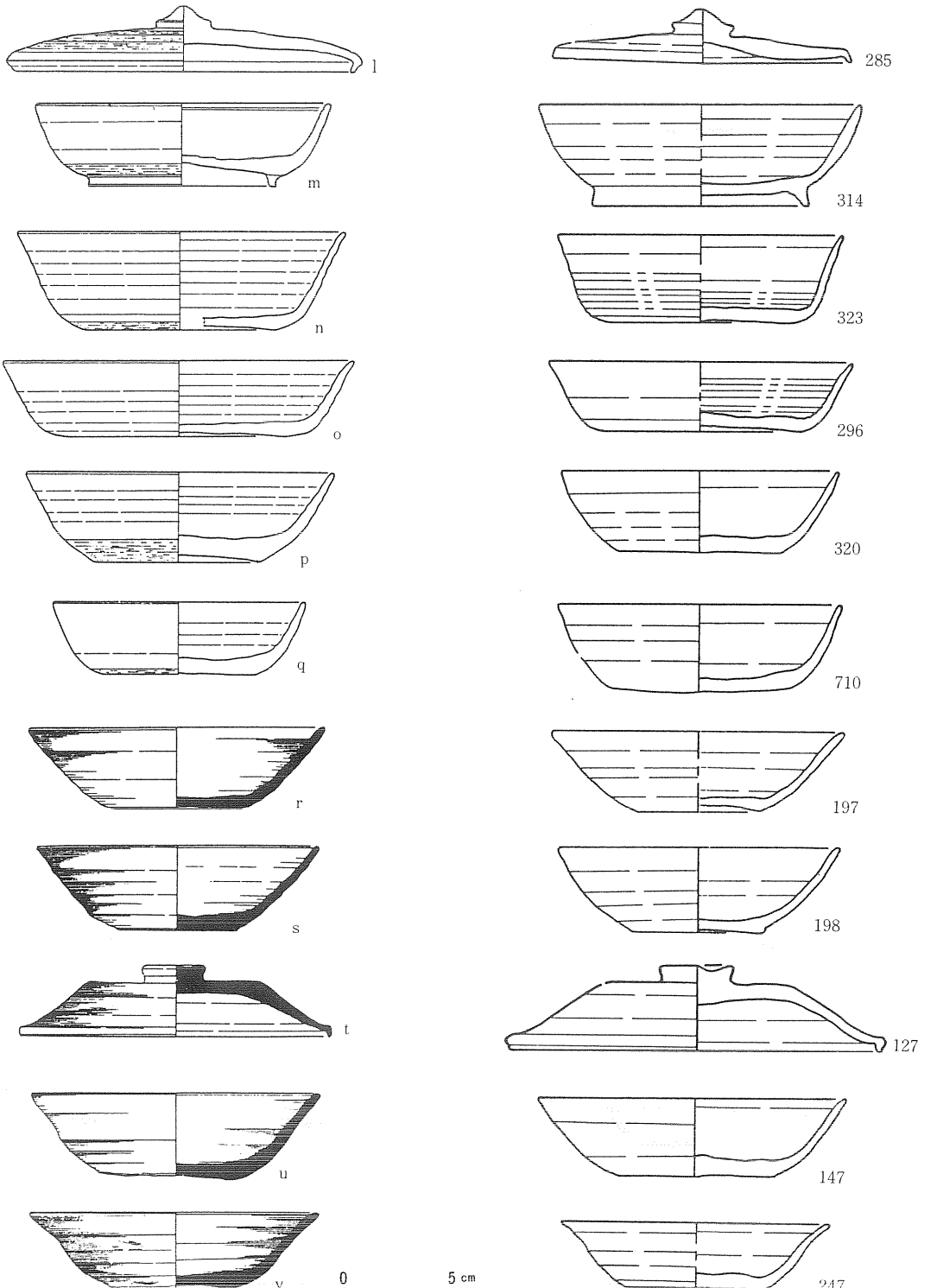
次に変遷がある土器群の中で、併行する土器群を見い出すことができないであろうか。この関係を捉えるために、山形県西村山郡河北町に所在する不動木遺跡(註2)のＳＤＩから出土した須恵器の比較検討を行ってみたい。この遺構からは、多量の須恵器と土師器が共伴して出土した。

第155図の左側には不動木遺跡出土須恵器、右側には竹原窯跡出土須恵器を並べてある。ａと828は、天井が平坦でやや高い点、中心から稜までが1/2口径強となる点で類似し、稜から端部にかけて反る特徴をもつ。ｂと358も天井や稜の在り方が類似し、稜から端部にかけては膨らむか直線的である。Ｃと451は高台の形態と、そこから体部へ移行する部分が丸味をもち類似する。ｄと428は高台が底部端から内側に入り、高い三角高台を有する点で極めて特徴的である。また、428のタイプは底面から体部の移行部が角張り、ｄにもその特徴がある。ｅ・ｆ・ｇと503・493・881は、体部下位でやや膨らみ口縁部がやや外反する。ｈ・ｉ・ｊ・ｋと495・880・481・882は体部から口縁にかけて直線的か反ることで類似し、ｋと882は底部と体部の境に面を成している。また轆轤からの切り離しは、すべて回転篦切りである。このように、不動木遺跡出土須恵器と竹原窯跡のものは、形態・技法上に類似性がある。他方、不動木遺跡出土の須恵器はＳＤＩの単一層から一括出土したものがほとんどで、短期間に集中的に投棄されたものと考えられている。年代は共伴した土師器から、ＳＤＩを国分寺下層式の終末(8世紀末)にとらえ、土器については古手のものを考慮して奈良時代後半の土器群としている。しかし、遺物が短期間に投棄されたことを考慮すれば8世紀の後葉を中心とする時期を考えて良いと思われる。一方、竹原窯跡出土須恵器の中で、828・881・880・882は土器群Ｆ、428・503は土器群Ｄ、358・451・493・495・481は出土層位や形態・色調からＳＪ05ｅよりも新しいＳＪ05のいずれかの製品と判断されるものである。したがって、土器群Ｄ・Ｆは不動木遺跡出土土器群からおよそ8世紀後葉の時期が想定でき、両者はほぼ併行すると考えられる。以上より、竹原窯跡における土器群の変遷は、土器群Ｂ→土器群Ｃ(→)土器群Ｅ→土器群Ｄ・Ｆ→土器群Ｇ(→)土器群Ｉ(→)土器群Ａ・Ｈと考えられる。

次に、土器群の年代について考えてみたい。竹原窯跡の上限については、宮城県利府町に所在する硯沢窯跡[註3]を参考にする(第156図)。ℓ～ｑは、硯沢窯跡で8世紀中葉に位置づけられている資料である。これらは大きさが異なるものの土器群Ｂ(285・296)およびこれらと併行する時期と考えられる土器(314・323・320)と類似する点がある。ℓと285のつまみは、頭が丸い三角形でリング状の縁があり短く立つ点や天井部の削りが深い点など、両者の緊密さがうかがえる。ｍと314は体部に削りを施し、底部から口縁部まで内弯する形態や高台が三角形状を呈する点で類似している。ｎ・ｏと323・296は、体部下半がやや膨らみ体部から口縁にかけて外反する深いタイプと浅いタイプである。このうち、ｏを除くと体部下端に回転篦削りを施している。ｐと320はやや深く内弯し、体部下端にやはり回転篦削りを施している。このような形態や技法上の特徴から、土器群Ｂの年代は8世紀中葉と考えられる。また、ｑと土器群Ｅの710は、710の体部下端に削りを施していないものの形態が類似するため、これも8世紀中葉の中でも後出の可能性があり、土器群Ｅを第3四半期を中心とする時期に考えておく。



第155図　須恵器の比較(1)



第156図　須恵器の比較(2)

下限については、山形県東置賜郡川西町に所在する道伝遺跡[註4]を参考にする(第156図)。この遺跡のＳＤ1出土土器は、2層から古い方へ3層・4層上面・4層下面・5層上面・5層下面と土器が層位的に出土し、4層からは寛平8年(896)と記された木簡が検出されている。この4層中の回転糸切り底と思われる須恵器坏ｒ(4層上面)・ｓ(4層下面)と坏蓋ｔ(4層下面)は、ＳＫ02出土の回転糸切り底である坏197・198と同坏蓋127に形態が類似する。坏では、底径が口径の1/2弱でやや深く、体部が緩く弯曲している点、坏蓋は天井がやや高く平坦で、稜から端部にかけて反る特徴のある点である。また、4層よりも古い5層上面のものには箆切りと思われる坏ｕ・ｖがあり、それぞれＳＫ02の147・ＳＴ03の247と類似している。ＳＴ03はＳＪ01の製品で、ＳＫ02出土須恵器とはほぼ併行する時期である。このように比較すると土器群ＡはＳＤ1の5層上面や4層から出土した遺物とほぼ同時期に対比することができ、土器群Ａの年代を寛平8年(896)をそう溯らない9世紀後葉と考えることができる。

また、土器群Ｇの高台付坏855・857と、ＳＪ07に関する炭化物層ｂから出土した849とは、大きく開く口縁部や断面が方形状の高台、それに体部下端に箆削りを施すなどの点で類似し、形態・技法上近い関係にあると考えられる。このことから土器群Ｇは9世紀前葉を下る時期とは考えられず、8世紀末葉の可能性もあるものの一応9世紀前葉と考えておきたい。土器群Ｉについては、9世紀中葉かと思われるが不明である。

以上を整理すると、土器群Ｂ・Ｃ・Ｅは8世紀中葉～第3四半期にかけての時期、土器群Ｄ・Ｆは8世紀後葉、土器群Ｇ・Ｉは9世紀前葉～中葉、土器群Ａ・Ｈは9世紀後葉の時期と考えることができ、これら4つの時期をおおまかに竹原Ｉ～Ⅳ期として捉えることにしたい。これら4時期のうち、特に竹原Ｉ期の土器には、金属器模倣タイプ(668)や硯・短頸壺など郡衙や他の官衙などに供給されたと思われる製品が多い。

以上、竹原窯跡に関する成果と問題を4点に絞って述べてきたが、最後に若干のまとめを行う。竹原窯跡は、肥沃な横手盆地を見わたせる狭長な独立丘西端に位置した、須恵器生産を専らとする窯跡群である。窯跡の数は、調査区内から検出された灰原(窯体が斜面上方にあると考えられる)やＡ・Ｂ地区の反対側(東側)斜面に存在した2基の窯跡[註5]などから推定すると、この丘陵には少なくとも10基以上存在していたことになる。さらに、調査区の北西端から北西約50ｍに存在する上猪岡遺跡からも平安時代の窯が1基検出されていることから、隣接する丘陵斜面も含めると相当数の窯跡が存在し、中山丘陵中の各窯跡支群の中でも、最も規模の大きな須恵器生産地の１つと考えられる。

また、竹原窯跡における各窯跡の在り方は、奈良時代のものはＢ地区に集中し、平安時代のものはＡ地区(ＳＪ01)、Ｂ地区(ＳＴ13、ＳＴ30などの斜面上方に存在すると考えられる窯)、

C地区(ＳＪ20)と散在する。つまり、奈良時代の局所集中的な在り方に対して、平安時代では散発的な在り方を示している。平安時代の在り方は、富ケ沢窯跡支群や西ケ沢窯跡支群[註6]の在り方と共通している。

一方、横手盆地における奈良時代中葉もしくは後葉にかけての窯跡は、奈良時代中葉以降とした竹原窯跡と、同窯西方で雄物川を越えた出羽山地東端に位置する末館窯跡Ⅰ・Ⅱ[註7]、の2つである。そして、『続日本紀』の天平寶字三年9月己丑条には「始置出羽国雄勝平鹿二郡」とあり、この雄勝・平鹿両郡の郡衙は横手盆地南部にあると考えられている[註8]。したがって、これら2地域の窯跡が各郡域における須恵器生産の拠点であった可能性がある。また、同条には「造陸奥国桃生城出羽国雄勝城」と見え、これらの窯跡が雄勝城の成立する頃と併行することから、竹原窯跡もその供給地としての一端を担った可能性も考えられる。いづれにしても、竹原窯跡出土須恵器の中には、円面硯、鉄鉢、四耳壺などのすぐれて官衙的な色彩をもつ器種に恵まれているものを含み、今後、消費地遺跡の調査が進展することによって竹原窯跡の性格がより具体化するはずである。

註1　竹原窯跡出土須恵器は、還元焔焼成による黒・灰色系のものと酸化焔焼成と考えられる白色・橙色系のものとに分けることができる。後者は、その焼成の在り方から厳密には還元状態の色調をもつ須恵器の範疇を逸脱する可能性を含むが、本遺跡での窯の実態は不明である。したがって、ここではその問題には触れず、前者と形態・技法が類似する点から後者も須恵器として扱う。

註2　山形県教育委員会『不動木遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第100集 1986(昭和61年)

註3　宮城県教育委員会『硯沢・大沢窯跡ほか』宮城県文化財調査報告書第116集　1987(昭和62年)

註4　川西町教育委員会『遺伝遺跡発掘調査報告書』川西町埋蔵文化財調査報告書第2集 1981(昭和56年)

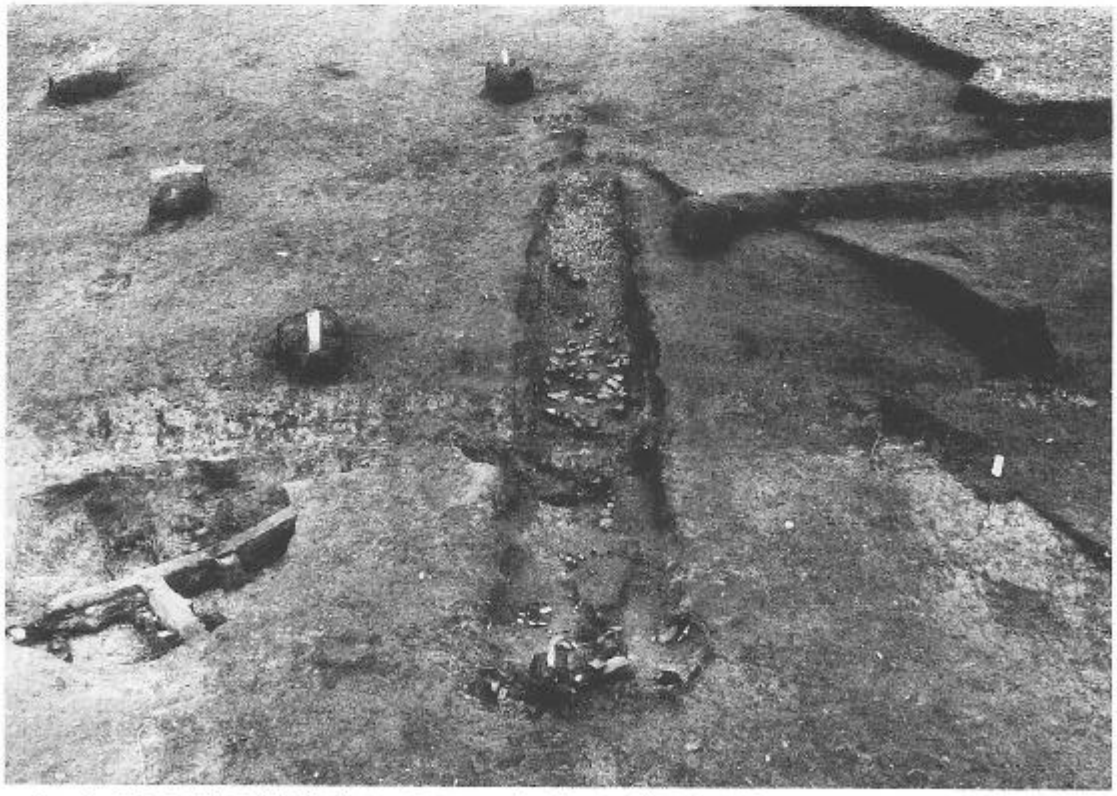
註5　昭和58年、秋田県教育委員会が分布調査を行った際に確認されたが、現在はぶどう畑造成のため消滅している。

註6　本書、歴史的環境(Ｐ3)の項で触れてある。なお、富ケ沢窯跡(Ａ～Ｃ)については、1990年秋田県教育委員会によって調査され、窯跡4基が検出されている。

註7　『払田柵跡Ⅰ-政庁跡-』(1985)のＰ119～145の間で、実測図を掲載して紹介している。この中で、同窯の年代の上限を8世紀中葉としているが、竹原窯跡Ⅰ・Ⅱ期の遺物との比較から、古く遡っても8世紀第3四半期と考えられる。

註8　新野直吉「秋田城・雄勝城と払田柵」『古代史上の秋田』秋田魁新報社 1981(昭和56年)

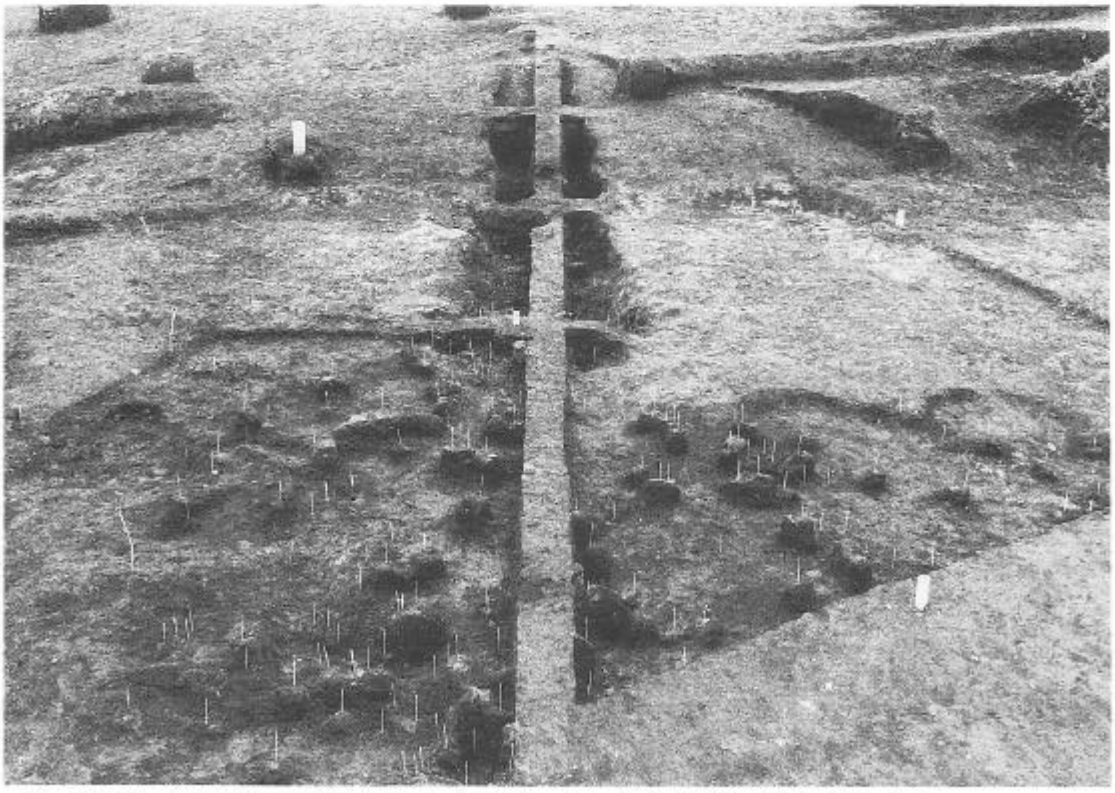
1　A地区調査風景(南東▷)　プレハブ右斜面がB地区、後ろ斜面がC地区。



2　SJ01・SK02全景(西▷)　SJ01の左側には、失敗品を捨てたSK02がある。

図版2

1　ＳＪ01全景（南西▷）　焼成部は、最大30°の角度で傾斜している。



2　ＳＪ01・ＳＴ03調査状況（西▷）　灰原からは、小さな破片が多く出土した。

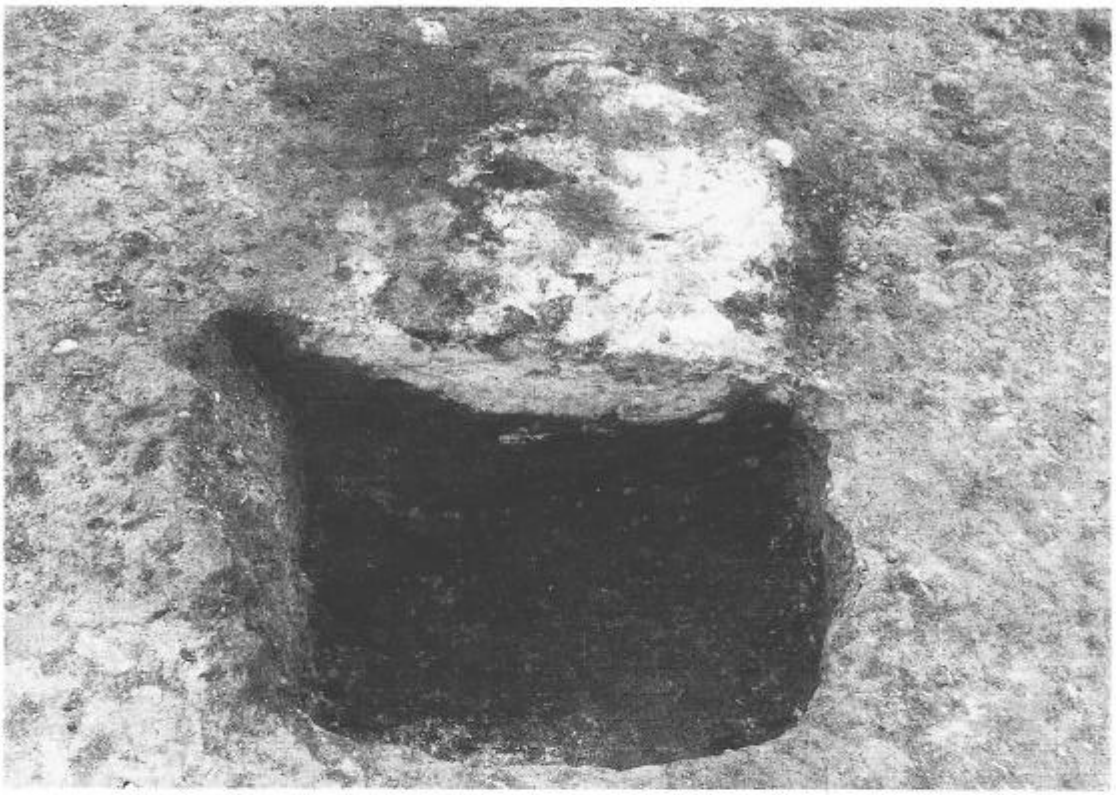
1　ＳＪ01近景(北西▷)　右壁下の段はＳＪ01ｂの床面である。

2　ＳＪ01ａ遺物出土状況(西▷)　床面出土遺物。ほとんどは焼台。

図版4

1　ＳＫ02遺物出土状況（東▷）　土坑状の穴はアンカーによる攪乱。

2　ＳＫ02近景（北▷）　白いのが、火山灰で約15cmの厚さがある。



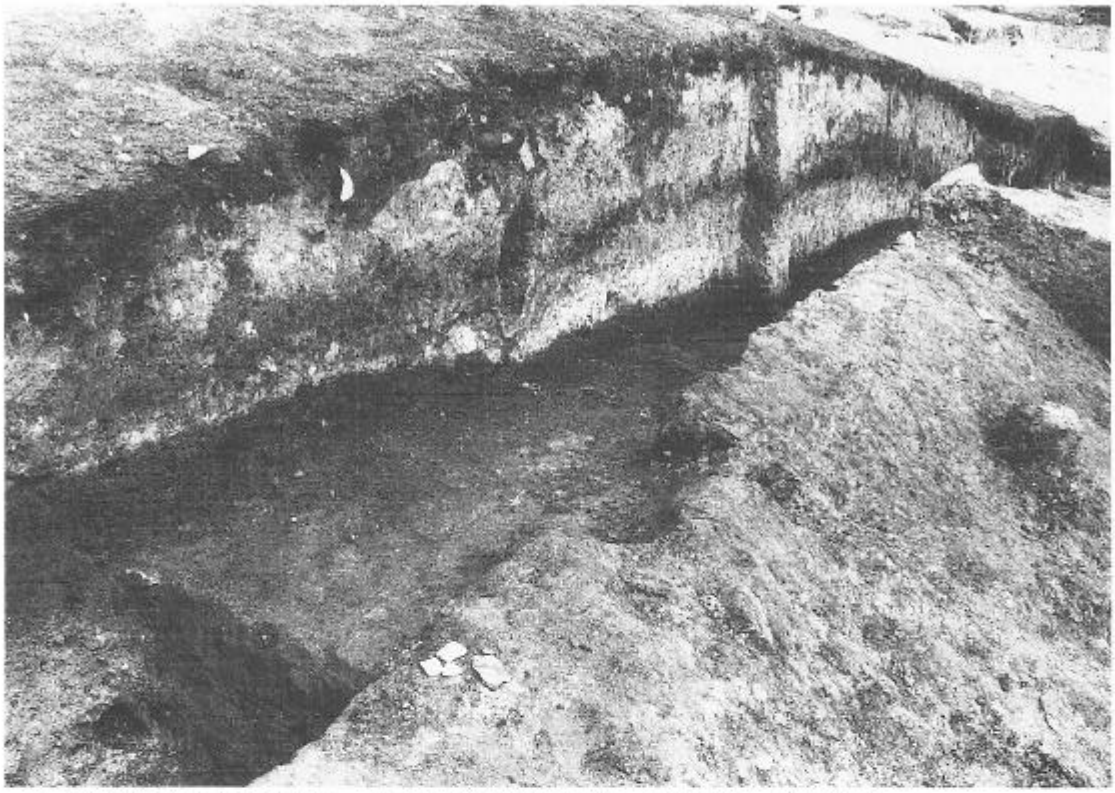
1　ＳＮ04断面（北西▷）　白いのが火山灰で約15cmの厚さがある。

2　ＳＮ04全景（南西▷）　床面には炭化物が充塡していた。

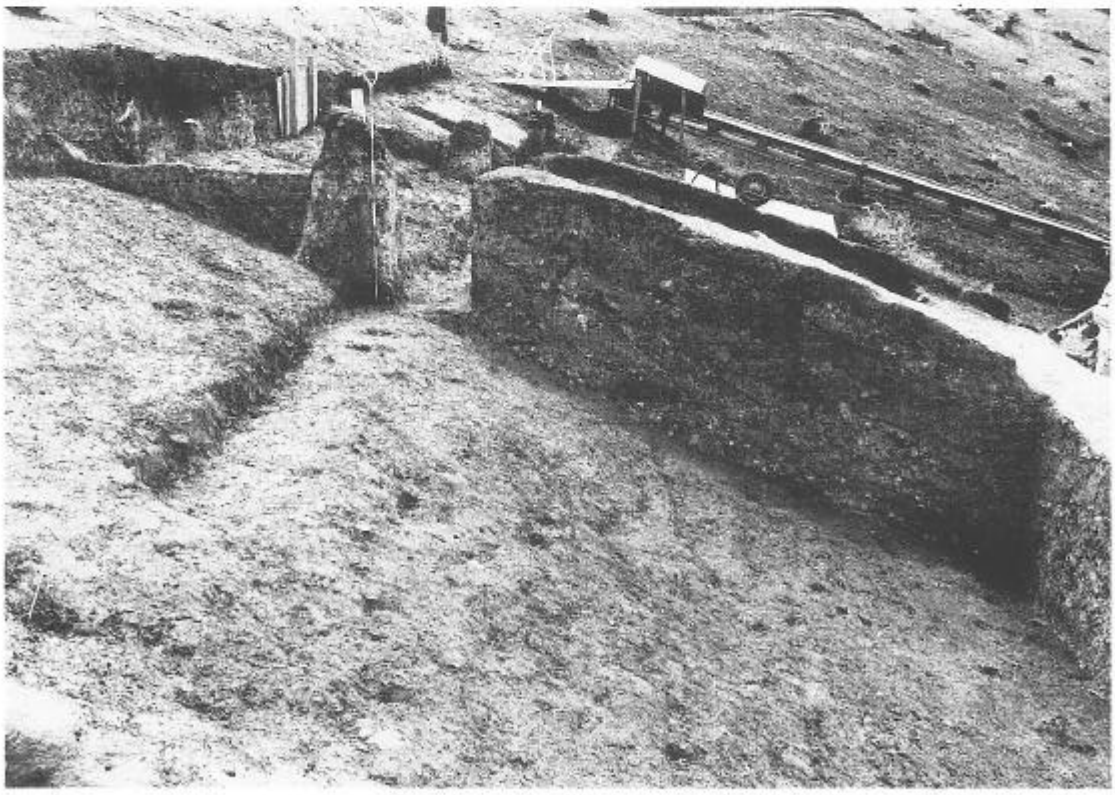
図版6

1　B地区風景(1)(南▷)　斜面の黒い帯はトレンチの断面。

2　B地区風景(2)(南西▷)　斜面尾根状部分がSX29、その右側にSJ05･07が並ぶ。



1　B地区灰原断面(西▷)　ＳＪ05･07下方の灰原。断面黒は、炭化物層。



2　B地区地山排土断面(北西▷)　ＳＴ13～15下方にある地山排土。

図版8

1　ＳＴ12遺物出土状況(1)(西▷)　ＬＱ56区斜面の遺物出土状況。

2　ＳＴ12遺物出土状況(2)(北▷)　ＬＰ56区。中央は壺蓋(294)、左上は甕(302)である。

1　ＳＴ12遺物出土状況(3)(南▷)　ＬＰ56区斜面の遺物出土状況。

2　ＳＴ12遺物出土状況(4)(南東▷)　ＬＰ56区。中央は坏蓋(278)右側は坏(320)である。

図版10

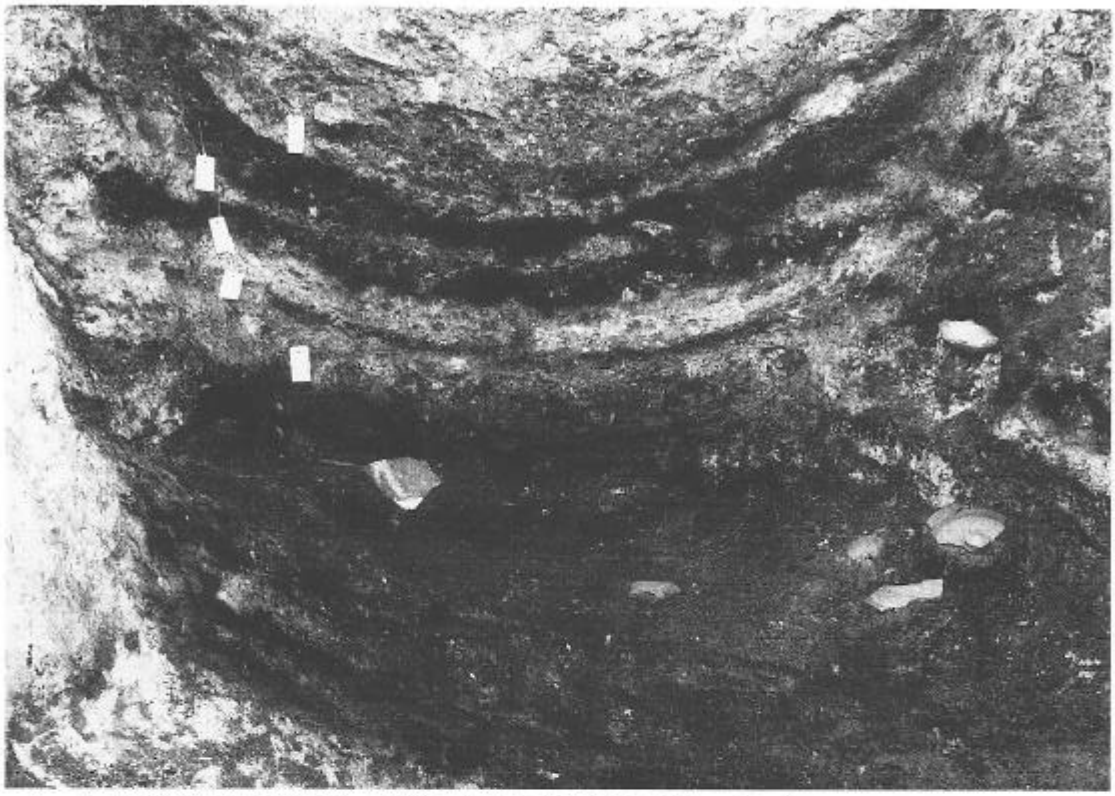
1　ＳＪ05･06･07･08全景（南西▷）　左側がＳＪ05･06、右側がＳＪ07･08である。

2　ＳＪ05･06全景（南西▷）　焚口はＳＪ05ｆで、その右脇にＳＪ06がある。

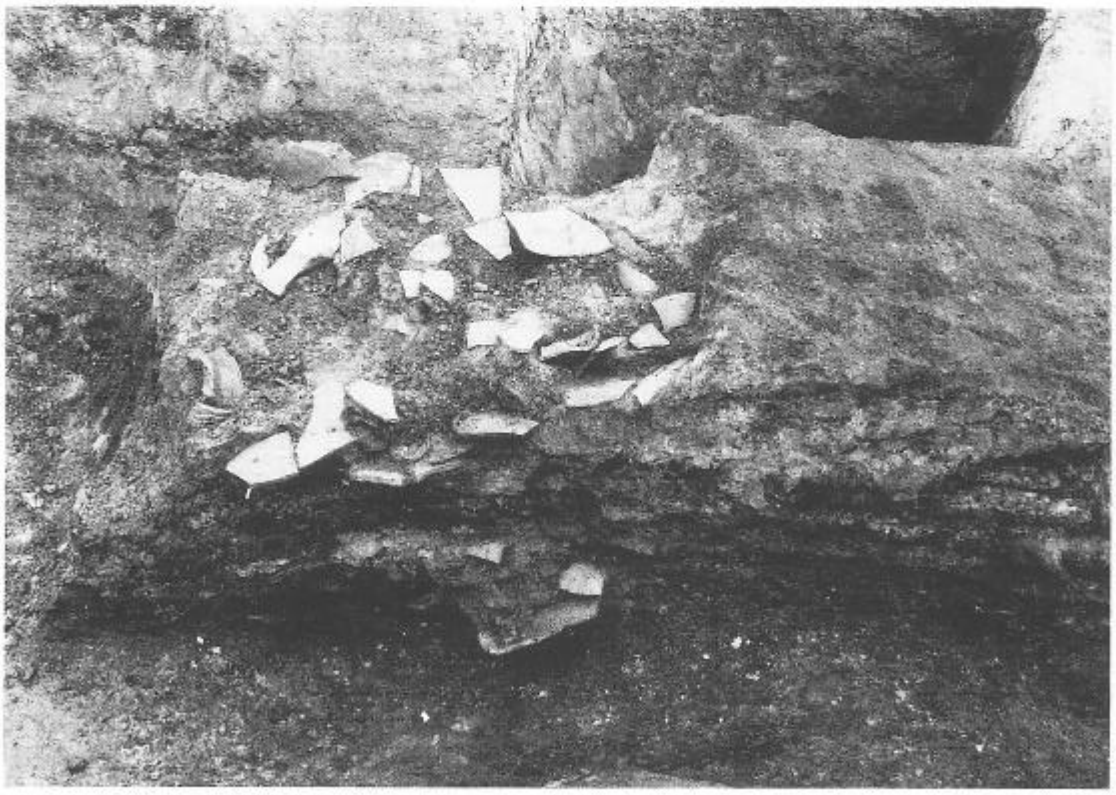
1　ＳＪ05横断面(1)(南西▷)　断面に白く見えるのが、地山排土である。

2　ＳＪ05縦断面(西▷)　白いのが地山排土で、斜面に沿って連続している。

図版12



1　ＳＪ05横断面(2)(南▷)　操業面を示す炭化物層が重っている。

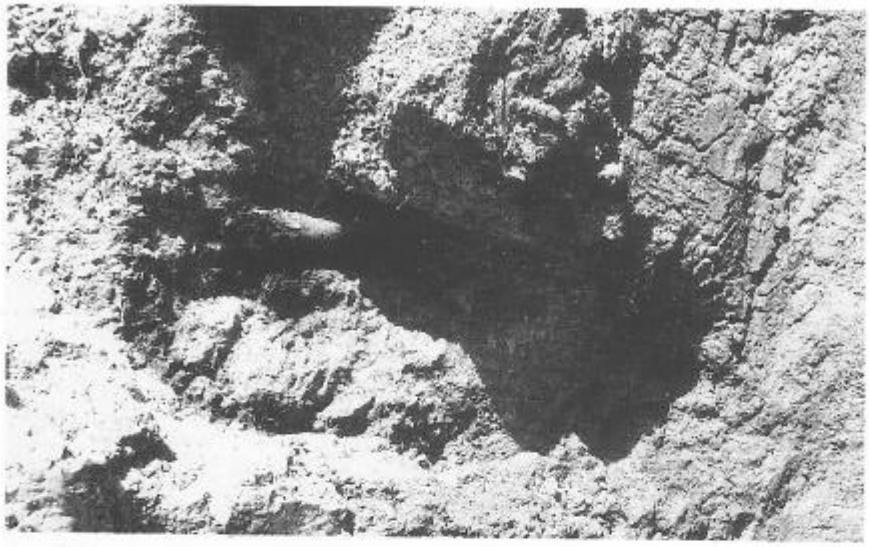


2　ＳＪ05遺物出土状況(北西▷)　遺物の下には炭化物が重なっている。

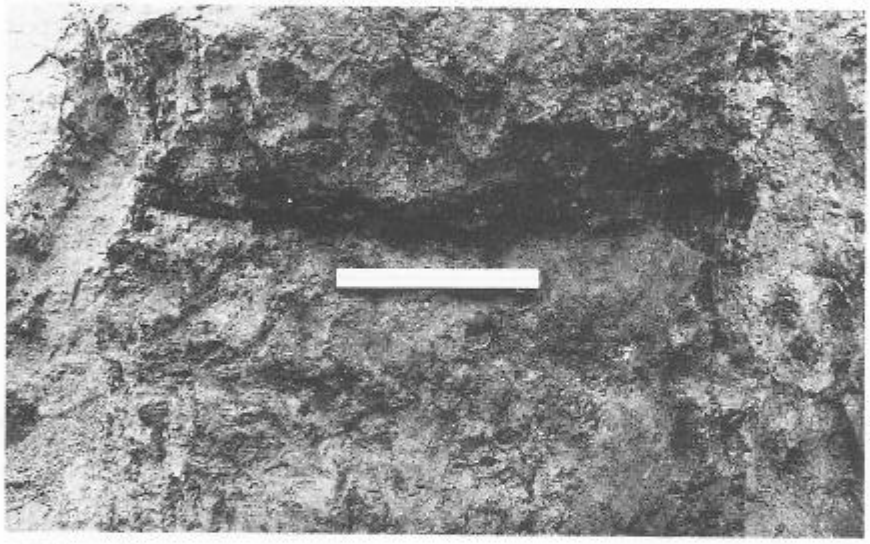
1　ＳＪ05ｅ遺物出土状況（北西▷）　一括土器群Ｄとした遺物である。

2　ＳＪ05遺物出土状況（北▷）　床に近いが、ＳＪ05ｅ以後の蓋である。

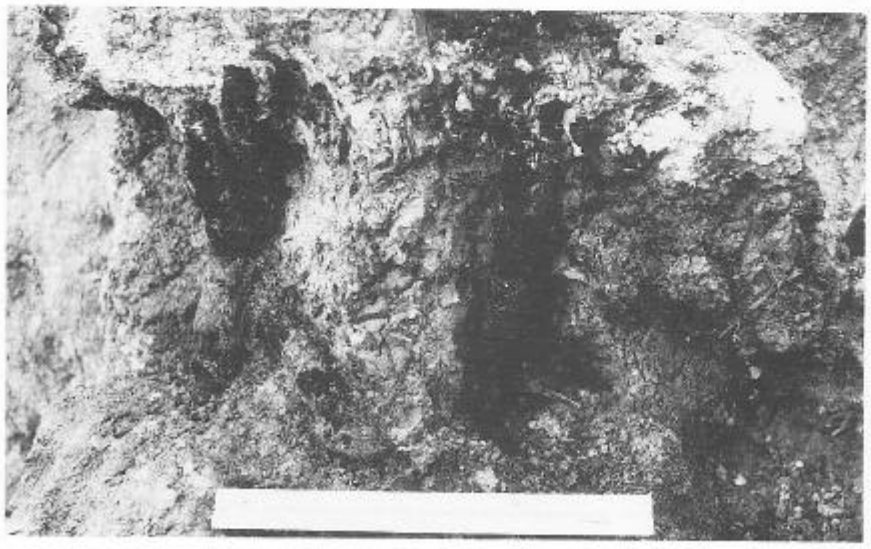
図版14



1　ＳＪ05ｆ架構材(1)
（南東▷）
周辺は劫入粘土
である。

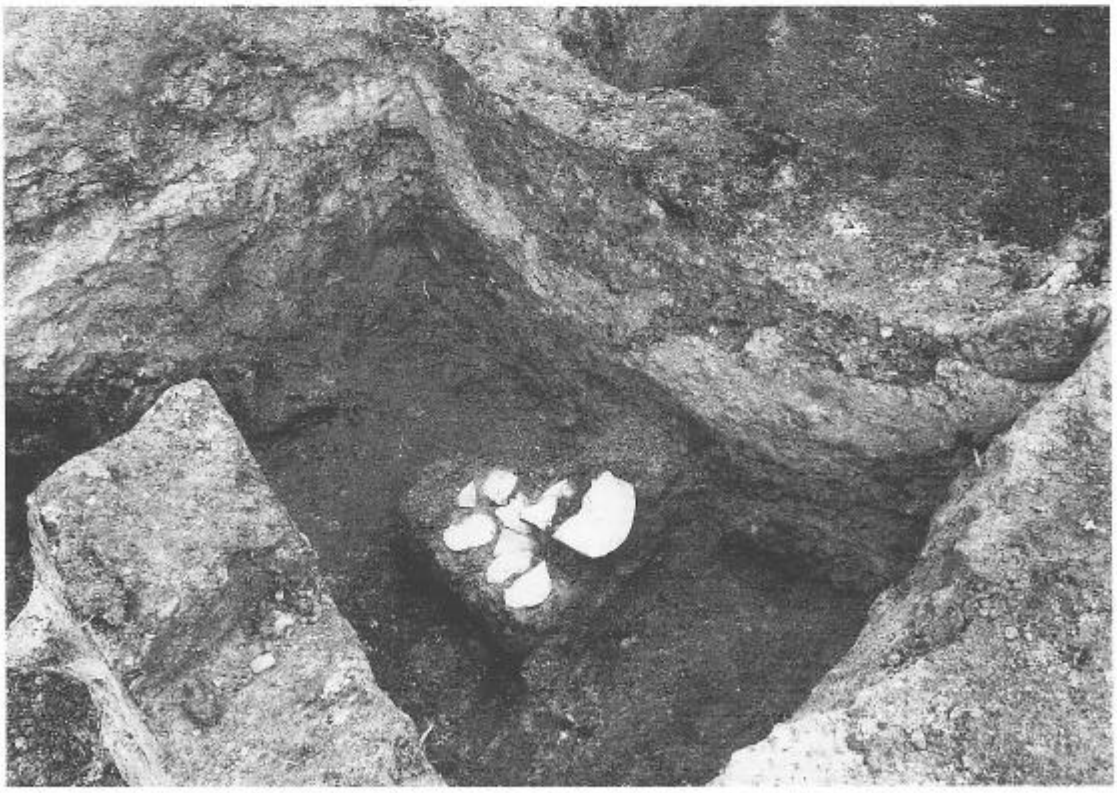


2　ＳＪ05ｆ架構材(2)
（南東▷）
炭化材が側壁に
沿っている。



3　ＳＪ05ｆ架構材(3)
（北西▷）

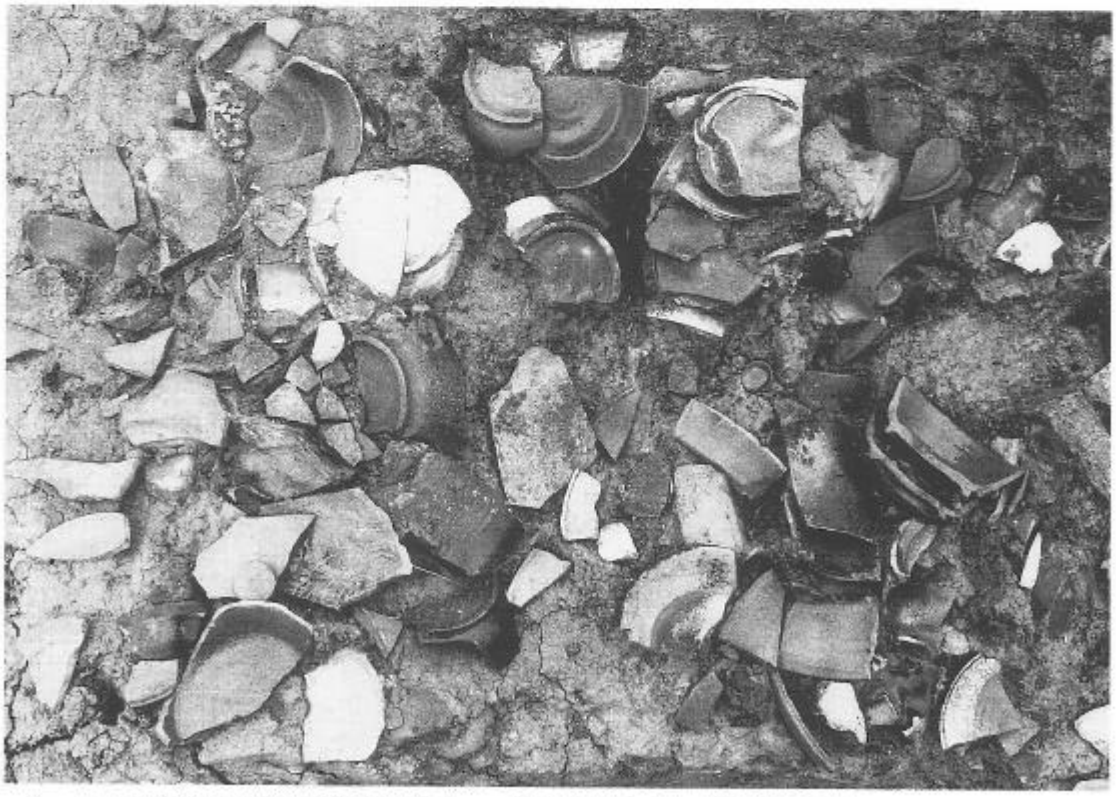
1　ＳＪ05ｆ焚口付近遺物出土状況（南西▷）　中央が一括土器群Ｃとした遺物である。



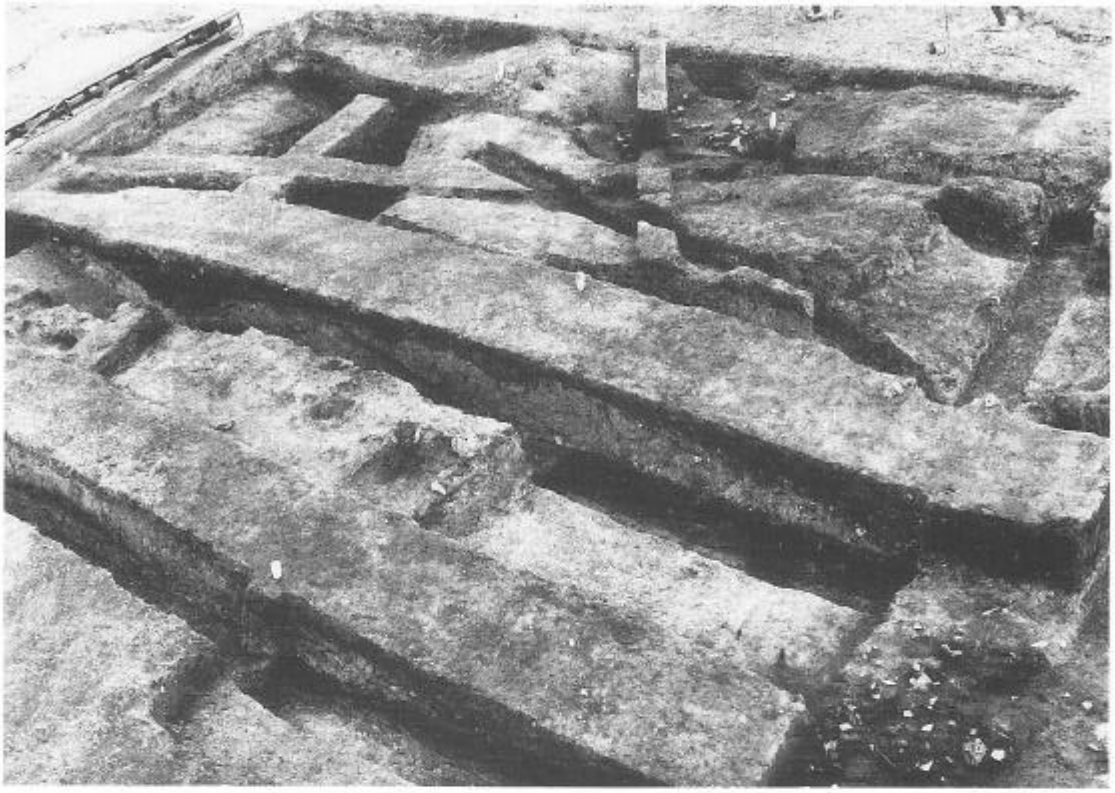
2　ＳＪ05ｆ覆土遺物出土状況（南▷）　ＳＪ05ｆの製品と考えられる土器である。

図版16

1　ＳＴ17遺物出土状況(1)(北西▷)　上面は地山排土で覆われていた。



2　ＳＴ17遺物出土状況(2)(南西▷)　一括土器群Ｅとした遺物である。

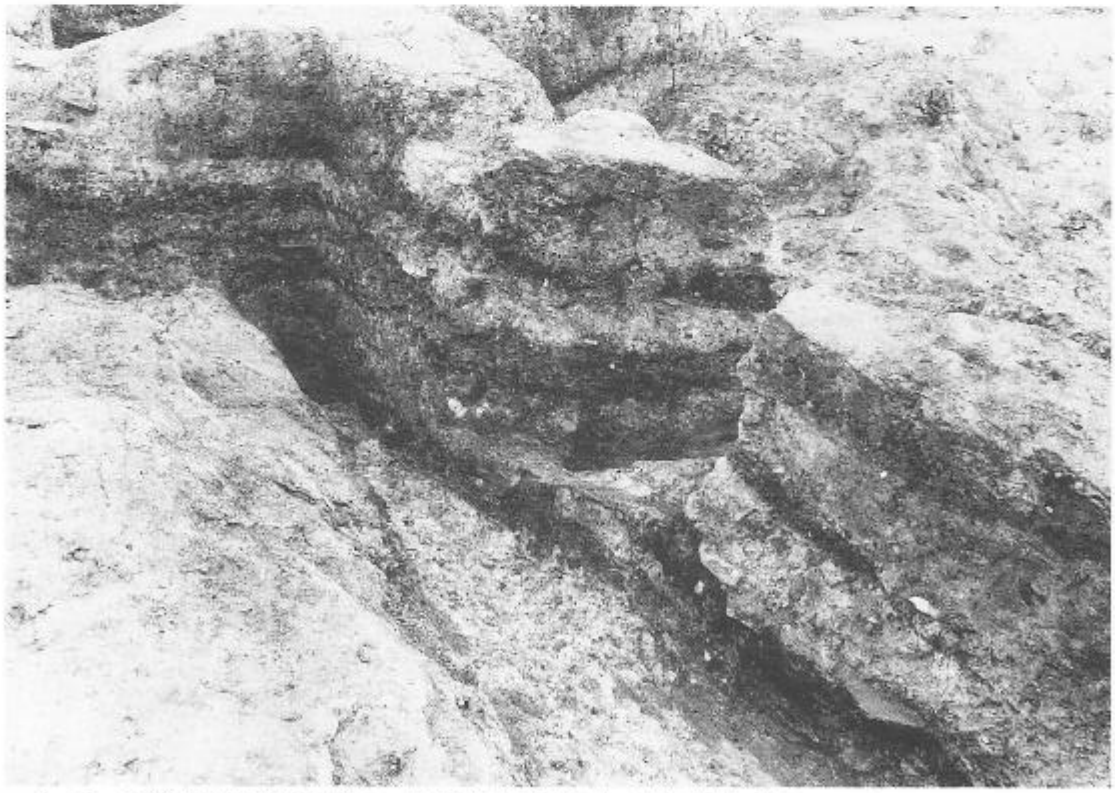


1　ＳＪ05･07と灰原（南▷）　左側がＳＪ05、右側がＳＪ07である。

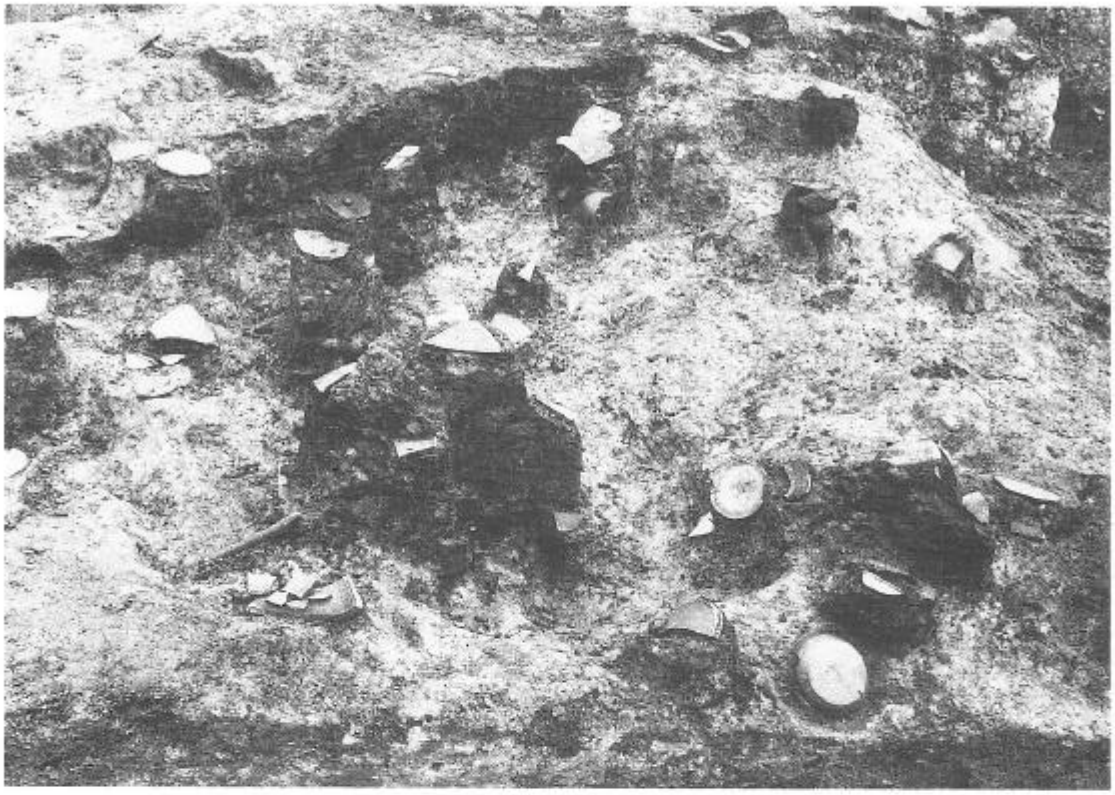
2　ＳＪ07･08断面（南西▷）　左側がＳＪ07、右側がＳＪ08である。

図版18

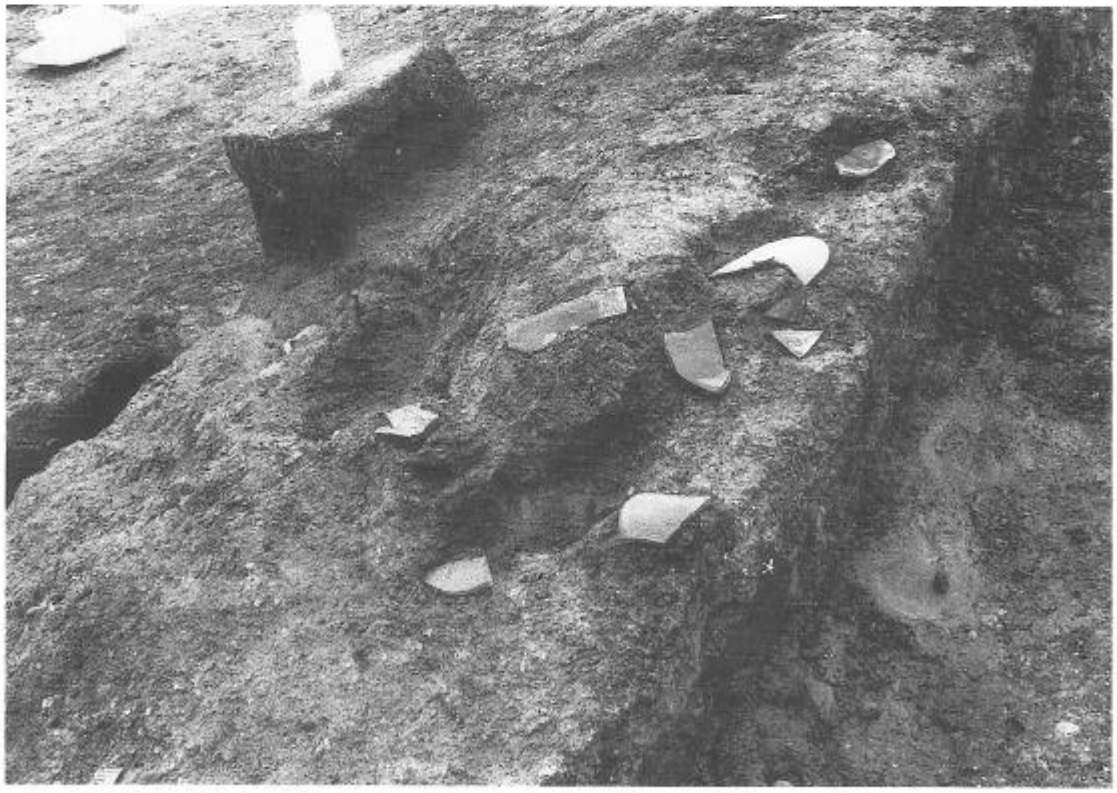
1　ＳＪ07縦断面(1)(東▷)　中央の白いのが火山灰、床面の白いのは地山である。



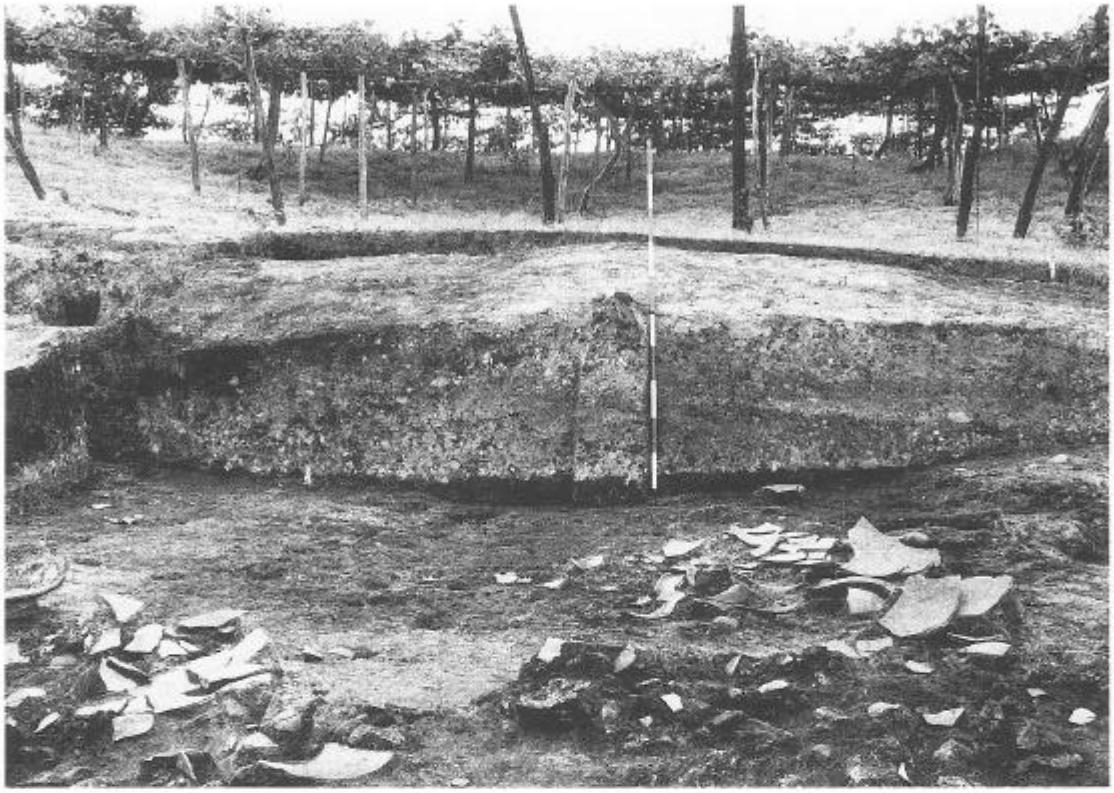
2　ＳＪ07縦断面(2)(南西▷)　炭化物層と地山排土が互層を成している。



1　ＳＴ17･18遺物出土状況（南西▷）　炭化物と地山排土が複雑に混じる。



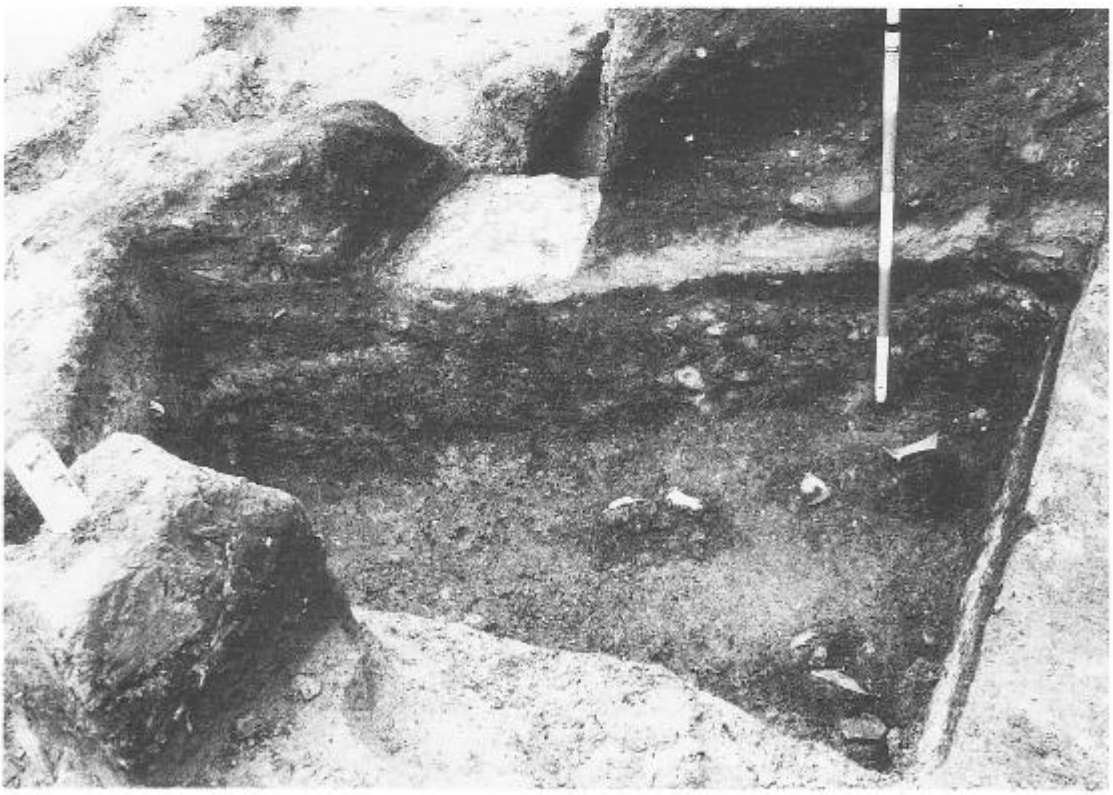
2　ＳＴ18遺物出土状況（東▷）　ＬＯ56区。地山排土から蓋（895）が出土。



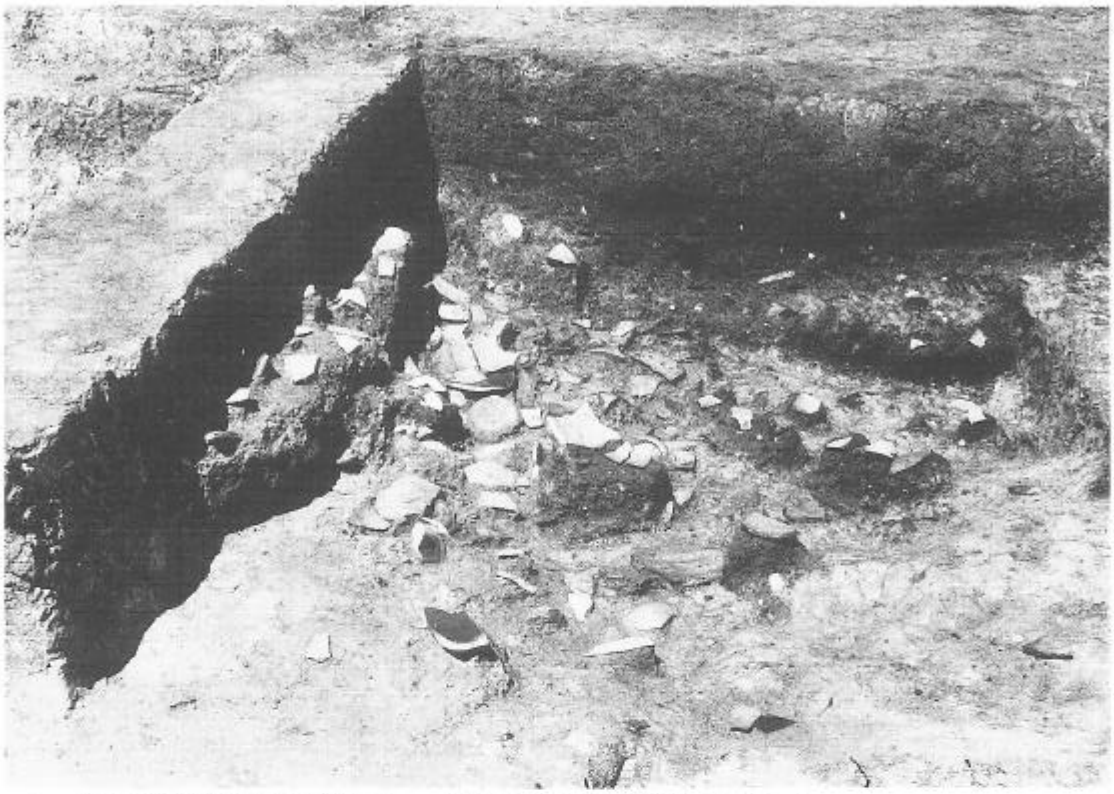
1　ＳＴ36と地山排土（南西▷）　地山排土は約90cmの厚さがある。

2　ＳＴ36遺物出土状況（南西▷）　右上が茶褐色土上面、左下が赤色地山土出土土器。

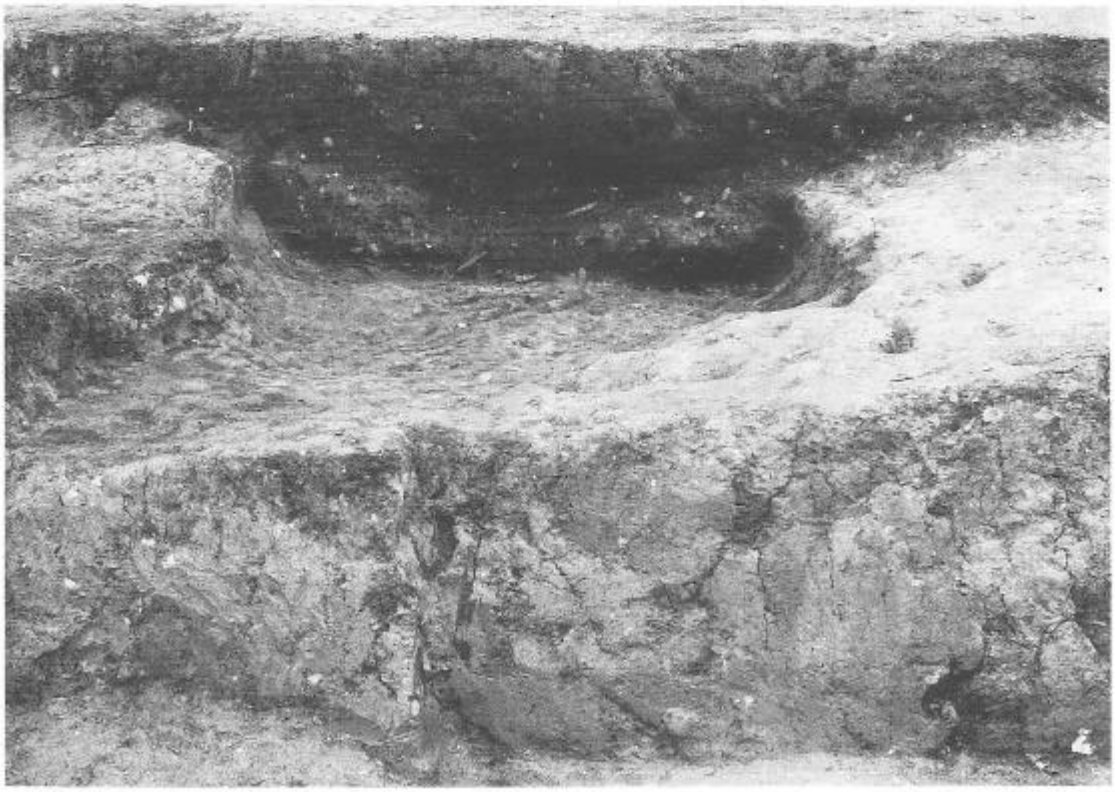
1　ＳＴ35遺物出土状況（南西▷）　中央下に白く見えるのが火山灰。



2　ＳＴ35断面（東▷）　右上の黒が焼土層、下の白が火山灰。

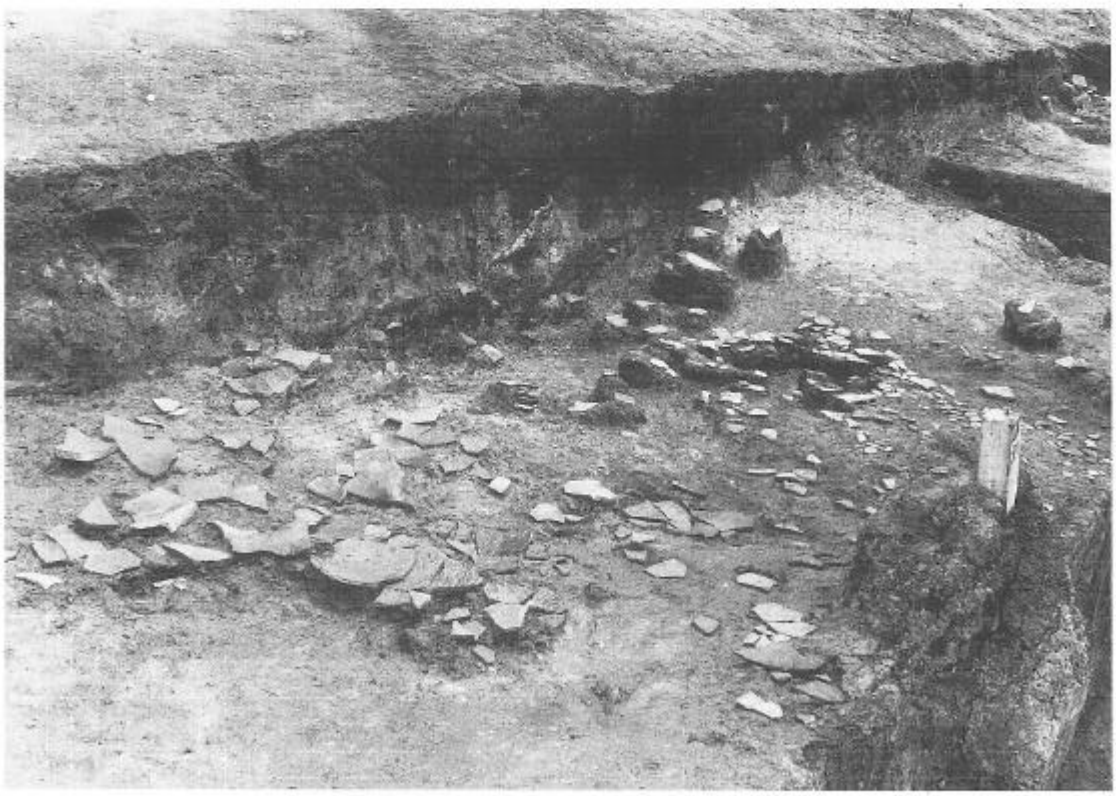


1　ＳＴ13遺物出土状況（南▷）　一括土器群Ｈの土器を含んでいる。



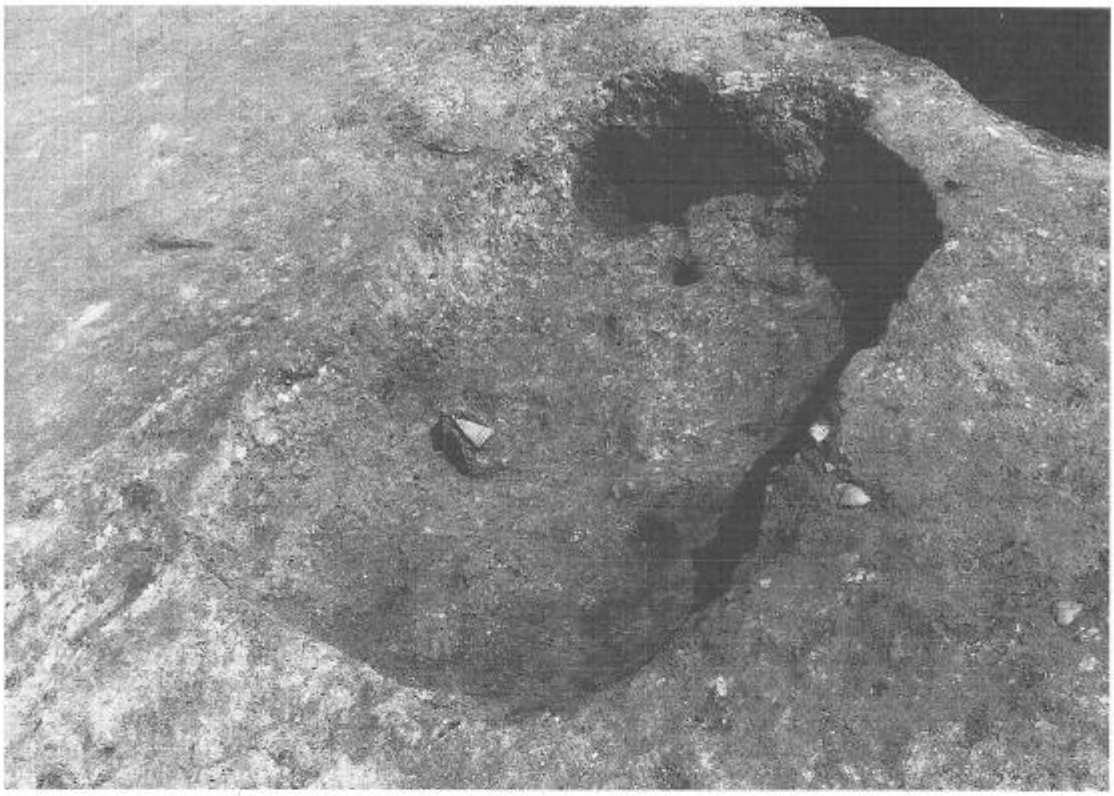
2　ＳＴ13全景（南西▷）　地山排土の上に溝状に造っている。

1　ＳＴ14遺物出土状況(1)(南▷)　左側トレンチの底面が自然堆積土である。



2　ＳＴ14遺物出土状況(2)(北西▷)　右側上の角がＳＴ15である。

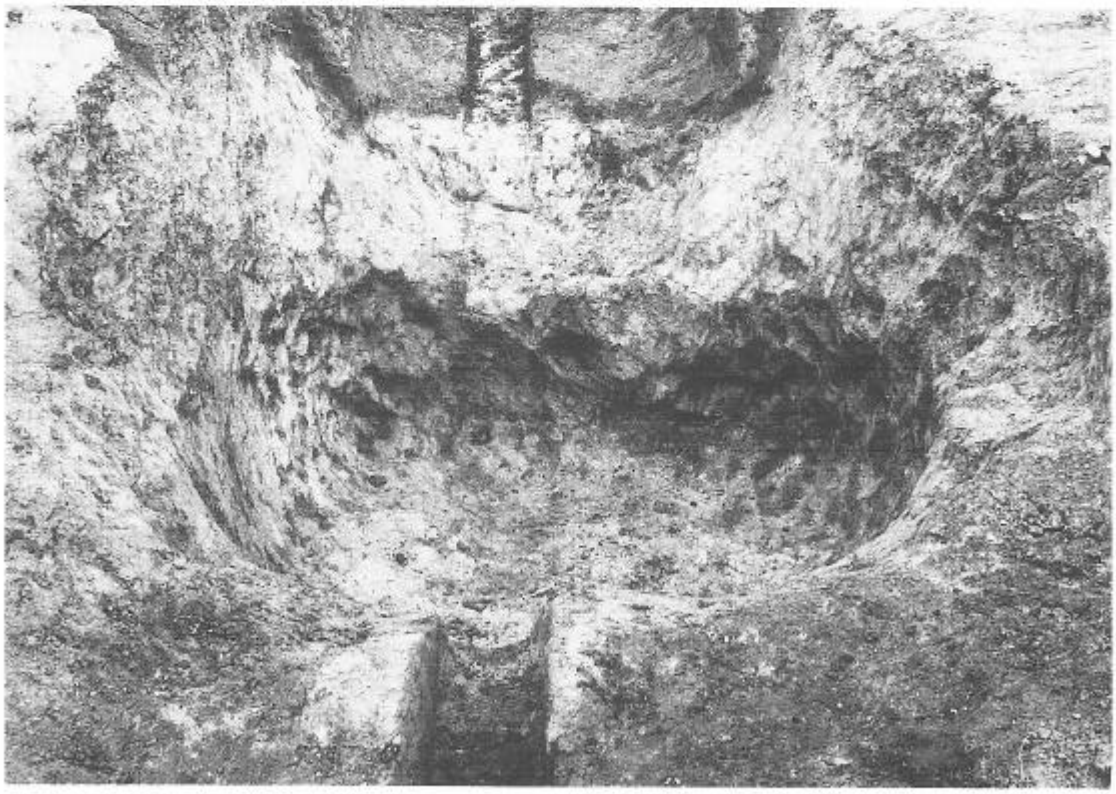
図版24



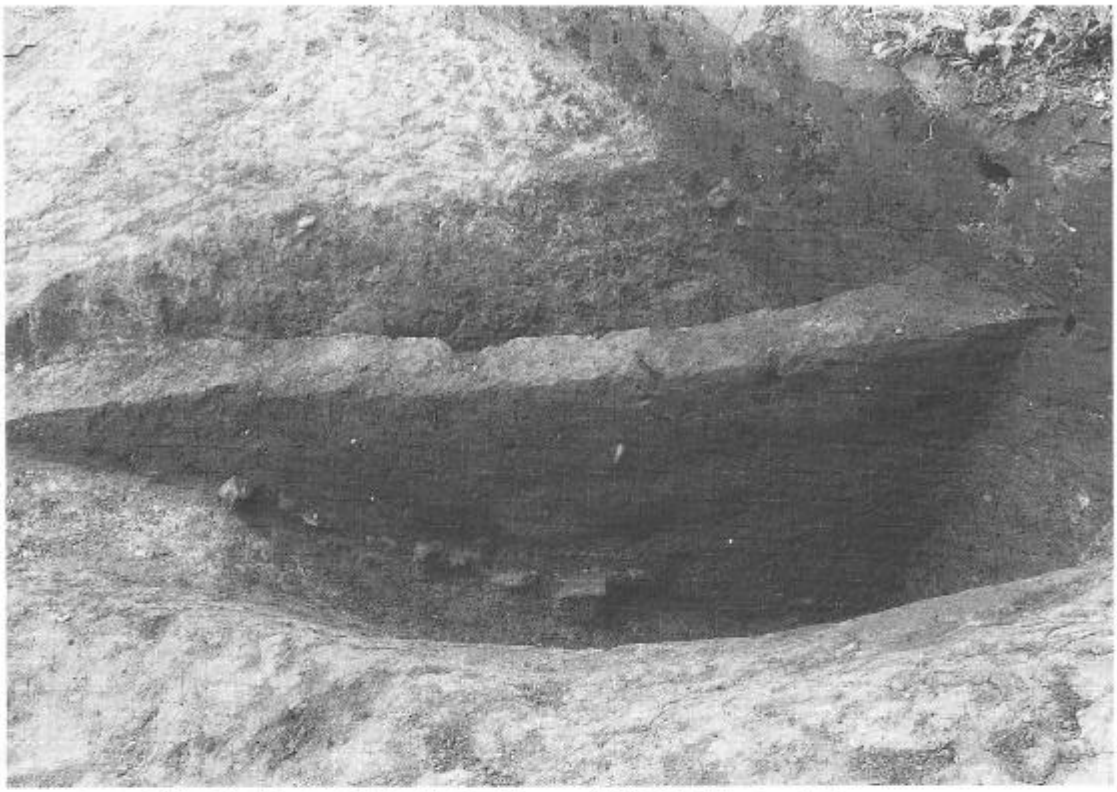
1　ＳＮ11全景(南▷)　底面は、炭化物で覆われていた。

2　ＳＮ11断面(南東▷)　地山排土は約1mの厚さがある。

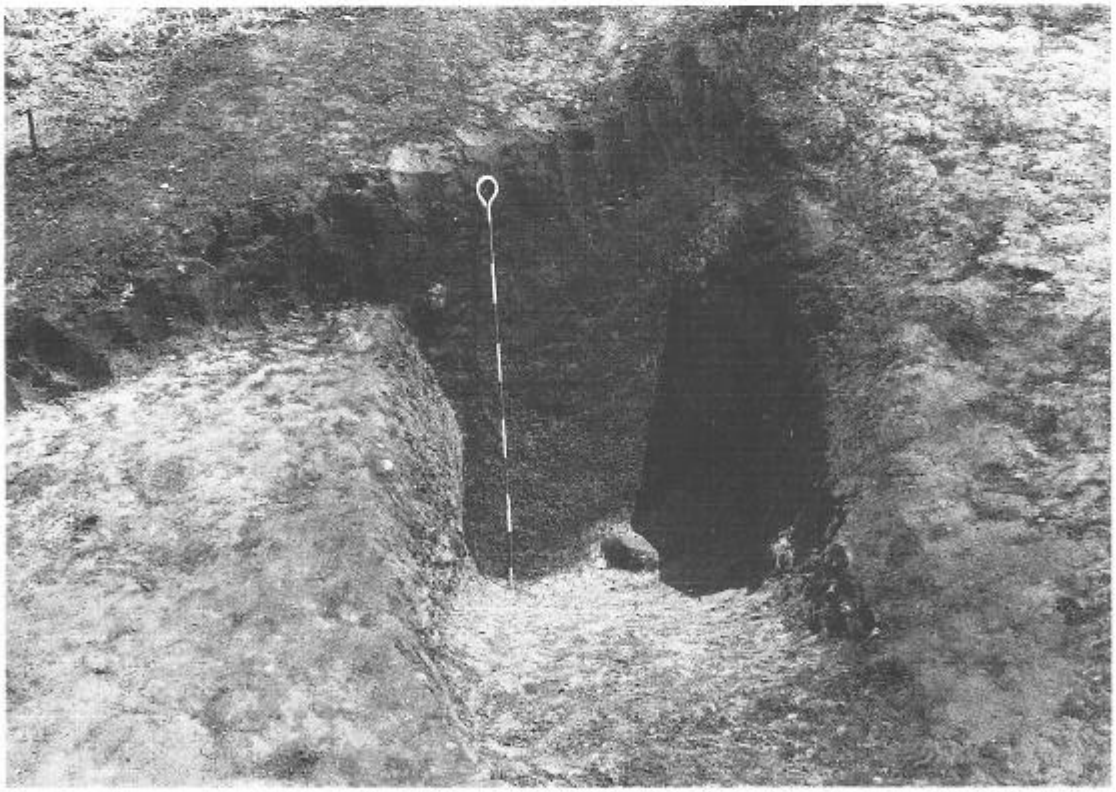
1　ＳＫ37断面（南東▷）　覆土上面がＳＪ05ｆの床で、その焚口に当っている。



2　ＳＫ37全景（南西▷）　底面から壁面にかけて丸味をもっている。

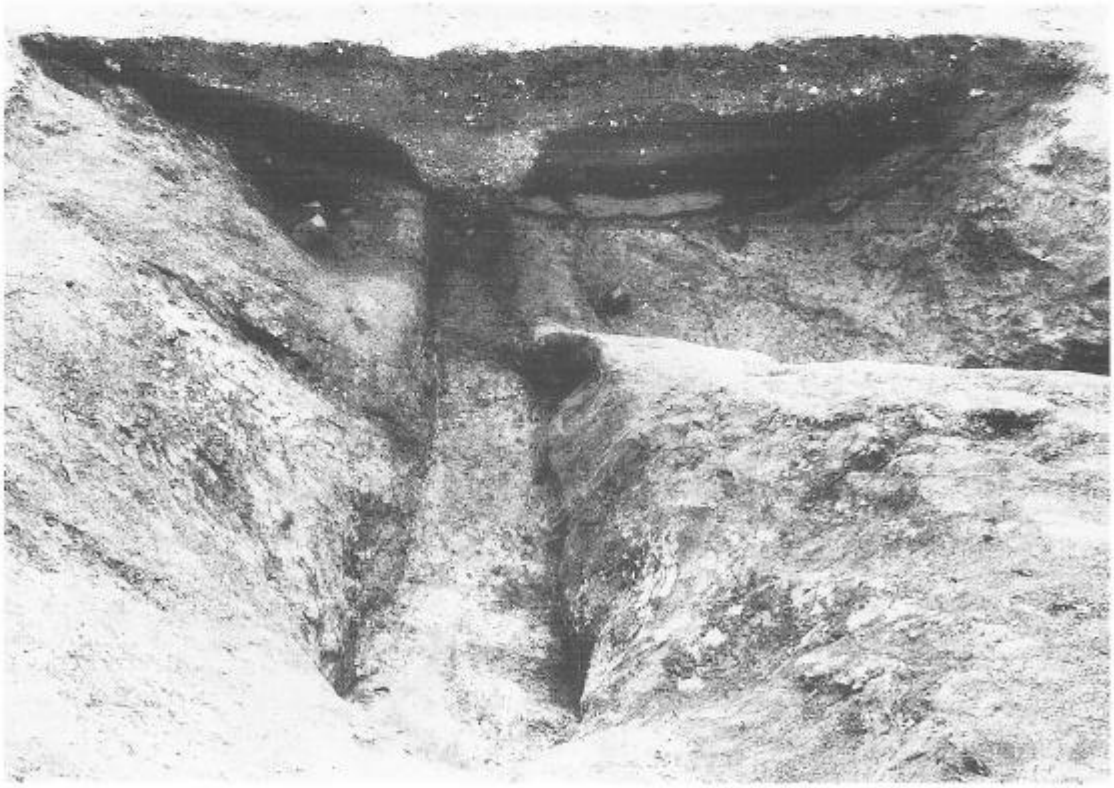


1　ＳＫ16断面（南東▷）　左側が斜面下方で、右側が斜面上方である。

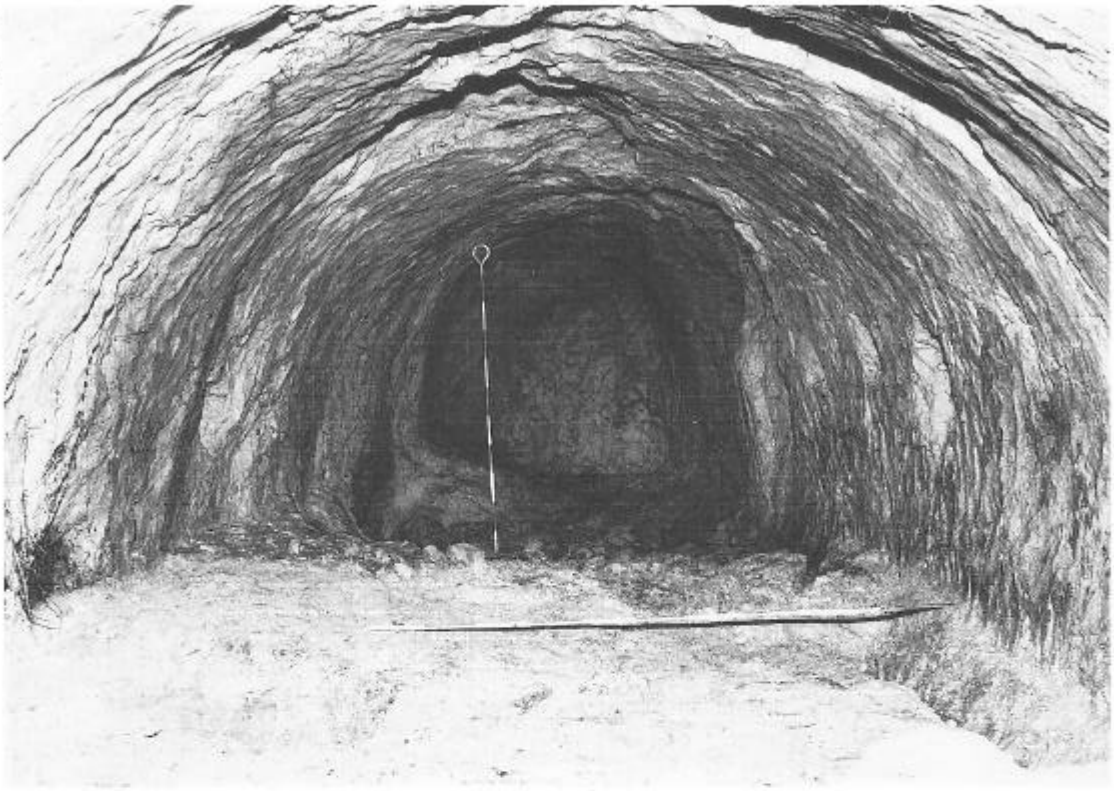


2　ＳＫ16全景（南西▷）　手前が斜面下方で、奥に傾斜している。

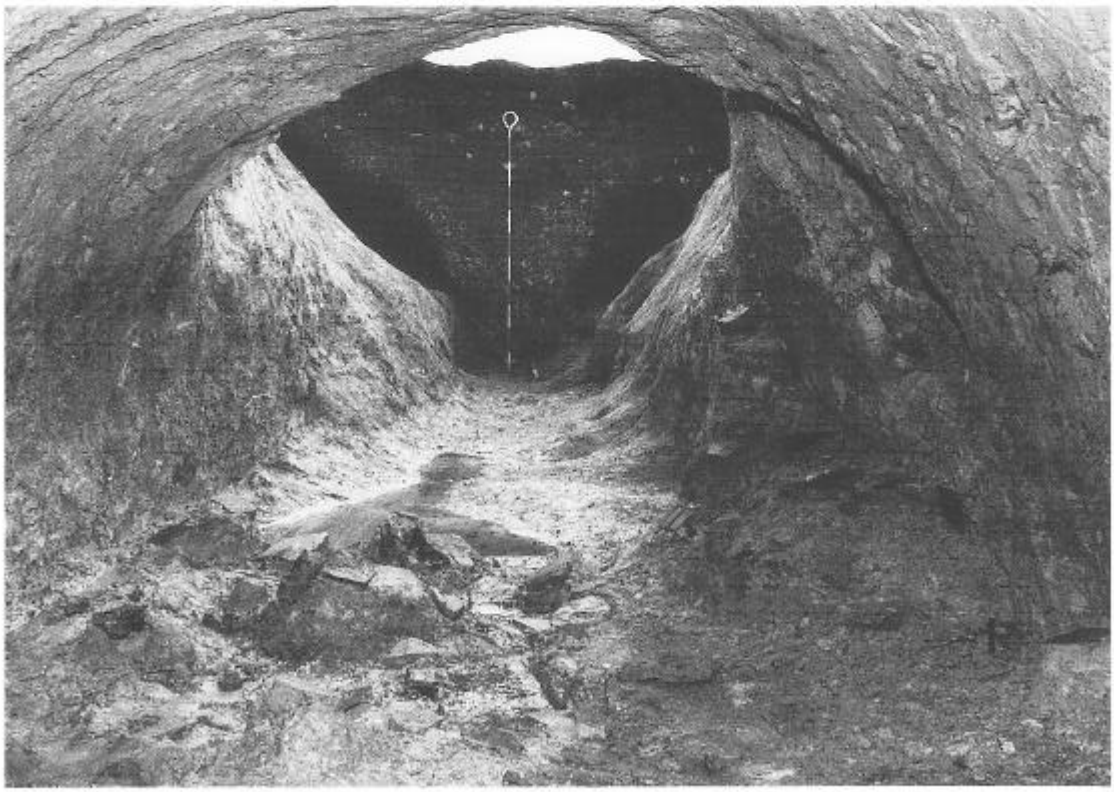
1　ＳＸ09･10全景（南西▷）　ＳＸ09の溝状部分は緩く傾斜している。



2　ＳＸ09･10覆土断面（北東▷）　ＳＸ09がＳＸ10の火山灰を切っている。



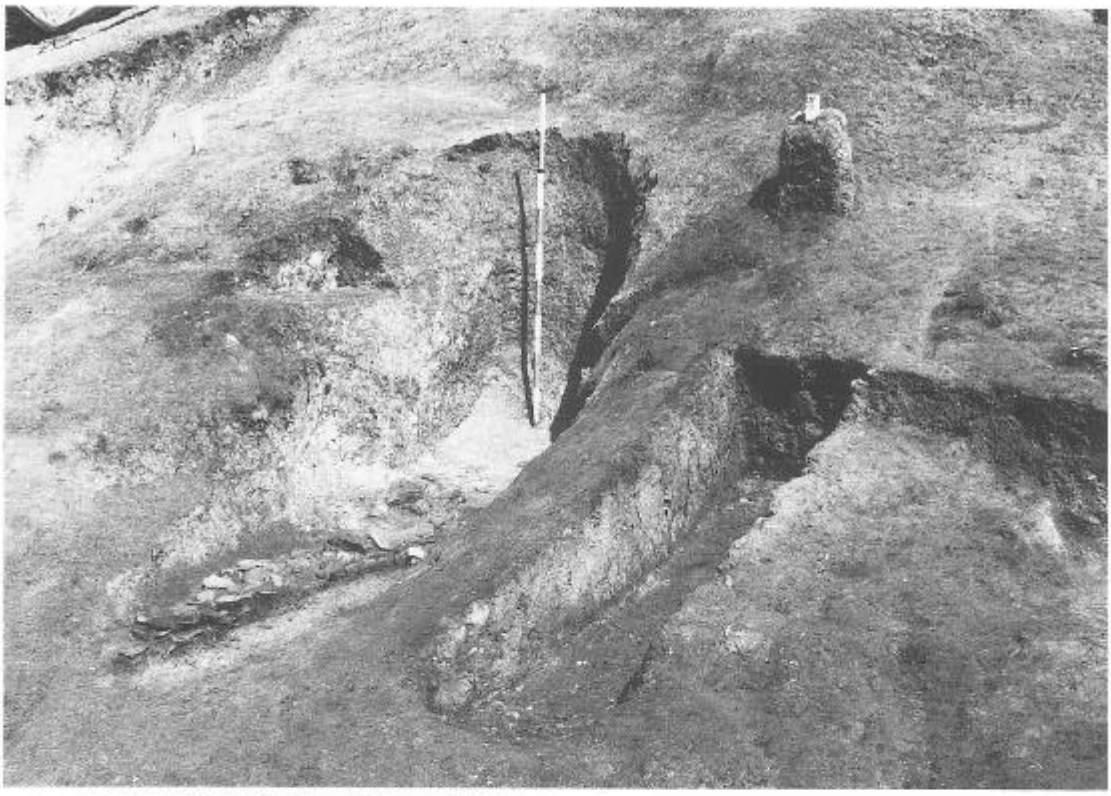
1　ＳＸ09横穴部分全景（南西▷）　手斧の跡が明瞭に認められる。



2　ＳＸ09横穴部分入口（北東▷）　右側壁の下位は、僅に段状を呈している。

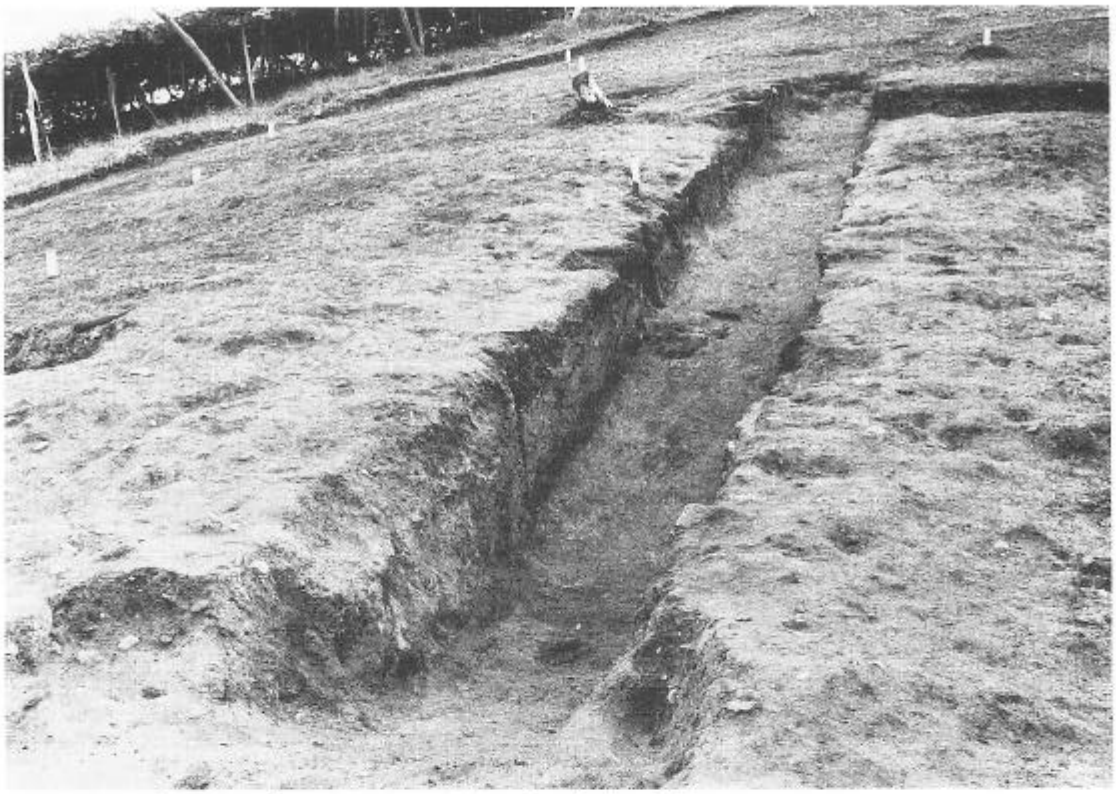
1　ＳＸ29全景(1)(南西▷)　右の穴と手前はトレンチである。

2　ＳＸ29横断面(南西▷)　手前床面には須恵器が敷かれている。



1　ＳＸ29全景(2)(南▷)　斜面の尾根状部分に造られている。

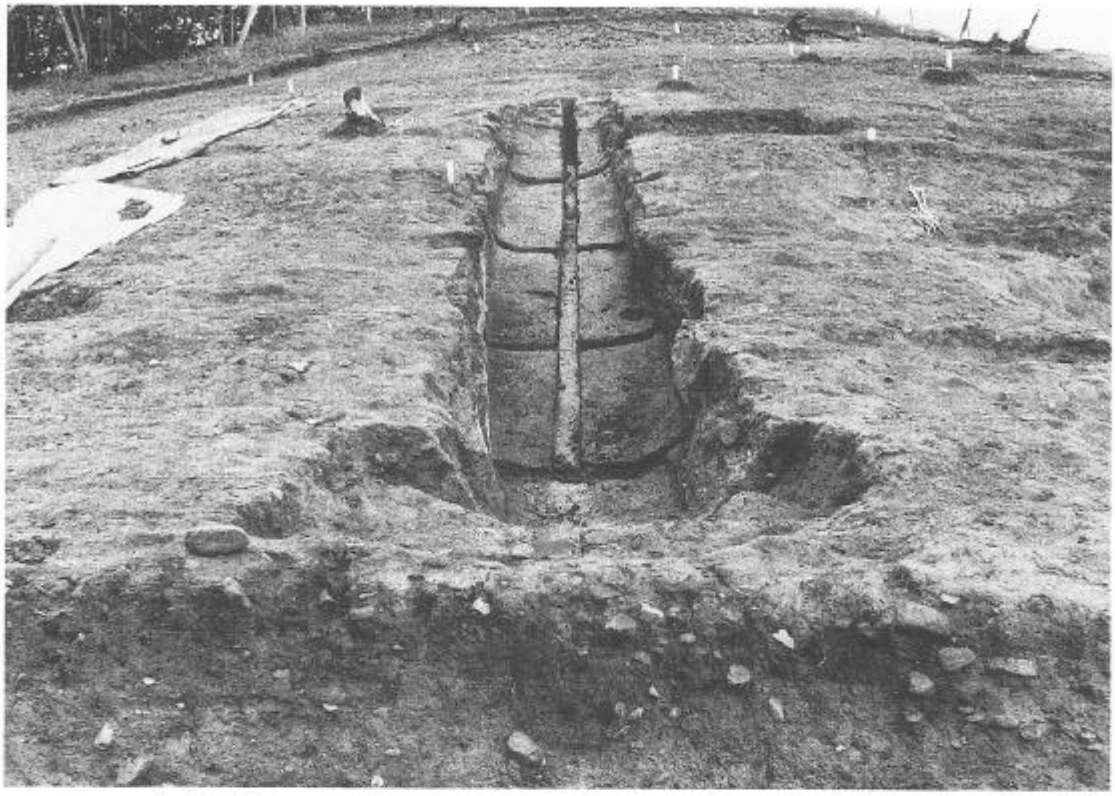
2　ＳＸ29遺物出土状況(北西▷)　遺物の下には炭化物が顕著である。



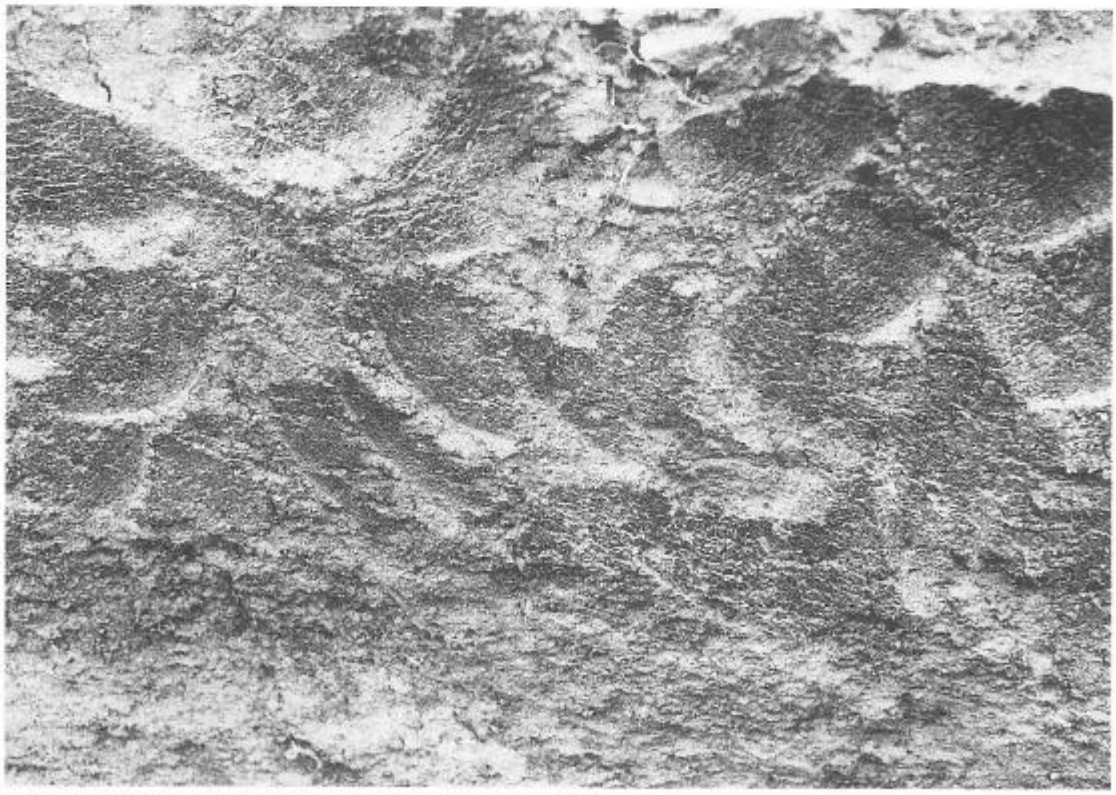
1　ＳＪ20全景（南西▷）　焼成部は最大25°の角度で傾斜している。

2　ＳＪ20焚口付近断面（西▷）　白く窪んでいるのが火山灰である。

図版32

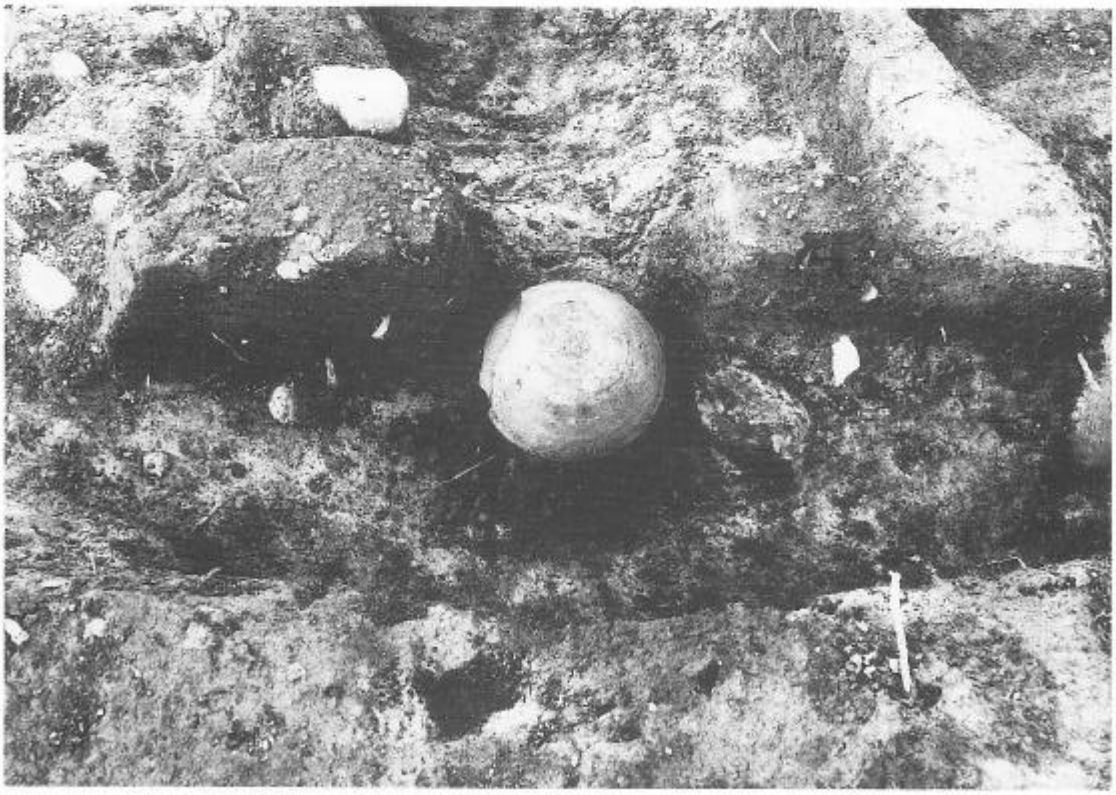


1　ＳＪ20全景(西▷)　この斜面は礫を多く含んでいる。



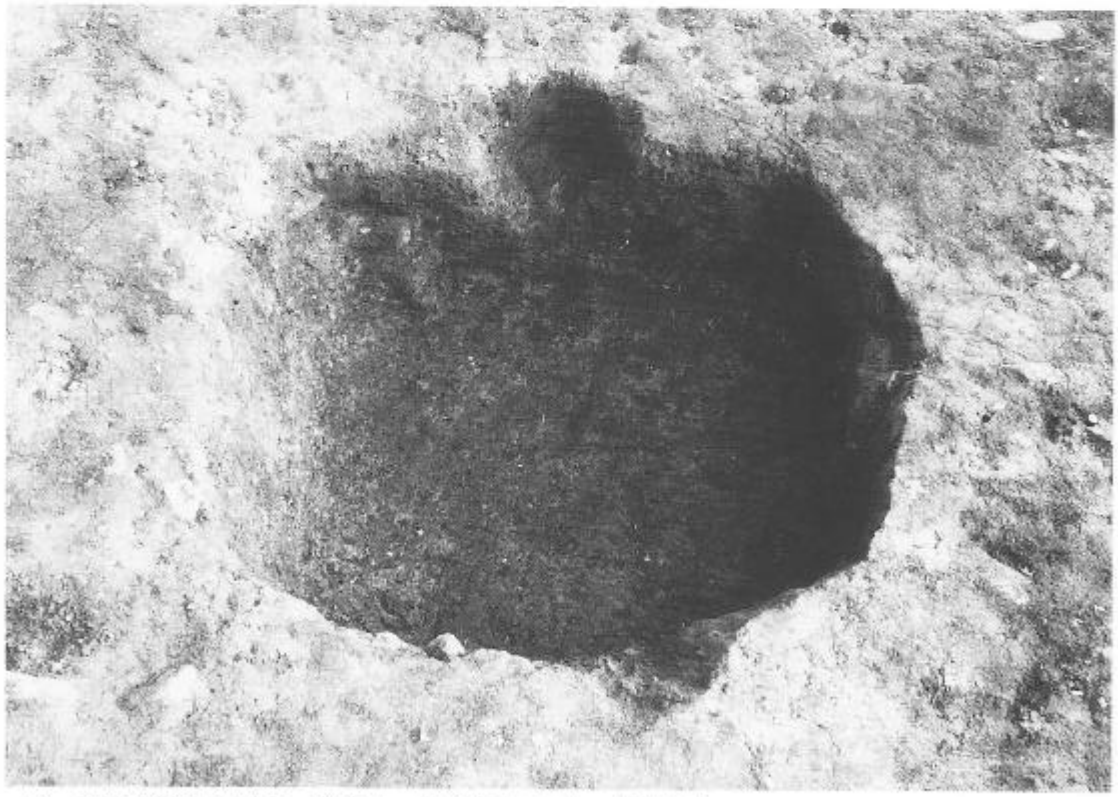
2　ＳＪ20工具痕(北▷)　工具の幅は、10cm前後である。

1　S I 27全景(北▷)　右側の壁はトレンチで削平されている。



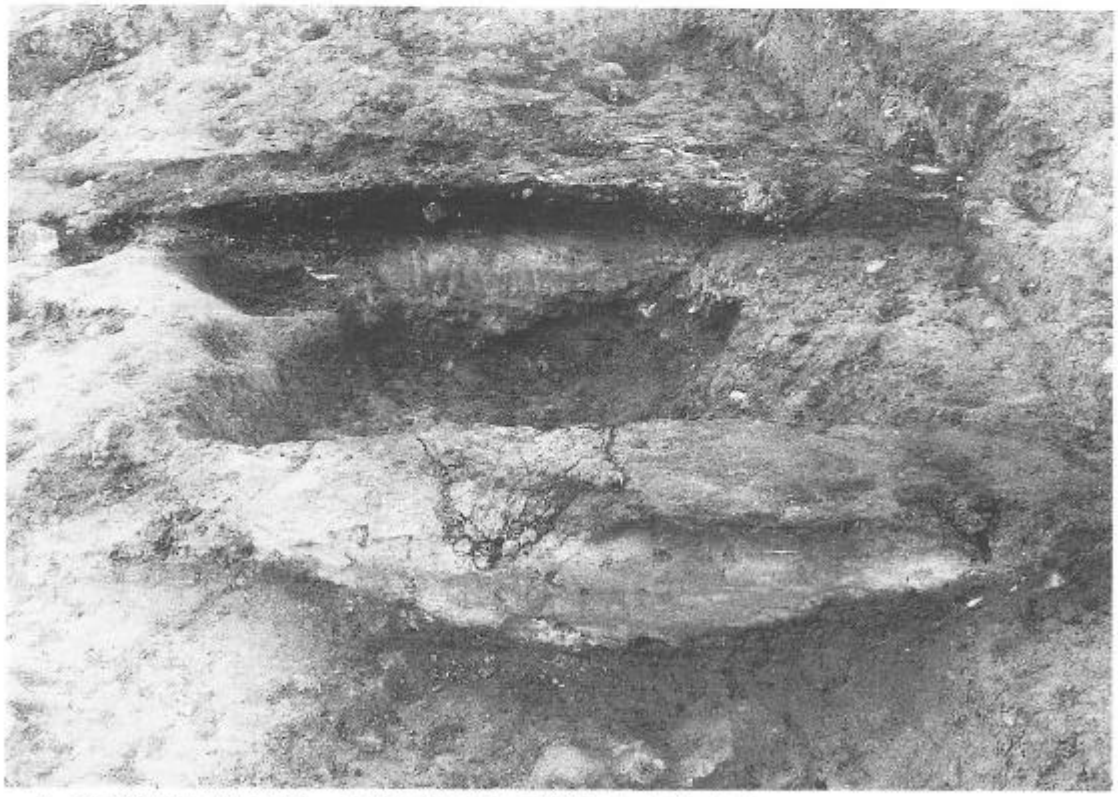
2　S I 27カマド(南▷)　須恵器が支脚に転用されている。

1　ＳＮ22断面（南▷）　白く見えるのが厚さ10cmの火山灰である。



2　ＳＮ22全景（北▷）　壁の１つには焼けたピットがある。

1　ＳＫ21全景（西▷）　甕の破片が出土している。

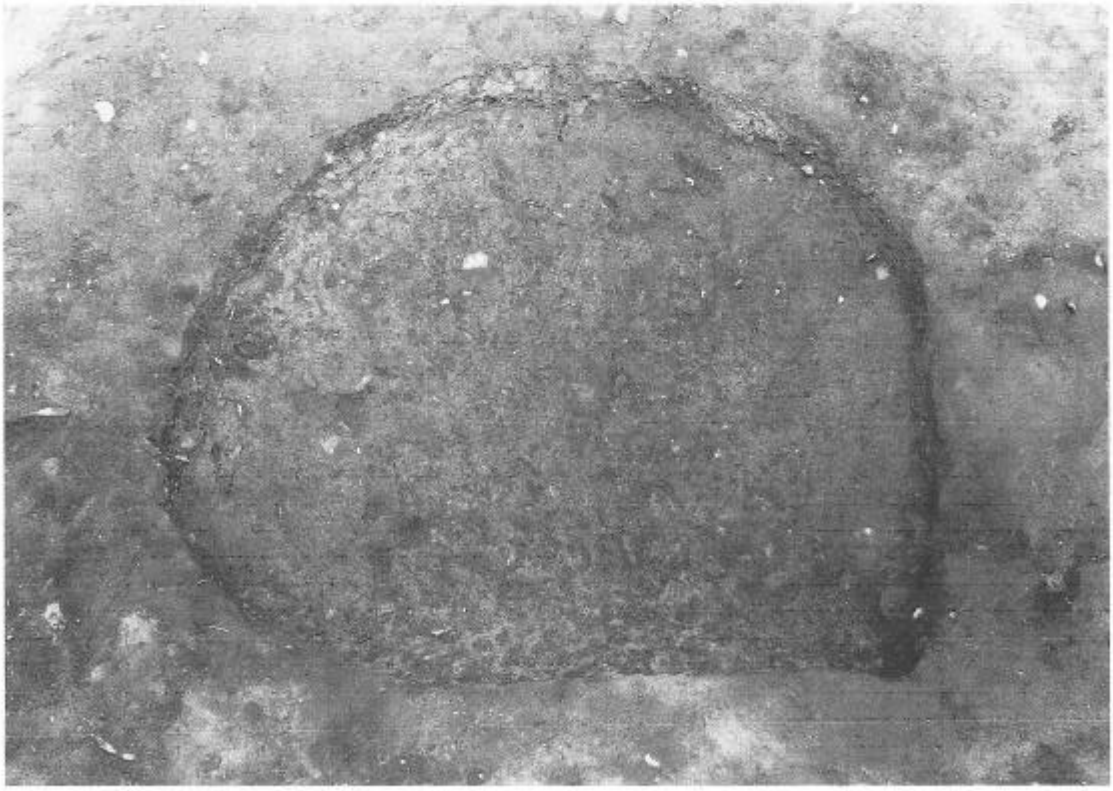


2　ＳＫ25断面（南東▷）　手前と奥の白い部分が火山灰である。

1　ＳＫ23断面（南東▷）　遺物の上に火山灰が堆積している。

2　ＳＫ23全景（南西▷）　遺物は底面下方に集中している。

1　ＳＫ24断面（南▷）　底面下方に遺物が集中している。

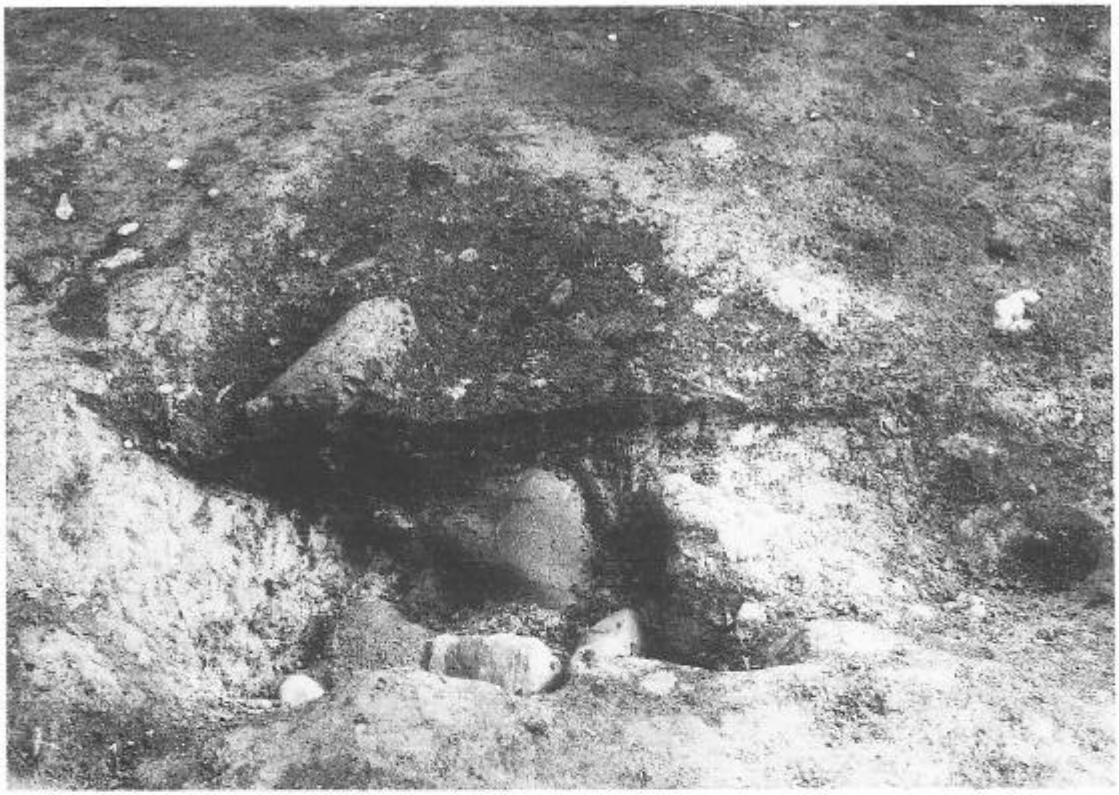


2　ＳＫ24全景（西▷）　下が斜面下方で、上が斜面上方である。

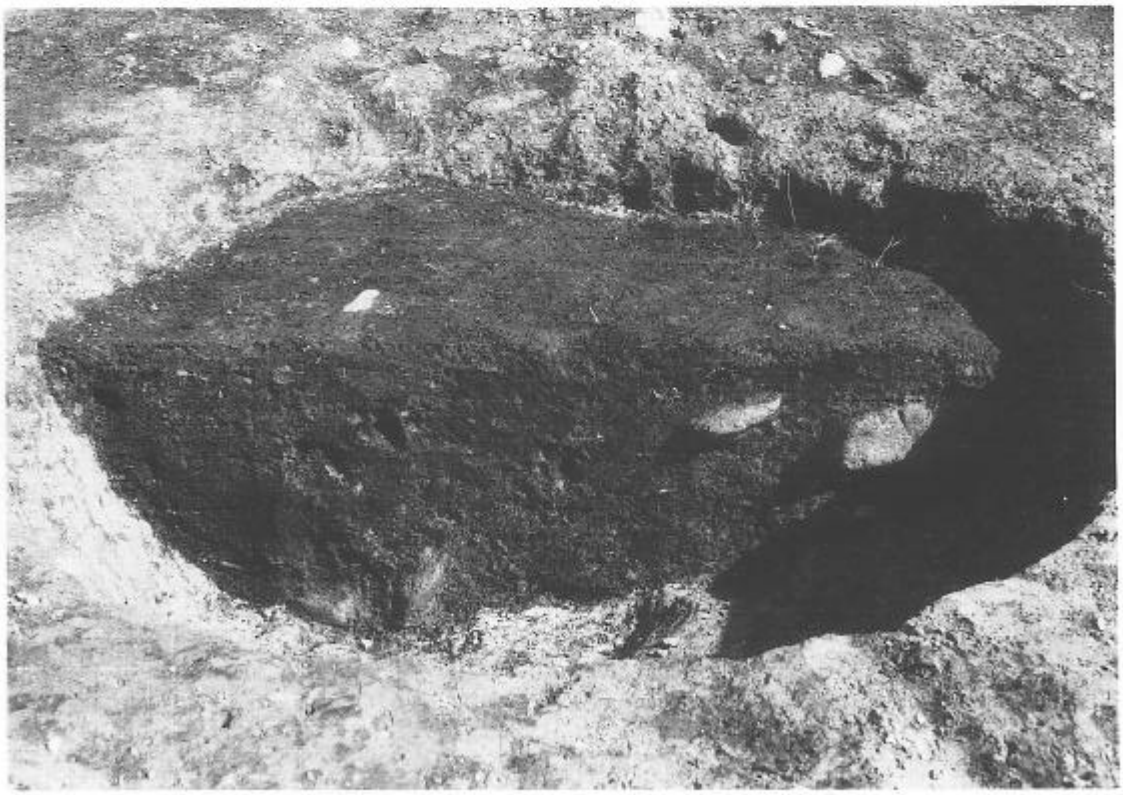
図版38

1　ＳＫ31礫出土状況（南東▷）　拳大前後の礫が集中している。

2　ＳＫ31全景（北東▷）　底面は平坦である。



1　ＳＫ32断面(北東▷)　礫が集中している。



2　ＳＫ33断面(西▷)　底面から壁にかけて緩く弯曲する。

1　剝ぎ取り風景(1)(南西▷)　ＳＪ05横断面を平らにしている。

2　剝ぎ取り風景(2)(南西▷)　壁面の寒冷沙に薬品を塗り込んでいる。

1 1

3 2

4 3

127 4

128 5

278 6

279 7

281 8

284 9

285 10

305 11

306 12

308 13

309 14

312 15

326 16

出土遺物(1)　坏蓋

図版42

328 1

329 2

330 3

333 4

334 5

341 6

343 7

344 8

350 9

356 10

357 11

358 12

359 13

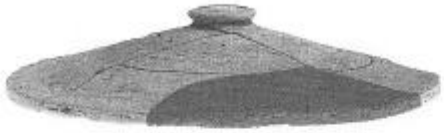
381 14

390 15

398 16

出土遺物(2)　坏蓋

416 1


572 2

574 3

575 4

589 5

632 6

645 7

648 8

656 9

657 10

658 11

730 12

813 13

814 14

815 15

816 16

出土遺物(3)　坏蓋

図版44

821 1

823 2

824 3

825 4

826 5

827 6

832 7

8

834 9

836 10

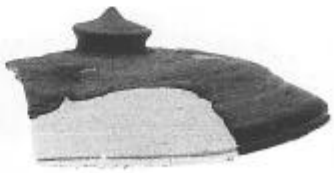
837 11

895 12

896 13

897 14

907 15


967 16

出土遺物(4)　坏蓋

992 1

1069 9

1019 2

1085 10

1020 3

1087 11

1021 4

1088 12

1049 5

1089 13

1050 6

1091 14

1051 7

1092 15

1055 8

1400 16

出土遺物(5)　坏蓋

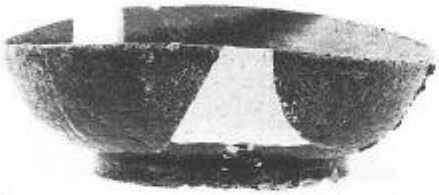
図版46

237 1

291 7

238 2

314 8



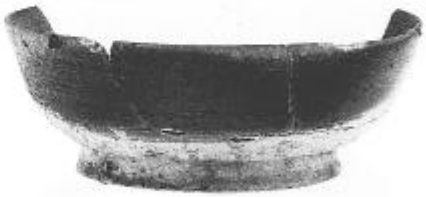
287 3

315 9

288 4

316 10

289 5



317 11

290 6

422 12

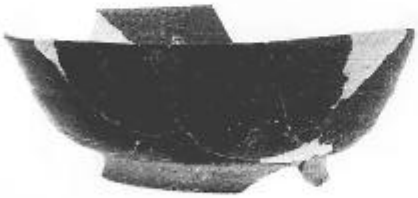
出土遺物(6)　高台付坏

423 1

424 2

427 3

435 4



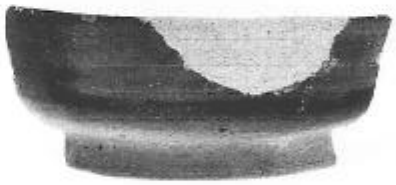
436 5

444 6

445 7

446 8

447 9



457 10

468 11

473 12

出土遺物(7)　高台付坏

図版48

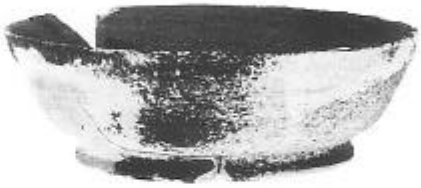
478 1

683 7

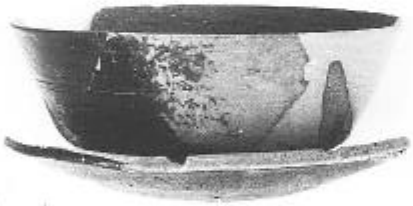
596 2

687 8

662 3



698 9



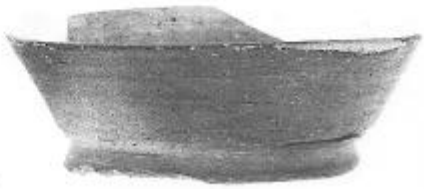
670 4

760 10

680 5

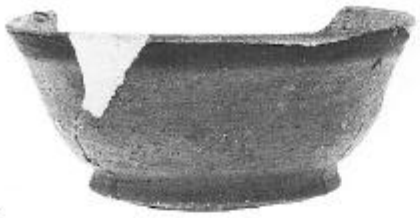
798 11

681 6



849 12

出土遺物(8)　高台付坏

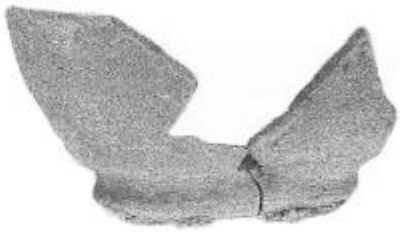

852 1

921 7

856 2

922 8

858 3


932 9

860 4

941 10

862 5

948 11

920 6

949 12

出土遺物(9)　高台付坏

図版50

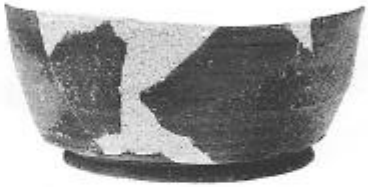
1057 1

1164 7

1157 2

1165 8

1159 3



1173 9

1160 4

1176 10

1161 5

1407 11

1163 6

1429 12

出土遺物(10)　高台付坏

20 1

153 7

41 2

165 8

135 3

171 9

144 4

178 10

145 5

180 11

152 6

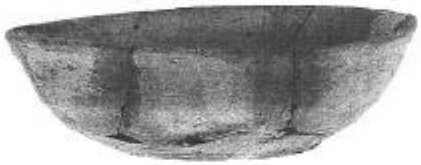
181 12

出土遺物(11)　坏

図版52

182 1

188 2



193 3

196 4

296 5

320 6

322 7

483 8

487 9

488 10

492 11

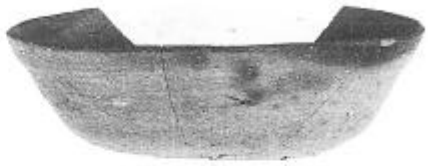
501 12

出土遺物(12)　坏

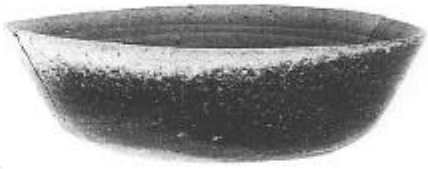
505 1

714 7

508 2


717 8

515 3


802 9

711 4

803 10

712 5

807 11

713 6

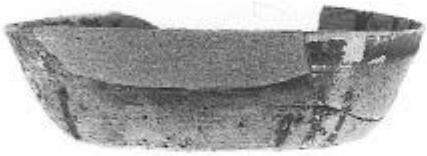
878 12

出土遺物(13) 坏

図版54

881 1

958 2



964 3

972 4

979 5

981 6

1002 7

1005 8

1062 9

1063 10

1190 11

1198 12

出土遺物(14)　坏

294 1

295 2

300 3

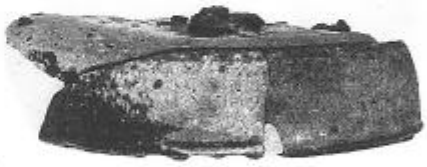
301 4

518 5

525 6

526 7

527 8



528 9

529 10

530 11

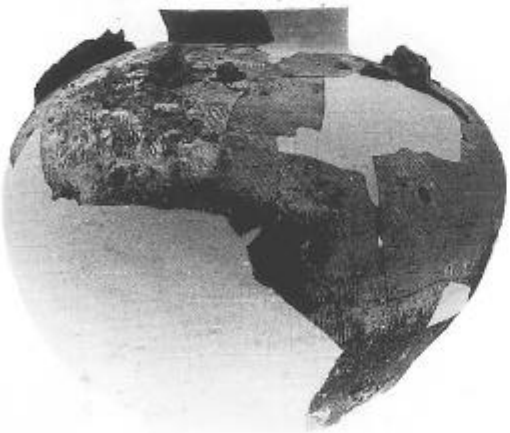
出土遺物(15)　壺など

図版56

532 1

533 2

541 3



543 4

721 5

722 6

723 7

724 8

971 9

976 10

出土遺物(16)　壺など

977 1

1208 7

996 2

1210 8

1031 3

1211 9

1078 4

1213 10

1205 5

1216 11

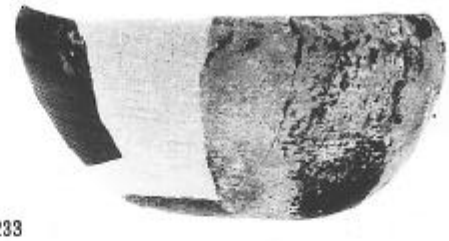
1207 6

1217 12

出土遺物(17)　壺など

図版58

1219 1



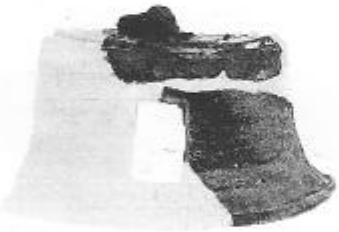
1233 6

1221 2

1238 7

1227 3

1239 8



1229 4

1449 9

1237 5

1450 10

出土遺物(18)　壺など

108 1

1243 4

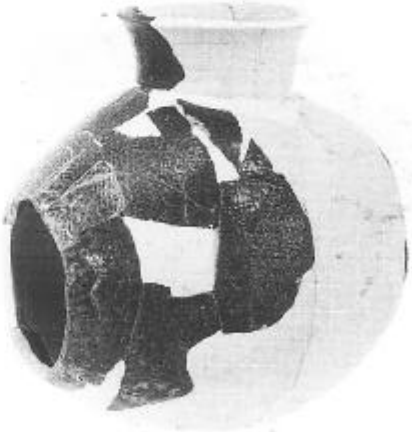
538 2

1241

1242 5

1410 6

539 3



1460 7

出土遺物(19)　横瓶・提瓶

図版60

122 1

225 4

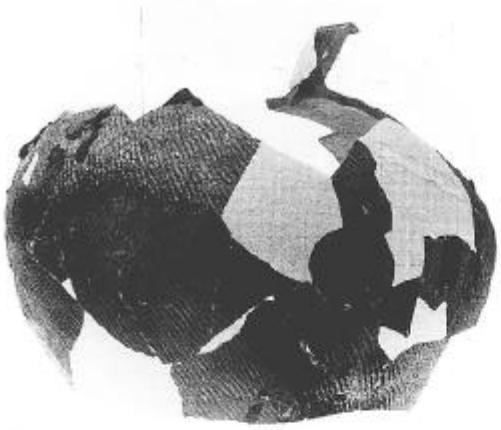
219 2

542 5

224 3

551 6

出土遺物(20)　甕

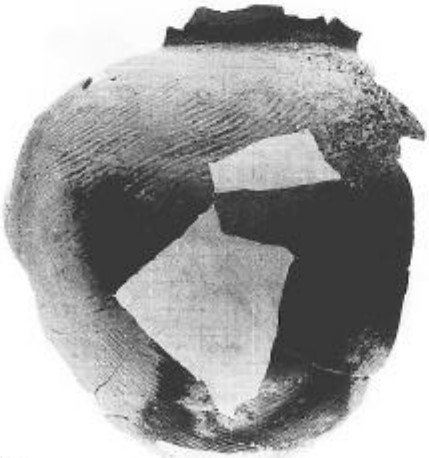


553 1

566 4

554 2

566 5



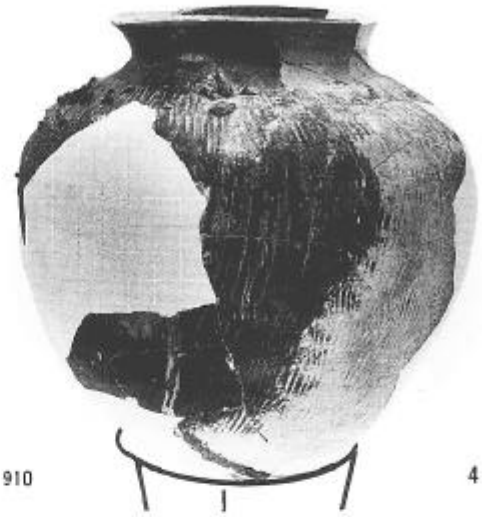
555 3

626 6

出土遺物(21)　甕

図版62

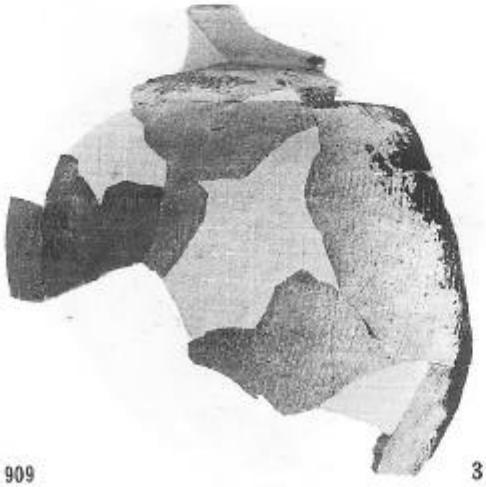
627 1



910 4

628 2

911 5



909 3

912 6

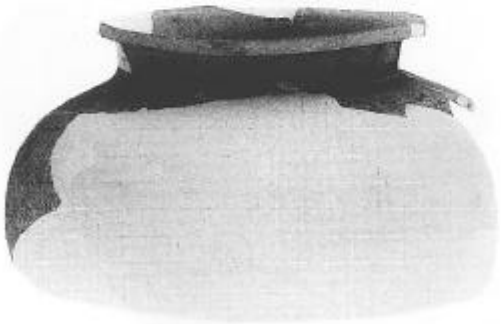
出土遺物(22)　甕

913 1

985 4

914 2

986 5



983 3

987 6

出土遺物(23)　甕

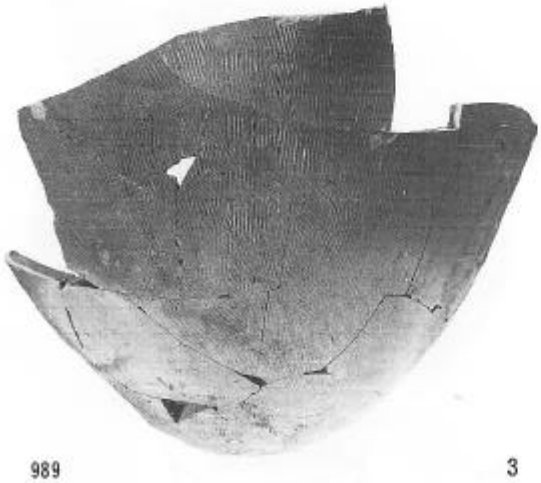
図版64

988 1

1033 4

989 2

1083 5



989 3

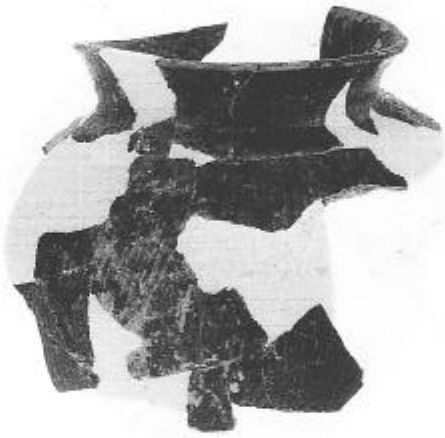
1267 6

出土遺物(24) 甕

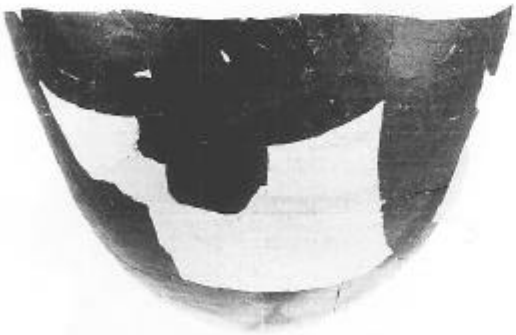
1412 1

1462 4

1414 2



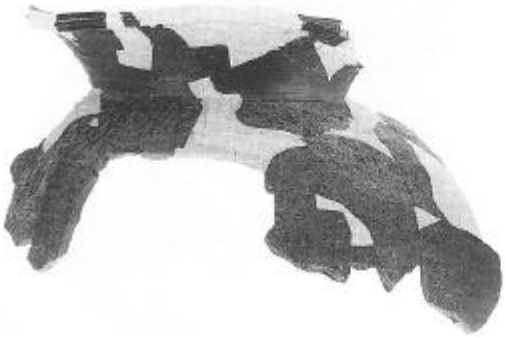
1463 5



1414 3

1467 6

出土遺物(25) 甕



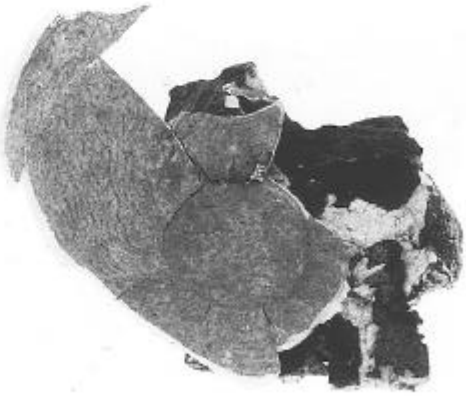
1470 1

1008 4

1473 2

1240 5

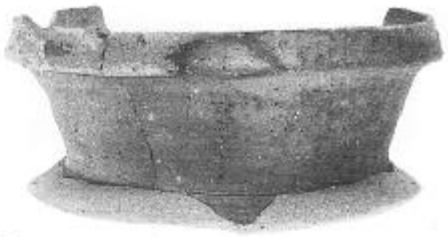
1494 3



1246 6

出土遺物(26)　甕・壺・横瓶

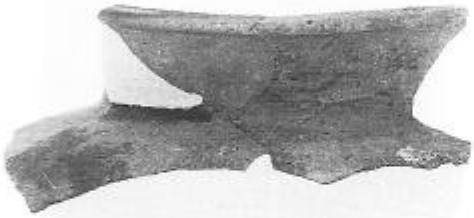
118 1



220 6

120 2

222 7

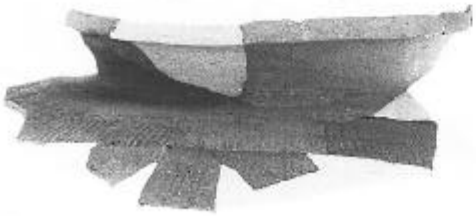


123 3

223 8

124 4

550 9



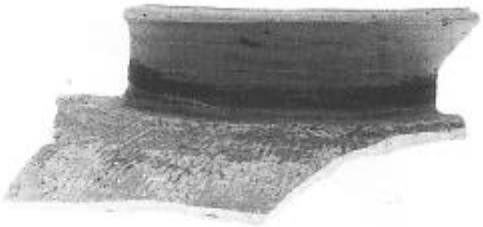
125 5

552 10

出土遺物(27)　甕

図版68

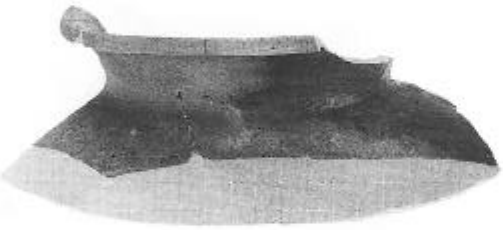
563 1



1012 6

565 2

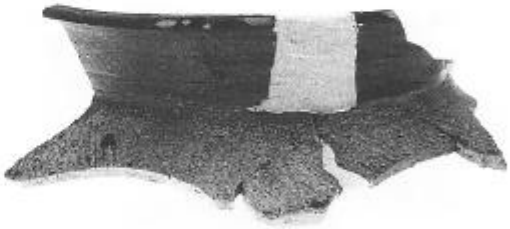
1014 7



725 3

1048 8

982 4

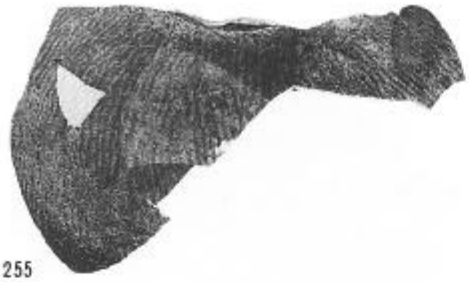


1245 9

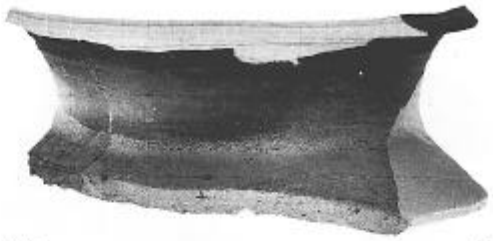
1010 5

1253 10

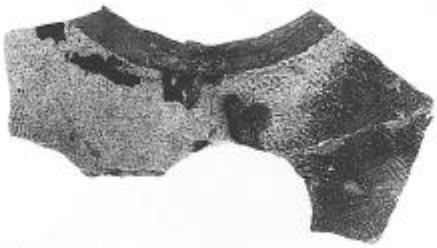
出土遺物(28)　甕



1255 1



1260 6

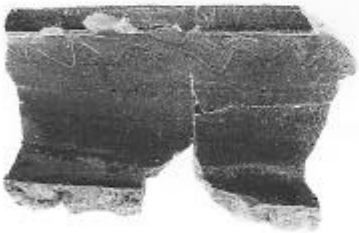


1256 2

1261 7

1257 3

1262 8



1258 4

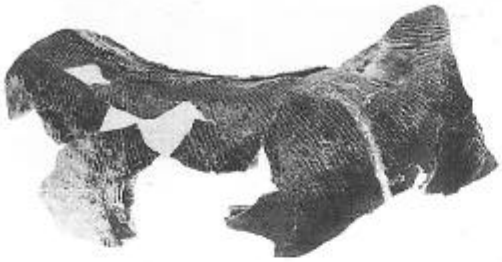
1263 9

1259 5

1265 10

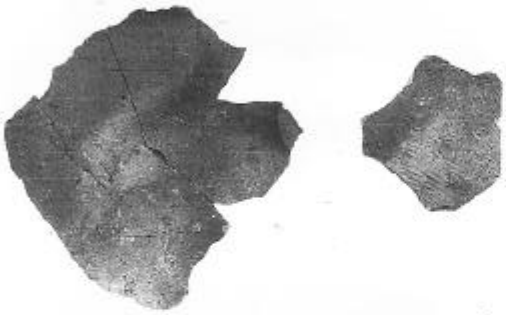
出土遺物(29)　甕

図版70



1266 1

1468 5



1397 2

1469 6

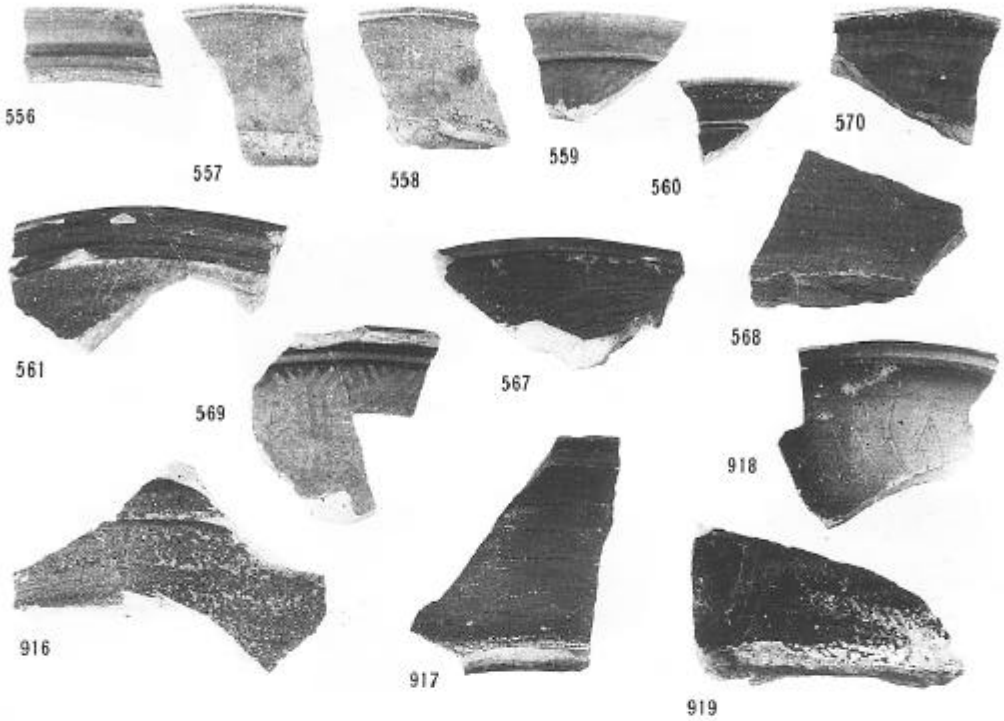
1411 3

1471 7

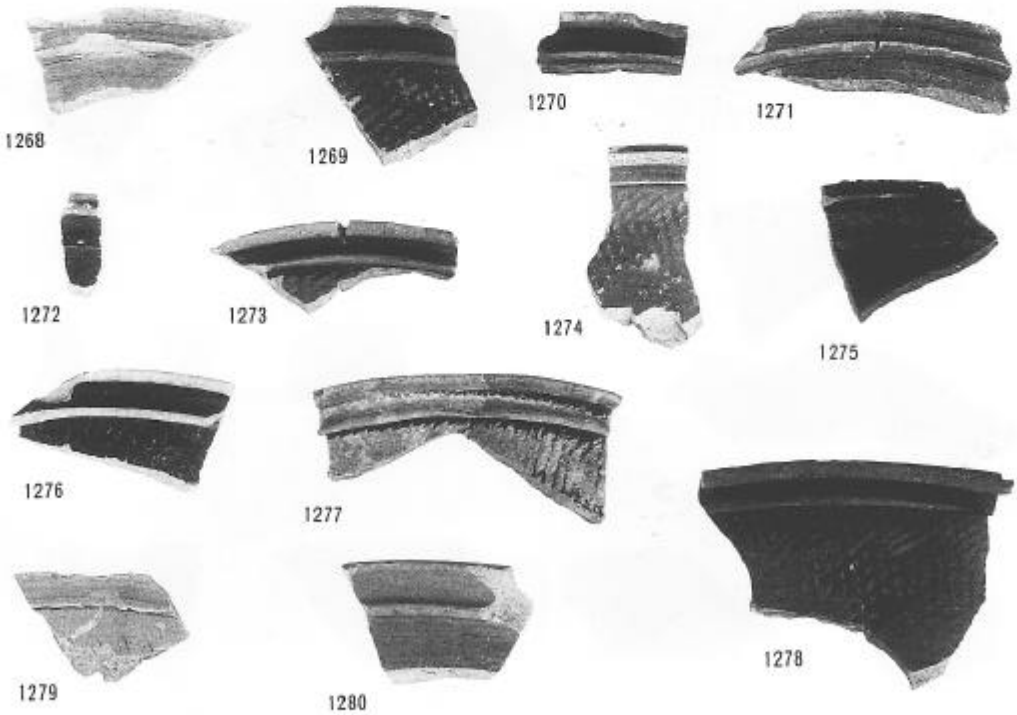
1464 4

1472 8

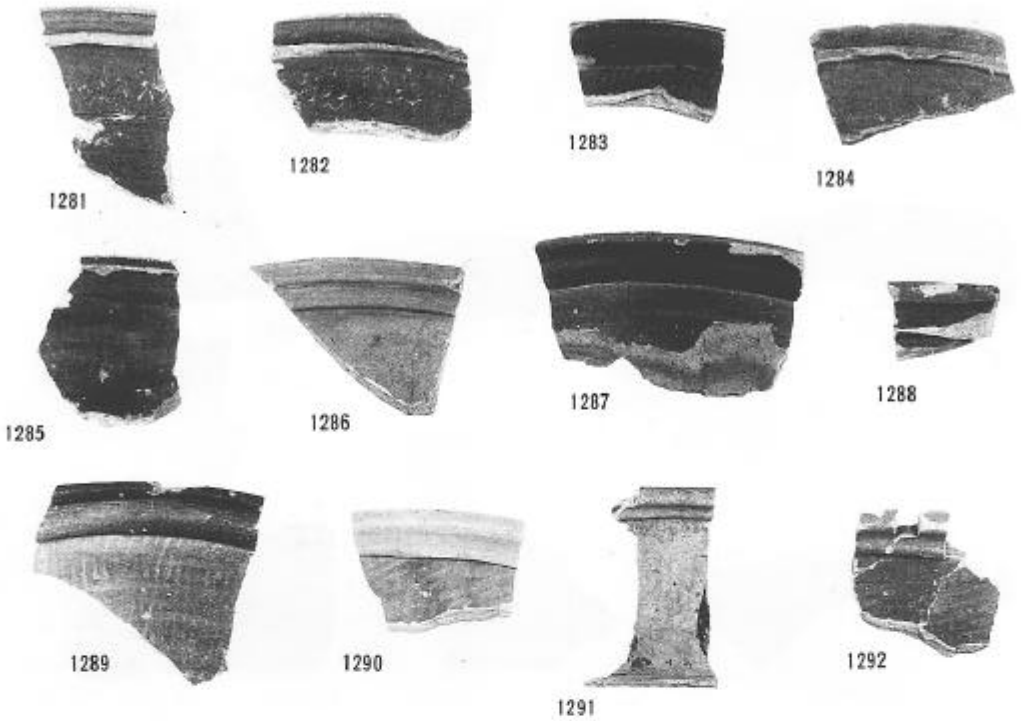
出土遺物(30)　甕



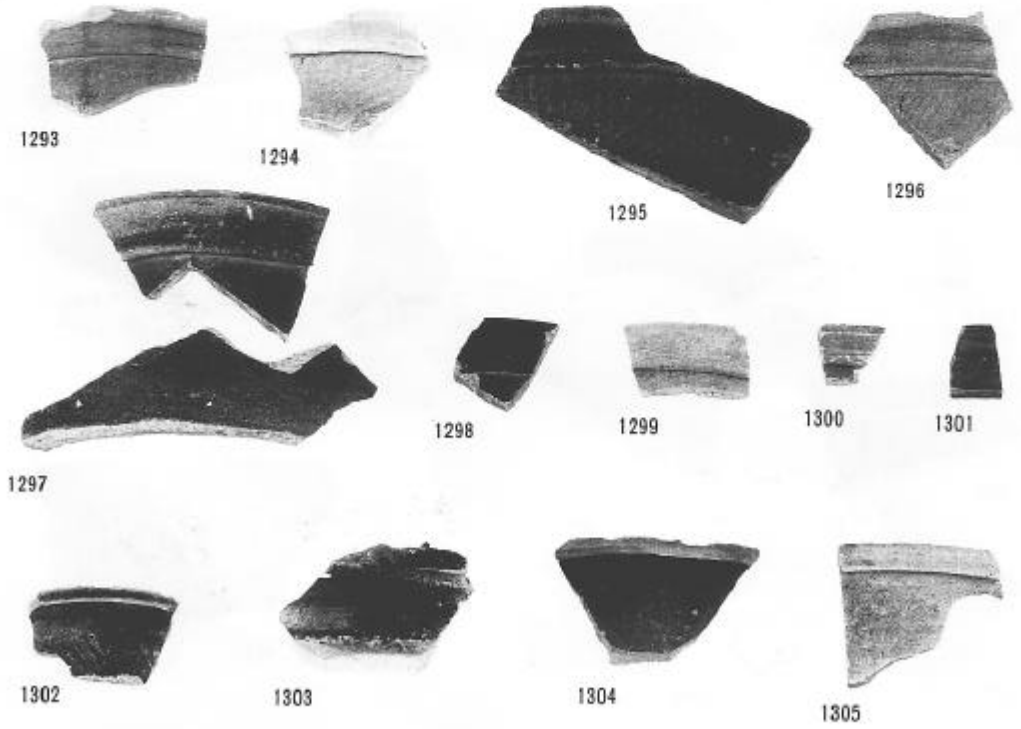
1　出土遺物(31)　甕



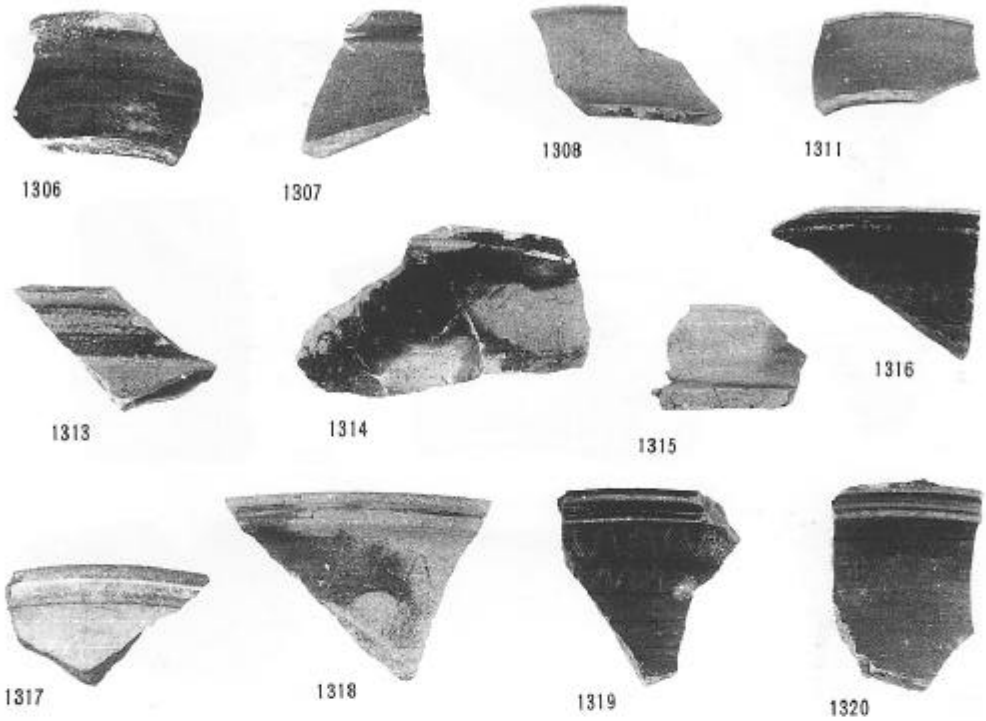
2　出土遺物(32)　甕



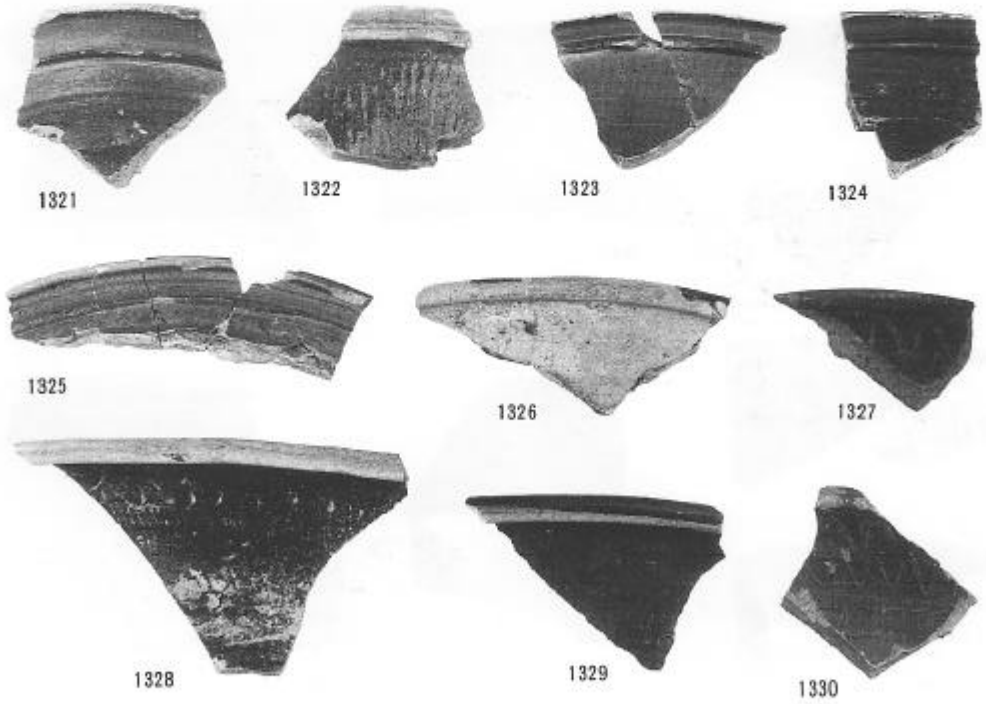
1　出土遺物(33)　甕



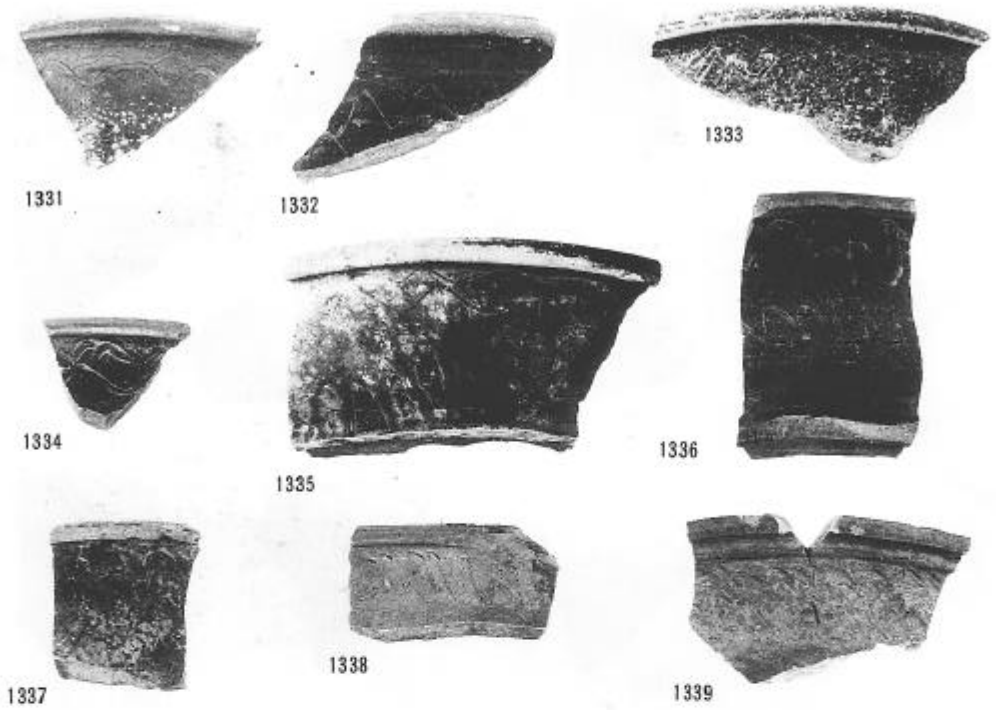
2　出土遺物(34)　甕



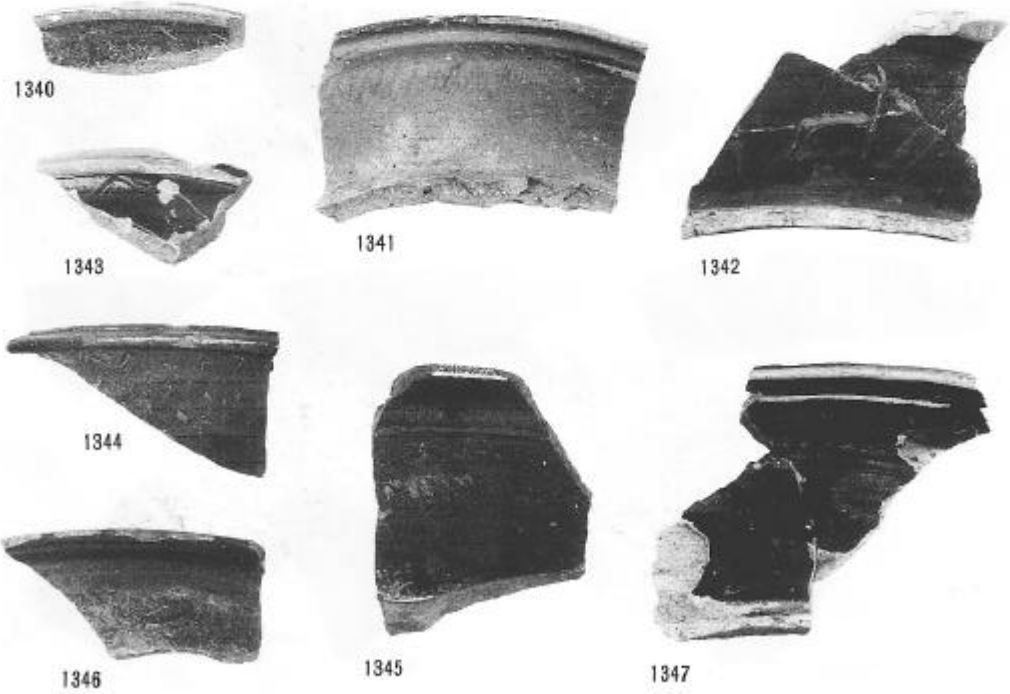
1　出土遺物(35)　甕



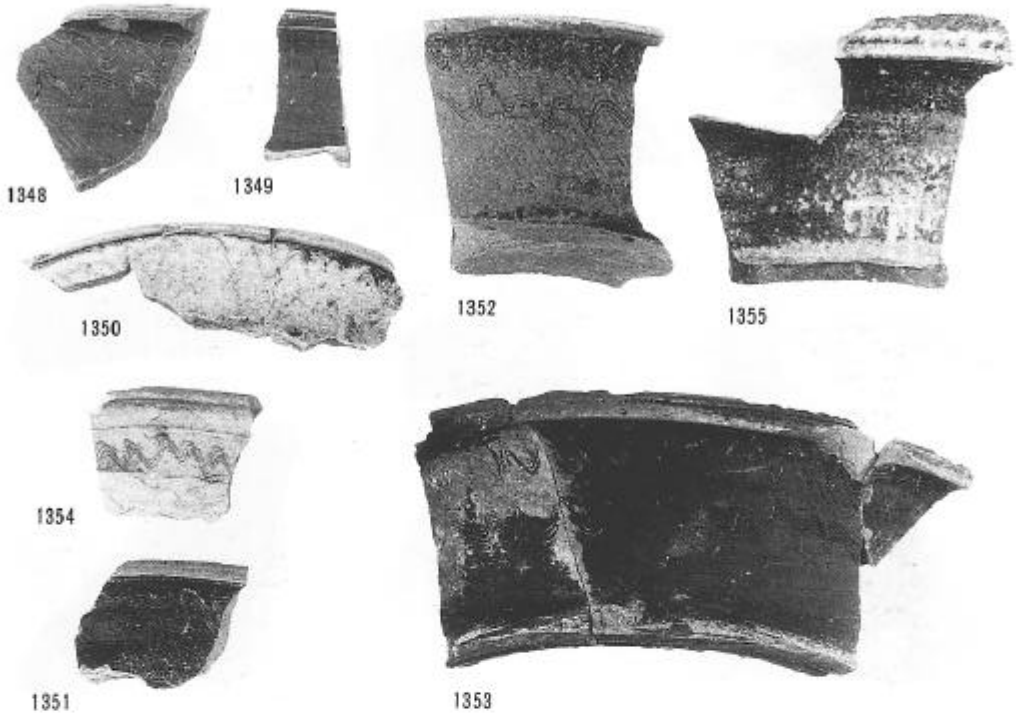
2　出土遺物(36)　甕



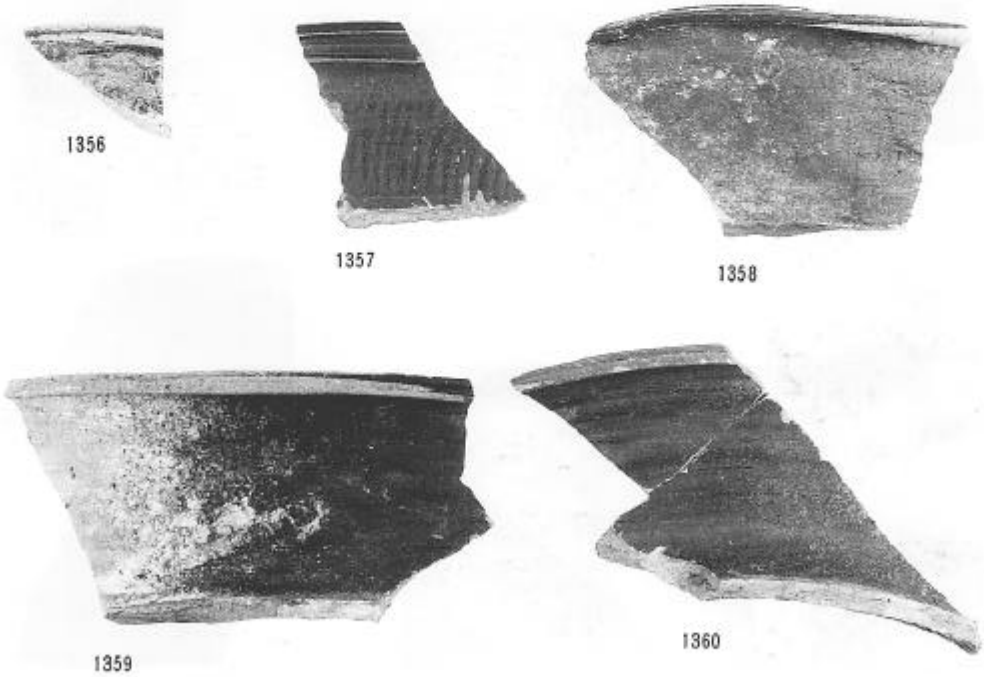
1　出土遺物(37)　甕



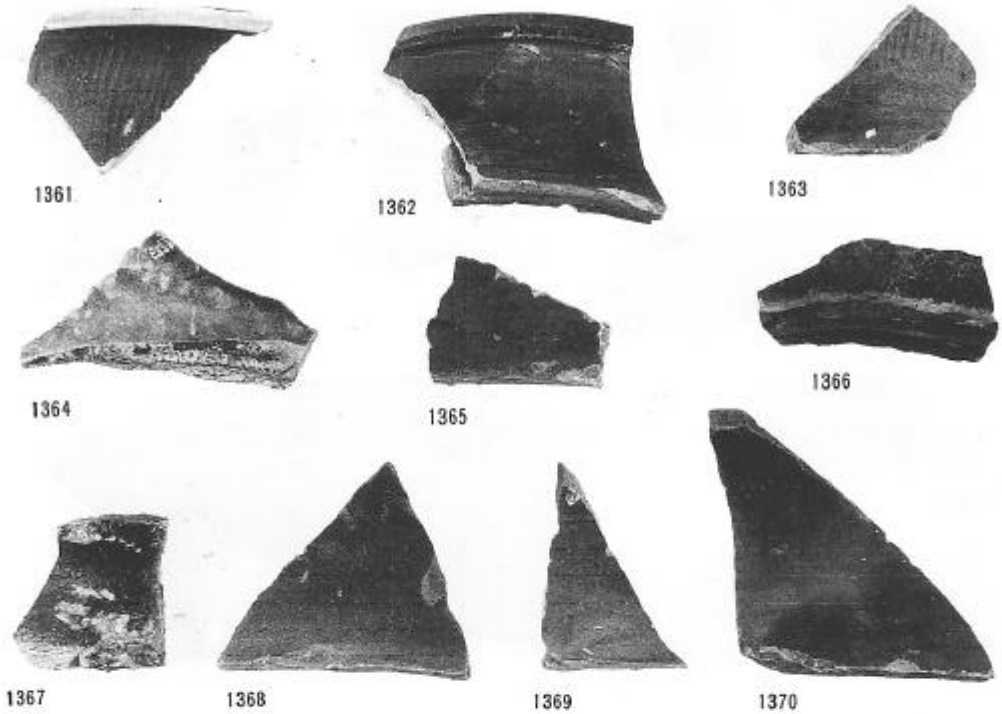
2　出土遺物(38)　甕



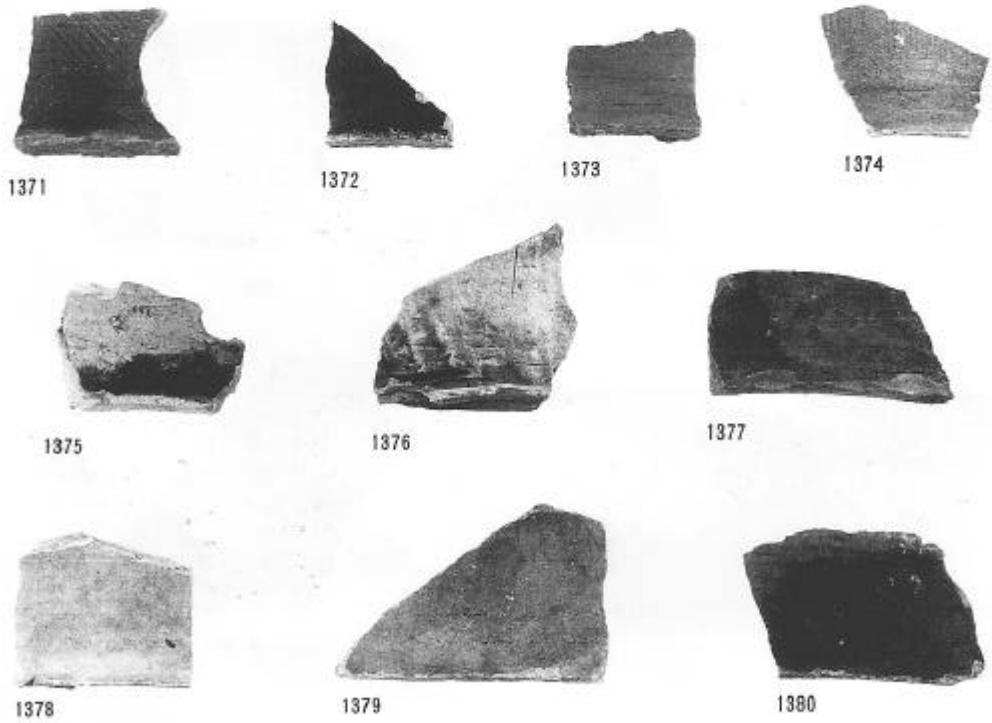
1　出土遺物(39)　甕



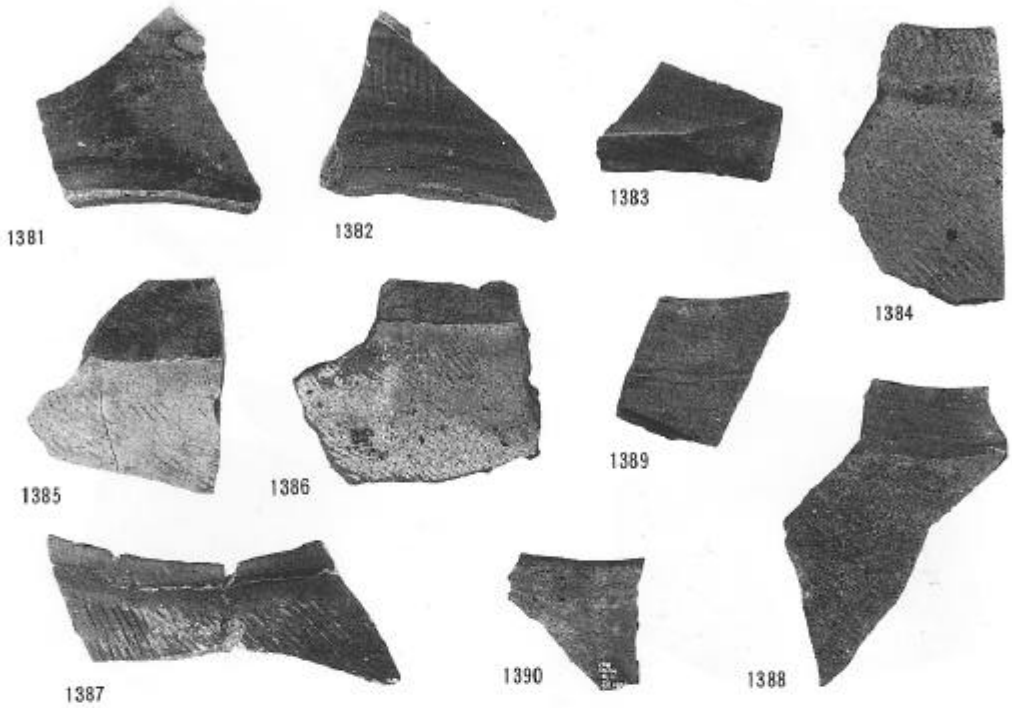
2　出土遺物(40)　甕



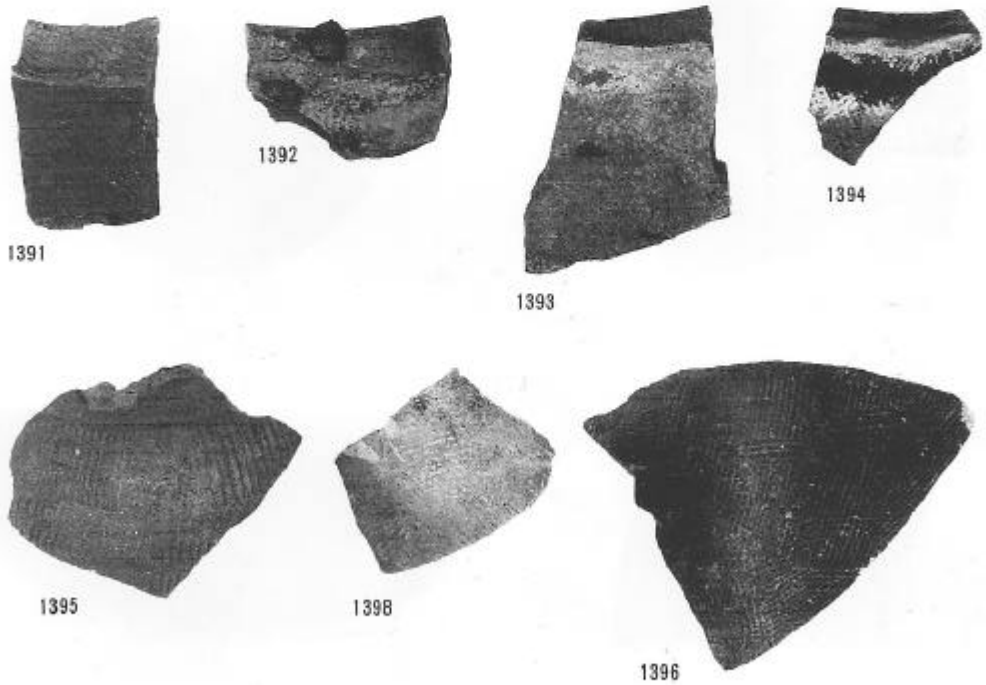
1　出土遺物(41)　甕頸部



2　出土遺物(42)　甕頸部



1　出土遺物(43)　甕頸部



2　出土遺物(44)　甕頸部・体部・底部

図版78

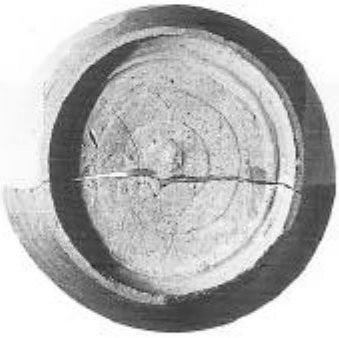
1020 1

17 5

416 2

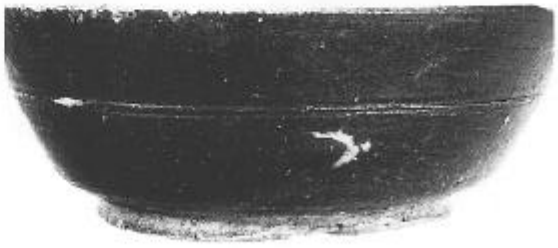
1429 6

902 3



849 7

1478 4



759 8

出土遺物の技法(1)　坏蓋・高台付坏

191 1

20 5

198 2

20 6

259 3

144 7

259 4

152 8

出土遺物の技法(2)　坏

図版80

153 1

515 5

178 2

492 6

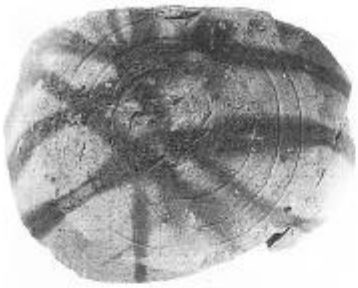
1005 3

1458 7

1442 4

161 8

出土遺物の技法(3)　坏

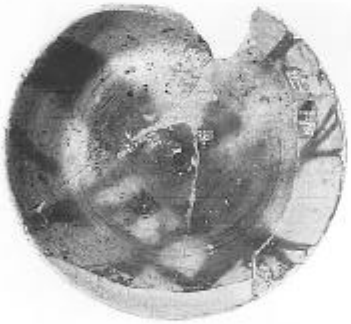


978 1

1203 5

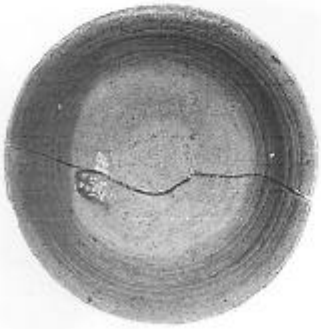
964 2

1203 6



964 3

298 7



802 4

534 8

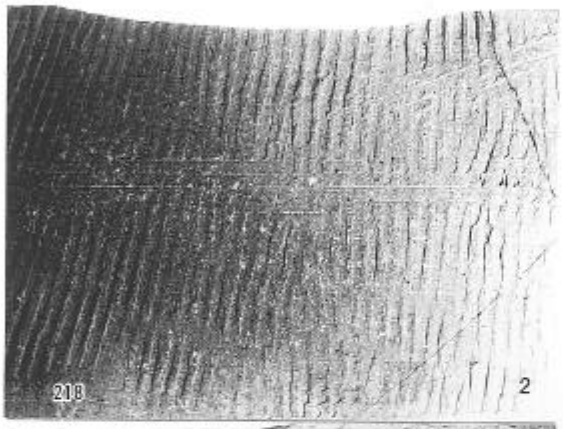
出土遺物の技法(4)　坏・壺

図版82

出土遺物の技法(5)　甕

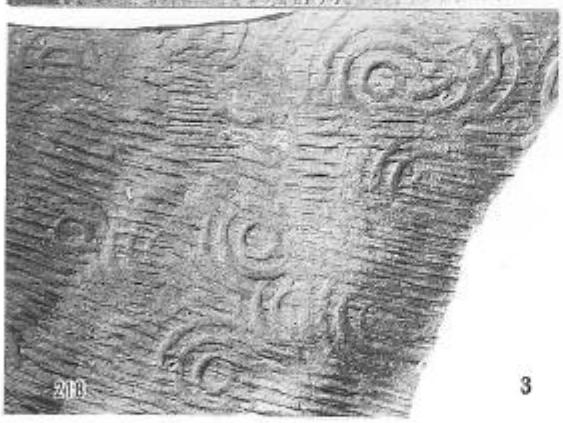
1395 1

216 5



218 2

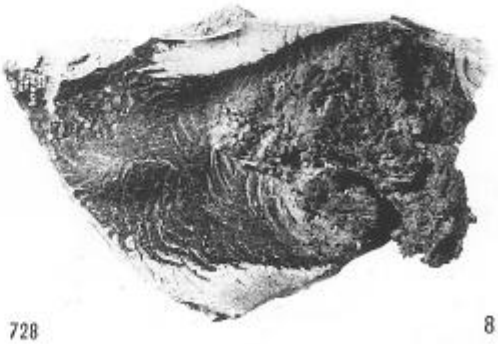
217 6



218 3

1399 7

302 4



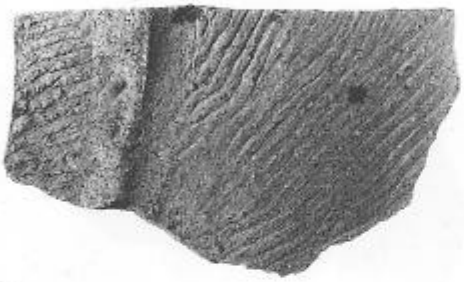
728 8

出土遺物の技法(6)　甕

図版84

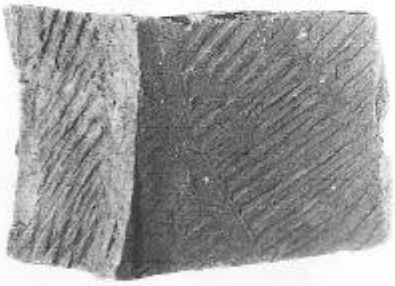
1387　1

302　5



1384　2

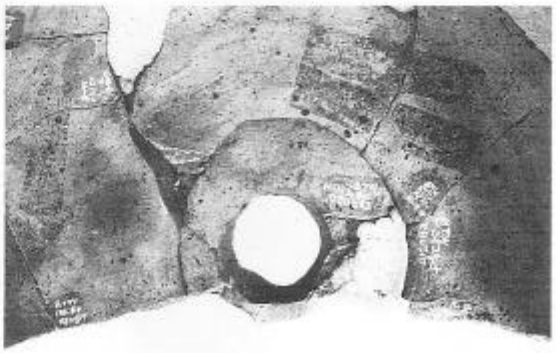
302　6



1391　3

1353　7

1241　4



1450　8

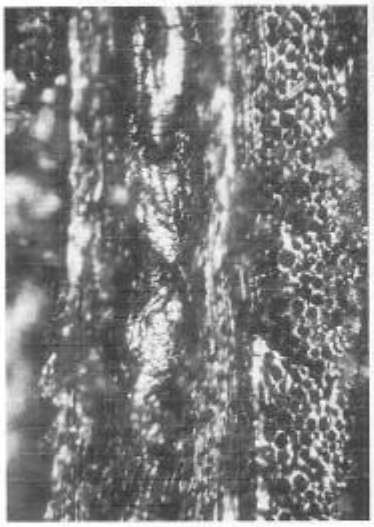
出土遺物の技法(7)　甕・横瓶・壺

(X50)

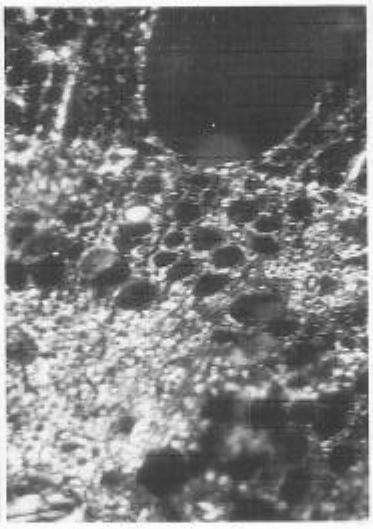
1　クヌギ(No.4)　木口

2　同左　板目

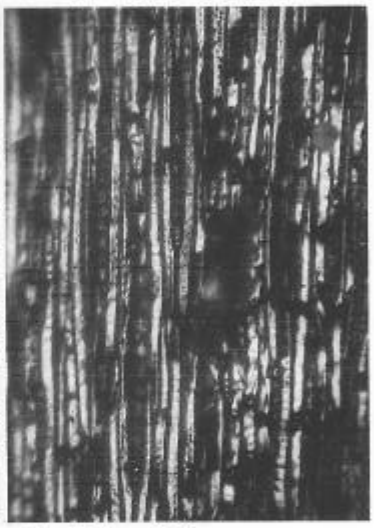
3　クヌギ(No.7)　木口



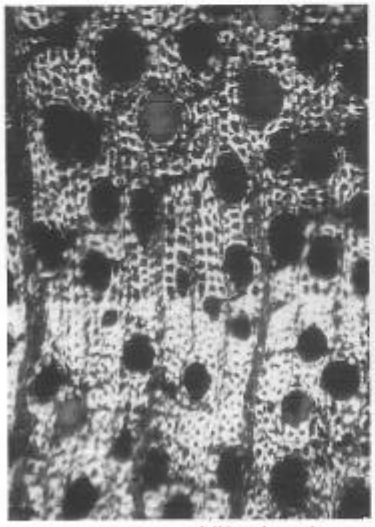
4　クヌギ(No.7)　板目



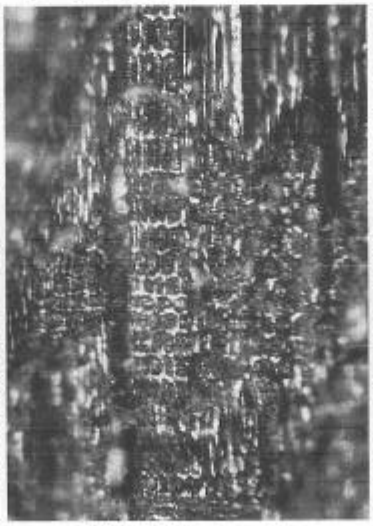
5　クリ(No.20)　木口



6　同左　板目



7　ノリウツギ(No.6)　木口

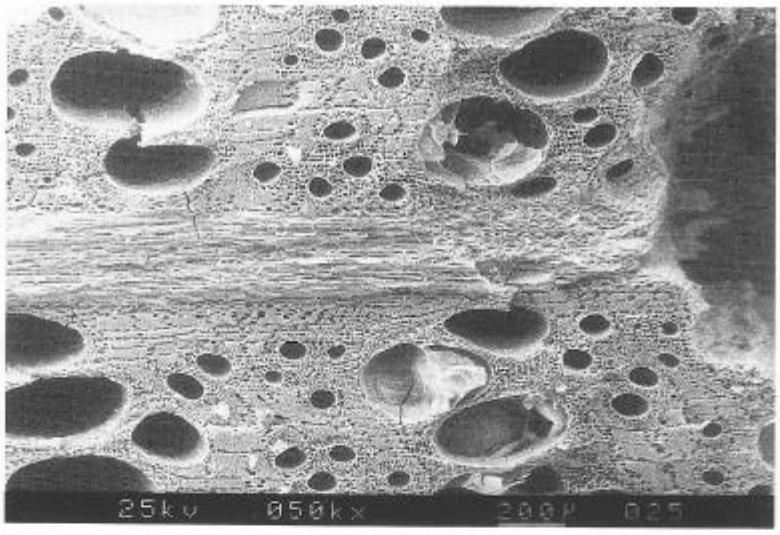


8　同左　柾目

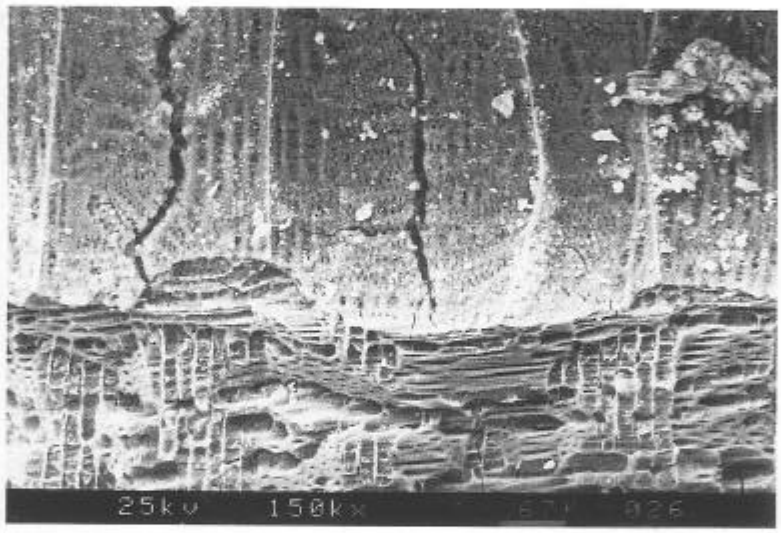
9　同左　板目

竹原窯跡出土の炭化材

図版86



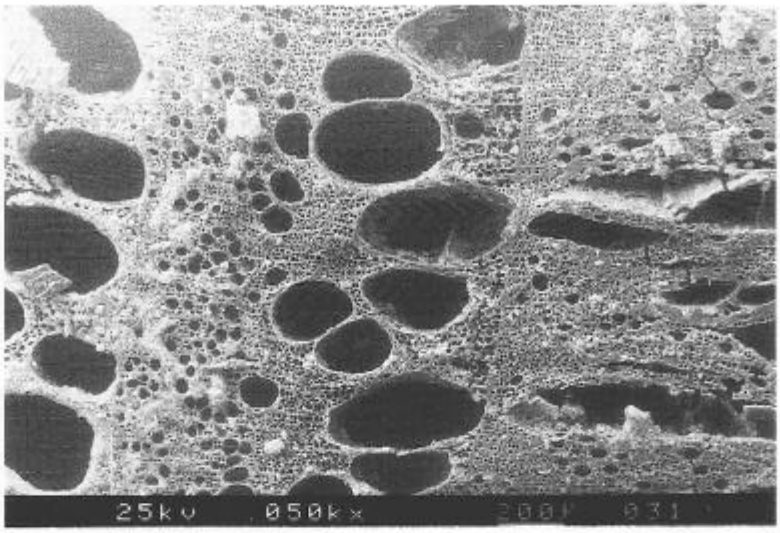
1 木口



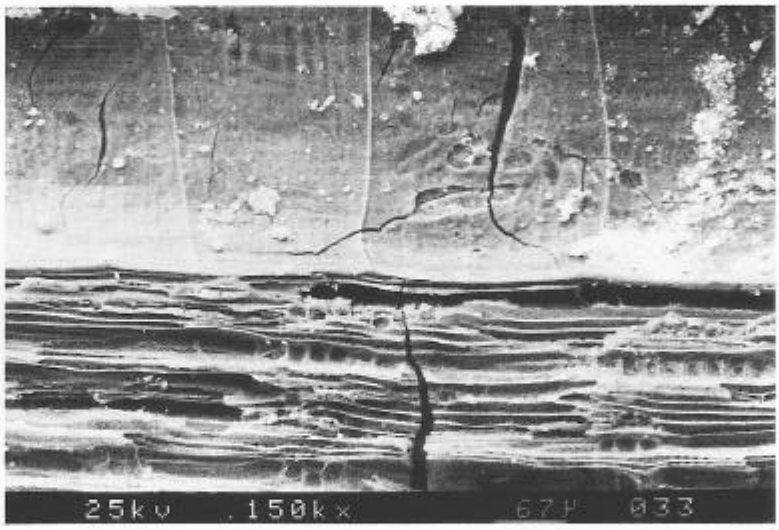
2 柾目

3 板目

樹種の拡大(1)



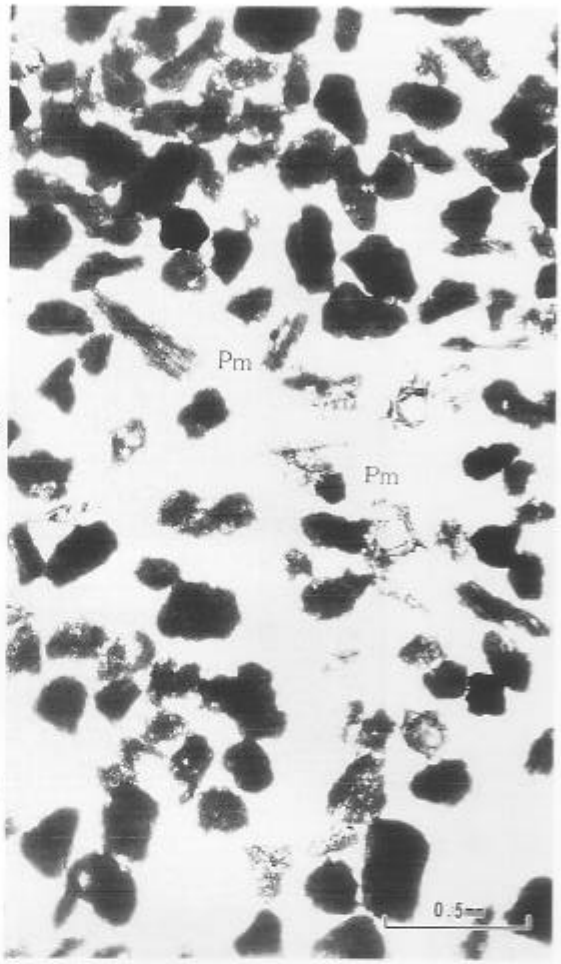
1　木口



2　柾目

3　板目

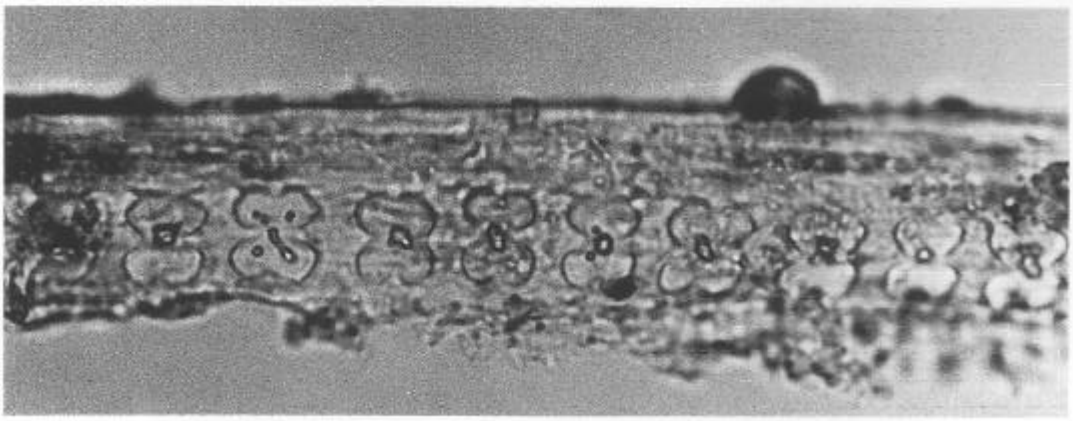
樹種の拡大(2)



重鉱物
Opx：斜方輝石
Opq：不透明鉱物

軽鉱物
Pm：軽石型火山ガラス

1　竹原窯跡検出火山灰の鉱物組成



2　ＳＪ05ｆ右壁の苅(No.8)　マコモ属

あとがき

竹原窯跡は、斜面の調査であったため、困難な面も多くありましたが、労苦を厭われなかった方々のおかげで、無事調査を終えることができました。春、汗をかいた後の一陣の微風は、良い思い出です。また、整理作業に従事していただいた方々からは、たくさんの遺物の中、辛抱づよく報告書完了まで頑張っていただきました。ここに、多くの方々の協力をもって報告できますことを、共に喜びたいと思います。

発掘作業従事者

泉田清治　小原伍平　小原信一　柿崎エミ　柿崎タイ　柿崎祐次
柿崎玲子　加藤チタ　鎌田留以子　神谷勇蔵　川崎イク子　川崎和子
川崎賢治郎　黒沢愛子　公地建司　小松タカ　斎藤俊夫　斎藤儀夫
斎藤錬蔵　佐々木愛子　佐々木幸子　佐々木範子　佐々木彦左ェ門　佐々木ヒサ子
佐藤愛子　佐藤栄子　佐藤恭次郎　佐藤金四郎　佐藤沢子　佐藤文雄
佐藤勇太　佐藤吉次　真田正男　柴田徳男　東海林祐一　鈴木恭治
高橋愛子　高橋和子　高橋喜一郎　高橋清子　高橋幸子　高橋真剛
高橋清孝　高橋長一郎　高橋よう子　田島洋子　照井蝶子　中村博太郎
西野孝至　林　イデ子　藤井吉之助　藤王ミツ　藤屋久司　藤屋久太郎
藤屋照子　藤原順三　藤原信一　藤原巳栄子　松井勝光　松井尚子
松井ノブ子　松井のり子　松井富士子　村岡摂子　糯田　一　山本　信
吉岡圭吾

整理作業従事者

粟津ひろみ　泉谷昭子　伊藤昭彦　鎌田栄子　小松郁子　佐々木　薫
佐渡　均　進藤姈子　高橋光子　高柳良子　高柳亨子　竹村純子
新田理坪子　藤田悦子　藤本弘子　本間美知子　町田京子

（敬省略、五十音順）